

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2022-100042
(P2022-100042A)

(43)公開日 令和4年7月5日(2022.7.5)

(51)国際特許分類
A 6 3 F 7/02 (2006.01)

F I
A 6 3 F 7/02 3 2 0
A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

テーマコード (参考)
2 C 0 8 8
2 C 3 3 3

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全191頁)

(21)出願番号	特願2020-214177(P2020-214177)	(71)出願人	000144522 株式会社三洋物産 愛知県名古屋市千種区今池3丁目9番2 1号
(22)出願日	令和2年12月23日(2020.12.23)	(74)代理人	100155549 弁理士 中村 敏之
		(72)発明者	川口 宏二 愛知県名古屋市千種区今池三丁目9番2 1号 株式会社サンスリー内
		Fターム (参考)	2C088 BC22 EB78 2C333 AA11 CA05 CA31 CA49 CA60 CA78 GA01 GA05

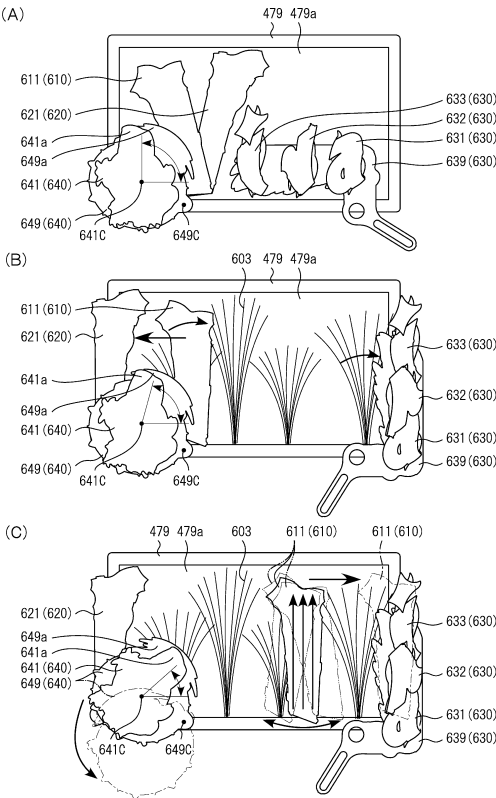
(54)【発明の名称】 遊技機

(57)【要約】

【課題】 演出を好適に実行可能な遊技機を提供する。

【解決手段】 離間する通常配置（第1状態）と通常配置と比べて近接又は当接する出現配置（第2状態）との間で移動可能に設けられ、発光可能な装飾（装飾部）を有する可動懸垂部材611（速度変化可動部材）を備え、出現配置から通常配置へ移動する場合に、通常配置から出現配置へ移動する場合より遅い速度で、前後方向において装飾図柄表示装置479に重なる位置を移動し、当該移動中に、光が下側から上側に流れる態様（所定の移行態様）で可動懸垂部材611の装飾が発光し、装飾図柄表示装置479で下側から上側に打ち上げられる花火（移行中表示）が表示される構成とする。

【選択図】 図48



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

識別情報の変動表示を行う表示手段と、該表示手段によって表示される表示内容を制御する制御手段とを備え、前記表示手段によって所定の表示結果が表示された場合に遊技者にとって有利な遊技状態へ遷移可能に構成された遊技機において、
複数箇所に離間して配置された第 1 状態と、前記第 1 状態と比べて近接又は当接して配置された第 2 状態とをとることが可能であって、所定の態様で発光可能な装飾部を有する複数の可動部材を備え、
前記複数の可動部材として、前記第 1 状態から前記第 2 状態へ移行する場合より、前記第 2 状態から前記第 1 状態へ移行する場合に移動速度が遅い演出を実行可能な速度変化可動部材が設けられ、
前記速度変化可動部材は、前後方向において前記表示手段に重なる位置に配置され、前記第 2 状態から前記第 1 状態へ移行する場合に所定の移行態様で発光し、
前記表示手段は、前記速度変化可動部材が前記第 2 状態から前記第 1 状態へ移行する場合に前記所定の移行態様と同種の態様に構成される所定の移行中表示を表示することを特徴とする遊技機。

10

【請求項 2】

前記遊技機は、パチンコ機であることを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

20

【0001】

本発明は、弾球遊技機に代表される遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

遊技機の代表例としてパチンコ機がある。従来の典型的なパチンコ機において、遊技領域に設けられた始動口に入球し、その入球に応じて行われた抽選において大当りに当選した場合に、通常遊技状態より有利な特別遊技状態に移行する構成が知られている（例えば、特許文献 1 参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

30

【0003】

【特許文献 1】特開 2011-31031 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、従来の遊技機において通常遊技状態や特別遊技状態で様々な演出がなされるものの、当該演出を実行する構成について未だ改良の余地がある可能性があった。

【0005】

本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、演出を好適に実行可能な遊技機を提供することを目的とするものである。

40

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明に係る遊技機は、上記の課題を解決するために、
識別情報の変動表示を行う表示手段と、該表示手段によって表示される表示内容を制御する制御手段とを備え、前記表示手段によって所定の表示結果が表示された場合に遊技者にとって有利な遊技状態へ遷移可能に構成された遊技機において、
複数箇所に離間して配置された第 1 状態と、前記第 1 状態と比べて近接又は当接して配置された第 2 状態とをとることが可能であって、所定の態様で発光可能な装飾部を有する複数の可動部材を備え、
前記複数の可動部材として、前記第 1 状態から前記第 2 状態へ移行する場合より、前記第

50

２状態から前記第１状態へ移行する場合に移動速度が遅い演出を実行可能な速度変化可動部材が設けられ、
 前記速度変化可動部材は、前後方向において前記表示手段に重なる位置に配置され、前記第２状態から前記第１状態へ移行する場合に所定の移行態様で発光し、
 前記表示手段は、前記速度変化可動部材が前記第２状態から前記第１状態へ移行する場合に前記所定の移行態様と同種の態様に構成される所定の移行中表示を表示することを特徴としている。

【発明の効果】

【０００７】

本発明によれば、演出を好適に実行可能な遊技機を提供することができる。

10

【図面の簡単な説明】

【０００８】

【図１】遊技機の一例としてのパチンコ機の正面側斜視図

【図２】パチンコ機を開放状態で示す斜視図

【図３】パチンコ機を他の開放状態で示す斜視図

【図４】パチンコ機を更に他の開放状態で示す斜視図

【図５】パチンコ機の正面図

【図６】パチンコ機の前ブロックを取り外した状態を示す正面図

【図７】遊技盤の正面図

【図８】パチンコ機の背面側斜視図

20

【図９】パチンコ機の背面図

【図１０】パチンコ機の電氣的な構成を示すブロック図

【図１１】主制御メイン処理の一例を示すフローチャート

【図１２】主制御割込み処理の一例を示すフローチャート

【図１３】左可動部材と右可動部材との作動状態を示す遊技盤の正面図

【図１４】遊技盤の斜視図

【図１５】図７のＸＭ－ＸＭ線を含む切断面による複数の装飾部の近傍を示す部分切断斜視図及び断面図

【図１６】図７のＸＤ－ＸＤ線を含む切断面による複数の装飾部の近傍を示す部分切断斜視図及び断面図

30

【図１７】図７のＸＵ－ＸＵ線を含む切断面による複数の装飾部の近傍を示す部分切断斜視図及び断面図

【図１８】反射装飾部を設けた遊技盤の正面図

【図１９】反射装飾部による演出に関与する主要部の相対位置を示す遊技盤の正面図

【図２０】図１８のＹ１－Ｙ１を含む切断面による反射装飾体の近傍を示す斜視断面図

【図２１】環状配置光源からの光が反射装飾部に照射される形態を説明するために、図１８のＹ１－Ｙ１を含む切断面による反射装飾体の近傍を模式的に示す断面図

【図２２】中央装飾体の発光に用いられる光源からの光が反射装飾体に照射される形態を説明するために、図１８のＹ１－Ｙ１を含む切断面による反射装飾体の近傍を模式的に示す断面図

40

【図２３】特典領域に遊技球が進入可能なラウンドにおける上進入規制機構及び振分機構の動作制御を模式的に示すタイミングチャート

【図２４】図７のＹ２－Ｙ２線を含む切断面による断面により、上進入規制機構及び振分機構の動作形態を示す断面図

【図２５】特典領域へ遊技球が進入可能となるラウンドにおける演出の制御を示すタイミングチャート

【図２６】特典領域へ遊技球が進入可能となるラウンドにおける演出の推移を模式的に示す説明図

【図２７】図５のＸ１－Ｘ１を含む切断面により入力操作装置の配置、構造及び動作を模式的に示す説明図

50

【図 28】 確変予定の特別遊技状態における片手参加型の演出の制御であって、当該演出に遊技者が参加する場合の制御を示すタイミングチャート

【図 29】 片手参加型の演出の推移を模式的に示す説明図

【図 30】 時短予定の特別遊技状態における片手参加型の演出の制御であって、当該演出に遊技者が参加する場合の制御を示すタイミングチャート

【図 31】 確変予定の特別遊技状態における片手参加型の演出の制御であって、当該演出に遊技者が参加しない場合の制御を示すタイミングチャート

【図 32】 図 5 の X 1 - X 1 を含む切断面により右入力操作装置及び左入力操作装置の配置、構造及び動作を模式的に示す説明図

【図 33】 確変予定の特別遊技状態における両手参加型の演出の制御であって、当該演出に遊技者が参加する場合の制御を示すタイミングチャート

【図 34】 確変予定の特別遊技状態における両手参加型の演出の推移であって、当該演出に遊技者が参加する場合の推移を模式的に示す説明図

【図 35】 時短予定の特別遊技状態における両手参加型の演出の制御であって、当該演出に遊技者が参加する場合の制御を示すタイミングチャート

【図 36】 確変予定の特別遊技状態における両手参加型の演出の制御であって、当該演出に遊技者が参加しない場合の制御を示すタイミングチャート

【図 37】 確変予定の特別遊技状態の両手参加型の演出に遊技者が参加する場合以外における両手参加型の演出の推移を模式的に示す説明図

【図 38】 図 5 の X 1 - X 1 を含む切断面により左入力レバー及び右入力レバーの前後方向の動作を模式的に示す説明図

【図 39】 確変予定の特別遊技状態における両手参加型の演出の図 33 に示す場合とは別の制御であって、当該演出に遊技者が参加する場合の制御を示すタイミングチャート

【図 40】 左入力レバーや右入力レバーが回転移動する場合の動作制御を示す説明図

【図 41】 確変予定の特別遊技状態における両手参加型の演出の図 34 に示す場合とは別の推移であって、当該演出に遊技者が参加する場合の推移を模式的に示す説明図

【図 42】 時短予定の特別遊技状態における両手参加型の演出の図 35 に示す場合とは別の制御であって、当該演出に遊技者が参加する場合の制御を示すタイミングチャート

【図 43】 確変予定の特別遊技状態における両手参加型の演出の図 36 に示す場合とは別の制御であって、当該演出に遊技者が参加しない場合の制御を示すタイミングチャート

【図 44】 V 入賞演出で動作する複数の可動部を備えた遊技盤の正面図

【図 45】 V 入賞演出で動作する複数の可動部とそれらの動作に関連する構成を示す斜視図

【図 46】 V 入賞演出で動作する右前可動部の動作形態を模式的に示す説明図

【図 47】 V 入賞演出において複数の可動部が通常配置から出現配置に移動する推移を模式的に示す説明図

【図 48】 V 入賞演出において複数の可動部が出現配置から通常配置に戻るまでの推移を模式的に示す説明図

【発明を実施するための形態】

【0009】

本発明に係る遊技機の実施形態について、遊技機の一つである弾球遊技機の一例としてのパチンコ機 100 を説明し、その後に変形例や他の種類の遊技機を説明する。まず、パチンコ機 100 の実施形態について、構造的な構成、電気的な構成、各種の制御処理を順に説明する。

【0010】

< 構造的な構成 >

まず、図 1 から図 9 を主に参照して、パチンコ機 100 の構造部分の構成について説明する。図 1 ～図 4 は、パチンコ機 100 の各種状態を示す斜視図であり、図 1 はパチンコ機 100 の閉鎖状態を示し、図 2 は外枠 101 に対して前ブロック 102 及び中間ブロック 103 が一体的に開放されている状態を示し、図 3 は中間ブロック 103 に対して前ブロ

10

20

30

40

50

ック１０２が開放されている状態を示し、図４は中間ブロック１０３に対して後ブロック１０４が開放されている状態を示している。また、図５は、パチンコ機１００の正面図であり、図６は、図５の状態からパチンコ機１００の前ブロック１０２を取り外した状態を示している。なお、各図において各種の配線は省略されており、また、図３及び図６において遊技盤４００の構成の一部は省略されている。

【００１１】

パチンコ機１００は、例えば、図１～図４に示すように、外枠１０１と、前ブロック１０２と、中間ブロック１０３と、後ブロック１０４とを備え、これら各部位を所定の操作により相対的に変位可能に構成されている。外枠１０１、前ブロック１０２、中間ブロック１０３、および後ブロック１０４は、後述する遊技盤４００を着脱可能に取り付けるための枠体を構成する。以下においては、パチンコ機１００における外枠１０１、前ブロック１０２、中間ブロック１０３、および後ブロック１０４の組み合わせを総称して「枠体」と称することがある。

10

【００１２】

外枠１０１は、パチンコ機１００の本体部分を支持する本体支持手段としての機能を有している。外枠１０１は、例えば、図２に示すように、天板部１１１、底板部１１２、左側板部１１３及び右側板部１１４が組み付けられた略四辺形状の枠部材であり、パチンコ機１００を設置する遊技場に設けられた遊技機設置設備（島設備）に嵌め込まれると共に固定具（図示せず）によって強固に固定される。なお、パチンコ機１００において外枠１０１は必須の構成ではなく、外枠１０１又は外枠１０１と同一の内形状を有し、外枠１０１を除いたパチンコ機１００の構成に相当する本体部分を支持する支持機構や、その本体部分を施錠する施錠機構の一部が島設備に備え付けられた構成としてもよい。

20

【００１３】

外枠１０１における左右方向の一方側（左側板部１１３側）には、中間ブロック支持機構１２１，１２２が設けられている。この中間ブロック支持機構１２１，１２２によって外枠１０１と中間ブロック１０３とが接続（連結）され、パチンコ機１００の本体部分が、パチンコ機１００の正面視における左右方向の一端側（左側）を回動基端側とし、他端側（右側）を回動先端側として前方へ回動可能に構成されている。

【００１４】

中間ブロック支持機構１２１，１２２は、例えば、図１に示すように、外枠１０１の上端部と下端部とに離間して設けられている。中間ブロック支持機構１２１，１２２の各々は、例えば、外枠１０１に設けられる軸支持部によって、中間ブロック１０３に設けられる軸部が下側より支持され、軸支持部に設けられる軸孔に軸部が差し込まれた状態とされることにより、回動可能に構成されている。なお、中間ブロック１０３を含むパチンコ機１００の本体部分を回動可能とする構成は、上記構成に限らず、中間ブロック１０３側に軸孔を設け、外枠１０１側に軸部を形成するなど、他の構成としてもよい。

30

【００１５】

中間ブロック支持機構１２１，１２２には、所定の取り外し操作によって外枠１０１と中間ブロック１０３との接続状態を解除する機能が設けられ、中間ブロック１０３を含むパチンコ機１００の本体部分が外枠１０１に対して取り外し可能に取り付けられている。例えば、外枠１０１に対して中間ブロック１０３を一定量以上開放し、且つ、上方側へ一定量移動させるという所定の取り外し操作をすることにより、外枠１０１に対する中間ブロック１０３の接続状態が解除される。これにより、外枠１０１に対してパチンコ機１００の本体部分が取り外し可能とされている。

40

【００１６】

中間ブロック１０３に対して前側には、前ブロック１０２が重なるようにして配置され、正面視左側に設けられる前ブロック支持機構１３１，１３２によって中間ブロック１０３と前ブロック１０２とが接続されている。前ブロック支持機構１３１，１３２は、中間ブロック支持機構１２１，１２２と同様の構成とされ、中間ブロック１０３に対して前ブロック１０２を前方へ回動可能に支持し、且つ、所定の取り外し操作により取り外し可能に

50

構成されている。

【0017】

中間ブロック103に対して後側には、後ブロック104が重なるようにして配置され、正面視左側に設けられる後ブロック支持機構136、137（図8参照）によって中間ブロック103と後ブロック104とが接続されている。後ブロック支持機構136、137には、中間ブロック支持機構121、122及び前ブロック支持機構131、132と同様の構成とされ、中間ブロック103に対して後ブロック104を後方へ回動可能に支持し、且つ、所定の取り外し操作により取り外し可能に支持する構成とされている。

【0018】

また、パチンコ機100には、外枠101に対する中間ブロック103の開閉を規制する中間ブロック施錠機構と、中間ブロック103に対する前ブロック102の開閉を規制する前ブロック施錠機構と、中間ブロック施錠機構及び前ブロック施錠機構の解錠や施錠を行うために操作される錠操作機構とが設けられている。また、図3に示すように、中間ブロック103には、前ブロック102の開口を通してパチンコ機100の前面側に露出する錠操作機構としてのキーシリンダ141が設けられている。

【0019】

キーシリンダ141に対する所定の操作として、操作キー（図示せず）による右回転操作をした場合には、中間ブロック103に設けられた中間ブロック施錠機構の可動部143が作動する。これにより、中間ブロック施錠機構の一部として外枠101に設けられた被係合部142と可動部143との係合が解除されて、中間ブロック103は外枠101に対して開閉許容状態となる。

【0020】

一方、キーシリンダ141に対する所定の操作キーによる左回転操作に応じて、中間ブロック103に設けられた前ブロック施錠機構の可動部144が作動する。これにより、前ブロック施錠機構の一部として前ブロック102に設けられた被係合部145と可動部144との係合が解除されて、前ブロック102は中間ブロック103に対して開閉許容状態となる。

【0021】

また、パチンコ機100には、中間ブロック103に対する後ブロック104の開閉を規制する後ブロック開閉規制機構が設けられている。この後ブロック開閉規制機構により、中間ブロック103に対して後ブロック104は、開閉が禁止された状態（開閉禁止状態）と開閉が許容された状態（開閉許容状態）とを所定の操作によって切り替え可能とされている。

【0022】

後ブロック開閉規制機構は、例えば、図4に示すように、中間ブロック103に設けられる2つの開閉規制部150A、150Bと、後ブロック104に設けられる1つの開閉規制部150Cとによって構成されている。これら3つの開閉規制部150A～150Cには、回転操作が可能な回動片151A～151Cが設けられている。回動片151A～151Cは、回転操作により、後ブロック104の閉鎖状態において前後に重なるように配置される開口部分との係合状態が変化し、これにより、開閉禁止状態に対応した開閉禁止姿勢と、開閉許容状態に対応した開閉許容姿勢とを切り替え操作可能とされている。全ての回動片151A～151Cを開閉許容姿勢にすると各回動片151A～151Cが開口を通過可能となって、後ブロック104が中間ブロック103に対して開閉許容状態となる。なお、開閉禁止姿勢及び開閉許容姿勢としては、開閉禁止状態と開閉許容状態が回動片151A～151Cの位置及び向き of の少なくともいずれかの変化により切り替えられれば良く、一定位置で回転のみする構成としてもよいし、一定方向に移動する構成としてもよいし、移動と回転との組合せにより動作する構成としてもよい。以下、各装置における構成部材が複数の姿勢の間を移行する場合における姿勢の変化についても同様とする。

【0023】

3つの回動片151A～151Cのうち、それらの一部に相当する2つの回動片151A

10

20

30

40

50

、151Bは、図2に示すように、後ブロック104の開閉禁止状態において後ブロック104に形成された開口を通してパチンコ機100の背面側に露出し、残り部分に相当する1つの回転片151Cは、図6に示すように、中間ブロック103の前側に露出している。このため、パチンコ機100の背面側、又は中間ブロック103の前面側といった一方側からの操作だけでは、全ての回転片151A～151Cを開閉許容姿勢に切り替えることはできず、これにより、防犯性が高められている。

【0024】

また、パチンコ機100には、中間ブロック103から前ブロック102への遊技球の移動を規制する遊技球移動規制機構が設けられている。遊技球移動規制機構は、例えば、図3及び図6に示すように、中間ブロック103に設けられた流下規制片161と、前ブロッ

10

【0025】

中間ブロック103に対して前ブロック102が閉鎖された状態（前ブロック102の閉鎖状態）においては、流下規制片161は、遊技球の流下を許容する移動許容状態とされ、具体的には、規制変更部162により中間ブロック103の後方側へ押圧されて押し込まれる。流下規制片161は、移動許容状態において中間ブロック103から前ブロッ

20

【0026】

一方、中間ブロック103に対して前ブロック102が開放された状態（前ブロック102の開放状態）においては、規制変更部162による流下規制片161の押圧が解除され、前ブロック102の閉鎖状態に比べて流下規制片161が前ブロック102側へ突出する移動禁止状態とされる。流下規制片161は、移動禁止状態において誘導通路内に突出し、下流側への遊技球の流下を阻止する。これにより、中間ブロック103から前ブ

【0027】

また、パチンコ機100には、図2に示すように、例えば中間ブロック103の後側であって回転先端側（背面視左側）における下端部に、外枠101に対して中間ブロック103が閉鎖されているか否かを検出する開閉検出スイッチ108が設けられ、また、図3に示すように、例えば中間ブロック103の前側であって回転先端側（正面視右側）にお

30

【0028】

次に、前ブロック102、中間ブロック103及び後ブロック104の各構成について順に説明する。

【0029】

前ブロック102は、図1及び図3に示すように、パチンコ機100の前面の略全体を形成し、前後方向に厚みを有する略長形状の部材であり、パチンコ機100の前側表面部分を装飾する前面装飾手段としての機能を有している。前ブロック102は、合成樹脂製の基枠201を主体に構成され、基枠201の前後に複数の機能部品を取り付けて構成されている。基枠201の前面側には、パチンコ機100の前面を形成する前面装飾体210が、前ブロック102の正面視中央部分を含んで形成される開口210Aの外縁に沿って開口210Aを囲った状態にして取り付けられている。前ブロック102を構成する基枠201と前面装飾体210とを組み合わせた状態においては、前面装飾体210が取り付けられた外周部を除いた広範囲にわたって開口210Aが前後方向に貫通形成される。この開口210Aを通じて、前ブロック102の後側に位置する遊技盤400を含む中間

40

50

【0030】

また、前ブロック102には、図1及び図3に示すように、開口210Aを塞ぐように基枠201の背面側に設けられた中央パネル220と、遊技球を貯留する主貯留機構230と、遊技球を貯留する補助貯留機構240と、主貯留機構230に貯留されている遊技球を発射するために遊技者によって操作される発射操作装置250とを備えている。

【0031】

また、前ブロック102には、図1及び図5に示すように、前面装飾体210の一部として、開口210Aの周縁を囲う開口周縁部211と、開口210Aに対して下側において前方に突出する上側突出部217と、上側突出部217に対して下側に位置して前方に突出する下側突出部218と、下側突出部218の右側であって上側突出部217及び下側突出部218より奥側に位置する概ね平坦な領域で構成されて発射操作装置250が配置される平坦部219とが形成されている。上側突出部217には、主貯留機構230が配置され、下側突出部218には、補助貯留機構240が配置される。

10

【0032】

中央パネル220は、基枠201と前面装飾体210とを組み合わせた状態において前後方向に貫通形成される開口210Aを塞ぎつつ後方側を視認可能とするカバー体としての機能を有している。中央パネル220は、例えば、図1及び図3に示すように、基枠201の後方側から取着されるパネル枠221（図3参照）と、パネル枠221の前側に嵌め込まれた光透過性の前方板222（図1参照）と、パネル枠221の後側に前方板222と所定の間隙を隔てて略平行に嵌め込まれた光透過性の後方板223（図3参照）とを備えている。

20

【0033】

主貯留機構230は、遊技進行に応じて獲得した遊技球や、遊技場から貸し出された遊技球を貯留する機能を有している。主貯留機構230は、例えば、図1に示すように、貯留部231と、球抜き機構（図示せず）と、その球抜き機構を作動させる球抜き操作部材232とを備えている。貯留部231には、パチンコ機100の内部から貯留部231へ遊技球を流入させる流入口231Aと、貯留部231からパチンコ機100の内部へ遊技球を流出させる流出口（図示せず）と、流出口より上流側に形成される放出口（図示せず）とが設けられている。この放出口の開放により貯留部231から遊技球がパチンコ機100の内部に取り込まれることなく遊技者側に放出される。球抜き機構は、遊技球の放出先を、流出口と放出口との間で切り換える機能を有している。

30

【0034】

遊技進行に応じて獲得した遊技球や、後述する貸出操作装置292に対する貸出操作に応じて貸し出された遊技球は、主に流入口231Aを通して貯留部231に流入する。また、貯留部231は、上方側に開口形成されており、この開口部分を通じて、遊技者が所有する遊技球が手操作により投入されたり、遊技場において貸し出される遊技球が供給されたりする。

【0035】

貯留部231に流入した遊技球は一列に整列させられながら流出口及び放出口の形成されている側（図1の右上側）へ順次に案内される。球抜き操作部材232に対する球抜き操作（例えば、押下操作）が行われていない場合には遊技球は流出口を通して後述する発射装置330（図3参照）に誘導される。一方、球抜き操作部材232に対する球抜き操作が行われている場合には、遊技球は放出口を通して補助貯留機構240（図1参照）に誘導される。

40

【0036】

補助貯留機構240は、図1及び図5に示すように、遊技球の流入口241A、241C（図5参照）及び放出口241B（図1参照）を有する貯留部241と、放出口241Bを開閉させる球抜き機構243と、その球抜き機構243を作動させる球抜き操作部材242とを備えている。遊技進行に応じて獲得した遊技球等は主に主貯留機構230に流入するが貯留部231が満杯であれば流入口241Aを通して貯留部241に流入する。ま

50

た、球抜き操作部材 2 3 2 に対する球抜き操作に応じても、遊技球は流入口 2 4 1 C を通して貯留部 2 3 1 から貯留部 2 4 1 に流入する。

【0037】

貯留部 2 4 1 の底面は放出口 2 4 1 B に向けて下降傾斜している。球抜き操作部材 2 4 2 に対する球抜き操作（例えば、押圧操作）によって放出口 2 4 1 B を開放すると、貯留部 2 4 1 に貯留されている全ての遊技球を順次にパチンコ機 1 0 0 の外部に放出できる。なお、球抜き操作部材 2 4 2 に対する球抜き操作によって放出口 2 4 1 B が完全に開放された場合には、球抜き操作部材 2 4 2 に対する復帰操作（例えば、再度の押圧操作）がなされるまで、その開放状態に維持される。流入口 2 4 1 A の奥方には貯留部 2 4 1 に過剰に遊技球が貯留されているか否かを検出する球溢れスイッチ 2 4 9（図 10 参照）が設けられている。

10

【0038】

発射操作装置 2 5 0 は、図 1 及び図 5 に示すように、前面装飾体 2 1 0 の平坦部 2 1 9 から前方に突出する台座 2 5 1 と、台座 2 5 1 の周囲に設けられた回動自在な発射ハンドル 2 5 2 と、発射ハンドル 2 5 2 の回転操作量を検出する可変抵抗器 2 5 3（図 10 参照）と、発射ハンドル 2 5 2 に遊技者が接触していることを検出する接触センサ 2 5 4（図 10 参照）と、発射ハンドル 2 5 2 の回転操作に伴う遊技球の射出を遊技者の操作によって無効化する発射停止スイッチ 2 5 5（図 5 参照）とを含んでいる。遊技者によって発射ハンドル 2 5 2 が回転操作されると、その回転操作量に対応する強度で発射装置 3 3 0（図 3 参照）から遊技球が遊技盤 4 0 0（図 3 参照）に向けて射出される。なお、接触センサ 2 5 4 によって発射ハンドル 2 5 2 と遊技者との接触が検出されていない場合や、発射停止スイッチ 2 5 5 の操作によって発射操作が無効化されている場合には、発射ハンドル 2 5 2 が回転操作されていても発射装置 3 3 0 から遊技球は射出されない。

20

【0039】

また、前ブロック 1 0 2 における前面装飾体 2 1 0 の奥方には、枠発光装置 2 7 1 ~ 2 7 5（図 10 参照）が設けられている。枠発光装置 2 7 1 ~ 2 7 5 は、前面装飾体 2 1 0 の開口周縁部 2 1 1 に対して奥側に重なるようにして配置され、基枠 2 0 1 に取り付けられている。開口周縁部 2 1 1 は、図 5 に示すように、上側中央縁部 2 1 1 A と、上側中央縁部 2 1 1 A に対して左右両側に位置する左上側縁部 2 1 1 B 及び右上側縁部 2 1 1 C と、左上側縁部 2 1 1 B に対して下側に位置する左側縁部 2 1 1 D と、右上側縁部 2 1 1 C に対して下側に位置する右側縁部 2 1 1 E とを発光部として有し、それぞれの発光部に対応して枠発光装置 2 7 1 ~ 2 7 5 が設置されている。

30

【0040】

枠発光装置 2 7 1 ~ 2 7 5 は、上側中央縁部 2 1 1 A に対応する上中央枠発光装置 2 7 1 と、左上側縁部 2 1 1 B に対応する左上枠発光装置 2 7 2 と、右上側縁部 2 1 1 C に対応する右上枠発光装置 2 7 3 と、左側縁部 2 1 1 D に対応する左側枠発光装置 2 7 4 と、右側縁部 2 1 1 E に対応する右側枠発光装置 2 7 5（図 10 参照）とにより構成されている。枠発光装置 2 7 1 ~ 2 7 5 の各々は、1 又は複数の発光手段としての発光ダイオード（LED）と、LED を制御するための抵抗等の電子部品と、これら電子部品を一体化して電氣的に接続するプリント基板とを有している。

40

【0041】

また、前ブロック 1 0 2 には、図 5 に示すように、例えばその開口周縁部 2 1 1 の上部に、左上音響出力口 2 1 1 F と、右上音響出力口 2 1 1 G とが設けられ、また、それら左上音響出力口 2 1 1 F 及び右上音響出力口 2 1 1 G のそれぞれに対応して左上音響装置 2 8 1 及び右上音響装置 2 8 2（図 3 及び図 10 参照）が設けられている。左上音響装置 2 8 1 及び右上音響装置 2 8 2 は、前面装飾体 2 1 0 の開口周縁部 2 1 1 の奥方（後方）に位置するようにして基枠 2 0 1 に取り付けられている。

【0042】

また、前ブロック 1 0 2 には、図 1 に示すように、例えば上側突出部 2 1 7 の上面右側部分に、遊技球貸出装置 2 9 0 が設けられている。遊技球貸出装置 2 9 0 は、パチンコ機 1

50

００に並んで配置されるカードユニット（図示せず）に投入された紙幣やカード等の残額に応じた数値を表示する度数表示装置２９１と、遊技球の貸し出しを受ける際に遊技者によって操作される貸出操作装置２９２と、カードユニットに投入された紙幣やカード等を返却させる際に遊技者によって操作される返却操作装置２９３とを含んでいる。カードユニットに紙幣やカード等を投入して、それらの金額に対応する数値が度数表示装置２９１に表示されている有効状態において、貸出操作装置２９２に対して貸出操作が行われると、貸出操作に応じて所定の個数の遊技球が後ブロック１０４の払出装装置５４０（図８参照）から貸し出され、遊技球の貸し出しに伴って度数表示装置２９１の表示が更新される。一方、有効状態において返却操作装置２９３に対して返却操作が行われると、返却操作に応じて残額に対応する紙幣の等価物や残額を記録したカードがカードユニットから返却される。

10

【００４３】

また、前ブロック１０２には、図１に示すように、遊技者によって発射操作とは別の入力操作が可能な入力操作装置２６０が設けられている。入力操作装置２６０は、例えば、図１及び図５に示すように、押込操作が可能な押圧操作装置２６１と、回転操作が可能な回転操作装置２６２と、上下左右の方向操作が可能な選択操作装置２６３とを備えている。また、図５に示すように、前ブロック１０２には、発射操作や入力操作装置２６０に対する入力操作とは別の入力操作が遊技者によって可能な左入力操作装置８０１Ｌと右入力操作装置８０１Ｒが設けられている。なお、図１～図４及び図８において、左入力操作装置８０１Ｌと右入力操作装置８０１Ｒについては、図示を省略している。

20

【００４４】

これら操作装置２６１～２６３，８０１Ｌ，８０１Ｒにより、パチンコ機１００において実行される演出を選択する演出選択操作や、パチンコ機１００の演出を実行する各装置の音量や光量を設定する装置設定操作、或いは、遊技者に関する情報を入力して前回以前の遊技に応じたパチンコ機１００の演出を実行可能とする演出設定操作等が実行可能とされ、これら操作を必要に応じて遊技者や遊技場の管理者が実行可能とされている。なお、入力操作装置２６０において遊技者が接触する入力操作部（例えば、回転操作装置２６２における円環状の回転操作部）は、モータやソレノイド等の入力操作部駆動手段によって回転、上下動、又は、振動等の動作がパチンコ機１００の制御（例えば、副制御基板９４０（図１０参照）の制御）により実行可能に構成されることが好ましく、入力操作の前後、又は、入力操作中のいずれか又は複数のタイミングで入力部分を動作させることにより、入力操作を積極的に促すなど入力操作を伴う演出を多様にすることができる。

30

【００４５】

次に、中間ブロック１０３について説明する。中間ブロック１０３は、前ブロック１０２と略同一サイズの略長形状をした部材であり、前ブロック１０２と後ブロック１０４とが取り付けられることにより、パチンコ機１００の本体部分を一体化した状態にする機能を有している。中間ブロック１０３は、基枠３０１に対して遊技盤４００を含む複数の機能部品を取り付けて構成されている。

【００４６】

中間ブロック１０３は、図３及び図４に示すように、開口を有する基枠３０１と、基枠３０１の開口を覆いつつ前面側より取着される遊技盤４００（図３参照）と、基枠３０１に対して遊技盤４００を回動自在及び着脱自在に支持する遊技盤支持機構と、基枠３０１に対して遊技盤４００の位置を固定する遊技盤固定機構と、遊技盤４００に遊技球を射出する発射装置３３０（図３参照）と、遊技盤４００の背面側に装着されて遊技進行を統括的に制御する主制御装置３７０（図４参照）と、主制御装置３７０からの命令に基づいて遊技演出や状態報知を制御する副制御装置３９０（図４参照）とを備えている。

40

【００４７】

基枠３０１には、図３に示すように、後述する払出装装置５４０（図８参照）から放出された遊技球を前ブロック１０２に誘導する誘導通路が内部に形成される誘導通路部３０１Ａと、複数の配線（図示せず）や信号中継装置３１１が位置する開孔３０１Ｂとが設けられ

50

ている。開孔 301B は、遊技盤 400 より下側において前後方向に貫通する形状をなし、開孔 301B に挿通される複数の配線は、前ブロック 102 に設けられる種々の装置（例えば、枠発光装置 271～275、左上音響装置 281 及び右上音響装置 282）と、中間ブロック 103 の背面側や後ブロック 104 に設けられる装置（例えば、主制御装置 370 や副制御装置 390）とを電氣的に接続するための配線を含み、信号中継装置 311 は、その配線の一部を中継する中継基板としての機能を有している。

【0048】

遊技盤 400 は、図 3 に示すように、排出口 401A 等の遊技球が前後に通過可能な貫通孔を有する平板状の基体 401 と、基体 401 の左下から右上に亘り滑らかに湾曲する外レール 402 と、基体 401 の右下から左上に亘り滑らかに湾曲する内レール 403 と、内レール 403 の左上側の先端に装着された戻り球防止機構 404 と、外レール 402 の右上側の先端に装着される反跳防止部材 405 とを備えている。外レール 402 は、後述する発射装置 330 から発射された遊技球を遊技領域 409 内へ誘導するものである。戻り球防止機構 404 は、外レール 402 及び内レール 403 が平行に対向する間部分で形成される発射通路 401B から遊技領域 409 内へ一旦放出された遊技球が発射通路 401B に戻ることを防止する。反跳防止部材 405 は、遊技盤 400 の上部中央を越えて右側に向かった遊技球が再び上部中央を経由して左側に戻るような遊技球の大幅な反跳を防止する衝撃吸収性を有し、例えば、制振ゴム等の材料により形成されている。

10

【0049】

前ブロック 102 の背面側下部には、図 3 に示すように、戻り球通路部 163 が形成されている。発射装置 330 から発射通路 401B の方向へ遊技球を誘導する誘導部材 335 と外レール 402 との間には間隙があり、発射装置 330 から発射されたが戻り球防止機構 404 を超えるに至らず発射通路 401B を逆戻りする遊技球は、この間隙の下方に配置される戻り球通路部 163 を介して流入口 241A（図 5 参照）から補助貯留機構 240（図 5 参照）に返却される。

20

【0050】

戻り球防止機構 404 を超えて進行した遊技球は、遊技領域 409 に到達し、遊技領域 409 内を自重により落下しながら移動（流下）する。遊技領域 409 は、略円形状の外周形状をなし、遊技球の直径より僅かに大きな前後幅を有する領域を大部分とする形状に区画されている。遊技領域 409 は、概ね、外レール 402 と内レール 403 とで外周部分が区画され、前側が中央パネル 220 の後方板 223 によって略平面状に区画され、後側が遊技盤 400 の基体 401 によって略平面状に区画されている。なお、遊技領域 409 に設けられる各種の構造物については後述する。

30

【0051】

発射装置 330 は、図 3 に示すように、主貯留機構 230 に貯留されている遊技球を順次に発射位置に送り出す球送り機構 331 と、球送り機構 331 を駆動する球送りソレノイド 332（図 10 参照）と、発射位置に配置された遊技球を射出する発射機構 333 と、発射機構 333 を駆動する発射ソレノイド 334（図 10 参照）と、発射機構 333 から発射された遊技球を遊技盤 400 の発射通路 401B に誘導する誘導部材 335 とを備えている。発射装置 330 は、上述のように発射操作装置 250 に対する発射操作に応じて作動し、発射操作装置 250 に対する発射操作に応じて発射ソレノイド 334 の駆動制御が変化して発射力が調整される。

40

【0052】

主制御装置 370 は、図 4 に示すように、主制御基板 920（図 10 参照）と、主制御基板 920 を収容する 2 つ割り構造の基板ケース 371 とを備えている。主制御基板 920 は、痕跡を残さずには開封できないように封止された透光性を有する基板ケース 371 の内部に収容されている。

【0053】

また、主制御装置 370 は、遊技盤 400 の背面側に回動自在に取り付けられている。具体的には、遊技盤 400 の基体 401 に対して背面側に取り付け部 372 が回動可能に連

50

結固定され、その取り付け部 372 に主制御装置 370 が取り付けられている。これにより、主制御装置 370 の背面側（表面側）だけでなく、取り付け部 372 を回動操作することで主制御装置 370 の前面側（裏面側）も、遊技盤 400 に主制御装置 370 を取り付けたままで容易に確認可能とされている。取り付け部 372 に対して主制御装置 370 は、痕跡を残さずには取り外しできないように連結しても良く、主制御装置 370 の取り外し状況を管理し易くしてもよい。

【0054】

副制御装置 390 は、副制御基板 940（図 10 参照）と、副制御基板 940 を収容する 2 つ割り構造の基板ケース 391 とを備えている。副制御基板 940 は、例えば、主制御基板 920 と同様に痕跡を残さずには開封できないように封止された透光性を有する基板ケース 391 の内部に収容されている。副制御装置 390 は、遊技盤 400 の背面側に取り付けられている。

10

【0055】

本実施形態のパチンコ機 100 においては、中間ブロック 103 は、主制御基板 920 にバックアップ用の電力を供給するバックアップ電源 601（図 10 参照）を備えている。バックアップ電源 601 は、コンデンサや充電可能な電池等によって構成されてバックアップ用の電力を蓄えることが可能な電源部と、電源部へ充電用電圧を供給したり、電源部に加えられた電力（電荷）を放電する等の制御を行うための電気回路とを組み合わせで構成されている。バックアップ電源 601 は、電源部 901（図 10 参照）から供給された充電用電圧の電力を、例えば、コンデンサに充電し、充電によって当該コンデンサに蓄えられた電力をバックアップ用の電力として主制御基板 920（図 10 参照）に供給する。バックアップ電源 601 は、遊技盤 400 の背面側に取り付けられている。なお、バックアップ電源 601 の電力を蓄えたり、放電をしたりするための電気回路は、必ずしもバックアップ電源 601 の電源部と一体的に設ける（例えば、1 つのプリント基板上に設ける）必要はなく、他の箇所に設けてもよく、枠体側に設けられる電源・発射制御基板 900 の一部として設けてもよいし、主制御基板 920 の一部として設けてもよい。

20

【0056】

ここで、遊技盤 400 において、遊技領域 409 に配置される各種の構造物について、図 7 を主に参照して説明する。図 7 は、遊技盤 400 の正面図である。

【0057】

遊技盤 400 は、図 7 に示すように、基体 401 と、遊技球の流下方向や流下速度に変化を与える釘 411 や風車 412 等の流下変化部材と、基体 401 の概ね中央に配置された中央構造物 420 と、中央構造物 420 に対して下側に配置された第 1 特別図柄に係る始動装置（具体的には、上側中始動入賞装置 431 A 及び下側中始動入賞装置 431 B）と、中央構造物 420 に対して右下側に配置された第 2 特別図柄に係る始動装置（具体的には、右始動入賞装置 432）と、右始動入賞装置 432 の下方に配置された大入賞装置 433, 434（具体的には、下大入賞装置 433 及び上大入賞装置 434）と、右始動入賞装置 432 の上側（上流側）に配置された普通図柄に係る始動装置 436 と、遊技盤 400 の右上側であって上下の大入賞装置 433, 434 に対して上方（上流側）に配置された役連作動装置 435 と、下側中始動入賞装置 431 B の左右両側に配置された一般入賞装置 439 A, 439 B とを備えている。

30

40

【0058】

また、遊技盤 400 には、上記した上側中始動入賞装置 431 A 等に対応して遊技球の通過を検出する検出手段としてのスイッチが複数設けられており（図 10 参照）、各スイッチに対応した所定領域への遊技球の進入が検出可能とされている。例えば、上側中始動入賞装置 431 A に進入した遊技球を検出する中始動入賞スイッチ（上側中始動入賞スイッチ 441 A）、下側中始動入賞装置 431 B に進入した遊技球を検出する中始動入賞スイッチ（下側中始動入賞スイッチ 441 B）、右始動入賞装置 432 に進入した遊技球を検出する右始動入賞スイッチ 442、下大入賞装置 433 に進入した遊技球を検出する下大入賞スイッチ 443、上大入賞装置 434 に進入した遊技球を検出する上大入賞スイッチ

50

444、役連作動装置435に進入した遊技球を検出する役連作動スイッチ445、始動装置436に進入した遊技球を検出する始動スイッチ446、上大入賞装置434の内部に形成された非特定通路（非特典領域409N）に進入した遊技球を検出する非特定通路スイッチ447、下大入賞装置433の内部に形成された特定通路（特典領域409V）に進入した遊技球を検出する特定通路スイッチ448、一般入賞装置439A、439Bに進入した遊技球を各々検出する一般入賞スイッチ449A、449B等が遊技盤400に設置されている。

【0059】

また、遊技盤400には、不正防止のために各種センサが設けられており（図10参照）、パチンコ機100に発生した異常を検出可能とされている。例えば、磁気センサ491、振動センサ492、電波センサ493等が遊技盤400に設置されている。

10

【0060】

中央構造体420及び始動装置436の遊技球の入口部分は入球口を構成し、各入球口に進入した遊技球は遊技領域409に放出される。各入賞装置、具体的には、上側中始動入賞装置431A、下側中始動入賞装置431B、右始動入賞装置432、下大入賞装置433、上大入賞装置434及び一般入賞装置439A、439Bの遊技球の入口部分は入賞口を構成し、各入賞口に進入した遊技球は基体401に形成された貫通孔を通して基体401の背面側に形成された回収排出通路（図示せず）に案内される。また、各入賞装置に進入しなかった遊技球は、遊技領域409の最下流側部分に設けられる排出口401Aを通して回収排出通路へ案内される。回収排出通路に案内された遊技球は、パチンコ機100から遊技場に設けられた遊技球循環装置（図示せず）に排出される。いずれかの入賞装置に遊技球が進入した場合には、入賞装置の種類に応じた所定の個数の遊技球が払出装置540（図8及び図9参照）から払い出される。

20

【0061】

なお、各入賞装置は、他の入賞装置と別々に構成されてもよいし、2以上の入賞装置（例えば、上側中始動入賞装置431A及び下側中始動入賞装置431B）が一体化された装置によって入賞装置が構成されても良く、また、上側中始動入賞装置431A等の始動装置については必ずしも遊技球が進入した場合に所定の個数の遊技球が払い出される入賞口とする必要はなく、遊技球が払い出されることなく遊技領域409に再び放出される入球口としてもよい。

30

【0062】

第1特別図柄に係る上側中始動入賞装置431A及び下側中始動入賞装置431B、並びに、一般入賞装置439A及び一般入賞装置439Bの各々は、それらへの遊技球の進入確率を変化させず、進入した遊技球を基体401の背面側へ誘導する。また、第2特別図柄に係る右始動入賞装置432は、その内部への遊技球の進入確率を変化させる機構を有している。なお、遊技球の進入確率を変化させる機構は、第2特別図柄に係る始動装置のみに設ける必要はなく、それに代えて、又は、それに加えて、第1特別図柄に係る始動装置、一般入賞装置439A、439Bのいずれか又は複数に設けてもよい。また、遊技球の進入確率を変化させる機構は、電氣的に駆動されるソレノイド等の駆動手段により構成してもよいし、所定領域へ入球した遊技球の自重により動作する機構に代表される機械的に動作する機構により構成してもよい。

40

【0063】

第2特別図柄に係る右始動入賞装置432は、進入許容姿勢と進入禁止姿勢との間の移行によって、その内部への遊技球の進入確率を変化させる右進入規制機構452と、右進入規制機構452を駆動する右進入規制ソレノイド462（図10参照）とを備えている。右進入規制機構452は、右進入規制ソレノイド462によって駆動される2つの可動片を備えており、右進入規制機構452が進入禁止姿勢である場合には、2つの可動片が進入口（入賞口）を狭窄する（又は閉鎖する）配置をとることによって遊技球は右始動入賞装置432に進入できないが、右進入規制機構452が進入許容姿勢である場合には、2つの可動片がそれらの先端部の間隔が拡大するような配置をとることによって遊技球は右

50

始動入賞装置 4 3 2 に進入できるようになる。右進入規制機構 4 5 2 は、普通図柄に係る始動装置 4 3 6 へ進入した遊技球が始動スイッチ 4 4 6 で検出されることに基づく抽選（以下において「普通図柄抽選」とも称す）で当選した場合に、右進入規制ソレノイド 4 6 2 による駆動に応じて所定の回数及び所定の時間だけ進入許容姿勢に移行する。

【0064】

下大入賞装置 4 3 3 には、図 7 に示すように、進入許容姿勢と進入禁止姿勢との間の移行によって、その内部への遊技球の進入を規制する下進入規制機構 4 5 3 と、下進入規制機構 4 5 3 の姿勢を変化させる下進入規制ソレノイド 4 6 3（図 10 参照）とが設けられている。下大入賞装置 4 3 3 の下進入規制機構 4 5 3 が進入禁止姿勢である場合には、下進入規制機構 4 5 3 が進入口（入賞口）を閉鎖することによって遊技球は下大入賞装置 4 3 3 に進入できないが、下進入規制機構 4 5 3 が進入許容姿勢である場合には、下進入規制機構 4 5 3 が進入口を開放することによって遊技球は下大入賞装置 4 3 3 に進入できるようになる。

10

【0065】

上大入賞装置 4 3 4 には、図 7 に示すように、進入許容姿勢と進入禁止姿勢との間の移行によって、その内部への遊技球の進入を規制する上進入規制機構 4 5 4 と、上進入規制機構 4 5 4 の姿勢を変化させる上進入規制モータ 4 6 4（図 10 参照）と、非誘導姿勢と誘導姿勢との間の移行によって、上大入賞装置 4 3 4 に進入した遊技球を非特定通路又は特定通路に振り分ける振分機構 4 3 7 と、振分機構 4 3 7 の姿勢を変化させて遊技球の誘導先を切り換える振分ソレノイド 4 6 5（図 10 参照）とが設けられている。上進入規制機構 4 5 4 が進入禁止姿勢である場合には、上進入規制機構 4 5 4 が進入口（入賞口）を閉鎖することによって遊技球は上大入賞装置 4 3 4 に進入できないが、上進入規制機構 4 5 4 が進入許容姿勢である場合には、上進入規制機構 4 5 4 が進入口を開放することによって遊技球は上大入賞装置 4 3 4 に進入できるようになる。また、上大入賞装置 4 3 4 に進入した遊技球は、振分機構 4 3 7 が前方に突出する非誘導姿勢である場合には非特定通路に案内され、振分機構 4 3 7 が後方に没入する誘導姿勢である場合には特定通路に誘導される。特定通路や非特定通路は、遊技状態の移行を多様にするために設けられ、特定通路へ遊技球が進入した場合には、遊技者に特典として有利な遊技状態が付与される。

20

【0066】

なお、右進入規制機構 4 5 2 等の内部への遊技球の進入確率を変化させる機構としての進入許容姿勢及び進入禁止姿勢としては、各機構を構成して各装置の入賞口（又は入球口）に遊技球が進入可能な特別状態と、遊技球が進入不能な通常状態とを切り替える動作部材の姿勢変化に対応し、各姿勢に応じて動作部材の位置及び向き少なくともいずれかが異なるものであればよい。また、右進入規制機構 4 5 2 等の遊技球の進入確率を変化させる機構として、遊技球が進入不能な状態を通常状態とする必要は必ずしもなく、通常状態においても遊技球の進入を許容し、特別状態においては通常状態より遊技球が進入し易い状態に動作部材の姿勢が変化する構成としてもよい。

30

【0067】

下大入賞装置 4 3 3 及び上大入賞装置 4 3 4 には、大当りの抽選に当選した場合に遊技球が進入可能となる。具体的には、第 1 特別図柄に係る上側中始動入賞装置 4 3 1 A 若しくは下側中始動入賞装置 4 3 1 B へ進入した遊技球が上側中始動入賞スイッチ 4 4 1 A 若しくは下側中始動入賞スイッチ 4 4 1 B で検出されることに基づく抽選（以下において「第 1 特別図柄抽選」とも称す）に当選した場合、又は、第 2 特別図柄に係る右始動入賞装置 4 3 2 へ進入した遊技球が右始動入賞スイッチ 4 4 2 で検出されることに基づく抽選（以下において「第 2 特別図柄抽選」とも称す）に当選した場合には、下進入規制ソレノイド 4 6 3 又は上進入規制モータ 4 6 4 の少なくとも一方が作動する。この作動によって所定の回数に亘り所定の時間だけ下進入規制機構 4 5 3 又は上進入規制機構 4 5 4 の少なくとも一方が進入許容姿勢をとる。また、それらの抽選に当選した場合には、振分ソレノイド 4 6 5 も作動し、振分機構 4 3 7 は、所定の回数に亘り所定の時間だけ誘導姿勢をとる。

40

【0068】

50

役連作動装置 435 は、下大入賞装置 433 及び上大入賞装置 434 が作動を開始するために必要な条件を設定するための装置である。大当りの抽選に当選した後は、役連作動装置 435 の遊技球の通過を条件として、下大入賞装置 433 又は上大入賞装置 434 のいずれかが作動を開始する。このため、遊技者は、大当りに当選した場合、自らの意図するタイミングで特別遊技状態を開始させることができる。なお、必ずしも役連作動装置 435 の遊技球の通過を条件として、下大入賞装置 433 又は上大入賞装置 434 のいずれかが作動を開始する構成とする必要はなく、それに代えて、又は、それに加えて、予め定めた時間の経過により下大入賞装置 433 又は上大入賞装置 434 のいずれかが作動を開始する構成としてもよい。

【0069】

また、遊技盤 400 には、図 7 に示すように、図柄の変動表示や抽選結果を表示する表示装置 471～473 と、遊技の保留回数を表示する表示装置 476～478 とが一体化された複数の発光部を有する表示器が、遊技盤 400 の一部に相当する左下部分に設けられている。複数の発光部は、各装置に対応する発光領域に予め区画され、各装置の状態が発光状態によって表示される。

【0070】

具体的には、遊技盤 400 には、第 1 特別図柄抽選に伴って、第 1 特別図柄を変動表示したり、第 1 特別図柄を抽選結果に応じた停止図柄で確定表示したりする第 1 特別図柄に係る特別図柄表示装置 471 と、第 2 特別図柄抽選に伴って、第 2 特別図柄を変動表示したり、第 2 特別図柄を抽選結果に応じた停止図柄で確定表示したりする第 2 特別図柄に係る特別図柄表示装置 472 と、第 1 特別図柄に係る単位遊技の保留回数を表示する特別図柄保留表示装置 476 と、第 2 特別図柄に係る単位遊技の保留回数を表示する特別図柄保留表示装置 477 とが設けられている。第 1 特別図柄に係る単位遊技の権利及び第 2 特別図柄に係る単位遊技の権利はそれぞれ最大 4 回まで保留される。ここで、単位遊技とは、1 回の始動入賞に基づいて実行される 1 回分の遊技であり、1 回の始動入賞に基づいて実行される抽選の当否判定と、その当否判定に基づいた抽選結果を表示するまでの変動表示の開始から終了までを含む一連の遊技をいう。

【0071】

第 1 特別図柄に係る単位遊技の権利が最大回数まで保留されている場合には、始動入賞装置 431 に進入した遊技球が上側中始動入賞スイッチ 441A（図 10 参照）又は下側中始動入賞スイッチ 441B（図 10 参照）によって検出されたとしても第 1 特別図柄に係る単位遊技の権利は追加されない。同様に、第 2 特別図柄に係る単位遊技の権利が最大回数まで保留されている場合に、右始動入賞装置 432 に進入した遊技球が右始動入賞スイッチ 442（図 10 参照）によって検出されたとしても第 2 特別図柄に係る単位遊技の権利は追加されない。

【0072】

第 1 特別図柄に係る特別図柄表示装置 471 及び第 2 特別図柄に係る特別図柄表示装置 472 の各々は、複数の発光部で構成されており、主制御基板 920（図 10 参照）によって制御される。第 1 特別図柄の表示及び第 2 特別図柄の表示の各々は、複数の発光部の発光パターン（発光色を含む発光状態（消灯、点灯、点滅）の組合せ）によって表現される。第 1 特別図柄に係る特別図柄保留表示装置 476 及び第 2 特別図柄に係る特別図柄保留表示装置 477 は、2 個の単色の発光部の発光状態（消灯、点灯、点滅）の組合せによって保留回数を表示する。

【0073】

また、遊技盤 400 には、普通図柄抽選に伴って、普通図柄を変動表示したり、普通図柄を抽選結果に応じた停止図柄で確定表示したりする普通図柄表示装置 473 と、普通図柄に係る単位遊技の権利の保留回数を表示する普通図柄保留表示装置 478 とが設けられている。普通図柄に係る単位遊技の権利は最大 4 回まで保留される。普通図柄に係る単位遊技の権利が最大回数まで保留されている場合には、始動装置 436 に進入した遊技球が始動スイッチ 446 によって検出されたとしても普通図柄に係る単位遊技の権利は追加され

10

20

30

40

50

ない。

【0074】

普通図柄表示装置473は、複数の発光部で構成されており、主制御基板920（図10参照）によって制御される。普通図柄は、複数の発光部の発光パターンによって表現される。また、普通図柄保留表示装置478は、2個の単色の発光部の発光状態（消灯、点灯、点滅）の組合せによって保留回数を表示する。

【0075】

また、遊技盤400には、中央構造体420の後方に重なるようにして、第1特別図柄及び第2特別図柄に係る単位遊技において、装飾図柄を変動表示したり、装飾図柄を確定表示したりする装飾図柄表示装置479が設けられている。装飾図柄の変動表示及び確定表示は、副制御基板940により制御され、主制御基板920による第1特別図柄や第2特別図柄の変動表示及び確定表示と同期している。装飾図柄の変動表示においては、第1特別図柄や第2特別図柄の変動表示よりも複雑かつ多様な演出が実行される。なお、第1特別図柄や第2特別図柄の変動表示及び確定表示と装飾図柄の変動表示及び確定表示とは、必ずしも完全に一致するタイミングで変動開始したり、確定表示として停止表示をしたりする必要はなく、各タイミングに僅かな時間差を設けつつ略同じタイミングで変動を開始し、略同じタイミングで確定表示が行われる設定としてもよい。

【0076】

また、遊技盤400は、各種の構造物の裏側に設けられた盤面発光装置490（図10参照）を備えており、盤面発光装置490は、副制御基板940による制御に基づいて遊技進行に伴う各種の発光演出や発光による状態報知を実行する。

【0077】

また、遊技盤400には、バックアップ電源601の残量（電気量、電荷の量）に対応する情報を表示する残量表示部602（図10参照）が、遊技盤400の一部に相当する右下部分の前方側から視認可能な位置（例えば、中央構造体420の一部であって装飾図柄表示装置479の隣）に設けられている。なお、図7においては、残量表示部602の図示を省略している。

【0078】

本実施形態のパチンコ機100においては、残量表示部602は、1の発光部から構成され、バックアップ電源601の残量に応じて発光部の点灯態様が変化される。例えば、バックアップ電源601の残量がゼロである場合、発光部は連続的に消灯され、充電によって当該残量が増加して最大容量に至るまでの間、発光部は点滅し（間欠的に点灯し）、当該残量が最大容量に達すると、発光部は連続的に点灯する。

【0079】

なお、残量表示部602を複数の発光部から構成し、バックアップ電源601の残量に応じて点灯する発光部の数が増える構成であってもよく、残量表示部602を7セグメントLEDや液晶表示装置などの表示部によって構成し、バックアップ電源601の残量を数字によるパーセント表示で表示する構成であってもよい。また、1または複数の発光部から構成される残量表示部602において、発光部の点灯態様や点灯する発光部の数の変化に代えて、また、当該変化に加えて、バックアップ電源601の残量に応じて発光部の色が変化する構成であってもよい。

【0080】

ここで、各種の遊技状態及び遊技状態間の移行について説明する。通常時の遊技状態（以下において「通常遊技状態」とも略記する）は、第1特別図柄、第2特別図柄及び普通図柄の変動表示時間が長い状態（以下において「非時短状態」とも称す）に対応する。

【0081】

第1特別図柄抽選又は第2特別図柄抽選において大当りに当選した場合には、その当選に基づいて移行する特別遊技状態中に遊技球が特定通路（上大入賞装置434の内部通路）へ進入するか否かに対応して、特別遊技状態後に移行する遊技状態が異なる。特別遊技状態中に遊技球が特定通路へ進入しなかった場合には、第1特別図柄抽選、第2特別図柄及

10

20

30

40

50

び普通図柄の変動表示時間が非時短状態よりも短い状態（以下において「時短状態」とも称す）であって、かつ、第1特別図柄抽選及び第2特別図柄抽選における大当りの当選確率が通常遊技状態と同一の状態（以下において「低確率状態」とも称す）である遊技状態（以下において「時短遊技状態」とも称す）へ移行する。一方、特別遊技状態中に遊技球が特定通路へ進入した場合には、時短状態であって、かつ、第1特別図柄抽選及び第2特別図柄抽選における大当りの当選確率が通常遊技状態より高い状態（以下において「高確率状態」とも称す）である遊技状態（以下において「確変遊技状態」とも称す）へ移行する。

【0082】

時短遊技状態は、第1特別図柄及び第2特別図柄に係る単位遊技の総数が所定の回数（例えば、50回）となるまで維持されるが、その後は通常遊技状態に戻る。また、確変遊技状態は、第1特別図柄及び第2特別図柄に係る単位遊技の総数が所定の回数（例えば、100回）となるまで維持されるが、その後は通常遊技状態に戻る。

10

【0083】

なお、遊技状態及び遊技状態間の移行について、必ずしも上述した構成とする必要はなく、例えば、高確率状態が次回の大当りの当選まで継続する構成としてもよいし、他の内容によって上記遊技状態の少なくとも1つを構成してもよいし、上述した各遊技状態とは別の遊技状態を更に含む構成としてもよいし、上述した条件とは異なる条件によって遊技状態間が移行する構成としてもよい。

【0084】

また、特別遊技状態への移行契機は、特別図柄抽選において当選した場合に限られる必要はなく、当該構成に加えて、または、当該構成に代えて、通常遊技状態において遊技球が遊技領域内に予め定めた特定領域（所謂V領域）に進入した場合に特別遊技状態に移行する構成としてもよい。

20

【0085】

例えば、特別図柄抽選において非当選の一種である所定の小当りが選択された場合に通常遊技状態において上大入賞装置434を開放し、上大入賞装置434に進入した遊技球が非特定通路（非特典領域409N）と特定通路（特典領域409V）とを振り分ける振分機構437によって特定通路に誘導されたことで当該特定通路に進入した場合に特別遊技状態が発生する構成であってもよい。また、特別遊技状態で作動する大入賞装置とは別の開閉可能な入口を有する役物装置の内部に非特定通路と特定通路とが設けられたパチンコ機において、所定の入賞口に遊技球が進入した場合に当該役物装置の入口を開放し、開放された入口から当該役物装置に進入した遊技球が非特定通路と特定通路とを振り分ける振分機構によって特定通路に誘導されたことで当該特定通路に進入した場合に特別遊技状態が発生する構成であってもよい。

30

【0086】

本実施形態のパチンコ機100においては、遊技球の出球率（機械割、ペイアウト率）の設定を変更できる設定変更機能を備える構成とされている。詳細は後述するが、本実施形態のパチンコ機100は、初当り確率と確変継続率との組み合わせが異なる複数種類（例えば、9種類）の遊技態様の中から1の遊技態様を設定可能であるとともに、設定する遊技態様を必要に応じて変更可能に構成され、遊技態様の設定を変更することによって（設定変更することによって）、パチンコ機100の出球率の設定を変更できるよう構成される。設定された遊技態様に対応する情報（以下において、「設定対応情報」とも称す）は、主制御基板920のRAM922の所定領域に記憶される。

40

【0087】

次に、遊技盤400の主要な装置の動作について概ね時系列に沿って説明する。主制御基板920においては、特別図柄（第1特別図柄及び第2特別図柄で共通）に係る当選乱数、大当り図柄乱数、停止パターン乱数、各種の変動パターン乱数が生成されており、各種の遊技状態において第1特別図柄に係る始動入賞装置431A、431Bのいずれかに進入した遊技球が中始動入賞スイッチ441A、441B（図10参照）のいずれかによっ

50

て検出された場合に第1特別図柄の始動入賞となる。第1特別図柄の始動入賞時に、第1特別図柄に係る単位遊技の権利が最大回数まで保留されていない場合には、特別図柄に係る当選乱数、大当たり図柄乱数及び停止パターン乱数が取得されて、主制御基板920のRAM922（図10参照）の所定の領域に格納される。

【0088】

第1特別図柄の始動入賞に基づいて取得された乱数による単位遊技は、特別遊技状態中ではなく、第1特別図柄又は第2特別図柄に係る単位遊技中でもなく、第1特別図柄に係る単位遊技の権利が保留されていない場合には、それらの乱数の格納の直後に開始される。また、特別遊技状態中でない場合であっても、第1特別図柄又は第2特別図柄に係る単位遊技中や第1特別図柄又は第2特別図柄に係る単位遊技の権利が保留されている場合には、今回の入賞より前に保留されていた全ての特別図柄（第1特別図柄及び第2特別図柄）に係る単位遊技の終了後に、今回の始動入賞に基づく単位遊技が開始される。特別遊技状態中に第1特別図柄の始動入賞に基づいて各乱数が取得された場合には、その乱数による単位遊技は、特別遊技状態後において今回の始動入賞より前に保留されていた全ての特別図柄に係る単位遊技の後に開始される。

10

【0089】

また、第1特別図柄の始動入賞に基づいて取得された乱数による単位遊技は、第2特別図柄に係る全ての単位遊技の終了後に開始される。すなわち、今回の始動入賞の後に第2特別図柄の始動入賞に基づいて各乱数が取得された場合には、その第2特別図柄の始動入賞に基づく単位遊技が優先して実行される。なお、必ずしも第2特別図柄の始動入賞に基づく単位遊技が第1特別図柄に係る単位遊技に優先して実行される構成とする必要はなく、始動入賞の順に第1特別図柄と第2特別図柄に係る単位遊技優先制御が実行される構成であってもよいし、2つの特別図柄が択一的でなく同時に変動可能な構成であってもよい。

20

【0090】

第1特別図柄の始動入賞に基づく第1特別図柄抽選において大当りに当選している場合には、更に、取得された大当たり図柄乱数に基づいて第1特別図柄抽選の大当たり当選に対応する停止図柄（大当たり図柄）の種類が決定される。この停止図柄の種類と大当たりの種類とが対応し、例えば、下進入規制機構453又は上進入規制機構454が進入許容姿勢をとる回数に相当するラウンド数（例えば、6ラウンドと16ラウンド）や、特別遊技状態後に移行する遊技状態（確変遊技状態へ移行させるか否か）といった遊技状態の種類に対応して大当たりの種類が複数種類設定され、その種類毎に大当たり図柄が設定されている。第1特別図柄抽選において大当りに当選しなかった場合には、大当たり図柄とは別のハズレ図柄が停止図柄として設定される。

30

【0091】

第1特別図柄抽選の後に、現在の遊技状態、抽選結果、停止パターン乱数の値、各種の変動パターン乱数の値、第1特別図柄に係る単位遊技の権利の保留回数に基づいて、第1特別図柄の変動表示時間が決定されると共に、装飾図柄の変動パターンが選択される。その後、第1特別図柄に係る特別図柄表示装置471における第1特別図柄の変動表示及び装飾図柄表示装置479における装飾図柄の変動表示（変動演出）が開始され、第1特別図柄にあっては変動表示時間に亘って一定のパターンによる変動表示が継続され、装飾図柄にあっては変動表示時間に亘って変動パターンに従った変動表示が継続される。その後、変動表示時間の経過に伴って、第1特別図柄に係る停止図柄が確定表示され、また、装飾図柄として第1特別図柄の停止図柄に対応する図柄が確定表示される。第1特別図柄及び装飾図柄の確定表示は少なくとも所定の一定時間に亘って継続される。

40

【0092】

ここで、装飾図柄の変動表示は、装飾図柄表示装置479の表示画面上で識別情報としての数字やキャラクタによって構成される図柄が縦方向や横方向或いはL字形などの所定の経路に沿って並んでスクロールする図柄列を用いて実行してもよいし、図柄が一定の箇所で回転しつつ別の図柄に更新されるような図柄列を用いて実行してもよい。また、装飾図柄の変動表示としては、図柄の変動表示に限らず、キャラクタの見た目を異ならせて行わ

50

れる演出表示によって識別情報の変動表示を構成してもよい。また、装飾図柄表示装置 479 の表示画面の複数箇所に、識別情報の変動表示を実行する部分を設けてもよく、例えば、中央部分に大きく表示される識別情報としての図柄と、表示画面の角部分に小さく表示される別の図柄とを用いて変動表示を行うようにしてもよい。

【0093】

第1特別図柄に係る停止図柄が大当り図柄である場合には、第1特別図柄の確定表示後に、遊技状態は特別遊技状態に移行する。特別遊技状態においては、下大入賞装置 433 の下進入規制機構 453 及び上大入賞装置 434 の上進入規制機構 454 が、大当りの種類に応じた所定の順序で所定の回数だけ進入許容姿勢となる。下進入規制機構 453 及び上進入規制機構 454 における各回の進入許容姿勢中において、所定の個数（例えば、8 個）の遊技球が大入賞スイッチ 443, 444 によって検出された場合、又は、所定の最大進入許容時間（例えば、29.5 秒）が経過した場合には、下進入規制機構 453 又は上進入規制機構 454 は進入禁止姿勢に移行する。その後、所定の進入禁止時間の経過後に、再度、下進入規制機構 453 又は上進入規制機構 454 のいずれかが進入許容姿勢に復帰する。この進入規制動作が大当りの種類に対応した所定の順序で所定の回数だけ繰り返される。

10

【0094】

下進入規制機構 453 及び上進入規制機構 454 は、特別遊技状態中においていずれか一方のみが進入許容姿勢をとる構成とされ、特別遊技状態の開始から所定の待機時間が経過した後（オープニング期間後）に初回の進入許容姿勢に一方が移行する。また、最終回の進入禁止姿勢への復帰から所定の進入禁止時間が経過し、更にその後に所定の待機時間が経過した後（エンディング期間後）に特別遊技状態は終了する。特別遊技状態の終了後には、上述のように、時短遊技状態又は確変遊技状態に移行する。

20

【0095】

各種の遊技状態において、第2特別図柄に係る右始動入賞装置 432 に進入した遊技球が右始動入賞スイッチ 442 によって検出された場合に第2特別図柄の始動入賞となる。第2特別図柄の始動入賞に基づく単位遊技の制御は、上述した第1特別図柄に係る制御と同様に実行される。すなわち、第2特別図柄の始動入賞時に第2特別図柄に係る単位遊技の権利が最大回数まで保留されていなければ、特別図柄に係る各乱数が取得されて、この始動入賞に基づく単位遊技が実行される。また、第2特別図柄抽選に応じた停止図柄の決定、装飾図柄の変動パターンの選択、変動表示の実行、及び、遊技状態の移行制御等についても、第1特別図柄に係る制御と同様に実行される。

30

【0096】

各種の遊技状態において、始動装置 436 に進入した遊技球が始動スイッチ 446 によって検出された場合、普通図柄に係る単位遊技の権利が最大回数まで保留されていなければ、普通図柄に係る当選乱数が取得されて、主制御基板 920 の RAM 922 の所定の領域に格納される。このとき、普通図柄に係る単位遊技中でなければ、その格納の直後に、その取得された普通図柄に係る単位遊技が開始される。一方、普通図柄に係る単位遊技中であれば、既得の普通図柄に係る単位遊技の権利に基づく単位遊技の終了後に、その取得された普通図柄に係る単位遊技が開始される。

40

【0097】

普通図柄に係る単位遊技においては、当選乱数の値に基づいて当選したか否かが判定され、当選した場合には、停止図柄として所定の当り図柄が設定される。一方、普通図柄抽選において当選しなかった場合には、停止図柄として所定のハズレ図柄が設定される。普通図柄抽選後に、普通図柄表示装置 473 において普通図柄の変動表示が開始され、非時短状態にあっては所定の変動表示時間に亘って一定のパターンによる変動表示が継続され、時短状態にあっては非時短状態よりも短い所定の変動表示時間に亘って一定のパターンによる変動表示が継続される。遊技状態に応じた所定の時間の経過に伴って、普通図柄に係る停止図柄が一定時間に亘って確定表示される。

【0098】

50

普通図柄に係る停止図柄が当り図柄である場合には、普通図柄の確定表示後に、右始動入賞装置 4 3 2 の右進入規制機構 4 5 2 が少なくとも 1 回は進入許容姿勢に移行する。具体的には、非時短状態（通常遊技状態及び特別遊技状態）において当選した場合には、右始動入賞装置 4 3 2 が所定の最大進入許容時間（例えば、略 0.1 秒）に亘って進入許容状態へ移行し、時短状態（時短遊技状態及び確変遊技状態）における当選の場合には、右始動入賞装置 4 3 2 が非時短状態の場合より長い所定の最大進入許容時間（例えば、略 4.8 秒）に亘って間欠的に（例えば、3 回に分けて）進入許容姿勢に移行する。但し、所定の個数（例えば、10 個）の遊技球が右始動入賞スイッチ 4 4 2 によって検出された場合には、右進入規制機構 4 5 2 は最大進入許容時間の経過を待たずに進入禁止姿勢に移行し、また、進入許容姿勢への移行回数が所定の回数に到達していなくても、今回の普通図柄に係る単位遊技における右始動入賞装置 4 3 2 の動作が終了する。

10

【0099】

次に、本実施形態のパチンコ機 100 の遊技性について説明する。第 2 特別図柄抽選を受けるためには、まず、普通図柄抽選において当選しなければならず、更に、その当選に基づく右始動入賞装置 4 3 2 の進入許容状態において遊技球が右始動入賞装置 4 3 2 へ進入しなければならない。通常遊技状態における普通図柄に係る当りの当選確率は時短遊技状態における当選確率と同一であるが、通常遊技状態における当りの当選に基づく右始動入賞装置 4 3 2 の進入許容状態の滞在時間（例えば、略 0.1 秒）が時短状態における滞在時間（例えば、略 4.8 秒）に比べて極めて短く設定されているために、通常遊技状態において、第 2 特別図柄抽選を受けられる単位時間当りの機会は、第 1 特別図柄抽選を受けられる単位時間当りの機会よりも大幅に小さい。逆に、時短遊技状態や確変遊技状態等の時短状態においては、第 2 特別図柄抽選を受けられる単位時間当りの機会は、第 1 特別図柄抽選を受けられる単位時間当りの機会よりも大幅に大きい。

20

【0100】

したがって、遊技者は、第 1 特別図柄抽選において大当りに当選し、その後の特別遊技状態において遊技球を特定通路へ進入させることによる確変遊技状態への移行を目指して遊技する。一方、時短遊技状態及び確変遊技状態においては、各遊技状態が終了する前に第 2 特別図柄抽選において大当りに当選することを目指して遊技する。

【0101】

具体的には、遊技盤 400 には、遊技球が流下する遊技領域 409 の中央部に中央構造体 420 が設けられ、主に中央構造体 420 の左側から遊技球を流下させる遊技手法（左打ち遊技手法）と、主に中央構造体 420 の右側から遊技球を流下させる遊技手法（右打ち遊技手法）とが選択的に行える構成となっている。遊技者は、通常遊技状態においては、左打ち遊技手法によって遊技を行い、時短遊技状態及び確変遊技状態においては、右打ち遊技手法によって遊技を行う。また、下大入賞装置 433 及び上大入賞装置 434 が中央構造体 420 に対して右側に配置されているので、特別遊技状態においても右打ち遊技手法によって遊技を行う。

30

【0102】

次に、後ブロック 104 について説明する。図 8 及び図 9 は、それぞれ、パチンコ機 100 を示す背面側斜視図及び背面図である。なお、図 8 においては、理解の容易のために、外枠 101 を省略して示している。

40

【0103】

後ブロック 104 は、図 8 及び図 9 に示すように、基体 501 に他の部材や装置が取付されて構成されている。この基体 501 と中間ブロック 103 とが後ブロック支持機構 136, 137 によって接続されることにより、後ブロック 104 が中間ブロック 103 に対して開閉可能に支持されている。

【0104】

後ブロック 104 は、遊技球を貯留する球貯留部としての遊技球タンク 510 と、遊技球タンク 510 の下流側に連続して遊技球を（例えば、1 列に）整流させると共に 1 段に整列させる球整列部としてのタンクレール 520 と、タンクレール 520 の下流側において

50

タンクレール 520 から流入した遊技球を誘導する球誘導部としてのケースレール 530 と、ケースレール 530 の下流側において遊技球の払い出しや遊技球の貸し出しを実行する払出装置 540 と、払出装置 540 の下流側において払出装置 540 から流出した遊技球を基体 501 に形成された誘導通路（図示せず）に誘導する球誘導部としての誘導部材 550 と、払出装置 540 による遊技球の払い出しや遊技球の貸し出しを制御する払出制御装置 560 と、外部電力を各種の装置等で必要とする所定の電圧の電力に変換して出力する電力供給手段としての機能と発射操作装置 250 に対する発射操作に基づく遊技球の射出を主制御基板 920 と協同して制御する発射制御手段としての機能とを有する電源・発射制御装置 570 と、払出制御装置 560 及び遊技球貸出装置 290（図 1 参照）とパチンコ機 100 の側方に配置されるカードユニット（図示せず）との間の信号を中継する中継装置 950 とを備えている。

10

【0105】

基体 501 は、樹脂（例えば、ABS 樹脂）により一体成型されており、前側部分に対応するベース部 502 と、ベース部 502 よりも後方に位置した保護カバー部 503 とを含んでいる。ベース部 502 は、その上側部分が後ブロック 104 の外形に沿って略枠状に形成されると共に、下側部分が前後方向に厚みを有する略平坦状に形成されており、他の装置が取り付けられる被取付部としての機能を有している。

【0106】

保護カバー部 503 は、前後方向に厚みを有する略板状に形成されている。また、保護カバー部 503 は、中間ブロック 103 の背面全域を覆う形状でなく、主制御装置 370 の一部といった頻繁に検査や確認が必要な中間ブロック 103 の背面における一部をパチンコ機 100 の背面に露出するための窓部を形成する大きさに設定されている。保護カバー部 503 の背面には、主制御装置 370 及び副制御装置 390 における発熱の放熱性を向上させる機能を有する多数の通気孔 503A が形成されている。

20

【0107】

遊技球タンク 510 は、上方に開口した横長の箱型容器であり、その長手方向の一端側に、島設備の球循環装置（図示せず）から供給される遊技球が逐次補給される。遊技球タンク 510 における遊技球の供給される側と異なる長手方向の一端側には開口（図示せず）が形成されている。遊技球タンク 510 の底面は長手方向に緩やかに傾斜し、遊技球タンク 510 に供給された遊技球は開口側に自重によって移動する。また、遊技球タンク 510 の底面は、長手方向に比して、長手方向と直交する方向（前後方向）にも傾斜し、開口が設けられる側（例えば、前側）に優位に遊技球を誘導する。また、遊技球タンク 510 の底面には、その上に重なるようにして金属製の帯電防止板（図示せず）が取着され、帯電防止板が接地電位に接続されて遊技球タンク 510 内及びその下流側の遊技球の静電気が除去される。

30

【0108】

タンクレール 520 は、遊技球タンク 510 の開口が形成される側に取り付けられ、遊技球タンク 510 の開口を通して遊技球が流入する。タンクレール 520 は、遊技球が 1 列に並んで通過する幅を有する略樋状の遊技球の通路を形成する通路形成部材 521 と、通路形成部材 521 により形成される通路の上面として次第に高さが低くなる天面部を有してその通路を流下する遊技球を上下に重なった高さから次第に 1 段の高さに整流する整流部材 522 とを備えている。タンクレール 520 により形成される通路は、下流側に向けて緩やかに傾斜しており、遊技球タンク 510 とは反対側へ遊技球を誘導する。

40

【0109】

ケースレール 530 は、タンクレール 520 の下側に連続するように縦長に形成されており、タンクレール 520 からの遊技球が流入する。ケースレール 530 には、遊技球が勢いよく流れないように左右に湾曲しつつ下方に連続している。また、ケースレール 530 における球通路の途中部分には、球切れを検出するための球切れ検出部 539 が設けられている。球切れ検出部 539 には、貯留球スイッチ 591（図 10 参照）が内蔵され、貯留球スイッチ 591 によって、ケースレール 530 又はその上流側で球詰り等が発生して

50

ケースレール 530 内に遊技球が正常に補給されていない球切れ状態を検出する。

【0110】

払出装置 540 は、遊技球を送り出す送出機構と、送出機構を駆動する駆動手段としての払出モータ 542（図 10 参照）と、払出計数スイッチ 592（図 10 参照）とを備えている。払出制御装置 560 による制御に基づく払出モータ 542 の作動に応じて、球通路に貯留されている遊技球が下流側へ放出される。放出された遊技球の球通路の通過は、払出計数スイッチ 592 に検出され、これにより、払出制御装置 560（払出制御基板 930）が遊技球の払い出し数を計数する。

【0111】

払出制御装置 560 及び電源・発射制御装置 570 は、図 8 及び図 9 に示すように、後ブロック 104 の背面側下部に位置するように基体 501 のベース部 502 における下部背面に重なるようにして取り付けられている。これら払出制御装置 560 及び電源・発射制御装置 570 を含む後ブロック 104 は、機種変更等において遊技盤 400 を別の遊技盤に交換した場合にも、継続利用可能とされている。

10

【0112】

払出制御装置 560 は、払出制御基板 930（図 10 参照）と、払出制御基板 930 を収容する基板ケースとを備え、払出制御基板 930 は、主制御基板 920 と同様に、開封の痕跡を残さずに開封できないように封止された基板ケースの内部に収容されている。

【0113】

電源・発射制御装置 570 は、電源・発射制御基板 900（図 10 参照）と、電源・発射制御基板 900 を収容する基板ケースとを備え、電源・発射制御基板 900 は、主制御基板 920 と同様に、封止された基板ケースの内部に収容されている。

20

【0114】

また、図 9 に示すように、パチンコ機 100 の背面側には、背面設定スイッチ 905 が設けられている。背面設定スイッチ 905 は、本パチンコ機 100 の出球率を予め定めた複数段階（例えば、6 段階や 9 段階など）のいずれか 1 段階に設定するための設定操作を有効化するための設定有効化装置である。

【0115】

背面設定スイッチ 905 に所定のキー（図示せず）を挿入して所定位置（本実施形態では、初期位置から時計回りに略 90° 回転させた位置）まで回転させることで出球率の設定変更を有効化（許容）することができる。出球率の設定変更がこのように有効化された状態で所定の設定操作（本実施形態においては、初期化スイッチ 907 の押下）を行うことで出球率の設定変更が有効に行われる。

30

【0116】

出球率の設定変更が有効に行われた場合、設定された各段階に応じて所定の遊技態様に変更される。つまり、背面設定スイッチ 905 および初期化スイッチ 907 の操作による出球率の設定変更は、遊技態様の設定変更であるともいえる。

【0117】

本実施形態のパチンコ機 100 においては、出球率の設定変更（すなわち、遊技態様の設定変更）により設定された各段階に応じて、初当り確率（本実施形態においては、第 1 特別図柄抽選の当選確率）と、確変継続率（本実施形態においては、確変遊技状態において第 2 特別図柄抽選を経由して特別遊技状態へ移行した場合に当該特別遊技状態後に確変遊技状態に移行する確率）との組み合わせが異なる 9 種類の遊技態様のいずれかを選択することができる。よって、出球率の設定変更（遊技態様の設定変更）が有効に行われた場合には、設定された段階に応じた初当り確率および継続確率となるよう第 1 特別図柄抽選および第 2 特別図柄抽選の各当選確率を変化させる（すなわち、各当選確率に応じた確率抽選データを使用する）ことで出球率の調整が行われる。

40

【0118】

具体的に、本実施形態のパチンコ機 100 においては、初当り確率が大幅に低いが確変継続率が大幅に高いトップタイプと、初当り確率が中程度であり確変継続率も中程度である

50

ミドルタイプと、初当り確率が大幅に低いが確変継続率が大幅に高いボトムタイプとを選択できる。さらに、これらの各タイプにおいて、各タイプの初当り確率が、各タイプ間の初当り確率の幅よりも小幅に細分化された３段階の確率状態（以下、確率設定状態ともいう）、すなわち、３段階の中で初当り確率が最も低い第１段確率と、２番目に低い初当り確率である第２段確率と、初当り確率が最も高い第３段確率とを選択できる。

【０１１９】

トップタイプにおいて、中始動入賞装置４３１および右始動入賞装置４３２への入賞に伴う賞球数は他のタイプよりも少ないが、上大入賞装置４３４及び下大入賞装置４３３への入賞に伴う賞球数は他のタイプよりも多くなっている。一方、ボトムタイプにおいて、中始動入賞装置４３１および右始動入賞装置４３２への入賞に伴う賞球数は他のタイプよりも多いが、上大入賞装置４３４及び下大入賞装置４３３への入賞に伴う賞球数は他のタイプよりも少なくなっている。

10

【０１２０】

ここで、トップタイプ、ミドルタイプ、およびボトムタイプのいずれも賞球数は同一の数に設定してもよい。これにより、トップタイプ、ミドルタイプ、およびボトムタイプのいずれの設定であるのか遊技者が賞球数から判定することを不能とし、いずれのタイプであるかの設定を推測する遊技性を長時間にわたって付加することができる。

【０１２１】

また、トップタイプ、ミドルタイプ、およびボトムタイプのいずれも確率設定状態の段階に応じて遊技者にとっての利益率は変化するが、いずれのタイプであっても確率設定状態の段階が同一であれば遊技者にとっての利益率は実質的に同一に設定されている。このため、タイプの変更によって確率の設定を変更しても、遊技場側が獲得する一定期間（例えば、１日）当たりの利益は予測しやすく、遊技場の管理をし易くすることができる。

20

【０１２２】

なお、出球率の設定変更によって変更する遊技態様としては、上述したような、初当り確率と確変突入率との組合せであることに必ずしも限定される必要はなく、例えば、初当り確率または確変突入率のいずれかであってもよい。また、初当り確率および確変突入率以外の抽選確率、例えば、第１特別図柄抽選または第２特別図柄抽選の当選確率、普通図柄抽選の当選確率や、第１特別図柄抽選または第２特別図柄抽選において小当りが選択される確率や、確変突入率（本実施形態においては、第２特別図柄抽選での当選を経由する確変遊技状態への突入率）や、特別遊技状態後に移行した確変遊技状態が終了する確率（例えば、確変遊技状態中に図柄の変動表示が実行される毎に行われる転落抽選において確変遊技状態の終了が選択される確率）などであってもよく、これらの各遊技態様の２つ以上の組合せであってもよい。

30

【０１２３】

背面設定スイッチ９０５より上方には、設定表示装置９０６が設けられている。背面設定スイッチ９０５の操作によって出球率の設定変更（遊技態様の設定変更）が有効に行われた場合、現在設定されている遊技態様に対応する設定表示情報が設定表示装置９０６に表示される。設定表示情報は、タイプを表す英字と確率設定状態を表す数字との組み合わせから構成される。本実施形態のパチンコ機１００においては、トップタイプ、ミドルタイプ、およびボトムタイプの各タイプを、それぞれ、「Ｔ」、「Ｍ」および「Ｂ」の英字で表す。また、各タイプの確率設定状態は、第１段確率を「１」で表し、第２段確率を「２」で表し、第３段確率を「３」で表す。

40

【０１２４】

よって、例えば、トップタイプの第１段確率の遊技態様である場合に設定表示装置９０６に表示される設定表示情報は「Ｔ１」であり、ミドルタイプの第３段確率の遊技態様である場合に設定表示装置９０６に表示される設定表示情報は「Ｍ３」であり、ボトムタイプの第２段確率の遊技態様である場合に設定表示装置９０６に表示される設定表示情報は「Ｂ２」である。

【０１２５】

50

＜電氣的な構成＞

次に、パチンコ機 100 の電氣的構成について説明する。図 10 は、パチンコ機 100 の電氣的構成を示すブロック図である。パチンコ機 100 は、図 10 に示すように、電源・発射制御基板 900、電源監視基板 910、主制御基板 920、払出制御基板 930、副制御基板 940 等の制御回路装置を備えている。なお、図 10 においては、各種の信号を中継するだけの中継回路装置については省略している。

【0126】

また、図 10 においては、理解を容易にする目的で、閉じた一点鎖線 X を図示することによって、遊技盤 400 を構成する部品と、前ブロック 102 や中間ブロック 103（例えば、基枠 301）や後ブロック 104（例えば、基体 501）などの遊技盤 400 とは異なる枠体を構成する部品とを区別可能に図示している。具体的に、遊技盤 400 の構成部品（例えば、主制御基板 920 や副制御基板 940 など）を一点鎖線 X の内側に図示し、基体 501 に取り付けられて枠体を構成する部品（例えば、電源・発射制御基板 900 や電源監視基板 910 や払出制御基板 930 など）を一点鎖線 X の外側に図示している。

10

【0127】

なお、本実施形態のパチンコ機 100 においては、図 10 に示すように、電源監視基板 910 が枠体を構成する部品の一つである構成（すなわち、電源監視基板 910 が一点鎖線 X の外側に図示される構成）を例示したが、電源監視基板 910 が遊技盤 400 の構成部品の一つである構成であってもよい。以下に、これらの主要な制御回路装置を個別に詳細に説明する。

20

【0128】

電源・発射制御基板 900 は、パチンコ機 100 の各部に電源供給路（図中の破線）を介して所定の電圧の電力を供給する電源部 901 と、発射操作装置 250 の操作に応じて発射装置 330 の駆動を制御する発射制御部 902 と、初期化スイッチ 907 からの初期化信号や球溢れスイッチ 249 からの球溢れ信号を中継する信号中継部 903 とを備えている。

【0129】

電源部 901 は、外部より供給される外部電力（例えば、交流 24 ボルト）を取り込んで内部電力（例えば、直流 24 ボルト）に変換すると共に、その内部電力から各種の電力を生成する。電源部 901 により生成される電力は、各種のソレノイドや各種のモータ等の機器を駆動するための駆動用電圧（例えば、直流 12 ボルト）の電力、各種のスイッチを駆動したり制御処理を実行したりするための制御用電圧（例えば、直流 5 ボルト）の電力、主制御基板 920 の RAM 922 の内容を保持させるためのバックアップ用電圧の電力等を含んでいる。

30

【0130】

なお、電源部 901 は、外部電力から変換された内部電力をコンデンサ（図示せず）に充電するとともに、充電によって当該コンデンサに蓄えられた電力をバックアップ用電圧の電力として供給する機能（以下において「バックアップ電源機能」とも称す）を備えている。つまり、電源部 901 は、バックアップ電源機能によってバックアップ用電圧の電力を生成する。

40

【0131】

電源部 901 は、内部電力から生成した各種の電力を、電源監視基板 910、主制御基板 920、払出制御基板 930、副制御基板 940 等に供給する。具体的には、電源監視基板 910 に対しては、内部電力、駆動用電圧、制御用電圧及びバックアップ用電圧の電力が供給される。主制御基板 920 に対しては、駆動用電圧、制御用電圧及びバックアップ用電圧の電力が、電源監視基板 910 の電源監視部 911 を介して供給される。払出制御基板 930 に対しては、駆動用電圧及び制御用電圧の電力が供給される。副制御基板 940 に対しては、駆動用電圧及び制御用電圧の電力が供給される。発射制御部 902 及び信号中継部 903 に対しては、駆動用電圧及び制御用電圧の電力が供給される。

【0132】

50

また、本実施形態のパチンコ機１００においては、電源部９０１は、バックアップ電源６０１を充電するための充電用電圧（例えば、直流１２ボルト）の電力を内部電力から生成し、バックアップ電源６０１に対し、充電用電圧を供給する。

【０１３３】

電源部９０１には、オン状態とオフ状態を切り替えるための電源スイッチ９０９が接続されている。電源スイッチ９０９が操作されてオン状態に切り替えられると、外部電力の取り込みが開始され、電源スイッチ９０９が操作されてオフ状態に切り替えられると、外部電力の取り込みが停止される。なお、電源スイッチ９０９をオフ状態にしたり、電源スイッチ９０９を介して電源部９０１に接続される電源プラグ（図示せず）を外電力の供給コンセント（図示せず）から抜脱したりすることによってパチンコ機１００の内部への電力の供給が停止している状態や、外部電力自体の供給が停止している状態を「停電状態」と総称する。

10

【０１３４】

詳細は後述するが、本実施形態のパチンコ機１００においては、停電状態が発生した場合、主制御基板９２０に対して、電源部９０１またはバックアップ電源６０１のいずれか一方からバックアップ用電圧の電力が供給されている場合に、主制御基板９２０のＲＡＭ９２２の内容が保持される。

【０１３５】

電源部９０１は、停電状態への移行後においても所定の期間にわたり制御用電圧の電力を正常に出力するように構成されている。これによって、主制御基板９２０は、現在の制御状態に復帰できるように状態を保存して制御を終了させることができる。

20

【０１３６】

発射制御部９０２は、主制御基板９２０と協同して、発射装置３３０の球送りソレノイド３３２及び発射ソレノイド３３４の駆動を制御する。なお、球送りソレノイド３３２及び発射ソレノイド３３４は、所定条件が整っている場合に作動が許可される。具体的には、遊技者が発射ハンドル２５２（図１参照）に触れていることが接触センサ２５４からの接触センサ信号に基づいて検知されていること、発射を停止させるための発射停止スイッチ２５５が操作されていないことを条件に、発射制御部９０２はオン状態の発射許可信号を主制御基板９２０に出力する。また、発射許可信号と発射異常信号とに基づいて主制御基板９２０は発射ソレノイド制御信号及び球送りソレノイド制御信号を発射制御部９０２に出力する。発射制御部９０２は、オン状態の球送り制御信号に基づいて球送りソレノイド３３２を作動させ、オン状態の発射ソレノイド制御信号の受信と可変抵抗器２５３の抵抗値とに基づいて発射ソレノイド３３４を作動させる。これによって、発射装置３３０から可変抵抗器２５３の抵抗値（発射ハンドル２５２の回転操作量）に応じた強さで遊技球が順次に発射される。

30

【０１３７】

信号中継部９０３は、初期化スイッチ９０７が押下された場合に、主制御基板９２０へオン状態の初期化信号を出力する。主制御基板９２０においては、オン状態の初期化信号の受信に応じて主制御基板９２０のＲＡＭ９２２に保存された保存情報を初期化する。なお、初期化スイッチ９０７は、必ずしも信号中継部９０３を介して主制御基板９２０に信号を出力する構成とする必要はなく、例えば、初期化スイッチ９０７を主制御基板９２０に直接搭載する等して基板ケース３７１内に初期化スイッチ９０７が収容される構成としても良く、これにより信号が伝送される区間を狙った不正な信号入力を抑止することができる。

40

【０１３８】

また、信号中継部９０３は、初期化スイッチ９０７が押下された場合に、バックアップ電源６０１へオン状態の信号を出力する。バックアップ電源６０１には、バックアップ用のコンデンサの充電と放電とを、初期化スイッチ９０７の押下有無によって切り替える回路が備えられている。バックアップ電源６０１は、信号中継部９０３から出力されたオン状態の信号の受信に応じて、電源部９０１から供給された充電用電圧の電力の充電を開始す

50

る。

【0139】

また、信号中継部903は、球溢れスイッチ249が遊技球を検出した場合に、主制御基板920へオン状態の球溢れ信号を出力する。主制御基板920においては、オン状態の球溢れ信号の検知に基づいて払出制御基板930に低速払出信号を出力し、低速払出信号を受信した払出制御基板930は、払出モータ542の回転速度（払出装置540からの遊技球の払出速度）を低速化させる。また、主制御基板920は、オフ状態の球溢れ信号の検知に基づいて払出制御基板930に高速払出信号を出力し、高速払出信号を受信した払出制御基板930は、払出モータ542の回転速度を高速化させる。

【0140】

また、図10に示すように、信号中継部903には、背面設定スイッチ905および設定表示装置906が接続されている。信号中継部903は、背面設定スイッチ905が所定のキー（図示せず）により時計回りに略90°回転された場合に主制御基板920へ出力されるオン状態の設定信号を中継する。主制御基板920においては、背面設定スイッチ905からオン状態の設定信号を受信したことに応じて遊技態様の変更を許容する。また、信号中継部903は主制御基板920から設定表示装置906へ出力された設定表示信号を中継する。設定表示装置906は、受信した設定表示信号に対応する設定表示情報を表示する。

【0141】

電源監視基板910は、電源・発射制御基板900からの電力供給状態を監視する電源監視部911と、電源・発射制御基板900と主制御基板920との間の電力供給及び各種の信号の伝達を中継する信号中継部912とを含んでいる。電源監視部911は、停電状態への移行に応じて主制御基板920へ停電信号を出力するものでもあり、電源部901から出力される最大電圧である直流安定24ボルトの電圧を監視し、この電圧が22ボルト未満である状態が所定の時間だけ継続した場合に停電状態であると判断して、オン状態の停電信号を主制御基板920へ出力する。主制御基板920は、オン状態の停電信号の受信によって停電状態への移行を認識する。

【0142】

主制御基板920は、パチンコ機100の動作を統括的に制御する。主制御基板920には、1チップマイコンとしてのMPU（図示せず）が搭載されている。MPUは、演算処理装置としてのCPU（図示せず）と、CPUにより実行される各種の制御プログラムや固定データを記憶したROM（図示せず）と、制御プログラムの実行に際して一時的に各種のデータ等を記憶するRAM922とを含んでいる。主制御基板920には、その他、タイマ回路（図示せず）、カウンタ回路（図示せず）、クロック発生回路（図示せず）、信号送受信回路（図示せず）等の各種回路が搭載されている。

【0143】

主制御基板920のRAM922は、停電状態への移行後においても電源・発射制御基板900の電源部901またはバックアップ電源601から供給されたバックアップ用電圧の電力によって内部データを維持（バックアップ）できる構成となっている。具体的に、初期化スイッチ907が押下された状態で電源スイッチ909がオフ状態にされたことで発生した停電状態においては、主制御基板920に対し、電源部901とバックアップ電源601とからバックアップ用の電力が供給され、それ以外の停電状態においては、主制御基板920に対し、電源部901のみからバックアップ用の電力が供給される。

【0144】

バックアップ電源601は、電源スイッチ909がオン状態である状況（すなわち、電源部901に外部電力が供給されている状況）において信号中継部903からオン状態の信号を受信した場合に、電源部901から供給された充電用電圧の電力の充電を開始する。つまり、電源部901に外部電力が供給されている状況で初期化スイッチ907を押下することによって、バックアップ電源601への電力（充電用電圧の電力）の充電を開始することができる。

10

20

30

40

50

【0145】

バックアップ電源601は、当該バックアップ電源601への電力の充電が上記のように開始された後、電源スイッチ909がオン状態からオフ状態に切り替えられた場合に、充電によって当該バックアップ電源601に蓄えられた電力をバックアップ用電圧の電力として供給する。

【0146】

つまり、初期化スイッチ907を押下したまま電源スイッチ909をオフ状態に切り替える（すなわち、電源部901への外部電力の供給が停止する）ことによって、充電によってバックアップ電源601に蓄えられた電力をバックアップ用電圧の電力として供給することができる。これにより、バックアップ電源601からバックアップ用電圧の電力を主制御基板920に供給することができる。

10

【0147】

なお、バックアップ電源601の電気容量は、枠体（すなわち、外枠101、前ブロック102、中間ブロック103、および後ブロック104）から取り外した（より詳細には、中間ブロック103の基枠301から取り外した）遊技盤400、あるいは、遊技盤400を取り外した状態の枠体に対する検査や点検などを行うのに十分とされる期間（例えば、約1時間）に亘ってバックアップ用電圧の電力を出力可能な容量とされることが好ましい。また、バックアップ電源601の電気容量は、主制御基板920に対する不正防止等の観点から、大きすぎないようにすることが好ましく、例えば、6時間などの1日よりも短時間で、主制御基板920のRAM922が正常にはバックアップできなくなるようにすることが好ましい。

20

【0148】

また、バックアップ電源601の回路は、電源スイッチ909がオン状態である場合には、当該電源部901とバックアップ電源601との間の電源供給路が接地されるよう構成される。このため、電源スイッチ909がオン状態となっている間は、バックアップ電源601に残存する電力は当該接地によって消費（放電）される。よって、パチンコ機100の停電状態が解消された場合（すなわち、パチンコ機100の内部への電力の供給が開始された場合）、バックアップ電源601の残量は、放電によりゼロとなる。

【0149】

払出制御基板930は、主制御基板920からの指示に応じた払出装置540による遊技球の払い出し動作や遊技球貸出装置290の操作に応じた払出装置540による遊技球の貸し出し動作を制御する。払出制御基板930は、主制御基板920と同様に、CPU（図示せず）、ROM（図示せず）及びRAM（図示せず）を含む1チップマイコンとしてのMPU（図示せず）、タイマ回路（図示せず）、カウンタ回路（図示せず）、クロック発生回路（図示せず）、信号送受信回路（図示せず）等の各種回路が搭載されている。

30

【0150】

払出制御基板930は、他の装置と情報通信可能に接続する接続手段としての入出力ポートが搭載されており、例えば、主制御基板920及び中継装置950とは双方向の情報入出力通信が可能に接続され、開閉検出スイッチ108、109、貯留球スイッチ591、及び、払出計数スイッチ592とは、一方向のみの情報入力通信のみが可能に接続され、払出モータ542とは、一方向のみの情報出力通信のみが可能に接続されている。なお、払出制御基板930のRAMは、主制御基板920のRAM922と同様に、停電状態において一定の期間にわたって内部データを維持可能とするバックアップ機能を有する構成としてもよいし、主制御基板920のRAM922とは異なり、停電状態において内部データを維持しない構成としてもよい。

40

【0151】

副制御基板940は、主制御基板920からの指示に基づいて、各種の演出装置や各種の発光装置や各種の音響装置等の動作を制御する。副制御基板940は、他の装置と情報通信可能に接続する接続手段としての入出力ポートが搭載されており、例えば、主制御基板920とは一方向のみの情報入力通信のみが可能に接続され、入力操作装置260と左入

50

力操作装置 801L と右入力操作装置 801R とは双方向に情報通信可能に接続され、装飾図柄表示装置 479 等とは一方向の情報出力通信のみが可能に接続されている。

【0152】

遊技盤 400 に取り付けられる各部品（以下において、便宜上「遊技盤側部品」とも称す）と、前ブロック 102 や中間ブロック 103 や後ブロック 104 などの遊技盤 400 とは異なる部材に取り付けられる各部品（以下において、便宜上「他部材側部品」とも称す）との間には、遊技盤側部品と他部材側部品との間を電氣的に接続したり、情報通信を可能に接続するためのコネクタ（例えば、コネクタ C1 ～ C3）が設けられている。

【0153】

例えば、図 10 に示すように、主制御基板 920 またはバックアップ電源 601 と、電源監視基板 910 または電源・発射制御基板 900（より詳細には、電源部 901 および信号中継部 903）との間には、コネクタ C1 が設けられている。

10

【0154】

なお、本実施形態のパチンコ機 100 においては、電源監視基板 910 が枠体を構成する部品の一つである構成としたが、電源監視基板 910 が遊技盤 400 の構成部品の一つである構成であってもよく、かかる構成においては、コネクタ C1 が、主制御基板 920 と電源監視基板 910 との間でなく、電源監視基板 910 と電源・発射制御基板 900 との間に設けられる構成であってもよい。

【0155】

また、副制御基板 940 と、音響装置 281, 282、枠発光装置 271 ～ 275、入力操作装置 260、左入力操作装置 801L、及び、右入力操作装置 801R との間には、コネクタ C2 が設けられている。主制御基板 920 と払出制御基板 930 との間には、コネクタ C3 が設けられている。なお、各コネクタ C1 ～ C3 は、必ずしも、1 のコネクタから構成される必要はなく、コネクタ C1 ～ C3 のうち少なくとも 1 のコネクタが、複数の分割されたコネクタによって構成されていてもよい。

20

【0156】

コネクタ（図 10 に示す例では、コネクタ C1 ～ C3）は、メスコネクタ（図示せず）と、当該メスコネクタに対して着脱可能なオスコネクタ（図示せず）とにより構成される。本実施形態のパチンコ機 100 においては、遊技盤側部品にメスコネクタが接続され、他部材側部品にオスコネクタが接続される。

30

【0157】

メスコネクタに対しオスコネクタを装着した状態においては、遊技盤側部品と他部材側部品とが電氣的に接続されるとともに情報通信可能に接続される。一方、メスコネクタからオスコネクタを取り外した状態においては、遊技盤側部品と他部材側部品との間の電氣的な接続および情報通信可能な接続が解除される。

【0158】

なお、遊技盤 400 が中間ブロック 103 の基枠 301（図 3 参照）から取り外される場合には、基本的に、オスコネクタがメスコネクタから取り外され、それによって、コネクタ C1 ～ C3 などのコネクタによる遊技盤側部品と他部材側部品との間の接続（電氣的な接続および情報通信可能な接続）が解除される。

40

【0159】

＜各種の制御処理＞

次に、主制御基板 920 によって実行される各種の制御処理について説明する。主制御基板 920 における制御処理は、大別すると、停電状態からの復帰に伴い起動されるメイン処理と、定期的に（本形態では 2ms（ミリ秒）周期で）メイン処理に割り込みをかけて実行されるタイマ割り込み処理とで構成されている。

【0160】

まず、図 11 を参照して、主制御基板 920 によって実行されるメイン処理について説明する。図 11 は、主制御基板 920 のメイン処理（図 11 においては「主制御メイン処理」と略記）を示すフローチャートである。

50

【0161】

主制御基板920のメイン処理において、まず、主制御基板920の立ち上げや各種の情報を初期設定するための一連の制御開始処理（プログラム開始処理S1001～乱数初期設定処理S1019）が一度だけ実行され、その後は、割込みを禁止する割込み禁止処理S1020と、特別図柄に係る当選乱数初期値カウンタ（RAM922の一部の領域）及び大当り図柄乱数初期値カウンタ（RAM922の一部の領域）並びに普通図柄に係る当選乱数初期値カウンタ（RAM922の一部の領域）の値を更新する乱数初期値更新処理S1021と、変動時間や変動パターン等を決定するための第1の変動種別カウンタ～第4の変動種別カウンタ（RAM922の一部の領域）の値を更新する変動用カウンタ更新処理S1022と、割込みを許可する割込み許可処理S1023とが繰り返し実行される。なお、割込み許可処理S1023の前にタイマ割込みの要求が発生した場合には、割込み許可処理S1023の直後にタイマ割込み処理が実行される。

10

【0162】

一連の制御開始処理において、プログラムの実行を制御するスタックポインタ（RAM922の一部の領域）に初期値を設定するプログラム開始処理S1001と、割込みモードを設定する割込みモード設定処理S1002と、払出制御基板930及び副制御基板940等が立ち上がるまで所定の時間だけ待機する立上待機処理S1003とが実行される。

【0163】

立上待機処理S1003の後に、電源・発射制御基板900の背面設定スイッチ905からの設定信号の出力状態の判定処理S2001が行われる。判定処理S2001において、背面設定スイッチ905からの設定信号がオフ状態であると判定された場合には（S2001：N）、電源・発射制御基板900の初期化スイッチ907からの初期化信号の出力状態の判定処理S1004、停電情報（RAM922の一部の領域）の値の判定処理S1005、保存情報の記憶状態の判定処理S1007が行われ、これらの判定結果に基づいてRAM922の保存情報を消去するか否かが判定される。ここで、保存情報とは、停電前の遊技の状態に復帰させるために必要な情報であって、停電前に遊技の進行に応じて更新されていたRAM922の一部の領域に対応し、実行中の単位遊技に関するカウンタの値や、始動入賞によって格納されたカウンタの値等が例示される。

20

【0164】

保存情報の記憶状態は、次のように判定される。まず、RAM922の所定の範囲の記憶領域に対するチェックサム値を算出して（チェックサム算出処理S1006）、その現在のチェックサム値と前回の停電状態への移行に伴い停電監視処理S1202（図12参照）において算出されたチェックサム値の2の補数であるRAM判定値との排他的論理和が「0」であるか否か（判定処理S1007）が判定され、これにより、現在のチェックサム値と停電状態への移行時のチェックサム値とが同一であるか否かが判定される。

30

【0165】

初期化信号がオン状態である場合（S1004：Y）、停電情報が停電状態への移行時に保存情報を保存して終了したことを示す所定の停電値でない場合（S1005：N）、又は、保存情報が正常に保持されていない場合（S1007：N）には、RAM922の保存情報を消去するRAMクリア処理S1008が実行される。保存情報が正常に保持されていると判断された後（S1007：Y）、又は、RAMクリア処理S1008が実行された後には、主制御基板920に接続されている各種の装置を初期化するハードウェア初期化処理S1009が実行される。

40

【0166】

ハードウェア初期化処理S1009の後には、停電情報が停電値であるか否かの判定処理S1010が実行される。停電情報が停電値である場合（S1010：N）には、保持情報の復帰を含め各種の情報を初期設定するRAM復帰設定処理S1011と、その設定完了を示す復帰コマンドが設定される（復帰コマンド出力処理S1012）。RAM復帰設定処理S1011における保持情報の復帰によって、前回の停電状態への移行直前の制御状態に主制御基板920の制御状態が復帰する。

50

【0167】

一方、停電情報が停電値でない場合（S1010：Y）には、保持情報の復帰は行わずに各種の情報が初期設定され（RAM初期設定処理S1013）、その設定完了を示す初期化コマンドが出力される（初期化コマンド出力処理S1014）。

【0168】

なお、RAM復帰設定処理S1011及びRAM初期設定処理S1013において、停電情報は停電値と異なる所定の通電値に設定され、また、前回の停電状態への移行直前において不正検知エラー等の各種のエラー状態が発生していてもそれらのエラー状態は全て解除される。また、主制御基板920から払出制御基板930及び副制御基板940の双方に復帰コマンドか初期化コマンドのいずれかが出力され、復帰コマンド又は初期化コマンドを受信した払出制御基板930及び副制御基板940の各々においても所定の初期化処理が実行される。

10

【0169】

立上時の状況に応じたRAM922の初期設定（判定処理S1004～初期化コマンド出力処理S1014）の後に、前回の停電状態への移行時に条件装置が作動していた場合には、特別遊技状態に復帰させるための準備が行われる（特別遊技状態復帰準備処理S1015）。具体的には、特別遊技状態復帰準備処理S1015においては、条件装置と役物連続作動装置の作動状態が判定され、停電状態時における遊技の状況に対応した処理が、副制御基板940において実行される。

20

【0170】

特別遊技状態復帰準備処理S1015の後には、時短状態フラグが設定されているか否かを判定することにより時短状態であるか非時短状態であるかが判定され（判定処理S1016）、時短状態である場合（S1016：Y）には、時短コマンドが出力される（時短コマンド出力処理S1017）。一方、非時短状態である場合（S1016：N）には、非時短コマンドが出力される（非時短コマンド出力処理S1018）。その後、特別図柄に係る当選乱数カウンタ（RAM922の一部の領域）の値が初期化される（乱数初期設定処理S1019）。

【0171】

一方、判定処理S2001において、背面設定スイッチ905からの設定信号が、背面設定スイッチ905が所定のキーにより操作されていることを示すオン状態であると判定された場合（S2001：Y）、RAM922の実質的に全領域の情報を消去するRAMクリア処理S2002が実行される。具体的には、RAMクリア処理S2002においては、RAM922に格納されている設定対応情報を除く実質的にすべての領域の情報が消去される。

30

【0172】

なお、設定対応情報は、予め定めた複数段階（本実施形態においては、9種類）の遊技態様の各々に対応する情報であり、設定中の遊技態様に対応する設定態様情報がRAM922に格納されている。よって、RAMクリア処理S2002により、主制御基板920のRAM922における設定対応情報の記憶領域を除く実質的にすべての領域の情報が消去され、設定変更を許可する状態となる。

40

【0173】

設定変更を許可する状態となると、RAM922に格納されている設定対応情報に対応する遊技態様を識別する設定表示信号が設定表示装置906に出力される。設定表示装置906は、主制御基板920から受信した設定表示信号に対応する設定表示情報を表示する。つまり、設定表示装置906には、RAM922に格納されている設定対応情報に対応する設定表示情報が表示される。

【0174】

次いで、背面設定スイッチ905からの設定信号がオフ状態となるまで遊技態様の設定を変更する設定変更処理S2003が実行される。なお、背面設定スイッチ905からの設定信号は、背面設定スイッチ905が所定のキーにより操作されていない状態においてオ

50

フ状態となる。

【0175】

遊技態様の設定変更は、背面設定スイッチ905が所定のキーにより操作された状態において初期化スイッチ907を押下することによって行われる。具体的に、当該状態において、主制御基板920が初期化スイッチ907の押下に基づく初期化信号を受信する毎に、設定対応情報が順次変更される。具体的には、予め定められた9種類の遊技態様を循環的に選択する順序（例えば、・・・→T1→T2→T3→M1→M2→M3→B1→B2→B3→T1→T2→・・・）が予め決められており、選択される遊技態様は、初期化スイッチ907が押下される毎に当該順序に従って順次変更される。

【0176】

当該変更が行われる毎に選択中の遊技態様に対応する値が設定対応情報としてRAM922に格納される。RAM922に格納される設定対応情報が変更される毎に、当該設定対応情報に対応する設定表示信号が設定表示装置906に出力され、変更後の設定対応情報に対応する設定表示情報が設定表示装置906に表示される。

【0177】

よって、遊技場の管理者等の設定変更者は、背面設定スイッチ905が所定のキーにより操作された状態において、本パチンコ機100に対して設定したい遊技態様を選択されるまで初期化スイッチ907の押下を繰り返した後、中始動入賞装置431に遊技球を入賞させることで、遊技態様の選択を完了させることができる。よって、設定変更処理S2003は、初期化スイッチ907の押下による遊技態様の選択後に、中始動入賞装置431に遊技球が入賞されたことで終了する。

【0178】

背面設定スイッチ905からの設定信号がオフ状態となった場合（S2004：Y）、遊技態様の設定に係る情報（すなわち、設定対応情報）を除く各種の情報を新たにRAM922に初期設定するRAM変更設定処理S2005が実行される。これにより、実質的に主制御基板920の立ち上げが終了し、RAM922に格納された設定対応情報に対応する遊技態様で遊技が進行することが確定する。

【0179】

RAM変更設定処理S2005の後、RAM922の設定完了を示す設定済コマンドを払出制御基板930に出力する設定済コマンド出力処理S2006が実行される。払出制御基板930は、主制御基板920が出力した設定済コマンドを受信したことにより、主制御基板920が通常の遊技処理に移行することを認識できると共に、いずれの遊技態様で動作するかを認識できる。設定済コマンド出力処理S2006の後は、特別遊技状態復帰準備処理S1015以降の処理が実行される。

【0180】

次に、図12を参照して、主制御基板920によって実行されるタイマ割込み処理について説明する。図12は、主制御基板920によって実行されるタイマ割込み処理（図中では「主制御割込み処理」と略記）を示したフローチャートである。

【0181】

主制御基板920のタイマ割込み処理では、まず、タイマ割込みを開始させるための割込み開始処理S1201が実行される。具体的には、割込み制御レジスタに所定の値が設定される。これにより、本タイマ割込み以外の割込みが禁止される。その後に、パチンコ機100の遊技の進行制御や各種センサの監視等といった実質的な制御に係る停電監視処理S1202～外部情報出力処理S1221が順次実行される。但し、各種の不正の検知に基づいて遊技進行が停止されている場合（S1207：Y）には、制御信号出力処理S1208～外部情報出力処理S1221は実行されない。最後に、次回のタイマ割込みを許可する割込み許可処理S1222が実行されて、今回のタイマ割込み処理が終了する。以下において、各種の主要な処理について個別に説明する。

【0182】

停電監視処理S1202においては、電源監視基板910の電源監視部911から出力さ

10

20

30

40

50

れている停電信号の出力状態に基づいて停電情報（RAM 922の一部の領域）の値が更新される。具体的には停電信号の出力状態が3度に亘り確認され、3度ともオン状態が検出された場合に停電状態であると判定される。この判定において停電状態であると判定されなかった場合には、停電情報は通電値に維持される。

【0183】

一方、停電監視処理S1202において停電状態であると判定された場合には、以下の処理が実行される。まず、停電情報の値がRAM復帰設定処理S1011又はRAM初期設定処理S1013（図11参照）において設定された通電値から所定の停電値に変更される。また、RAM 922の所定の範囲の記憶領域に対するチェックサム値を算出し、そのチェックサム値の2の補数をRAM判定値として設定する。これにより、パチンコ機100は、遊技の進行や各種センサの監視等といった実質的な制御を行わない無限ループに入り、RAM判定値が設定された後のRAM 922の状態がバックアップ電力に基づいて保持される。なお、停電信号の出力状態が3度に亘り確認されるために、停電信号の受信を初めて検知してから、タイマ割込みの各処理は2回に亘り実行される。

10

【0184】

乱数更新処理S1203においては、特別図柄に係る当選乱数カウンタ、大当り図柄乱数カウンタ、停止パターン選択カウンタ及び普通図柄に係る当選乱数カウンタが更新される。具体的には、特別図柄に係る当選乱数カウンタの値が、規定最大値（例えば、「576」）と異なる値である場合には、現在値より「1」だけ大きい値に変更され、特別図柄に係る当選乱数カウンタの値が規定最大値である場合には、規定最小値（「0」）に変更される。但し、変更後の値が特別図柄に係る当選乱数カウンタに対する循環初期値と同一の値となる場合には、特別図柄に係る当選乱数カウンタの値が、特別図柄に係る当選乱数初期値カウンタと同一の値に設定され、また、循環初期値も当選乱数初期値カウンタと同一の値に設定される。

20

【0185】

大当り図柄乱数カウンタ、停止パターン選択カウンタ及び普通図柄に係る当選乱数カウンタについても、特別図柄に係る当選乱数カウンタの場合と同様にして更新される。ただし、各カウンタの規定最大値と規定最小値とにより定められる更新範囲としては各カウンタに固有の値が設定され、複数のカウンタが非同期で更新される構成とされ、各カウンタの循環初期値には各カウンタに固有の初期値カウンタが参照される。例えば、特別図柄に係る当選乱数カウンタと特別図柄に係る当選乱数初期値カウンタとは値の範囲が同一であり、大当り図柄乱数カウンタと大当り図柄乱数初期値カウンタとは値の範囲が同一であり、普通図柄に係る当選乱数カウンタと普通図柄に係る当選乱数初期値カウンタとは値の範囲が同一である。

30

【0186】

乱数初期値更新処理S1204においては、特別図柄に係る当選乱数初期値カウンタ、大当り図柄乱数初期値カウンタ及び普通図柄に係る当選乱数初期値カウンタが更新される。具体的には、特別図柄に係る当選乱数初期値カウンタの値が規定最大値（例えば、「576」）と異なる値である場合には、現在値より「1」だけ大きい値に変更され、特別図柄に係る当選乱数初期値カウンタの値が規定最大値である場合には、規定最小値（「0」）に変更される。特別図柄に係る図柄乱数初期値カウンタ及び普通図柄に係る当選乱数初期値カウンタについても、規定最大値や規定最小値がそれらのカウンタに固有の値であること以外は、特別図柄に係る当選乱数初期値カウンタの場合と同様にして更新される。

40

【0187】

変動用カウンタ更新処理S1205においては、変動時間や変動パターン等を決定するための第1の変動種別カウンタ～第4の変動種別カウンタの値が更新される。具体的には、第1の変動種別カウンタの値が規定最大値（例えば、「187」）と異なる値である場合には、現在値より「1」だけ大きい値に変更され、第1の変動種別カウンタの値が規定最大値である場合には、規定最小値（「0」）に変更される。第2の変動種別カウンタ～第4の変動種別カウンタについても、規定最大値や規定最小値がそれらのカウンタに固有の

50

値であること以外は、第1の変動種別カウンタの場合と同様にして更新される。

【0188】

なお、特別図柄及び普通図柄に係る各当選乱数カウンタ、大当り図柄乱数カウンタ、停止パターン選択カウンタ並びに各変動種別カウンタは、必ずしも上記構成とする必要はなく、上記カウンタの少なくとも一部を他の構成としても良く、例えば、初期値カウンタを利用しないで一定の初期値から更新する構成としてもよいし、プログラムを利用しないで乱数生成用ICにより構成して必要に応じて値を参照する構成としてもよい。

【0189】

遊技停止判定処理S1206においては、不正検知情報が不正検知値である場合には、遊技停止値に更新されると共に、遊技進行を停止させるための各種の情報が設定される。一方、不正検知情報が不正検知値でない場合や既に遊技停止値である場合には、遊技進行を停止させるための各処理は実行されずに遊技停止判定処理S1206は終了する。なお、不正検知情報は、不正検知処理S1211において各種の不正の発生が検知された場合に不正検知値に設定される。また、判定処理S1207においては、不正検知情報が遊技停止値であるか否かによって遊技停止中であるか否かが判定される。

10

【0190】

制御信号出力処理S1208においては、出力バッファに格納された制御データに基づいて、第1の特別図柄に係る特別図柄表示装置471、第2の特別図柄に係る特別図柄表示装置472及び普通図柄に係る普通図柄表示装置473等の各種の報知装置を制御する信号が出力される。また、出力バッファに格納された制御データに基づいて、球送りソレノイド332、発射ソレノイド334、右進入規制ソレノイド462、下進入規制ソレノイド463、上進入規制モータ464、振分ソレノイド465等の各種のアクチュエータを制御する信号が出力される。

20

【0191】

スイッチ読込処理S1209においては、中始動入賞スイッチ441A、441B、右始動入賞スイッチ442、下大入賞スイッチ443、上大入賞スイッチ444、役連作動スイッチ445、始動スイッチ446、非特定通路スイッチ447、特定通路スイッチ448、及び、一般入賞スイッチ449A、449Bの各々からの信号状態が読み込まれて、各種のスイッチによる遊技球の検出状態の変化が検知される。

【0192】

具体的には、スイッチ読込処理S1209において、各種のスイッチからの信号状態が所定の時間間隔を隔てて2度に亘り入力バッファ(RAM922の一部の領域)に読み込まれ、各種のスイッチからの信号ごとに、1回目に読み込まれた信号状態(以下において「第1の信号状態」と略記する)と、2回目に読み込まれた信号状態(以下において「第2の信号状態」と略記する)と、前回のタイマ割込みで検知された検出状態(以下において「前回の検出状態」と略記する)とに基づいて、各種のスイッチの検出状態の変化が検知される。そして、各スイッチに対して、前回の検出状態がオフ状態である場合において、第1の信号状態がオン状態であり、第2の信号状態がオン状態である場合には、オン状態移行と判断されて、スイッチの種類に応じた検出フラグ(RAM922の一部の領域)が設定される。なお、停電監視処理S1202で説明したように、電源供給が停止したとしても、タイマ割込みの各処理が2回に亘り実行されるために、電源供給が停止した直後に各種のスイッチのオン状態が開始された場合であっても各種のスイッチの検出フラグを正確に設定することができる。

30

40

【0193】

タイマ更新処理S1210においては、特別図柄及び普通図柄の変動表示、各遊技状態の制御、及び、不正監視等に使用される各種のタイマ(RAM922の所定の領域)が更新される。

【0194】

不正検知処理S1211においては、各種の入賞装置に強制的に遊技球を進入させたり、各種の入賞装置を強制的に作動させたりするような不正行為が検知される。具体的には、

50

右始動入賞装置 4 3 2、下大入賞装置 4 3 3 及び上大入賞装置 4 3 4 の強制的な進入許容姿勢への移動、加振による下大入賞装置 4 3 3 の特定通路への遊技球の誘導、電波による右始動入賞装置 4 3 2、下大入賞装置 4 3 3 及び上大入賞装置 4 3 4 の強制的な誤作動の誘発、磁気吸着による各種の入賞装置への遊技球の誘導、上側中始動入賞装置 4 3 1 A、下側中始動入賞装置 4 3 1 B、右始動入賞装置 4 3 2、下大入賞装置 4 3 3 及び上大入賞装置 4 3 4 への異常なタイミングでの遊技球の誘導等の不正行為が行われた可能性の高い状況の発生を検知する。

【0195】

入賞検知応答処理 S 1 2 1 2 においては、遊技盤 4 0 0 に設けられた各種のスイッチによる遊技球の検出に基づく制御が実行される。具体的には、上側中始動入賞スイッチ 4 4 1 A (図 1 0 参照) 及び下側中始動入賞スイッチ 4 4 1 B (図 1 0 参照) による遊技球の検出に基づいて、中始動入賞スイッチ検出フラグが設定されている場合には、中始動入賞カウンタ (RAM 9 2 2 の所定の領域) 及び第 1 払出カウンタ (RAM 9 2 2 の所定の領域) が更新される。また、右始動入賞スイッチ 4 4 2 (図 1 0 参照) による遊技球の検出に基づいて右始動入賞スイッチ検出フラグが設定されている場合には、第 1 払出カウンタが更新される。また、下大入賞スイッチ 4 4 3 (図 1 0 参照) による遊技球の検出に基づいて下大入賞スイッチ検出フラグが設定されている場合や、上大入賞スイッチ 4 4 4 (図 1 0 参照) による遊技球の検出に基づいて上大入賞スイッチ検出フラグが設定されている場合には、大入賞カウンタ (RAM 9 2 2 の所定の領域) 及び第 2 払出カウンタ (RAM 9 2 2 の所定の領域) が更新される。

10

20

【0196】

発射制御処理 S 1 2 1 3 においては、発射装置 3 3 0 による遊技球の発射を制御するための発射関連情報が更新される。具体的には、球送り機構 3 3 1 を駆動する球送りソレノイド 3 3 2 の作動フラグ及び発射機構 3 3 3 を駆動する発射ソレノイド 3 3 4 の作動フラグが更新される。

【0197】

入力信号監視処理 S 1 2 1 4 においては、払出制御基板 9 3 0 を介した開閉検出スイッチ 1 0 8 (図 1 0 参照) からの信号の出力状態に基づいて、外枠 1 0 1 (図 1 及び図 2 参照) に対して中間ブロック 1 0 3 (図 1 及び図 2 参照) が閉鎖されているか否かが検知される。また、払出制御基板 9 3 0 (図 1 0 参照) を介した開閉検出スイッチ 1 0 9 からの信号の出力状態に基づいて、中間ブロック 1 0 3 (図 2 及び図 3 参照) に対して前ブロック 1 0 2 (図 2 及び図 3 参照) が閉鎖されているか否かが検知される。

30

【0198】

払出状態監視処理 S 1 2 1 5 においては、払出制御基板 9 3 0 から出力される払出制御状態を示す情報が監視され、必要に応じて、払出制御状態に応じた各種の払出状態コマンドが設定される。なお、払出状態コマンドを受信した副制御基板 9 4 0 は、払出状態コマンドの種類に応じた報知を装飾図柄表示装置 4 7 9、左上音響装置 2 8 1 及び右上音響装置 2 8 2 等に行わせる。

【0199】

払出信号出力処理 S 1 2 1 6 においては、必要に応じて、第 1 払出カウンタ及び第 2 払出カウンタの値に基づいて各種の賞球コマンドを設定し、払出制御基板 9 3 0 に出力する。なお、第 1 払出カウンタ及び第 2 払出カウンタは、賞球コマンドの設定に応じて更新される。例えば、第 1 払出カウンタは、1 回の入賞に相当する遊技球が検出される毎に 1 ずつ加算され、その入賞に基づく賞球コマンドが設定される毎に 1 ずつ減算される。払出制御基板 9 3 0 では、その入賞に対応する数 (例えば、3 個) の遊技球を払い出す制御を実行する毎に (詳細には、払い出しが完了する少し前に)、主制御基板 9 2 0 に賞球コマンドを要求し、賞球の払い出しが継続している状況においては、主制御基板 9 2 0 から更なる賞球コマンドが出力される。第 2 払出カウンタは、第 1 払出カウンタとは賞球数が異なる入賞 (例えば、1 3 個) に対応して更新されるカウンタであり、第 2 払出カウンタの値に基づく賞球コマンドを払出制御基板 9 3 0 が受信した場合には、払出制御基板 9 3 0 は、

40

50

その賞球コマンドに対応した数分の遊技球を払い出す制御を実行する。

【0200】

特別図柄関連処理 S 1 2 1 7 においては、第 1 特別図柄に係る単位遊技の権利の保留制御及び第 1 特別図柄に係る単位遊技の制御が実行される。具体的には、第 1 特別図柄に係る単位遊技の権利の保留制御において、第 1 特別図柄に係る特別図柄保留表示装置 4 7 6 の動作制御が実行される。また、第 1 特別図柄に係る単位遊技の制御において、第 1 特別図柄に係る特別図柄表示装置 4 7 1 の動作制御が実行され、第 1 特別図柄抽選において大当りに当選した場合には、下大入賞装置 4 3 3 及び上大入賞装置 4 3 4 の動作制御が更に実行される。

【0201】

また、特別図柄関連処理 S 1 2 1 7 においては、第 2 特別図柄に係る単位遊技の権利の保留制御及び第 2 特別図柄に係る単位遊技の制御が実行される。具体的には、第 2 特別図柄に係る単位遊技の権利の保留制御において、第 2 特別図柄に係る特別図柄保留表示装置 4 7 7 の動作制御が実行される。また、第 2 特別図柄に係る単位遊技の制御において、第 2 特別図柄に係る特別図柄表示装置 4 7 2 の動作制御が実行され、第 2 特別図柄抽選において大当りに当選した場合には、下大入賞装置 4 3 3 及び上大入賞装置 4 3 4 の動作制御が更に実行される。

【0202】

普通図柄関連処理 S 1 2 1 8 においては、普通図柄に係る単位遊技の権利の保留制御並びに普通図柄に係る単位遊技の制御が実行される。具体的には、普通図柄に係る単位遊技の権利の保留制御において、普通図柄保留表示装置 4 7 8 の動作制御が実行される。また、普通図柄に係る単位遊技の制御において、普通図柄に係る普通図柄表示装置 4 7 3 の動作制御が実行され、普通図柄抽選に当選した場合には更に右始動入賞装置 4 3 2 の動作制御が実行される。

【0203】

表示制御処理 S 1 2 1 9 においては、特別図柄関連処理 S 1 2 1 7 における第 1 特別図柄に係る特別図柄表示装置 4 7 1、第 2 特別図柄に係る特別図柄表示装置 4 7 2、第 1 特別図柄に係る特別図柄保留表示装置 4 7 6 及び第 2 特別図柄に係る特別図柄保留表示装置 4 7 7 等の動作を制御するために更新される各種の情報に基づいて、それらの装置を具体的に作動させるための出力データが合成される。合成された出力データは、次のタイマ割込みに基づく制御信号出力処理 S 1 2 0 8 において各装置に出力される。

【0204】

モータ制御処理 S 1 2 2 0 においては、各種のモータの動作制御が実行される。外部情報出力処理 S 1 2 2 1 においては、パチンコ機 1 0 0 に電氣的に接続されるデータ表示装置（図示せず）や管理装置（図示せず）等の外部装置に出力する出力データが設定される。

【0205】

<複数の可動部材による演出>

次に、特典領域 4 0 9 V（図 7 参照）へ遊技球を進入させることが可能な場合に実行される複数の可動部材による演出について、図 1 3 を参照して説明する。図 1 3 は、左可動部材 1 0 と右可動部材 2 0 との動作を示す遊技盤 4 0 0 の正面図である。

【0206】

特典領域 4 0 9 V へ遊技球を進入させることが可能な場合には、左可動部材 1 0 と右可動部材 2 0 との 2 つ（複数）の可動部材を用いた演出が実行される。左可動部材 1 0 と右可動部材 2 0 とは、それらが離間して配置された姿勢（離間姿勢：図 1 3 中の一点鎖線）から、離間姿勢に比べて近接した姿勢（近接姿勢：図 1 3 中の実線）に変化する動作を行う構成としている。また、左可動部材 1 0 と右可動部材 2 0 とは、それらを近接姿勢とした場合に、遊技領域 4 0 9 へ遊技球が流下する入口部分 4 0 9 E から特典領域 4 0 9 V へ向かう方向側へ連続する配置（特典領域指示配置）をとる構成としている。これにより、別箇所に配置された左可動部材 1 0 や右可動部材 2 0 の姿勢を変化させることによって、この演出の発生を遊技者に気づかせ易くできる。また、連続して配置された左可動部材 1 0

10

20

30

40

50

と右可動部材 20 との全体によって、入口部分 409E から特典領域 409V へ向かう方向側に、遊技者の注意を引くことが可能になる。

【0207】

遊技盤 400 には、その左方側において、左可動部材 10 が、一点鎖線で示す離間姿勢と実線で示す近接姿勢との間で姿勢を変化させる移動が可能に設けられる。また、左可動部材 10 より右側において、右可動部材 20 が、離間姿勢と近接姿勢との間で姿勢を変化させる移動が可能に設けられる。なお、左可動部材 10 や右可動部材 20 は、遊技盤 400 に設けられる構成に限らず、遊技盤 400 が取り付けられる中間ブロック 103（図 1 及び図 3 参照）に設けられる構成や、中間ブロック 103 の前側に配置される前ブロック 102（図 1 及び図 3 参照）に設けられる構成としてもよい。

10

【0208】

具体的には、左可動部材 10 と右可動部材 20 とは、左可動部材 10 の入口部分 409E とは反対側の端部と、右可動部材 20 における特典領域 409V とは反対側の端部とが近接し、全体として入口部分 409E の近傍から特典領域 409V の近傍へ向けて連続する形状をなすように配置される。このため、入口部分 409E から特典領域 409V へ向かう方向側であって連続した形状が指す方向側に位置する特典領域 409V や、その特典領域 409V の形成された上大入賞装置 434 に、遊技者の注意を引くことが可能になる。なお、左可動部材 10 と右可動部材 20 とは、近接姿勢において、それらが一体物として遊技者に認識させ得る程度に接近しているが僅かに離間した状態となる構成としてもよいし、当接した状態となる構成としてもよい。また、特典領域 409V へ遊技球を進入させることが可能な場合に実行される演出において、左可動部材 10 と右可動部材 20 との 2 つの可動部材を用いる構成に限らず、3 つ以上の可動部材を用い、各可動部材を他の少なくとも 1 つの可動部材と近接させる構成としてもよい。

20

【0209】

また、左可動部材 10 は、遊技盤 400 の中央側から、中央構造体 420 の左側を通して遊技球を流下させる左流下領域 409L（所定の第 1 領域）における入口部分 409E の近傍の領域の背後に亘る範囲に配置される。右可動部材 20 は、遊技盤 400 の中央側から、中央構造体 420 の右側を通して遊技球を流下させる右流下領域 409R（所定の第 2 領域）における特典領域 409V の近傍の領域の背後に亘る範囲に配置される。この配置において、左可動部材 10 と右可動部材 20 とは、全体として、遊技盤 400 の中央側における遊技球の流下できない領域を跨いで、遊技球が流下可能な 2 つの領域を繋ぐように位置する。このため、左可動部材 10 と右可動部材 20 との大部分が遊技球の流下できない領域に配置されていても、それらの全体が遊技球の流下に関すること、例えば、入口部分 409E から遊技領域 409 に進入させる遊技球を特典領域 409V に進入させるべきであることや、特典領域 409V の設けられた左流下領域 409L に流下させるべきことを遊技者に想起させ易くすることが可能になる。なお、左可動部材 10 は、左流下領域 409L の背後まで延びるが入口部分 409E の背後までは至らない構成としたが、この構成に限らず、入口部分 409E の背後に至る構成としてもよいし、左流下領域 409L の背後まで至らない構成としてもよい。同様に、右可動部材 20 は、右流下領域 409R まで延びるが特典領域 409V の背後までは至らない構成としたが、この構成に限らず、特典領域 409V の背後に至る構成としてもよいし、右流下領域 409R の背後まで至らない構成としてもよい。

30

40

【0210】

また、左可動部材 10 は、外形が概ね細長い長方形（例えば、長辺が短辺よりも 2 倍以上長い長方形）の形状（以下、単に、長方形と称す）に形成され、その長手方向を入口部分 409E の近傍に向けて配置される。詳細には、左可動部材 10 は、その上側の長辺に対する入口部分 409E 側への延長線と、その下側の長辺に対する入口部分 409E 側への延長線との間に、入口部分 409E が位置するように配置される。このため、この左可動部材 10 の長手方向の先にある入口部分 409E を遊技者に意識させ易くすることが可能になる。また、左可動部材 10 は、その上側の長辺に対する特典領域 409V 側への延

50

長線と、その下側の長辺に対する特典領域 409V 側への延長線との間に、特典領域 409V の少なくとも一部（例えば、特典領域 409V の入口）が位置するように配置される。このため、この左可動部材 10 は、単独でも、その長手方向の先に位置する特典領域 409V や、特典領域 409V を内部に設けた上大入賞装置 434 に、遊技者の注意を引くことが可能になる。なお、左可動部材 10 は、その外形が長方形形状である構成に限らず、遊技領域 409 の中央側や入口部分 409E に向けて先細る台形状や三角形形状である構成としてもよい。

【0211】

また、右可動部材 20 は、長方形形状の左可動部材 10 と同様に、外形が概ね細長い長方形の形状に形成され、その長手方向を特典領域 409V の近傍に向けて配置されている。詳細には、右可動部材 20 は、その上側の長辺に対する特典領域 409V 側への延長線とその下側の長辺に対する特典領域 409V 側への延長線との間に、特典領域 409V の形成された上大入賞装置 434 の一部（例えば、上大入賞装置 434 の入口に設けられる上進入規制機構 454）が位置するように配置される。このため、この右可動部材 20 の長手方向の先にある上大入賞装置 434 やその内部に形成された特典領域 409V を遊技者に意識させ易くすることが可能になる。なお、右可動部材 20 は、その外形が長方形形状である構成に限らず、その短手方向の幅が遊技領域 409 の中央側や特典領域 409V に向けて先細る台形状や三角形形状である構成としてもよい。

10

【0212】

また、長方形形状の左可動部材 10 と長方形形状の右可動部材 20 とは、それらの長手方向が入口部分 409E の近傍から特典領域 409V の近傍に向かう方向と同一の方向を向くように配置される。このため、左可動部材 10 と右可動部材 20 とが連続する方向側が、それらの長手方向の指す一方向であると、遊技者に認識させ易くすることができ、特典領域 409V やそれが形成された上大入賞装置 434 に、遊技者の注意を引き易くすることが可能になる。

20

【0213】

また、長方形形状の左可動部材 10 と長方形形状の右可動部材 20 とは、折れ線形状をなすように配置されている。詳細には、左可動部材 10 と右可動部材 20 とは、全体として、左可動部材 10 の下側の長辺に対する延長線と、右可動部材 20 の上側の長辺に対する延長線との間に、入口部分 409E のと、特典領域 409V の形成された上大入賞装置 434 の概ね全体が位置するように配置される。このため、左可動部材 10 と右可動部材 20 とが連続する方向側において、それらの各幅（短手方向の長さ）よりも広い範囲に、遊技者の注意を引くことが可能になる。よって、特典領域 409V のみならず、特典領域 409V が形成された上大入賞装置 434 の動作（上進入規制機構 454 の開閉動作）や上大入賞装置 434 に進入する又は進入した遊技球の挙動にも、遊技者に注目させ易くすることが可能になる。なお、左可動部材 10 と右可動部材 20 とは、全体として折れ線形状をなす構成に限らず、例えば、全体として直線形状をなす構成や、全体として入口部分 409E 又は特典領域 409V の形成側に向かって先細る形状をなす構成や、全体として遊技盤 400 の中央側から入口部分 409E 及び特典領域 409V の形成側に向かって先細る構成や、入口部分 409E の形成側及び特典領域 409V の形成側から遊技盤 400 の中央側に向かって先細る構成としてもよい。

30

40

【0214】

特典領域 409V は、遊技球が流下可能な遊技領域 409 のうち通常遊技状態において遊技球を流下させる左流下領域 409L（所定の第 1 領域）とは別に設けられる右流下領域 409R（所定の第 2 領域）に形成され、特典領域 409V には、右流下領域 409R に遊技球を流下させることによって遊技球を入球させることが可能な構成とする。また、遊技盤 400 において、入口部分 409E は、内レール 403 の上側の先端において戻り球防止機構 404 が設けられた左上側に形成される。

【0215】

具体的には、遊技盤 400 には、遊技領域 409 として左流下領域 409L と右流下領域

50

４０９Ｒとが設けられ、特典領域４０９Ｖは、右流下領域４０９Ｒに形成される。左流下領域４０９Ｌと右流下領域４０９Ｒとのいずれに遊技球を流下させるかは、遊技者による遊技球の発射操作、例えば、遊技球の発射強度の調整によって切り替え可能である。遊技者は、通常遊技状態においては、左流下領域４０９Ｌに遊技球を流下させ、通常遊技状態において後述する所定の条件を満たし、特典領域４０９Ｖへ遊技球を進入させることが可能な場合には、右流下領域４０９Ｒに遊技球を流下させる。詳細には、上大入賞装置４３４に遊技球が進入可能であり、かつ、振分機構４３７が誘導姿勢をとる特典入球可能状態では、右流下領域４０９Ｒに遊技球を流下させる。なお、特典領域４０９Ｖを右流下領域４０９Ｒに設け、通常遊技状態において左流下領域４０９Ｌに、特典入球可能状態において、右流下領域４０９Ｒに遊技球を流下させる構成に限らず、特典領域４０９Ｖを左流下領域４０９Ｌに設け、通常遊技状態において右流下領域４０９Ｒに、特典入球可能状態において左流下領域４０９Ｌに遊技球を流下させる構成としてもよい。また、遊技領域４０９を左右側に分けて、遊技者による遊技球の発射操作によって打ち分けが可能な２つの流下領域（左流下領域４０９Ｌ及び右流下領域４０９Ｒ）を設ける構成に限らず、打ち分けが可能な２つの流下領域を、例えば、遊技領域４０９の上側と下側とに分けて設けたり、遊技領域４０９の左上側と右下側に分けて設けたりする構成としてもよい。また、遊技領域４０９を遊技者による遊技球の発射操作によって打ち分けが可能な２つの流下領域に分ける構成に限らず、３つ以上の流下領域に分ける構成としてもよい。

10

【０２１６】

また、特典領域４０９Ｖは、遊技盤４００の左上側に形成される入口部分４０９Ｅに対して、遊技盤４００の中央側を挟んで対角側に位置する遊技領域４０９の右下側に設けられる。なお、特典領域４０９Ｖは、遊技盤４００の右下側に設けられる構成に限らず、入口部分４０９Ｅの水平方向の右側（遊技盤４００の右上側）等の他の箇所に設けられる構成としてもよい。

20

【０２１７】

長方形の左可動部材１０は、離間姿勢において、その長辺方向が左流下領域４０９Ｌの上側部分に沿って上下方向に向くように配置され、長方形の右可動部材２０は、離間姿勢において、その長辺方向が右流下領域４０９Ｒの上側部分に沿って上下方向に向くように配置される。なお、左可動部材１０と右可動部材２０とは、離間姿勢において、それらの長手方向が上下方向に向くように配置される構成に限らず、例えば、それらの長手方向が左右方向に向くように配置される構成や、それらの一方の長手方向が上下方向に向き、他方の長手方向が左右方向に向くように配置される構成としてもよい。更に、左可動部材１０と右可動部材２０とは、それらの長手方向が斜め方向に向くように配置される構成としてもよい。

30

【０２１８】

長方形の左可動部材１０は、遊技盤４００の左方側であって入口部分４０９Ｅの近傍を中心として、回転による移動が可能に支持される。このため、左可動部材１０を離間姿勢から近接姿勢へ変化させる際に、回転中心から離れた一端側の部分（以下において、可動側端部とも称す）を右可動部材２０に近づけるように右上側に移動させることができる。また、長方形の右可動部材２０は、遊技盤４００の右方側であって特典領域４０９Ｖの近傍を中心として、回転による移動が可能に支持される。このため、右可動部材２０を離間姿勢から近接姿勢へ変化させる際に、可動側端部を左可動部材１０に近づけるように左下側に移動させることができる。なお、左可動部材１０や右可動部材２０は、回転によって、離間姿勢をとる配置と近接姿勢をとる配置との間の移動が可能に支持された構成に限らず、回転移動に代えて又は加えてスライド移動（傾きを変化させない直線的や曲線的な移動）により移動が可能な構成としてもよい。

40

【０２１９】

長方形の左可動部材１０は、上側部分が入口部分４０９Ｅの近傍の背後に重なって配置され、下側部分が上側中始動入賞装置４３１Ａの近傍に遊技球を誘導する中央構造体４２０に形成されたワープ通路４２１よりも下側に位置するように配置される。上側中始動入

50

賞装置 431A の上方側には、遊技球を転動させつつ、一部の遊技球を上側中始動入賞装置 431A に進入させることが可能な上ステージ 426 が設けられ、ワープ通路 421 は、中央構造体 420 の左側に設けられる入口から上ステージ 426 に遊技球を案内する通路によって構成される。

【0220】

また、長方形の左可動部材 10 は、入口部分 409E の近傍の背後から、下側中始動入賞装置 431B の近傍に遊技球を誘導する誘導通路 422 の背後に亘って配置される。この誘導通路 422 は、左流下領域 409L の一部であって中央構造体 420 の左下側を経由して、下側中始動入賞装置 431B に向かう遊技球の通路部分によって構成される。

【0221】

ここで、上側中始動入賞装置 431A や下側中始動入賞装置 431B は、遊技球の入球によって識別情報の変動表示の契機を与える装置であり、通常遊技状態において、遊技者は、この上側中始動入賞装置 431A や下側中始動入賞装置 431B へ遊技球を入球させることを目指して、左流下領域 409L に遊技球を流下させる。左可動部材 10 がワープ通路 421 や誘導通路 422 の背後まで至る長さに設定した場合、左可動部材 10 の可動側端部を、ワープ通路 421 や誘導通路 422 を横断するように、また、上側中始動入賞装置 431A や下側中始動入賞装置 431B の近傍を通過するように移動させることが可能になる。これにより、遊技者は、通常遊技状態において主たる演出を実行する装飾図柄表示装置 479 ではなく、上側中始動入賞装置 431A や下側中始動入賞装置 431B に向かって流下する遊技球の挙動に注目していたとしても、左可動部材 10 の離間姿勢から近接姿勢への移動に気付き易くなる。

【0222】

左可動部材 10 と右可動部材 20 とは、装飾図柄表示装置 479（表示手段）によって大当りに対応する装飾図柄の組み合わせ（所定の表示結果）が確定表示された場合に動作する構成とする。また、この場合に、左流下領域 409L（第 1 領域）とは別に設けられる右流下領域 409R（第 2 領域）に遊技球を流下させることによって特典領域 409V（所定の特典領域）に遊技球を入球させることが可能な構成とする。すなわち、左可動部材 10 と右可動部材 20 とは、特典入球可能状態となる場合に動作する構成とする。なお、左可動部材 10 と右可動部材 20 とは、同時に動作を開始する構成としても、開始時期や終了時期をずらして動作を開始する構成としてもよい。

【0223】

具体的には、遊技盤 400 には、左可動部材 10 や右可動部材 20 を動作させる動作手段が設けられる。遊技盤 400 には、図示しないが、動作手段として、左可動部材 10 を移動可能とする駆動機構と、この駆動機構に動力を供給する動力源とが設けられる。また、遊技盤 400 には、図示しないが、動作手段として、右可動部材 20 を移動可能とする駆動機構と、この駆動機構に動力を供給する動力源とが設けられる。なお、これらの駆動源としては、例えば、回転力を発生させるモータや、一直線方向への動力を発生させるソレノイドが利用できる。

【0224】

また、駆動源は、副制御基板 940 に電氣的に接続され、副制御基板 940 によって制御される。このため、左可動部材 10 と右可動部材 20 との動作は、副制御基板 940 による駆動源の制御によって、駆動機構を介して制御される。なお、左可動部材 10 や右可動部材 20 は、その動作を副制御基板 940 によって制御される構成に限らず、例えば、主制御基板 920 によって制御される構成としてもよい。

【0225】

装飾図柄表示装置 479 は、遊技盤 400 の中央部分に配置され、装飾図柄（識別情報）の変動表示を行うと共に、変動表示の後に、装飾図柄の組み合わせを確定表示する構成とする。この装飾図柄表示装置 479（表示手段）によって表示される表示内容は、副制御基板 940 によって制御される。

【0226】

10

20

30

40

50

具体的には、装飾図柄の変動は、通常遊技状態において左流下領域 409L を流下させた遊技球が、上側中始動入賞装置 431A や下側中始動入賞装置 431B に進入することを契機として行われる。また、確定表示される装飾図柄の組み合わせは、その進入を契機とする抽選（第 1 特別図柄抽選）の結果に応じて決定される。詳細には、上側中始動入賞装置 431A や下側中始動入賞装置 431B への遊技球の進入の検知や、その進入を契機とする抽選は、主制御基板 920 で実行されるが、副制御基板 940 は、主制御基板 920 からその検知に関するコマンドや抽選の結果に関するコマンドを受信可能に接続されており、それらのコマンドに基づいて、装飾図柄の変動表示や確定表示を制御する。なお、特典入球可能状態となる契機であって、左可動部材 10 と右可動部材 20 とが動作する契機は、装飾図柄の大当りに対応する組み合わせの確定表示に限らず、例えば、装飾図柄の小当りに対応する組み合わせの確定表示としてもよい。また、その契機は、装飾図柄表示装置 479 による表示結果とする構成に限らず、その表示結果に代えて又は加えて、装飾図柄表示装置 479 とは別の表示装置、例えば、第 1 特別図柄を変動表示したり確定表示したりする第 1 の特別図柄表示装置 471 や、第 2 特別図柄を変動表示したり確定表示したりする第 2 の特別図柄表示装置 472 による表示結果とする構成としてもよい。

10

【0227】

また、特典領域 409V は、装飾図柄表示装置 479 によって大当りに対応する装飾図柄の組み合わせが確定表示された場合に動作する上大入賞装置 434 の内部に形成される。このため、上大入賞装置 434 が動作し、上大入賞装置 434 が進入許容状態となる場合、詳細には、上大入賞装置 434 の入口に設けられた上進入規制機構 454 が進入許容姿勢をとる場合に、特典領域 409V に遊技球が入球可能になる。

20

【0228】

なお、特典領域 409V は、上大入賞装置 434 の内部に形成される構成に限らず、例えば、下大入賞装置 433 などの他の装置に形成される構成としてもよい。また、特典領域 409V は、上大入賞装置 434 の内部などの遊技球の流下が常には許容さない位置に形成された振分機構 437 によって特典領域 409V への入球が規制される構成に限らず、遊技球の流下が常に可能な位置に形成された振分機構 437 によって規制される構成としてもよい。例えば、振分機構 437 を上進入規制機構 454 とする上大入賞装置を設ける構成や、特典領域 409V や振分機構 437 を大入賞装置 434 とは別体で右流下領域 409R に設ける構成としてもよい。

30

【0229】

また、左可動部材 10 と右可動部材 20 とは、大当りに対応する装飾図柄の組み合わせが確定表示された後であって、上大入賞装置 434 の動作開始前（上進入規制機構 454 が進入禁止姿勢から進入許容姿勢への変化を開始する前）に、離間姿勢から近接姿勢への動作を開始する。このため、遊技者は、左可動部材 10 と右可動部材 20 とが近接姿勢となったことを見届けた後であって、上大入賞装置 434 が動作を開始する前に、遊技球の流下先を左流下領域 409L から右流下領域 409R に変更することが可能になる。なお、左可動部材 10 と右可動部材 20 とは、大当りに対応する装飾図柄の組み合わせが確定表示された後に動作する構成に限らず、確定表示と同時に動作する構成としてもよい。また、左可動部材 10 と右可動部材 20 とは、上大入賞装置 434 の動作開始前に限らず、上大入賞装置 434 の動作開始後に動作する構成、例えば、上大入賞装置 434 が進入許容状態となってから所定の期間に亘り特典領域 409V に遊技球が入球しない場合に動作する構成としてもよい。

40

【0230】

また、左可動部材 10 と右可動部材 20 とは、特典領域 409V へ遊技球が入球した場合に、近接姿勢から離間姿勢への動作を開始する。このため、特典領域 409V へ遊技球が入球したことを、実際に遊技球が入球する挙動を見落としたとしても、左可動部材 10 と右可動部材 20 との動作によって知ることが可能になる。なお、左可動部材 10 と右可動部材 20 とは、それらの近接姿勢から離間姿勢への動作が特典領域 409V へ遊技球が入球した場合に実行される構成に限らず、上大入賞装置 434 が初回の進入許容状態である

50

期間が終了した場合に実行される構成や、上大入賞装置 4 3 4 が動作開始から所定の時間（初回の進入許容状態の期間より短い又は長い時間）が経過した場合に実行される構成としてもよい。

【0231】

特典領域 4 0 9 V に遊技球が入球した場合には、特典領域 4 0 9 V に遊技球が入球しない場合に比べて遊技者にとって有利な遊技状態へ遷移する構成としている。

【0232】

具体的には、遊技盤 4 0 0 には、特典領域 4 0 9 V に進入した遊技球を検出する特定通路スイッチ 4 4 8 が設けられる。また、この特定通路スイッチ 4 4 8 は、主制御基板 9 2 0 に電氣的に接続され、特定通路スイッチ 4 4 8 による検出は、主制御基板 9 2 0 で検知される。主制御基板 9 2 0 において、この特定通路スイッチ 4 4 8 による検出に基づいて、特典領域 4 0 9 V に遊技球が入球しない場合の遊技状態の制御と、特典領域 4 0 9 V に遊技球が入球した場合の遊技状態の制御とを切り替える。

【0233】

また、主制御基板 9 2 0 は、特典領域 4 0 9 V に 1 球の遊技球が入球した場合に、その入球がない場合よりも有利な遊技状態へ遷移させる。なお、主制御基板 9 2 0 は、特典領域 4 0 9 V に 1 球の遊技球を入球させることで有利な遊技状態へ遷移させる制御を行う構成に限らず、1 以上の規定数の遊技球を入球させることで有利な遊技状態へ遷移させる制御を行う構成であってもよい。この構成の場合、左可動部材 1 0 と右可動部材 2 0 とは、規定数の遊技球が入球するまで近接姿勢を維持する構成としてもよいし、遊技球が入球するごとに、例えば、近接姿勢から離間姿勢に戻す又は離間姿勢までは戻さないまでもそれらを所定の間隔だけ離間させた姿勢とすることで近接姿勢を解除した後、再度近接姿勢とする構成としてもよい。

【0234】

また、主制御基板 9 2 0 は、特典領域 4 0 9 V に遊技球が入球しなかった場合に、特別遊技状態の終了後に時短遊技状態へ遷移させ、特典領域 4 0 9 V に遊技球が入球した場合には、特別遊技状態の終了後に時短遊技状態より早期の大当りを期待でき、賞球の獲得に関して有利な確変遊技状態に遷移させる。このため、遊技者は、確変遊技状態へ遷移させるために、特典入球可能状態において特典領域 4 0 9 V に遊技球を入球させる必要があり、その特典入球可能状態となる場合に実行される左可動部材 1 0 と右可動部材 2 0 との動作によって確変遊技状態への遷移を確保し易くなる。なお、主制御基板 9 2 0 は、特典領域 4 0 9 V への入球の有無によって特別遊技状態後に確変遊技状態又は時短遊技状態に遷移させる構成に限らず、例えば、特別遊技状態における継続回数（ラウンド数）を異ならせるなどによって、特典領域 4 0 9 V に遊技球が入球した場合には、賞球の獲得に関して特典領域 4 0 9 V に遊技球が入球しなかった場合よりも有利な特別遊技状態に遷移させる構成としてもよい。また、主制御基板 9 2 0 は、特典領域 4 0 9 V に遊技球が入球した場合に、賞球の獲得に関して有利遊技状態に遷移させる構成に限らず、例えば、プレミアム画像や映像の発生させる頻度を異ならせるなど、賞球の獲得に関する利益以外の利益を与える遊技状態に遷移させる構成としてもよい。更に、この遊技状態の遷移は、主制御基板 9 2 0 によらず、副制御基板 9 4 0 による制御によって実行される構成としてもよい。

【0235】

上記のパチンコ機 1 0 0 において、左可動部材 1 0 と右可動部材 2 0 とは、左流下領域 4 0 9 L に遊技球を流下させる通常遊技状態で装飾図柄表示装置 4 7 9 によって大当りに対応する装飾図柄の組み合わせが確定表示され、右流下領域 4 0 9 R への遊技球を流下させることで特典領域 4 0 9 V へ遊技球を入球させることが可能な場合に動作し、互いに離間した離間姿勢をとる配置から、離間姿勢と比べて近接した近接姿勢をとる配置であって、遊技領域 4 0 9 へ遊技球が流下する入口部分 4 0 9 E から特典領域 4 0 9 V へ向かう方向側へ連続する特典領域指示配置に変化させる構成としている。この構成であれば、特典領域指示配置をとる左可動部材 1 0 と右可動部材 2 0 とによって、それらが連続する方向側に遊技者の注意を引き易くすることを可能にするばかりでなく、それらを離間した異なる

箇所から移動させることによって、それらの少なくとも一方の動作を遊技者に気付かせ易くすることも可能にすることができる。これにより、左可動部材10と右可動部材20とが連続する方向側に設けた特典領域409Vに遊技球を入球させるべきこと、また、そのために遊技球の流下先を左流下領域409Lから右流下領域409Rに切り替えることを遊技者に知らせ、特典領域409Vへ遊技球を入球させることで得られる利益が損なわれてしまうことを抑制できる。したがって、特典領域409Vへ遊技球を進入させることが可能な場合に、左可動部材10と右可動部材20との動作により、好適な演出を実行できる。

【0236】

更に、左可動部材10と右可動部材20とは、近接姿勢において、それらが連続する形状（例えば、上記の折れ線形状）や、それらの個別の形状（例えば、上記の細長い長方形形状）によって、特典領域409Vの近傍（特典領域409Vそのものや特典領域409Vへの遊技球の進入に関与する上大入賞装置434）を指し示すことも可能になり、遊技者の意識を向かわせたりすることも可能になる。これにより、左可動部材10と右可動部材20とは、それらが連続する方向によって遊技球を右流下領域409Rに流下させるべきことを遊技者に気づかせたり、左可動部材10と右可動部材20との長手方向が指し示す特典領域409Vそのものや特典領域409Vが形成された上大入賞装置434に遊技者の意識を向かわせたりすることが可能になる。

10

【0237】

ここで、左可動部材10と右可動部材20とによる好適な演出に関する他の特徴的な構成について説明する。

20

【0238】

左可動部材10と右可動部材20には、それらの近接姿勢において、入口部分409Eから特典領域409Vへ向かう方向側へ並び、その方向側に沿って順次に発光する発光手段が設けられる。

【0239】

具体的には、発光手段として、左可動部材10には、その長手方向に沿って一列に配置した複数の発光素子19が設けられ、また、右可動部材20にも、同様に複数の発光素子29が設けられる。左可動部材10と右可動部材20とが近接姿勢の配置となった場合に、左可動部材10の複数の発光素子19を左上側から右下側に向けて順次に発光させ、複数の発光素子19の発光に引き続き、右可動部材20の複数の発光素子29を左上側から右下側に向けて順次に発光させる。このため、単に左可動部材10と右可動部材20とを近接姿勢の配置とする場合に比べて、左可動部材10と右可動部材20との一体感を高め、入口部分409Eから特典領域409Vへ向かう方向側に遊技者の意識を更に好適に向かわせることが可能になる。特に、右可動部材20より右下側であって複数の発光素子29による順次の発光により示される方向に配置された特典領域409Vや上大入賞装置434に遊技者の意識を向かわせることが可能になる。

30

【0240】

なお、複数の発光素子19や複数の発光素子29は、左可動部材10や右可動部材20の長手方向に沿って一列に配置した構成に限らず、その長手方向とは異なる方向に沿って一列に配置する構成としてもよい。また、複数の発光素子19の配列方向と複数の発光素子29の配列方向とは、左可動部材10と右可動部材20とが近接姿勢の配置である場合に同一方向となる構成に限らず、それらの配列方向が異なる方向となる構成としてもよい。また、左可動部材10や右可動部材20には、一列に配列した複数の発光素子19や複数の発光素子29を設ける構成に限らず、複数列を形成するように発光素子を設ける構成としてもよい。また、直線的に配列した複数の発光素子19及び複数の発光素子29を順次に発光させることにより、特定方向を直線的に指示する構成に限らず、特定方向を折れ線又は曲線に沿う順次に発光させることにより指示することが可能に、複数の発光素子19及び複数の発光素子29を配列する構成としてもよい。

40

【0241】

50

左可動部材 10 には、複数の発光素子 19 とは別に左可動部材 10 を全体的に発光させる多数の発光素子（図示せず）を設けられる。また、通常遊技状態のように遊技球を左流下領域 409L で流下させるべき場合には、離間姿勢である左可動部材 10 をその多数の発光素子により発光させる。このため、離間姿勢において左流下領域 409L における遊技球の流下方向に沿うように配置された左可動部材 10 の全体的な発光によって、遊技球を左流下領域 409L に流下させて遊技を行うように遊技者に注意喚起を行うことが可能になる。

【0242】

同様に、右可動部材 20 には、複数の発光素子 29 とは別に右可動部材 20 を全体的に発光させる多数の発光素子（図示せず）を設け、特別遊技状態のように遊技球を右流下領域 409R で流下させるべき場合には、離間姿勢である右可動部材 20 をその多数の発光素子により発光させる。このため、離間姿勢において右流下領域 409R における遊技球の流下方向に沿うように配置された右可動部材 20 の全体的な発光によって、遊技球を右流下領域 409R に流下させて遊技を行うように遊技者に注意喚起を行うことが可能になる。

10

【0243】

＜同一の光源による複数の装飾部への光照射の形態＞

次に、光源 30 から一の装飾部に向けて出力された光の一部を他の装飾部に向けて方向転換させることで同一の光源 30 からの光に基づく光を他の装飾部に照射し、また、他の装飾部に向けて方向転換された光の一部を一の装飾部に向けて更に方向転換させ、少なくとも一の装飾部に対して他の装飾部に向けて方向転換される前の光と共にその後進行する光を照射することで、複数の装飾部による好適な演出を実行する構成について、図 14～図 16 を参照して説明する。図 14 は、遊技盤 400 の斜視図である。図 15 は、図 7 の XM-XM 線を含む切断面による複数の装飾部の近傍を示す斜視図及び断面図である。図 16 は、図 7 の XD-XD 線を含む切断面による複数の装飾部の近傍を示す斜視図及び断面図である。なお、図 15 (A) 及び図 16 (A) の斜視図においては、複数の装飾部のうち前方側に配置される装飾部（前方側装飾部 50）の一部を除去した状態が図示されている。また、図 15 (B)、図 15 (C)、図 16 (B) 及び図 16 (C) の断面図には、要部のみを簡素化し、第 1 の装飾部や第 2 の装飾部に照射される光の経路を例示している。また、後に参照する図 17 (A)～(C) についても同様である。

20

30

【0244】

図 14 に示すように、複数の装飾部として、遊技盤 400 の左側であって上下方向の中央部分に、前方側装飾部 50（第 1 の装飾部）と、左可動部材 10 の一部で構成され、前方側装飾部 50 よりも後方側（遊技盤 400 の前後方向の後方側）に位置する後方側装飾部 11（第 2 の装飾部）とが設けられる。前方側装飾部 50 は、遊技盤 400 の基体 401 の裏側に一部が重なるようにして設けられるものの、基体 401 が透明な樹脂で構成されることにより、基体 401 の背面側に重なる前方側装飾部 50 の一部分も遊技者から視認可能となっている。

【0245】

前方側装飾部 50 と後方側装飾部 11 とによる演出は、前方側装飾部 50 より後方側であるが後方側装飾部 11 よりも前方側に配置された光源 30（図 15 も参照）から出力された光を用い、前方側装飾部 50 や後方側装飾部 11 を発光した状態となるようにして実行される。このとき、前方側装飾部 50 は、光源 30 から出力された光が後方側から照射されることで発光した状態となり、一方、後方側装飾部 11 は、前方側装飾部 50 の裏面 50B（後方側出力手段）で反射された光が前方側から照射されることで発光した状態となる。また、前方側装飾部 50 は、前方部材 41 の背後に取り付けられる後方部材 42 の一部で構成され、前方側装飾部 50 と後方側装飾部 11 との間に位置する後方窓 61（別方向反射手段）における反射により方向転換された光が照射されることでも発光した状態となる。これにより、前方側装飾部 50 と後方側装飾部 11 とによる演出において、光源 30 の個数を減らして製造コストを低減しつつも、その限られた数の光源 30 を用いて前方

40

50

側装飾部 50 と後方側装飾部 11 との双方を発光した状態とすることができる。

【0246】

前方側装飾部 50 は、光源 30 の LED 素子 32L, 32R から出力された光を遊技者が位置する前方側へ通過可能であって、遊技者が位置する表面側から視認した場合に発光した状態をとることが可能な構成とする。

【0247】

具体的には、前方側装飾部 50 は、光源 30 より前方側に位置し、前方部材 41 の一部として構成される平板状の前方窓 51 と、前方窓 51 の背面に当接して設けられ、絵柄（遊技のモチーフとなるキャラクタ等）が描かれた装飾板 52 とで構成される。前方窓 51 を構成する前方部材 41 は無色透明の材料で形成され、また、装飾板 52 は、光透過性の材料で形成される。このため、光源 30 から出力された光であって前方側装飾部 50 で反射する前の光（以下、1 次光とも称す）を裏面 50B 側から照射することで、装飾板 52 を発光した状態にでき、その発光を前方窓 51 を通して遊技者が位置する表面側から視認することができる。また、前方窓 51 を無色透明の材料で形成することで、前方窓 51 による光の吸収を抑制して効率的な照射を可能にしている。なお、前方窓 51 は、無色透明に形成される構成に限らず、有色透明に形成される構成としてもよい。前方側装飾部 50 を有色透明に形成する場合には、その色は、均一な単色である構成や、同一の色でグラデーションをつける構成や、部位によって配色を異ならせる構成としてもよい。また、前方窓 51 や装飾板 52 は、その厚みが略均一な板状の構成に限らず、その厚みが均一でない構成としてもよい。

【0248】

光源 30 は、電子部品が搭載される発光基板 31 と、発光基板 31 の一面側に設けられ、斜め前側（所定の方向側）に向けて光を出力する向きに配置された複数の LED 素子 32L, 32R（発光手段）とを備える構成とする。

【0249】

具体的には、光源 30 は、発光基板 31 の一面（以下、素子面）に、上下方向に所定の間隔で並ぶ 7 つの LED 素子 32L（図 14 においては 6 つのみが示されている）と、7 つの LED 素子 32L よりも遊技盤 400 の中央側において上下方向に所定の間隔で並ぶ 7 つの LED 素子 32R とを備えている。各 LED 素子 32L, 32R は、発光基板 31 の素子面に垂直な方向を最も輝度の高い方向（以下、主方向とも称す：図 15（B）等における破線）とし、所定の角度範囲（例えば、15 度）で広がる光を出力する。なお、発光基板 31 に設けられる LED 素子 32L, 32R の個数や配置は、上記の構成に限らず、適宜に設計できる。

【0250】

図 15（A）や図 15（B）等に示すように、発光基板 31 は、遊技盤 400 の上下方向の上方から見て（以下、上方視）、その素子面が遊技盤 400 の前後方向に対して所定の角度をなす方向を向くように配置され、各 LED 素子 32L, 32R からの 1 次光は、その主方向が前方窓 51 や装飾板 52 の背面に対して 90 度とは異なる所定の角度で前方側装飾部 50 に照射される。このため、後方側に出力される光の量を、90 度をなす方向に配置する場合に比べて大きくできる。この所定の角度は、後方側装飾部 11 の位置や、前方側装飾部 50 の前方側に出力すべき光の量とその後方側に出力すべき光の量との分配を考慮して設定されている。

【0251】

なお、光源 30 と前方側装飾部 50 との間には、後方部材 42 の一部を構成する無色透明の平板状の光進入窓 62 が設けられるが、光進入窓 62 は、上方から見て、各 LED 素子 32L, 32R に基づく 1 次光の主方向に対して 90 度で交差するように配置し、光進入窓 62 での反射による光の量の減少が最小となるようにしている。また、光進入窓 62 の厚みを略均一とし、光進入窓 62 を通過する前後で光の進行方向を変化させない構成としているが、光進入窓 62 における前方側装飾部 50 側の面が光源 30 側の面に対して所定の角度で傾斜する板状の形状とし、光進入窓 62 を通過する前後で屈折により光の進行方

向を一律に変化させる構成としてもよい。また、光進入窓 6 2 は、各 LED 素子 3 2 L, 3 2 R に基づく 1 次光が内部を光進入窓 6 2 を形成する後方部材 4 2 の内部を通過する構成としているが、この構成に限らず、光進入窓 6 2 に開口や切り欠きを設け、1 次光が後方部材 4 2 の内部ではなく開口や切り欠きを通して通過する構成としてもよい。更に、光進入窓 6 2 を設けず、各 LED 素子 3 2 L, 3 2 R からの 1 次光を直接に前方側装飾部 5 0 に照射する構成としてもよい。

【0252】

前方側装飾部 5 0 は、その裏面 5 0 B 側にて、光源 3 0 の複数の LED 素子 3 2 L, 3 2 R から出力される前方側とは逆の後方側へ光を出力する裏面 5 0 B (後方側光出力手段) を備える構成とする。

10

【0253】

具体的には、前方側装飾部 5 0 は、その裏面 5 0 B が平坦で滑らかな平面とされる。このため、各 LED 素子 3 2 L, 3 2 R に基づく 1 次光の一部を前方側装飾部 5 0 を通過させ、また、その一部を前方側装飾部 5 0 で反射させ、後方側へ光 (以下において、2 次光とも称す) を出力することができる。この 2 次光は、前方側装飾部 5 0 を構成する装飾板 5 2 の背面で反射したり、装飾板 5 2 と前方窓 5 1 との境界面で反射したりすることで、前方側装飾部 5 0 の裏面 5 0 B 側に出力される。なお、装飾板 5 2 や前方窓 5 1 は、その背面が平坦で滑らかな平面とする構成に限らず、その背面が滑らかな円弧形状や湾曲形状等の曲面に形成する構成としてもよい。この構成の場合、平面で反射させる場合に比べて、2 次光の広がりや曲面の形状により大きくしたり、小さくしたりすることも可能になる。また、前方側装飾部 5 0 は、装飾板 5 2 が前方窓 5 1 に当接する構成に限らず、離間させる構成としてもよい。また、前方側装飾部 5 0 は、装飾板 5 2 を前方窓 5 1 の背面側に配置する構成に限らず、装飾板 5 2 を前方窓 5 1 の前面側に配置する構成としてもよい。装飾板 5 2 を前方窓 5 1 の前面側に配置する場合、装飾板 5 2 により光が吸収される前に 2 次光を出力でき、装飾板 5 2 を前方窓 5 1 の背面側に配置する場合に比べて、2 次光の強度を相対的に大きくすることも可能になる。更に、前方側装飾部 5 0 によりその後方側へ光を出力可能な構成に限らず、例えば、装飾板 5 2 の裏面側に前方窓 5 1 や装飾板 5 2 とは別体の反射部 (図示せず) を設ける構成としてもよい。この構成の場合、反射部によって、前方窓 5 1 や装飾板 5 2 の配置や形状に依らず 2 次光を所定の方向に出力することや、別体の反射部の裏面を凹面として 2 次光を所定の方向に集まるように又はその裏面を凸面として 2 次光を広がるように出力させたりすることも可能になる。

20

30

【0254】

後方側装飾部 1 1 は、前方側装飾部 5 0 の裏面 (後方側光出力手段) から出力された光が照射される部位に、前方側装飾部 5 0 (第 1 の装飾部) とは別に設けられ、光源 3 0 を構成する発光基板 3 1 より後方側に設けられる構成とする。

【0255】

具体的には、後方側装飾部 1 1 は、左可動部材 1 0 の一部として設けられ、左可動部材 1 0 が離間姿勢である場合に、前方側装飾部 5 0 と離間し、1 次光は照射されないが 2 次光は照射される部位に位置する。詳細には、後方側装飾部 1 1 は、その上側の部分が前方側装飾部 5 0 と前後に重ならず、その中央側の部分が前方側装飾部 5 0 と部分的に前後に重なり、その下側の部分が前方側装飾部 5 0 と前後に重なるように配置され、着席した遊技者の視点で、その中央側の部分が左右方向の全体に亘り視認可能に、また、その下側の部分が、左右方向の少なくとも一部を視認可能に配置されている。このため、遊技者は、後方側装飾部 1 1 と前方側装飾部 5 0 との隙間を通して、2 次光が照射された後方側装飾部 1 1 を視認することができる。また、1 次光の前方側装飾部 5 0 への照射を阻害することなく、2 次光を後方側装飾部 1 1 に照射することができる。以下において、後方側装飾部 1 1 は、左可動部材 1 0 が離間姿勢をとる場合の位置に配置されているとして説明する。なお、後方側装飾部 1 1 は、左可動部材 1 0 の一部として移動可能に設けられる構成に限らず、移動不能に設けられる構成としてもよい。更に、前方側装飾部 5 0 についても、移動不能に設けられる構成としても、移動可能に設けられる構成としてもよく、前方側装飾

40

50

部 5 0 と後方側装飾部 1 1 とが特定の位置に配置されている状態において、光源 3 0 からの 1 次光によって前方側装飾部 5 0 が照明され、その 2 次光によって後方側装飾部 1 1 が照明できる構成であればよい。

【 0 2 5 6 】

また、後方側装飾部 1 1 は、その一部が前後方向に（正面視で）前方側装飾部 5 0 と重なる位置に設けられ、少なくともその重なる部分が 2 次光によって照明される。このため、その重なる部分であって外光（例えば、パチンコ機 1 0 0 を設置する空間に設けられた照明機器からの光）によって照明されない又は照明され難い部分を、光源 3 0 からの光によって照明でき、この光による照明がない場合に比べて、後方側装飾部 1 1 の全体に対する照明の均一性を向上させることが可能になる。なお、後方側装飾部 1 1 は、その一部が前後方向に前方側装飾部 5 0 と重なる位置に設けられる構成に限らず、その全体が前後方向に前方側装飾部 5 0 と重なる位置に設けられる構成や、前方側装飾部 5 0 とは前後方向に重ならない位置に設けられる構成としてもよい。

10

【 0 2 5 7 】

また、光源 3 0 が遊技盤 4 0 0 の左端近傍に設けられ、前方側装飾部 5 0 が光源よりも右側に設けられ、後方側装飾部 1 1 は、光源 3 0 や前方側装飾部 5 0 よりも遊技盤 4 0 0 の中央側に設けられる。このため、遊技盤 4 0 0 の中央側の前側（遊技者の視線）から見て、2 次光が照射された後方側装飾部 1 1 を、後方側装飾部 1 1 と前方側装飾部 5 0 との隙間を通して視認し易くすることが可能になる。なお、光源 3 0 と、前方側装飾部 5 0 と、後方側装飾部 1 1 とをこの順で左端近傍から中央側に向けてずらして配置する構成に限らず、それらを右端近傍や上端近傍や下端近傍から中央側にずらして配置する構成としてもよい。

20

【 0 2 5 8 】

前方側装飾部 5 0（後方側光出力手段）によって後方側へ出力された光を後方側装飾部 1 1（第 2 の装飾部）とは別の方向側へ反射可能な後方窓 6 1（別方向反射手段）を備える構成とする。

【 0 2 5 9 】

具体的には、図 1 5（B）及び図 1 6（B）等に示すように、前方側装飾部 5 0 と後方側装飾部 1 1 との間に、前方窓 5 1 より後方に位置する後方窓 6 1 を設け、後方窓 6 1 における前面 6 1 F（前方側装飾部側の面）において、前方側装飾部 5 0 から後方側装飾部 1 1 へ向かう 2 次光の一部を通過させ、その 2 次光の一部を前面 6 1 F で反射させる構成とする。後方窓 6 1 を構成する後方部材 4 2 は、無色の光透過性の材料（例えば、透明樹脂）で形成される。このため、前方側装飾部 5 0 によって後方側へ出力された光の一部を通過させ、また、その光の一部を反射させることができる。なお、後方窓 6 1 は、無色の光透過性の材料で形成される構成としているが、この構成に限らず、有色の光透過性の材料で形成される構成であってもよい。

30

【 0 2 6 0 】

また、後方窓 6 1 は、概ね平板形状に形成され、上方視で前方側装飾部 5 0 に対して、前方側装飾部 5 0 との間隔が光源 3 0 から遠ざかるにつれて狭くなるように傾斜させて配置する。また、後方窓 6 1 は、後方窓 6 1 の前面 6 1 F に垂直な方向が LED 素子 3 2 L，3 2 R に基づく 2 次光の主方向に対して垂直とは異なる所定の角度（例えば、3 0 度の角度範囲）で傾斜させて配置する。このため、後方窓 6 1 を通して 2 次光の一部を通過させつつ、前方側装飾部 5 0 から後方窓 6 1 に向かって来た経路を逆戻りし、前方側装飾部 5 0 において 1 次光で照射される箇所と、後方窓 6 1 で反射した光（以下、3 次光とも称す）で照射される箇所が同一となることを抑制できる。

40

【 0 2 6 1 】

ここで、具体例に基づいて説明する。図 1 5（B）に示すように、LED 素子 3 2 L から出力される光であって経路 M L 1（実線）で進行する光は、前方側装飾部 5 0 の裏面 5 0 B の反射点 P 1 で、その一部が前方側装飾部 5 0 を通過し、その一部が後方側装飾部 1 1 に向けて進行する。後方窓 6 1 の前面 6 1 F に到達した光は、その一部が後方窓 6 1 を通

50

過して後方側装飾部 11 に照射され、また、その一部は後方窓 61 の前面 61 F で反射して、後方側装飾部 11 に向けて進行する。また、LED 素子 32 L から出力される光であって経路 M L 2（一点鎖線）も同様であるが、経路 M L 1 の光は、反射点 P 1 よりも左側の反射点 P 2 に向かい更に反射や通過を繰り返し、経路 M L 2 の光は、反射点 P 1 よりも右側の反射点 P 3 に向かい更に反射や通過を繰り返す。これにより、LED 素子 32 L から出力された光によって、1 次光で照射される箇所と 3 次光で照射される箇所とを異ならせることができ、更に、1 次光で照射される箇所に対して左右の両側を照射することもできる。これは、図 15（C）に示す LED 素子 32 R から出力される光についても同様であり、前方側装飾部 50 における反射点 P 4 で反射した光は、その一部が反射点 P 4 よりも左側の反射点 P 5 に照射され、反射点 P 6 で反射した光は、その一部が反射点 P 6 よりも右側に照射される。これにより、前方側装飾部 50 を左右方向の全体に亘って 1 次光を照射できなくても、1 次光と 3 次光とによって、前方側装飾部 50 の全体に光を照射することが可能になる。また、3 次光は、1 次光よりも長い経路を辿った後に、前方側装飾部 50 に照射されるので、その照射範囲が大きくなり、前方側装飾部 50 の全体に照射され易くなる。

10

20

30

40

50

【0262】

後方窓 61 は、上方視の断面において、その前面 61 F が僅かに凹むように湾曲し、3 次光を、前方側装飾部 50 における LED 素子 32 R に基づく 1 次光の照射位置よりも左側に向けて出力し、LED 素子 32 R に基づく 3 次光を、前方側装飾部 50 における LED 素子 32 L に基づく 1 次光による照射位置よりも右側に向けて出力しやすい形状としている。

【0263】

また、図 16（A）～（C）に示すように、前方側装飾部 50 が後方側装飾部 11 を前後方向に覆う範囲が図 16（A）～（C）に示す場合より大きい場合には、前方側装飾部 50 の右側への突出量に応じて、後方窓の傾斜が小さくなる構成としている。このため、図 16（B）及び図 16（C）に示すように、前方側装飾部 50 の背面と後方窓 61 の前面 61 F とで繰り返しの反射により、前方側装飾部 50 の左端側に光（経路 D L 1）を進行させ易くできたり、また、右端側に光（経路 D L 2，経路 D R）を進行させ易くできたりする。したがって、前方側装飾部 50 の左右方向の長さが大きくなったとしても、その全体に、各 LED 素子 32 L，32 R からの光を照射することが可能になる。

【0264】

また、後方窓 61 は、前方側装飾部 50 の前方窓 51 を形成する前方部材 41 とは別の後方部材 42 で形成される。このため、前方側装飾部 50 の装飾板 52 を前方窓 51 の背面に固定した後に、前方窓 51 を構成する前方部材 41 と後方窓 61 を形成する後方部材 42 とを組み付けることで、装飾板 52 を後方窓 61 と前方窓 51 との間に簡単に配置することができる。なお、後方窓 61 は、前方側装飾部 50 を形成する部材と同一の部材に形成される構成としてもよい。

【0265】

上記で説明したように、パチンコ機 100 において、所定の方側に向けて光を出力する LED 素子 32 L や LED 素子 32 R からの光を遊技者が位置する前方側へ通過可能な前方側装飾部 50 と、前方側装飾部 50 の背面にて、遊技者が位置する前方側とは逆の後方側へ LED 素子 32 L や LED 素子 32 R から発光された光を出力する前方側装飾部 50 の裏面 50 B と、その裏面 50 B から出力された光の一部が照射される部位に前方側装飾部 50 とは別に設けられる後方側装飾部 11 とを備える構成としている。これにより、LED 素子 32 L や LED 素子 32 R から出力された光によって前方側装飾部 50 を発光させると共に、同一の LED 素子 32 L，32 R に基づく光であって前方側装飾部 50 の裏面 50 B から出力された光によって後方側装飾部 11 を発光させることができ、装飾部ごとに専用の光源を設ける場合に比べて部品数を減らし製造コストを抑えることができる。

【0266】

また、パチンコ機 100 において、後方側装飾部 11 は、光源 30 の発光基板 31 より後

方側に設ける構成としている。これにより、LED素子32L, 32Rからの光が直接には照射されない場所に配置された後方側装飾部11に対して、前方側装飾部50をその裏面50B側に照射される光によって発光させるのとは異なり、表面側から照射される光によって発光させることで、同一のLED素子32L, 32Rに基づく光によって発光させたとしても、前方側装飾部50と後方側装飾部11とで発光の仕方を異ならせることができる。

【0267】

また、前方側装飾部50の背面によって後方側へ出力された光を後方側装飾部11とは別の方向側へ反射可能な構成としている。これにより、前方側装飾部50の背面で反射した後の光を、例えば、前方側装飾部50の背面での反射を介さずに前方側装飾部50や後方側装飾部11に照射される光とは異なる照射位置や照射角度で照射するなど、各LED素子32L, 32Rから所定の方向側に向けて出力した光を多様な形態で前方側装飾部50や後方側装飾部11に照射することで、前方側装飾部50と後方側装飾部11との発光の見栄えを向上させることが可能になる。

10

【0268】

したがって、前方側装飾部50や後方側装飾部11による演出において、限られた数のLED素子32L, 32Rを用いたとしても、遊技者に対して、あたかも、実際に用いたLED素子32L, 32Rの個数(14個)よりも多数のLED素子からの光が前方側装飾部50や後方側装飾部11に照射されているかのように見せることができ、前方側装飾部50や後方側装飾部11による好適な演出を実行することができる。

20

【0269】

以下において、前方側装飾部50及び後方側装飾部11への光の照射に関する更なる特徴的な構成について、図17を参照して説明する。図17は、図7のXU-XU線を含む切断面による複数の装飾部の近傍を示す斜視図及び断面図である。

【0270】

図17(A)～(C)に示すように、光進入窓62は、その前面62F(前方側装飾部50が位置する側の面)が、後方窓61の前面61Fから出力された3次光が照射される部位であって前方側装飾部50と光源30のLED素子32L, 32Rとの間に設けられ、3次光の少なくとも一部を前方側装飾部50が設けられる側に反射可能な構成とする。また、前方部材41と後方部材42とを組み付けることにより、前方側装飾部50の裏面50Bと後方窓61の前面61Fと光進入窓62の前面62Fとで周辺部分が囲まれる空間であって、光源30から所定の方向に出力された光を、それらの3面で繰り返し反射させることが可能な空間(以下において、発光空間40とも称す)を形成する構成とする。例えば、図17(B)や図17(C)に示すように、発光空間40は、その内側において、光源30から出力された1次光が、前方側装飾部50の裏面と後方窓61の前面61Fとで反射した後、光進入窓62の裏面62B(光源30が位置する側の面)で更に反射して、前方側装飾部50に再度照射される進行経路UL1, UR1を辿ることを可能にする構成とする。これにより、後方窓61の裏面50Bで前方側装飾部50に向かうように反射されなかった光であっても、光進入窓62の前面62Fでの反射によって前方側装飾部50に再度向かわせることも可能になり、光進入窓62を設けない又は光進入窓62の前面62Fが反射性を有さない構成とする場合に比べて、光進入窓62を通して発光空間40に進入した光を前方側装飾部50や後方側装飾部11に効率よく照射することが可能になる。

30

40

【0271】

具体的には、発光空間40は、後方窓61の左端と光進入窓62の右端が連続し、また、光進入窓62の左端と前方側装飾部50の左端とが左接続部63を介して連続し、また、前方側装飾部50の右端と後方窓61の右端とが右接続部64を介して連続し、断面視で周辺部分の全体が囲まれる閉鎖した空間に形成する。前方側装飾部50と後方窓61との間を接続する左接続部63や前方側装飾部50と光進入窓62との間を接続する右接続部64を設けることで、それらの接続部を設けない場合に比べて、前方側装飾部50と後方

50

窓 6 1 や光進入窓 6 2 との間から発光空間 4 0 の外部に放出され前方側装飾部 5 0 や後方側装飾部 1 1 の発光に寄与しない光を抑制できる。なお、前方側装飾部 5 0 と後方窓 6 1 とは、それらが右接続部 6 4 を介して連続する構成に限らず、それらが右接続部 6 4 を介さずに連続する構成としてもよい。同様に、前方側装飾部 5 0 と光進入窓 6 2 とは、それらが左接続部 6 3 を介して連続する構成に限らず、それらが左接続部 6 3 を介さずに連続する構成としてもよい。

【0272】

発光空間 4 0 は、前方側装飾部 5 0 や後方側装飾部を効率よく発光させる観点からは断面視で閉鎖された空間に形成される構成であることが好ましいが、これに限らず、右接続部 6 4 を設けずに前方側装飾部 5 0 と後方窓 6 1 との間に隙間を形成したり、左接続部 6 3 を設けずに前方側装飾部 5 0 と光進入窓 6 2 との間に隙間を形成したりするなど、断面視で完全には閉鎖されていない空間を形成する構成であってもよい。また、光進入窓 6 2 を通して発光空間 4 0 の外部に放出される光は、前方側装飾部 5 0 や後方側装飾部 1 1 の発光には寄与しないために、光進入窓 6 2 は、その前面 6 2 F 又は裏面 6 2 B に光源 3 0 からの光が通過する範囲を除き反射シートを設けるなどして光進入窓 6 2 における発光空間 4 0 側への反射率を高める構成としてもよい。

10

【0273】

また、発光空間 4 0 は、その内側において、光源 3 0 から出力された 1 次光が、前方側装飾部 5 0 の裏面 5 0 B と後方窓 6 1 の前面 6 1 F とで反射した後、左接続部 6 3 の右面 6 3 L で更に反射して、前方側装飾部 5 0 に再度照射される進行経路 U L 2 , U R 2 を辿ることを可能にする構成とする。これにより、光進入窓 6 2 の前面 6 2 F を反射可能に構成した場合と同様の理由により、光進入窓 6 2 を通して発光空間 4 0 に進入した光を前方側装飾部 5 0 や後方側装飾部 1 1 に効率よく照射することが可能になる。また、右接続部 6 4 についても、左接続部 6 3 と同様である。

20

【0274】

なお、発光空間 4 0 は、その周辺部分を囲う窓であって前方側装飾部 5 0 とは異なる装飾部（後方側装飾部 1 1 ）を発光させる光が通過する窓を、遊技者が視認可能でない向きに配置された後方窓 6 1 を備え、後方窓 6 1 を通過した光を後方側装飾部 1 1 の前面側から照射可能な構成としている。しかし、この構成に限らず、後方窓 6 1 や後方側装飾部 1 1 に代えて又は加えて、前方側装飾部 5 0 とは異なる装飾部を発光させる光が通過する窓を、遊技者が視認可能な向きに配置し、当該遊技者が視認可能な向きに配置された視認可能窓に重なるように、装飾板 5 2 と同様の他の装飾板などの装飾部品を設け、当該装飾板を背面側からの光照射により発光した状態とする構成としてもよい。この構成において、他の装飾板は、視認可能窓の表面側に当接して又は離間させて配置する構成としてもよいし、視認可能窓の裏面側に当接して又は離間させて配置する構成としてもよい。

30

【0275】

<光を反射可能な装飾部による演出>

次に、光を反射する装飾部による演出について、図 1 8 ～図 2 2 を主に参照して説明する。図 1 8 は、装飾部としての反射装飾部 7 1 1 を設けた遊技盤 7 0 0 の正面図である。また、図 1 9 は、反射装飾部 7 1 1 による演出に関与する主要部の相対位置を模式的に示す遊技盤 7 0 0 の正面図である。

40

【0276】

パチンコ機 1 0 0 は、図 7 に示す遊技盤 4 0 0 を、図 1 8 に示す別の遊技盤 7 0 0 に入れ替えることで、別の機種として利用することができ、以下においては、この遊技盤 7 0 0 を備えたパチンコ機 1 0 0 の装飾部について説明する。遊技盤 7 0 0 は、演出用の各種の部材や装置に関連する構成が異なること以外は、上記した図 7 に示す遊技盤 4 0 0 と同一の構成である。このため、遊技盤 7 0 0 において、遊技盤 4 0 0 と同様の役割を果たす部材については、同一参照符号を付して説明を省略し、相違部分についてのみ説明する。

【0277】

パチンコ機 1 0 0 の遊技盤 7 0 0 は、図 1 8 に示すように、光を反射する装飾が施された

50

反射装飾部 711 を有する反射装飾体 710（反射手段）を備える。また、遊技盤 700 は、反射装飾体 710 とは別に設けられる環状形状の環状装飾体 740（図 19 も参照：別装飾手段）と、遊技盤 700 の中央側に設けられる中央装飾体 750（図 19 も参照：別装飾手段）とを備える。具体的には、反射装飾体 710 は、遊技盤 700 の下端側において、左右方向の中央近傍から左側に位置するように、遊技盤 700 の基体 401 の裏面側に設けられる。また、環状装飾体 740 は、正面視で、装飾図柄表示装置 479（表示手段）の表示部 479a の周縁を囲むように、基体 401 の裏面側に設けられる。また、中央装飾体 750 は、表示部 479a の下方側において、基体 401 の裏面側に設けられる。

【0278】

なお、パチンコ機 100 において、反射装飾体 710、環状装飾体 740 及び中央装飾体 750 の全てを備えた構成としているが、これら全てを備える必要はなく、一部のみを備えるようにしてもよく、また、図 7 に示した遊技盤 400 に、反射装飾体 710、環状装飾体 740 及び中央装飾体 750 の少なくとも一部が設けられてもよい。

【0279】

パチンコ機 100 は、図 19 に示すように、環状装飾体 740 の背後に重なるように環状に配置された複数の環状配置光源 720（発光手段）と、中央装飾体 750 の背後に重なるように配置された中央光源 730（発光手段）とを備える。パチンコ機 100 は、反射装飾部 711 による演出において、複数の環状配置光源 720 の少なくとも 1 つから出力される光や中央光源 730 から出力される光を反射装飾部 711 に照射することで、その演出の効果を向上させる。

【0280】

ここで、反射装飾部 711 と、反射装飾部 711 による演出に関与する他の各種の部材との配置関係について、図 20 を参照して説明する。図 20 は、図 18 の Y1-Y1 線を含む切断面による反射装飾体 710 の近傍を示す斜視断面図である。なお、図 20 において、反射装飾体 710 による演出に関与する主要部の位置関係を明示するために、中央構造体 420 は輪郭（図中の一点鎖線）のみ示している。

【0281】

図 20 に示すように、反射装飾体 710 は、遊技盤 700 の基体 401 の裏面側に設けられる。また、基体 401 は、無色透明の樹脂で形成される。このため、遊技者は、座席に着席した姿勢（以下において、通常姿勢とも称す）で遊技盤 700 を見る場合、基体 401 を透して反射装飾部 711 を視認することができる。また、遊技盤 700 の中央付近に設けられた中央構造体 420 を構成する部材であって、下ステージ 427 を形成する部材等の多くの部材は、無色透明の樹脂で形成される。このため、遊技者は、通常姿勢よりも前屈みに着席した姿勢（以下において、前傾姿勢とも称す）や、遊技するパチンコ機 100 を選ぶため等で立った姿勢で遊技盤 700 を見る場合には、中央構造体 420 を構成する無色透明の部材を透して反射装飾部 711 を視認することができる。

【0282】

なお、基体 401 等の反射装飾部 711 を透かし見るための部材は、無色透明な樹脂で形成された構成としているが、この構成に限らず、有色透明な樹脂でもよく、無色又は有色の透明性（透過性）を有する素材であれば樹脂以外の素材で形成される構成としてもよい。以下において、無色又は有色の透明性を有する樹脂やその他の素材を光透過性素材とも称す。また、反射装飾部 711 は、他の部材を透かして間接的に視認可能な位置に設けられた構成としているが、この構成に限らず、基体 401 や中央構造体 420 の開口の近傍において基体 401 や中央構造体 420 の後方側に突出させて配置する等、それらの開口を通して直接的に視認可能な位置に設ける構成としてもよい。また、反射装飾部 711 は、遊技者の姿勢によらず、間接的に視認可能な構成としているが、この構成に限らず、遊技者の姿勢によっては間接的に視認可能であったり直接的に視認可能であったりする位置に設けられる構成や、遊技者の姿勢によらず直接的にのみ視認可能な位置に設けられる構成としてもよい。また、反射装飾部 711 は、基体 401 に対して固定され、環状配置光

10

20

30

40

50

源 7 2 0 や中央光源 7 3 0 から出力される光が常に照射可能な位置に設けられる構成としているが、この構成に限らず、移動可能に設けられ、反射装飾部 7 1 1 が所定の位置に移動した場合に、環状配置光源 7 2 0 や中央光源 7 3 0 から出力される光が照射されるように設けられる構成としてもよい。また、反射装飾体 7 1 0 は、基体 4 0 1 の裏面側に設けられる構成に限らず、その前面側に設けられる構成や、遊技盤 7 0 0 を構成する部材とは別の部材、例えば、中間ブロック 1 0 3 を構成する遊技盤 7 0 0 以外の部材や前ブロック 1 0 2 を構成する部材や後ブロック 1 0 4 を構成する部材に設けられる構成としてもよい。

【 0 2 8 3 】

反射装飾部 7 1 1 は、複数の環状配置光源 7 2 0（図 1 9 参照）の一部をなす下左光源 7 2 0 a（発光手段）や中央光源 7 3 0（発光手段）から出力された光を遊技者が位置する前方側へ反射可能な構成とされる。ここで、複数の環状配置光源 7 2 0 は、下側で左右に配置される下左光源 7 2 0 a と下右光源 7 2 0 b とを一組として、5 組が下側、左上側、左下側、右上側及び右下側に位置するように円環形状に配列され、円環形状の環状装飾体 7 4 0 の全体を発光した状態にできる。

【 0 2 8 4 】

下左光源 7 2 0 a は、電子部品（図示せず）が搭載される下左基板 7 2 1 a（発光基板）と、下左基板 7 2 1 a の一面側に、前方側（所定の方向側）に向けて光を出力する向きに配置された複数の LED 素子 7 2 2 a（発光手段）を備える構成とされる。また、中央光源 7 3 0 は、環状配置光源 7 2 0 と同様に、中央装飾部 7 5 1 と概ね同一の外形である中央基板 7 3 1（発光基板）に複数の LED 素子 7 3 2（発光手段）を設けた構成とされる。なお、反射装飾体 7 1 0 は、下左基板 7 2 1 a に設けられた複数の LED 素子 7 2 2 a の各々から出力される光で照射可能な位置に配置されても、それらの一部のみから出力される光で照射可能な位置に配置されてもよい。また、反射装飾部 7 1 1 は、主に、複数の環状配置光源 7 2 0 のうちの 1 つの下左光源 7 2 0 a から出力される光で照射可能な位置に配置された構成としているが、この構成に限らず、反射装飾部 7 1 1 の長さを長くし、2 以上の環状配置光源 7 2 0 から出力される光で照射可能としたり、反射装飾体 7 1 0 を正面視で円環形状とし、全ての環状配置光源 7 2 0 から出力される光で照射可能としたりする位置に配置される構成としてもよい。また、反射装飾部 7 1 1 は、環状装飾体 7 4 0 及び中央装飾体 7 5 0 の各装飾体に対応して設けられた光源（下左光源 7 2 0 a 及び中央光源 7 3 0）の双方からの光を照射可能な位置に配置された構成としているが、この構成に限らず、環状装飾体 7 4 0 及び中央装飾体 7 5 0 の一方の装飾体に対応して設けられた光源からの光で照射可能な位置に配置される構成としてもよい。また、反射装飾部 7 1 1 は、下左光源 7 2 0 a 及び中央光源 7 3 0 に加えて又は代えて他の装飾体への光の照射に兼用されない専用の光源からの光を照射可能な構成としてもよい。

【 0 2 8 5 】

反射装飾部 7 1 1 は、所定の装飾が施され、遊技者側から視認可能な構成とされる。具体的には、反射装飾部 7 1 1 は、透過性を有する板状に形成され、下左光源 7 2 0 a の LED 素子 7 2 2 a や中央光源 7 3 0 の LED 素子 7 3 2 から出力された光が通過する通過部 7 1 2 を備える。また、反射装飾部 7 1 1 は、通過部 7 1 2 に対して下側（光が通過した後に出力される側）に重なるように設けられ、通過部 7 1 2 を通過した光を反射可能な反射部 7 1 3 を備える。反射部 7 1 3 は、通過部 7 1 2 より下方側に配置され、一旦通過部 7 1 2 を通過した光を反射して上前方に出力する。また、通過部 7 1 2 の上面（反射部 7 1 3 とは反対側となる面）には、凹凸（起伏した形状）による装飾が施され、この上面が装飾面 7 1 2 S となる。なお、反射装飾部 7 1 1 は、通過部 7 1 2 における反射部 7 1 3 と反対側の面に装飾が施された構成に限らず、その面に加えて又は代えて、通過部 7 1 2 における反射部 7 1 3 側の面に装飾を施す構成としてもよい。また、反射装飾部 7 1 1 は、通過部 7 1 2 の表面に形成された凹凸により装飾が施された構成に限らず、通過部 7 1 2 の表面に装飾用のシールや板等の装飾部材を、通過部 7 1 2 に当接して又は離間させて配置することで、装飾を施す構成としてもよい。また、反射装飾部 7 1 1 は、通過部 7 1

10

20

30

40

50

2と反射部713とを備え、通過部712に装飾が施された構成としているが、この構成に限らず、通過部712を設けず、反射部713の上面に凹凸を形成したり、その上面に装飾部材を設けたりすることで、装飾を施す構成としてもよい。また、反射装飾部711は、単一の部材で形成された通過部712を備えた構成としているが、この構成に限らず、色の異なる透過性の材料で形成された部材を組み合わせ、上面に平坦な又は起伏する装飾面を有する通過部を備える構成としてもよい。また、反射装飾部711は、通過部712に実際に装飾を施した構成としているが、この構成に限らず、通過部712に実際には装飾を施さずに表面を単に平坦な面とし、その平坦な面に、例えば、回動装飾部742などの他の装飾部による装飾を映し込むことで、通過部712や反射部713に擬似的に装飾を施す構成としてもよい。

10

【0286】

反射装飾部711は、下左基板721aや中央基板731とは前後方向において重ならない位置に配置される。具体的には、反射装飾体710は、遊技盤700の上下方向及び左右方向の中央に設けられた装飾図柄表示装置479の表示部479aよりも下方側であって、図20に示すように、下左基板721aや中央基板731よりも前方側かつ下方側（以下において、下前方側とも称す）に配置される。このため、反射装飾部711における反射によって、標準姿勢で座視する遊技者の目の位置（概ね、表示部479aの中心から前後方向に所定の間隔で離間した位置）から遠ざかるように下前方側に進行する光を、その位置に近づくように前方側かつ上方側（以下において、上前方側とも称す）に進行させることができる。なお、反射装飾体710を表示部479aよりも下方側に設け、反射装飾体710によって光を上方側に反射させる構成としているが、この構成に限らず、表示部479aよりも上方側に設けて光を下方側に反射させる構成としてもよく、また、表示部479aよりも右方側に設けて光を左方側に反射させたり、表示部479aよりも左方側に設けて光を右方側に反射させたりする構成としてもよい。

20

【0287】

装飾面712Sは、遊技者側から見て傾斜する向きに配置された構成とされる。具体的には、板状の通過部712が、表示部479aより下方側に離れた位置で、遊技盤700の基体401に略垂直な方向に突出させて設けられている。このため、通過部712の上面である装飾面712Sは、標準姿勢で座視する遊技者から見て所定の角度（例えば、40°）で傾斜する向きに配置され、遊技者によって視認される装飾面712Sの大きさを所定の範囲に確保しつつ、装飾面712Sを明るく遊技者に視認させることができる。なお、装飾面712Sは、その垂線の方が標準姿勢で座視する遊技者の視線（斜め下側を向く視線）に対して垂直ではなく、所定の角度で傾斜する向きに配置される構成であればよく、その視線に対して10°～80°の角度範囲内の角度で傾斜する向きに配置される構成であることが好ましく、25°～60°の角度範囲で配置される構成であることが更に好ましい。また、装飾面712Sは、基体401に対して垂直に突出するように配置された構成に限らず、基体401に対して傾斜する向きに突出するように配置する構成としてもよい。この構成において、通過部712の基体401に対する傾斜は、厚さの略均一な通過部712の設置角度を調整することによって変化させてもよいし、通過部712の厚さを均一とせず、基体401の裏面からの距離に応じた厚みを調整することによって変化させてもよい。また、装飾面712Sは、基体401に対して一定の角度で傾斜する向きに配置する構成としているが、この限らず、装飾面712Sの部位によってその角度が変化する構成としてもよい。装飾面712Sの傾斜は、遊技盤700において配置される位置や下左光源720aや中央光源730との相対位置を勘案して、遊技者が装飾面712Sを所定の大きさで、かつ、所定の明るさで視認できる角度に設定することが好ましい。例えば、装飾面712Sを図18に示す位置よりも下側に設ける場合には、装飾面712Sを基体401の裏面から離れるにつれて下側に傾斜するように突出させ、反射装飾部711で反射した光を遊技者の目の位置に向けて進行させることが好ましい。

30

40

【0288】

ここで、環状配置光源720（下左光源720a）から出力された光に基づく反射装飾部

50

711からの光の出力について、図21を参照して説明する。図21は、環状配置光源720（下左光源720a）からの光を反射装飾部711へ照射する形態を説明するために、図18のY1-Y1線を含む切断面による反射装飾体710の近傍を示す断面図である。

【0289】

図21に示すように、下左光源720aから出力された光（例えば、実線及び一点鎖線で示す経路の光）は、反射装飾体710とは別に設けられた環状装飾体740を通過して反射装飾部711に照射される。この照射によって、反射装飾部711は、遊技者側に光を出力する。なお、以下において、反射装飾部711への光の照射形態の説明に先立ち、環状装飾体740の構成について説明する。

【0290】

環状装飾体740は、下左基板721aのLED素子722aから出力された光が照射される装飾部として、装飾図柄表示装置479の表示部479aの中心側に向けて移動可能な下左可動装飾部741aを備える。下左可動装飾部741aは、複数の環状配置基板721に1つずつ対応して設けられた複数の可動装飾部741の1つであり、下左基板721aに対応して設けられる。また、環状装飾体740は、下左基板721aのLED素子722aから出力された光が照射される装飾部として、全ての可動装飾部741を前方側で覆い、遊技盤700の前後方向を回転軸として回動可能な円環形状の回動装飾部742を備える。下左基板721aは、左下可動装飾部741と一体化され、左下可動装飾部741と回動装飾部742とを基体401に支持する環状装飾支持部749を介して、基体401に支持される。また、下左可動装飾部741aや回動装飾部742は、下左基板721aのLED素子722aから出力された光を遊技者が位置する前方側へ通過可能である。このため、反射装飾部711には、下左可動装飾部741aと回動装飾部742とを通過させた光を照射できる。この照射によって、遊技者は、装飾面712Sの装飾を視認できるようになる。

【0291】

なお、左下可動装飾部741や回動装飾部742は、全体が光を通過させる構成である必要はなく、一部分のみが光を通過させる構成であってもよい。また、反射装飾部711は、左下可動装飾部741と回動装飾部742との2つの装飾部を通過した光が照射される位置に設けた構成としているが、この構成に限らず、いずれか一方の装飾部を通過した光が照射される位置に設ける構成としてもよい。また、反射装飾部711は、左下可動装飾部741と回動装飾部742との2つの装飾部を通過した光が照射される位置に設けた構成としているが、遊技盤700に反射装飾部711とは別に3つ以上の装飾部を設け、それらの装飾部を通過する光が照射される位置に設ける構成としてもよい。また、反射装飾部711は、左下可動装飾部741や回動装飾部742を形成する部材を通過した光が照射される構成としているが、この構成に限らず、左下可動装飾部741や回動装飾部742に開口を設け、その開口を通して光を進行させるなど、下左基板721aのLED素子722aから出力された光が直接に照射される構成としてもよい。また、反射装飾部711には、左下可動装飾部741や回動装飾部742を通過した光が照射される構成としているが、この構成に限らず、遊技盤700に光ファイバや導光板等の所定の方向に光を誘導する導光部材を設け、その導光部材により誘導された光を反射装飾部711に照射する構成としてもよい。

【0292】

反射装飾部711に形成される装飾は、無色透明な樹脂で形成される。このため、その装飾は、環状配置光源720や中央光源730から出力される光が照射されない場合には視認困難又は視認不能であり、その光が照射された場合に視認できるようになる。したがって、反射装飾部711を、光で照射されていない状態から照射された状態に変化させることで、反射装飾部711における装飾が出現するように遊技者に見せることができる。なお、反射装飾部711における装飾は、環状配置光源720や中央光源730から出力される光が照射されない場合に視認困難又は視認不能な構成としているが、この構成に限ら

10

20

30

40

50

ず、その光が照射されない場合でも視認可能な構成としてもよい。

【0293】

下左可動装飾部741a及び回動装飾部742の裏面（下左光源720aの配置側）は、連続的に凹凸が形成された形状とされる。このため、下左可動装飾部741aや回動装飾部742を通過した光を多様な方向に進行させる（散乱させる）ことができ、下左可動装飾部741aや回動装飾部742の全体に、下左基板721aに点在させたLED素子722aから出力される光を照射できる。更に、可動装飾部741a及び回動装飾部742を通過した光を多様な角度で反射装飾部711に照射することも可能になる。このように、反射装飾部711に多様な角度で光を照射することで、反射装飾部711で反射した光も遊技者側に向けて多様な角度で進行させることができる。したがって、その反射した光を遊技者が視認できる角度範囲を大きくすることができ、遊技者の座高の違いにより目の位置が異なる場合であっても、また、遊技者が標準姿勢から前傾姿勢や後傾姿勢に変化させることで目の位置が変化したとしても、遊技者に反射装飾部711の装飾を視認させ易くできる。

10

【0294】

ここで、下左基板721aのLED素子722aから出力された光の反射装飾部711における反射について説明する。反射装飾部711の通過部712は、無色透明の樹脂で形成され、また、反射部713は、通過部712の下面に貼着されたアルミニウム製の箔や膜や板などの表面に光沢のある金属部材で形成されている。このため、反射装飾部711に照射された光は、通過部712の上面である装飾面712Sと、反射部713の上面（装飾面712Sと反射部713の界面）とで反射する。装飾面712Sの上面で反射した光と、反射部713の上面で反射した光とは、装飾面712Sの異なる部位に照射されるために、装飾面712Sにおいて明るく視認できる範囲を拡大することが可能になる。更に、それらの光は遊技者によって同時に視認されるために、装飾面712Sの装飾をずれた位置で重なるように視認させることができる。遊技者が視認する装飾のずれは、通過部712の厚みで調整でき、そのずれによって、装飾面712Sの装飾を立体的に視認させることも可能になる。

20

【0295】

なお、通過部712は、無色透明の樹脂で形成された構成としているが、この構成に限らず、有色透明の樹脂で形成される構成や、光を通過可能な樹脂以外の無色又は有色の材料で形成される構成としてもよい。また、反射部713は、通過部712に金属部材を貼着することで設けられた構成としているが、この構成に限らず、通過部712に金属材料等を蒸着することで膜状に設けられる構成としてもよい。反射部713は、通過部712に当接して設けられた構成としているが、この構成に限らず、通過部712から離間させて設ける構成としてもよい。この構成の場合、遊技者が視認する装飾のずれは、通過部712と反射部713との間隔で調整することもできる。

30

【0296】

装飾面712Sは、反射部713とは反対側となる面側に起伏した形状部分を含む構成とされる。具体的には、装飾面712Sを形成する板状の通過部712を、略均一な厚さの平坦領域712aと、平坦領域712aの上面より所定の僅かな突出量（例えば、1mm以下）で突出させて、所定の図形を象る突出装飾領域712bとで形成することで、通過部712の上面である装飾面712Sは、起伏した形状部分を含む形状とされる。この装飾面712Sを下左基板721aのLED素子722aから出力される光を照射した場合、装飾が実際の突出量よりも高く突出しているように、遊技者に視認させることが可能になる。このため、装飾面712Sの装飾を目立たせることができ、反射装飾部711による演出の効果を高めることができる。

40

【0297】

なお、突出装飾領域712bの上面は、平坦領域712aの上面に対して一定の高さである構成としているが、この構成に限らず、部位によって高さが異なる構成としてもよい。また、通過部712は、装飾としての所定の図形を平坦領域712aより反射部713の

50

反対側に突出させる構成に限らず、平坦領域 712a に対して反射部 713 側に陥没させる構成としてもよい。この場合、装飾が実際の陥没量よりも深く陥没しているように、遊技者に視認させることも可能になる。また、平坦領域 712a は、同一の厚さとする構成としているが、この構成に限らず、基体 401 から遠ざかるにつれて厚さが厚くなる又は薄くなる構成であってもよい。この構成であれば、平坦領域 712a の厚さの変化によって、遊技者側から見た装飾面 712S の傾斜を所定の角度に設定することもできる。

【0298】

下左可動装飾部 741a や回動装飾部 742 には、下左基板 721a の LED 素子 722a の発色とは異なる複数の色を用いた装飾が形成されている。このため、下左基板 721a の LED 素子 722a の発色とは異なる色の光を反射装飾部 711 に照射することができ、また、反射装飾部 711 を部位によって異なる色で発色させることもできる。更に、回動装飾部 742 を回動させることで、反射装飾部 711 の同じ部位を異なる色で発色させることもできる。

10

【0299】

ここで、中央光源 730 から出力された光に基づく反射装飾部 711 からの光の出力について、図 22 を参照して説明する。図 22 は、中央光源 730 からの光を反射装飾体 710 へ照射する形態を説明するために、図 18 の Y1-Y1 線を含む切断面による反射装飾体 710 の近傍を示す断面図である。

【0300】

図 22 に示すように、中央光源 730 から出力された光は、反射装飾体 710 とは別に設けられた中央装飾体 750 で反射して反射装飾部 711 に照射される。なお、以下において、反射装飾部 711 への光の照射形態の説明に先立ち、中央装飾体 750 の構成について説明する。

20

【0301】

中央装飾体 750 は、中央基板 731 の LED 素子 732 から出力された光が照射される飾部として、装飾が施された装飾部材 753 と、装飾部材 753 と中央基板 731 との間に配置され、中央基板 731 の LED 素子 732 から出力された光を多様な方向に散乱させる散乱部材 754 とで構成された中央装飾部 751 を備える。中央基板 731 は、中央装飾部 751 と一体化され、中央装飾部 751 を支持する中央装飾支持部 759 を介して、基体 401 に支持される。また、装飾部材 753 は有色透明の樹脂で形成され、また、散乱部材 754 は無色透明の樹脂で形成されている。このため、装飾部材 753 や散乱部材 754 は、中央基板 731 の LED 素子 732 から出力された光の一部を遊技者が位置する前方側へ通過可能であり、またその一部を反射可能である。

30

【0302】

なお、装飾部材 753 や散乱部材 754 は、樹脂で形成された構成としているが、この構成に限らず、光を通過可能な樹脂以外の無色又は有色の材料で形成される構成としてもよい。また、中央装飾部 751 は、装飾部材 753 とは別に散乱部材 754 を備え、散乱部材 754 の裏面（中央基板 731 側の面）に形成された凹凸で光を散乱させる構成としているが、この構成に限らず、散乱部材 754 を設けず、装飾部材 753 の裏面側に凹凸を形成することで光を散乱させる構成としてもよい。

40

【0303】

中央装飾体 750 は、中央装飾部 751 の周縁を囲う枠部 752 を備える。枠部 752 は、中央装飾部 751 と共に中央装飾支持部 759 を介して基体 401 に支持されている。また、枠部 752 は、散乱部材 754 において反射装飾部 711 の位置する下端部分 754B の前方側の一部のみを覆う。また、枠部 752 は、蒸着により形成された反射膜（図示せず）で表面が覆われた透明樹脂で形成されている。このため、中央基板 731 の LED 素子 732 から出力された光であって散乱部材 754 の裏面で反射した光（例えば、図 22 に実線又は一点鎖線で示す経路で進行する光）を、枠部 752 の下端部分 752B で覆われない下端部分 754B を通過させて反射装飾部 711 側に出力することができる。

【0304】

50

なお、中央装飾部 751 は、中央基板 731 の LED 素子 732 から出力された光を反射させ、その反射した光を、枠部 752 の下端部分 752B で覆われない散乱部材 754 の下端部分 754B を通過させて反射装飾部 711 側に出力する構成としているが、この構成に限らず、中央基板 731 の LED 素子 732 から出力された光を、散乱部材 754 で反射させずに、下端部分 752B で覆われない下端部分 754B を通過させ反射装飾部 711 側に出力する構成としてもよい。例えば、中央基板 731 に設けられる少なくとも 1 つの LED 素子 732 を垂直な方向に対して下側（反射装飾部 711 側）に傾斜する方向に向けて出力する向きに配置し、LED 素子 732 から出力された光を図 22 に二点鎖線で示す経路で進行させる構成としてもよい。また、中央装飾部 751 は、LED 素子 732 から出力された光を下端部分 754B において通過させ、反射装飾部 711 側に出力する構成としているが、この構成に限らず、下端部分 754B に開口や切り欠きを設け、開口や切り欠きを通して反射装飾部 711 側に出力する構成としてもよい。また、中央装飾部 751 は、枠部 752 の下端部分 753B の表面に反射膜を設け、下端部分 754B を通過して反射装飾部 711 側に出力される光を下端部分 752B で制限する構成としているが、この構成に限らず、枠部 752 の下端部分 753B の表面に反射膜を設けず、下端部分 752B と下端部分 754B とが重なる部分からも、光を反射装飾部 711 側に出力する構成としてもよい。

10

【0305】

中央装飾体 750 は、基体 401 に対して中央装飾部 751 を支持する中央装飾支持部 759 を備える。中央装飾支持部 759 は、散乱部材 754 の下端部分 754B や反射装飾部 711 の装飾面 712S の後方側であって、下端部分 754B と装飾面 712S との間の高さ位置に形成された壁 759B を含む。壁 759B は、中央装飾支持部 759 と一体成形され、無色透明の樹脂で形成されている。このため、壁 759B は、散乱部材 754 で反射した後方側に向けて下端部分 754B を通過した光の一部を前方側に反射し、反射装飾部 711 に出力することができる。なお、壁 759B は、照射された光の一部を照射された部位に依らずに通過させる構成としているが、この構成に限らず、壁 759B の表面の一部に、下左基板 721a の LED 素子 722a から出力された光の通過を大幅に制限しない範囲で、光を反射可能な反射部材を設け、光が通過可能な範囲を制限する構成としてもよい。この構成の場合、中央基板 731 の LED 素子 732 から出力された光の反射率を高めることができ、装飾面 712S を更に効率よく遊技者側に光を出力させることができる。

20

30

【0306】

中央基板 731 の LED 素子 732 から出力された光の反射装飾部 711 における反射については、下左基板 721a の LED 素子 722a から出力された光の反射の場合と同様の効果を奏し、装飾面 712S の装飾をずれた位置で重なるように視認させることができる。

【0307】

枠部 752 の下端部分 752B が散乱部材 754 の下端部分 754B を覆う被覆範囲は、中央基板 731 の LED 素子 732 から出力された光が、下左基板 721a の LED 素子 722a から出力された光が照射される角度範囲（以下において照射角度範囲とも称す）と重複しない角度範囲で照射されるように設定される。このため、装飾面 712S を明るく視認できる角度範囲を拡大することができる。例えば、遊技者が前傾姿勢で、又は、遊技するパチンコ機を選ぶ場合のように立った姿勢で装飾面 712S を見た場合であっても、遊技者に装飾面 712S の装飾を明るく視認させることもできる。また、照射角度範囲が重複しないように設定することで、照射角度範囲が重複する場合のように装飾面 712S の装飾が 4 つのずれた位置に重なって視認され、立体的に見え難くなってしまうことを防止できる。したがって、LED 素子 722a や LED 素子 732 から出力された光によって遊技者が装飾面 712S を明るく視認できる場合には、装飾面 712S の装飾を遊技者に立体的に視認させることが可能になる。

40

【0308】

50

中央装飾部 751 が、可動装飾部 741 や回動装飾部 742 とは異なる色で発色するように着色される。このため、遊技者が、例えば標準姿勢から前傾姿勢に姿勢を変化させた場合、下左基板 721a の LED 素子 722a や中央基板 731 の LED 素子 732 の発光色を変化させていないにも関わらず、装飾面 712S の発光色を変化させることもできる。なお、枠部 752 の下端部分 752B による散乱部材 754 の下端部分 754B の被覆範囲は、照射角度範囲が重複しない設定とする構成に限らず、照射角度範囲の少なくとも一部が重複するように設定する構成としてもよい。

【0309】

中央装飾体 750 は、中央基板 731 に設けられた各 LED 素子 732 から出力された光の一部を枠部 752 の下端部分 752B で覆われない散乱部材 754 の下端部分 754B 10 に向けて反射させる構成であってもよいし、中央基板 731 に設けられた一部の LED 素子 732 のみからの光の一部を下端部分 752B で覆われない下端部分 754B に向けて反射させる構成であってもよい。

【0310】

散乱部材 754 は、その裏面が下方側に向かうにつれて前方側へ突出するように傾斜させて配置される。このため、中央基板 731 の LED 素子 732 からの光を、枠部 752 の下端部分 752B で覆われない散乱部材 754 の下端部分 754B に向けて反射させ易くすることができる。

【0311】

上記のパチンコ機 100 において、下左基板 721a に設けられた LED 素子 722a から所定の方向側に向けて出力された光を遊技者が位置する前方側へ反射可能な反射装飾部 711 を有する反射装飾体 710 を備える。更に、反射装飾部 711 に形成される装飾面 712S は、下左基板 721a とは前後方向において重ならない位置において遊技者側から見て傾斜する向きに配置する。 20

【0312】

これにより、反射装飾部 711 で反射させた光を遊技者の目の位置などの所定の位置に向けて進行させ、遊技者が視認する装飾面 712S の大きさが過度に小さくなることを抑制しつつ、遊技者が装飾面 712S を明るく視認できるようにすることが可能になる。また、中央基板 731 に設けられた LED 素子 732 から出力される光によっても同様の効果を奏する。 30

【0313】

また、装飾面 712S に、下左基板 721a の LED 素子 722a と中央基板 731 の LED 素子 732 との双方からの光を照射することで、発光した装飾面 712S を遊技者が視認できる角度範囲を、それらの一方のみの光を照射する場合に比べて拡大することも可能になる。

【0314】

また、上記のパチンコ機 100 において、下左基板 721a に設けられた LED 素子 722a から所定の方向側に向けて出力された光を遊技者が位置する前方側へ反射可能な反射装飾部 711 を有する反射装飾体 710 を備える。また、反射装飾体 710 は、LED 素子 722a から出力された光が通過する板状の通過部 712 と、通過部 712 に対してそれを通過した光が出力される側に重なる反射部 713 とで形成されている。更に、装飾面 712S は、通過部 712 において反射部 713 とは反対側となる面側に形成されている。 40

【0315】

これにより、通過部 712 を通過せずに通過部 712 の表面で反射した光により視認される装飾面 712S の装飾と、通過部 712 を通過して反射部 713 で反射した後に更に通過部 712 を通過した光により視認される装飾面 712S の装飾とがずれた位置で重ね合わさった状態に視認させることができる。このため、装飾面 712S を突出装飾領域 712b の突出量が小さく平面的に形成したとしても、突出装飾を立体的に視認させることが可能になる。 50

【0316】

以下に、反射装飾部710による装飾に関する他の特徴的な構成について説明する。

【0317】

図18に示すように、装飾面712Sは、装飾図柄表示装置479（表示手段）において装飾図柄（識別情報）が表示される表示部479aが設けられる側が内側となるように湾曲した形状に構成される。遊技者の視界の外縁は概ね横長の楕円となるために、遊技進行に応じた主たる演出が実行される表示部479aを見ている場合に、装飾面712Sの全体を視界の範囲内に納め易くできる。また、下左基板721aのLED素子722aや中央基板731のLED素子732から出力された光が、反射装飾部711のいずれの部位に照射されたとしても、反射装飾部711で反射した光を、遊技者の目の位置に近づく方向に進行させ易くなる。また、遊技者の視線と装飾面712Sの各部位とのなす角を一定にし易くなり、装飾面712Sが歪んで見えることを抑制可能になる。

10

【0318】

図19に示すように、反射装飾部711の装飾面712Sは、正面視で、概ね、環状装飾体740の回動装飾部742の外輪郭に沿う湾曲形状とされている。また、装飾面712Sには、装飾として、複数の所定の図形を象る突出装飾領域712b（図20参照）が、回動装飾部742の外輪郭に沿って形成されている。また、回動装飾部742には、装飾として、所定の模様（図18参照）が全体に亘って形成されている。下左基板721aのLED素子722aからの光が出力された場合、回動装飾部742が発光した状態となり、回動装飾部742を通過した光が反射装飾部711に照射される。このとき、遊技者は、装飾面712Sに形成された装飾を視認できると共に、装飾面712Sに映り込んだ回動装飾部742の装飾を視認できる。このため、装飾面712Sに複雑な装飾を施しているかのように、遊技者に見せることが可能になる。

20

【0319】

なお、反射装飾部711の装飾と回動装飾部742との装飾を全体的に重ね合わせて遊技者に見せる構成としているが、この構成に限らず、例えば、回動装飾部742に、装飾面712Sに形成された1つの図形を強調可能な所定の模様を局所的に施し、回動装飾部742の回動に伴い強調される図形が変化するように遊技者に見せる構成としてもよい。また、例えば、反射装飾部711には、草原を模した装飾を施し、回動装飾部742には、動物を模した装飾を施して、回動装飾部742の回動に伴い動物が草原を駆け抜けるように見せる構成としてもよい。

30

【0320】

反射装飾部711の少なくとも一部は、図18に示すように、下側中始動入賞装置431Bの近傍であって、下側中始動入賞装置431Bへ左側から進入する可能性のある遊技球が通過する通過領域の近傍に配置される。具体的には、反射装飾部711の少なくとも一部が、正面視で、下側中始動入賞装置431Bの近傍の左側の通過領域の僅かに下側に位置するように配置される。下側中始動入賞装置431Bの近傍での遊技球の挙動は遊技者が注目する箇所の1つである。このため、下側中始動入賞装置431Bの近傍での遊技球の挙動に遊技者が注目している場合に、その注目箇所を反射装飾部711による演出で彩ることができる。また、遊技球の挙動が装飾面712Sによる装飾の中で行われているかの如く見せることもできる。

40

【0321】

なお、反射装飾部711は、その少なくとも一部が中央構造体420の下端部分に形成された下ステージ427の近傍に位置するように配置される構成としてもよい。ここで、下ステージ427は、上ステージ426から落下してきた遊技球を左右に繰り返し転動させて、下側中始動入賞装置431Bの上方側の近傍から遊技球を落下させる。下ステージ427での遊技球の挙動は遊技者が注目する箇所の1つであり、その注目箇所を反射装飾部711による演出で彩ることができる。また、反射装飾部711は、その少なくとも一部が遊技者によって注目される箇所の1つである上ステージ426の近傍に位置するように配置される構成としてもよい。

50

【0322】

遊技盤700には、図18及び図19に示すように、反射装飾部711と同様の構造であるが、正面視での形状が異なる他の反射装飾部711を有する他の反射装飾体710を備える。他の反射装飾部711による演出は、環状配置光源720の1つである下右光源720bからの光が照射されること以外は、反射装飾部711による演出の場合と同様に実行され、同様の効果を奏する。また、他の反射装飾体710の少なくとも一部は、図18に示すように、下側中始動入賞装置431Bの近傍であって、下側中始動入賞装置431Bへ右側から進入する可能性のある遊技球が通過する通過領域の近傍に配置される。このため、反射装飾部711と他の反射装飾部711とによる演出によって、下側中始動入賞装置431Bの近傍の左右全体を彩ることができる。

10

【0323】

なお、パチンコ機100において、環状配置光源720や中央光源730からの光を装飾面712Sに照射することで、装飾面712Sを明るく視認させる構成としているが、装飾面712Sに施された装飾を直接的に視認した場合と、その装飾が反射部713で反射したものを間接的に視認した場合とで、装飾がずれた位置で重なった状態に遊技者から視認可能である限りにおいて、環状配置光源720や中央光源730からの光が照射されない構成としてもよい。更に、環状配置光源720や中央光源730等のパチンコ機100に設けられた各種の光源からの光が照射されず、室内照明等からの光のみが照射される構成であってもよい。

20

【0324】

＜特典領域409Vへの遊技球の進入制御＞

次に、特典領域409V（特定通路）への遊技球の進入を好適に制御可能な構成について、図7と共に、図23及び図24を参照して説明する。

【0325】

特典領域409Vへの遊技球の進入は、特典領域409Vの入口に設けられた振分機構437（図7参照）と、振分機構437よりも遊技球の流下方向の上流側に設けられた上進入規制機構454（図7参照）との動作制御に基づいて制御される。具体的には、第1特別図柄抽選や第2特別図柄抽選による大当りの当選の一部（第1の種類の当選）に基づき移行する特別遊技状態において、右打ち遊技手法によって遊技を継続する限り、遊技球が特典領域409Vに進入するように、振分機構437と上進入規制機構454との動作制御が実行される。一方、第1の種類の当選とは別の種類の当選（第2の種類の当選）に基づき移行する特別遊技状態においては、遊技球が特典領域409Vに進入しないように、振分機構437と上進入規制機構454（切替機構）との動作制御が実行される。以下において、第1の種類の当選に基づいて実行され、特典領域409Vへの遊技球の進入により確変遊技状態へ移行することが予定された特別遊技状態を、確変予定の特別遊技状態とも称し、第2の種類の当選に基づいて実行され、特典領域409Vへの遊技球の進入がないことにより時短遊技状態へ移行することが予定された特別遊技状態を、時短予定の特別遊技状態とも称す。

30

【0326】

パチンコ機100は、確変予定の特別遊技状態において、所定のラウンドが開始された場合には、振分機構437（振分機構）が進入可能状態に移行した後に、上進入規制機構454（切替機構）が進行可能状態となって、所定のラウンドにおいて特典領域409Vへ遊技球が進入可能に構成されている。ここで、振分機構437の進入可能状態とは、特典領域409Vに遊技球が進入可能な状態である。また、上進入規制機構454の進行可能状態とは、振分機構437側に遊技球が進行可能な状態であり、具体的には、上進入規制機構454から振分機構437に向けて遊技球を案内する案内通路494に遊技球を進入させることが可能な状態である。所定のラウンドが開始された場合に、振分機構437を進入可能状態に移行した後に、上進入規制機構454を進行可能状態とすることで、所定のラウンドの開始から所定の時間経過してから、案内通路494へ遊技球を進入させることができるようになる。

40

50

【0327】

上進入規制機構454と振分機構437とは、複数回のラウンドを組み合わせて構成される確変予定の特別遊技状態や時短予定の特別遊技状態で動作する。上進入規制機構454は、それらの特別遊技状態の全てのラウンドにおいて動作するが、振分機構437は、少なくとも一部のラウンドにおいて動作する。具体的には、振分機構437は、確変予定の特別遊技状態においても、時短予定の特別遊技状態においても、複数回のラウンド（例えば、15ラウンド）のうち第1回目に行われるラウンド（以下においては、第1ラウンドとも称す）において動作する。以下において、上進入規制機構454と共に振分機構437が動作するラウンドであって、特別遊技状態の後に移行する遊技状態が決定されるラウンドを、移行先決定ラウンドとも称す。

10

【0328】

上進入規制機構454は、進入規制シャッタ454A（図24参照）の姿勢を変化させる上進入規制モータ464（図10参照）として、ステッピングモータを備えている。上進入規制モータ464は、上進入規制機構454に動力を与える回転軸の順方向への回転により、上進入規制機構454（進入規制シャッタ454A）を進入禁止姿勢（図24（A）に一点鎖線で示す姿勢を参照）から進入許容姿勢（図24（C）に示す姿勢を参照）に姿勢変化させることができ、また、順方向とは反対の逆方向への回転により、進入許容姿勢から進入禁止姿勢に姿勢変化させることができる。また、上進入規制モータ464は、回転軸の所定の速度での回転により、上進入規制機構454を所定の通常形態で姿勢変化させることができ、また、所定の回転速度よりも低速度（例えば、所定の回転速度の100分の1程度の速度）での回転により、上進入規制機構454を通常形態よりも遅く姿勢変化させることができる。なお、上進入規制モータ464としては、ステッピングモータに限らず、DCモータを用いる構成としてもよい。

20

【0329】

また、上進入規制機構454を通常形態よりも遅く姿勢変化させるための上進入規制モータ464の回転速度は、第1ラウンドが開始されてから上進入規制機構454が進行可能状態となるまでの時間が、第1ラウンドが開始されてから振分機構437が進入可能状態となるまでの時間よりも長くなる速度に設定されている。このため、上進入規制モータ464の回転速度の設定によって、移行先決定ラウンドである第1ラウンドが開始された場合に、振分機構437の進入可能状態への移行後に、上進入規制機構454を進行可能状態となる形態（以下において、遅延形態とも称す）で姿勢変化させることができる。なお、上進入規制機構454の姿勢変化の速度を振分機構437の姿勢変化よりも遅くし、振分機構437が進入可能状態に移行した後に、上進入規制機構454を進行許可状態とする構成であるが、この構成に限らず、上進入規制機構454の姿勢変化の速度によらず、上進入規制機構454の姿勢変化の開始を、振分機構437が進入可能状態に移行した後に、上進入規制機構454を進行許可状態となるように、第1ラウンドの開始から遅らせる構成としてもよい。上進入規制機構454の姿勢変化の開始を遅らせる構成の場合、上進入規制モータ464に代えて、上進入規制機構454の姿勢変化の速度が一定の駆動装置を用いてもよく、例えば、電磁式のソレノイドを用いることもできる。

30

【0330】

ここで、上進入規制機構454及び振分機構437の動作制御について説明する。図23は、特典領域409Vに遊技球が進入可能なラウンド（移行先決定ラウンド）での上進入規制機構454及び振分機構437の動作制御を模式的に示すタイミングチャートである。なお、図23において、図中の上側部分に、確変予定の特別遊技状態での動作を示し、図中の下側部分に、時短予定の特別遊技状態での動作であって確変予定の特別遊技状態と相違する動作も示している。

40

【0331】

確変予定の特別遊技状態において第1ラウンドが開始される場合、図23に示すように、ラウンド中フラグがオン状態となり、第1ラウンド（図中の丸括弧付きの数字）が開始される（時刻t1）。ラウンド中フラグは、ラウンド中であるか否かを識別する情報であり

50

、主制御基板 920 の RAM 922 (図 10 参照) に記憶されている。ラウンド中フラグは、第 1 ラウンドの開始から最大継続時間 TA (所定の経過時間: 29.5 秒) が経過した場合に、一点鎖線で示すように、オフ状態となる (時刻 ta10)。ラウンド中フラグがオフ状態となることで、第 1 ラウンドが終了する。また、詳細は後述するが、上大入賞カウンタの値が第 1 ラウンドの規定数 (10 個) に到達した場合には (t8)、実線で示すように、その検知から所定の期間 (例えば 3.0 秒) の経過を待ってオフ状態となる (時刻 t10)。また、ラウンド中フラグは、第 1 ラウンドが終了した後に、所定の時間 (例えば、3.0 秒) が経過した場合に、次のラウンドを開始するために、オン状態となる (時刻 ta11)。

【0332】

時短予定の特別遊技状態の第 1 ラウンドにおいては、ラウンド中フラグは、オン状態となってから (時刻 tb1)、確変予定の特別遊技状態での最大継続時間 TA よりも短い最大継続時間 TI (例えば、4.0 秒) が経過した場合に、オフ状態となる。

【0333】

第 1 ラウンドの開始からの経過時間は、主制御基板 920 の RAM 922 に記憶されているラウンド制御タイマ (図示せず) で計測される。主制御基板 920 は、第 1 ラウンドラウンド制御タイマに、主制御基板 920 の ROM (図示せず) に記憶された第 1 ラウンドの最大継続時間 TA に対応する値を初期設定する。主制御基板 920 の ROM (図示せず) には、最大継続時間 TA に対応する値と共に、時短予定の特別遊技状態における第 1 ラウンドの最大継続時間 TI に対応する値も記憶されており、主制御基板 920 は、実行中の特別遊技状態に応じて選択する。ラウンド制御タイマは、主制御基板 920 で実行される一定間隔 (例えば、2ms) のタイマ割り込みごとに、その値が 1 ずつ減少するように更新される。これにより、主制御基板 920 は、ラウンド制御タイマの値が「0」に戻ることを検知することで、最大継続時間の経過によりラウンド中フラグをオフ状態とし (時刻 ta9)、第 1 ラウンドを終了させることができる (ラウンド時間終了手段)。なお、主制御基板 920 は、第 1 ラウンド以外の各ラウンドの最大継続時間に対応する値も記憶しており、実行されるラウンドに応じて選択する。

【0334】

また、第 1 ラウンドの開始に伴い、上大入賞カウンタが、「0」に初期設定される。上大入賞カウンタは、主制御基板 920 の RAM 922 に記憶され、各ラウンド内で上大入賞スイッチ 444 (図 7 参照) により検出された遊技球の個数を計数するもので、上大入賞スイッチ 444 により遊技球が検出される毎に「1」ずつ増加するように更新される。

【0335】

主制御基板 920 は、上大入賞カウンタの値が主制御基板 920 の ROM に記憶された規定数 (10 個) であるかを判定し、上大入賞カウンタの値が規定数に達した場合に (時刻 t8) は、最大継続時間 TA が経過する前であっても、上進入規制機構 454 の動作を中断させ、また、振分機構 437 の動作を中断させた後に (時刻 t9)、第 1 ラウンドを終了させる (時刻 t10)。なお、第 1 ラウンド以外の他のラウンドも同様である。各ラウンドは、最大継続時間 TA が経過する前に、上大入賞カウンタの値が規定数となることで終了する構成であるが、この構成は必須の構成ではなく、例えば、各ラウンドを所定の継続時間の経過のみによって終了させる構成としてもよい。

【0336】

また、第 1 ラウンドの開始に伴い、回転方向指定情報 (図示せず) が、上進入規制機構 454 を進入禁止姿勢から進入許容姿勢へ姿勢変化させるため順方向の回転を指定する「1」に設定される。回転方向指定情報は、上進入規制機構 454 を駆動するステッピングモータの回転方向を指定する情報であり、主制御基板 920 の RAM 922 に記憶されている。回転方向指定情報の値は、「1」以外に、上進入規制機構 454 をから進入許容姿勢から進入禁止姿勢へ姿勢変化させるため逆方向の回転を指定する「2」をとり、また、ステッピングモータの回転の停止を指定する「0」をとる。主制御基板 920 は、ステッピングモータの回転状態を変化させるタイミングを指定する情報と、そのタイミングごとに

10

20

30

40

50

選択する回転方向指定情報の値とを関連づけてROMに記憶している。

【0337】

主制御基板920は、例えば、ラウンド制御タイマの値がタイミングを指定する値となったことを検知すると、そのタイミングに関連付けられた回転方向を指定する値を回転方向指定情報に設定する。例えば、主制御基板920は、一点鎖線で示すように、上進入規制機構454を進入禁止姿勢から進入許容姿勢へ姿勢変化させる8回のタイミング（例えば、時刻 t_1 や時刻 t_6 ）に対応付けて「1」、上進入規制機構454を進入許容姿勢から進入禁止姿勢へ姿勢変化させる8回のタイミング（時刻 t_5 や時刻 t_7 ）に対応付けて「2」を記憶している。また、上進入規制機構454の姿勢変化を停止させるために、進入禁止姿勢から進入許容姿勢への姿勢変化を停止させる8回のタイミング（例えば、時刻 t_6 直後や時刻 t_4 ）と、進入許容姿勢から進入禁止姿勢変化への姿勢変化を停止させる8回のタイミング（例えば、時刻 t_5 直後や時刻 t_7 直後）の16回のタイミングに対応付けて「0」を記憶している。

10

【0338】

また、第1ラウンドの開始に伴い、上進入規制機構454を遅延形態（低速）で姿勢変化させるために、回転速度指定フラグがオン状態となる。回転速度指定フラグは、上進入規制機構454を通常形態（高速）で姿勢変化させるか遅延形態で姿勢変化させるかを、ステッピングモータの回転速度で指定する情報であり、主制御基板920のRAM922に記憶されている。回転速度指定フラグは、所定の時間（時間 $T_B + T_E$ ）が経過し、進入禁止姿勢から進入許容姿勢への姿勢変化の完了によって、オフ状態となる（時刻 t_4 ）。また、回転速度指定フラグは、確変予定の特別遊技状態や時短予定の特別遊技状態において、移行先決定ラウンドである第1ラウンド以外のラウンドにおいて設定されることはない。

20

【0339】

主制御基板920は、ステッピングモータの高速での回転速度に対応する値と低速での回転速度に対応する値をROMに記憶している。主制御基板920は、回転速度指定フラグがオン状態である場合には、低速での回転速度に対応する値を選択し、ステッピングモータを低速で回転させ、回転速度指定フラグがオフ状態である場合には、高速での回転速度に対応する値を選択し、ステッピングモータを高速で回転させる。

【0340】

上進入規制機構454の姿勢変化は、回転方向指定情報と回転速度指定フラグとの設定状態に基づいて決定され、第1ラウンドの開始に伴って開始される姿勢変化は、進入禁止姿勢から進入許容姿勢への低速での姿勢変化（遅延形態の姿勢変化）となる。また、進入禁止姿勢から進入許容姿勢へのその他の姿勢変化（通常形態の姿勢変化）や、進入許容姿勢から進入禁止姿勢への姿勢変化は、遅延形態の場合よりも高速での姿勢変化となる。また、時短予定の特別遊技状態においては、回転速度指定フラグが確変予定の特別遊技状態の場合より早くオフ状態となり、進入禁止姿勢から進入許容姿勢への姿勢変化の途中で、遅延形態の姿勢変化から通常形態の姿勢変化となる。

30

【0341】

また、ステッピングモータの低速での回転速度に対応する値は、上進入規制機構454の遅延形態での姿勢変化に要する時間が振分機構437の姿勢変化に要する時間（非誘導姿勢から誘導可能姿勢に姿勢変化するまでの時間よりも遅くなる範囲の値に設定されている。これにより、上進入規制機構454を、振分機構437が進入可能状態へ移行した後に、振分機構437側へ遊技球を進行させることが可能な進行可能状態とすることができる（切替制御手段）。

40

【0342】

また、第1ラウンドの開始に伴い、振分ソレノイド作動フラグ（図示せず）がオン状態となる。振分ソレノイド作動フラグは、振分ソレノイド465を作動するか否かを指定するフラグであり、主制御基板920のRAM922に記憶されている。振分ソレノイド作動フラグがオン状態となると、振分ソレノイド465への通電が開始されて作動し、振分機

50

構 4 3 7 は、非誘導姿勢から誘導姿勢への姿勢変化を開始する。振分機構 4 3 7 は、誘導姿勢へ変化した後、振分ソレノイド 4 6 5 への通電が維持された状態で、誘導姿勢で維持される。一方、振分ソレノイド作動フラグがオフ状態となると、振分ソレノイド 4 6 5 への通電が停止され、振分機構 4 3 7 は、誘導姿勢から非誘導姿勢への姿勢変化を開始する。振分機構 4 3 7 は、非誘導姿勢となった後は、非誘導姿勢に維持される。主制御基板 9 2 0 は、振分ソレノイド 4 6 5 へ通電するタイミングを指定する情報と、その通電を停止するタイミングを指定する情報とを ROM に記憶している。主制御基板 9 2 0 は、例えば、一点鎖線で示すように、ラウンド制御タイマの値が振分ソレノイド 4 6 5 へ通電する 2 回のタイミング（時刻 t_1 ，時刻 t_4 ）やその通電を停止する 2 回のタイミング（時刻 t_2 ，時刻 t_9 ）を指定する値となったことを検知すると、振分ソレノイド作動フラグの状態を切り替える。

10

【0343】

ここで、移行先決定ラウンドにおける上進入規制機構 4 5 4 及び振分機構 4 3 7 の動作形態について、図 2 4 を参照して説明する。図 2 4 は、図 7 の Y 2 - Y 2 線を含む切断面による断面により、上進入規制機構 4 5 4 及び振分機構 4 3 7 の動作形態を示す断面図である。図 2 4 (A) が図 2 3 における時刻 t_1 の直後、図 2 4 (B) が時刻 t_3 、図 2 4 (C) が時刻 t_4 における上進入規制機構 4 5 4 及び振分機構 4 3 7 の姿勢を示す。なお、図 2 4 (A) においては、一点鎖線で、図 2 3 における時刻 t_1 における上進入規制機構 4 5 4 及び振分機構 4 3 7 の姿勢も示している。また、図 2 4 (A) においては、上進入規制機構 4 5 4 の上面に沿って Y 2 - Y 2 線を含む切断面より下流側（紙面裏側：図 7 に

20

【0344】

図 2 4 (A) に示すように、振分機構 4 3 7 は、基体 4 0 1 の前後方向（図 2 4 (A) 等の左右方向）に移動可能な板状の振分シャッタ 4 3 7 A を備える。振分シャッタ 4 3 7 A は、振分機構 4 3 7 が非誘導姿勢（一点鎖線で示す姿勢）である場合に、遊技盤 4 0 0 の前側（図 2 4 (A) 等では右側）への遊技球の移動を制限する前壁 4 8 1 と進入規制シャッタ 4 5 4 A の先端との間隔が遊技球の直径よりも狭い間隔 D 1 となる位置に配置される。このため、振分シャッタ 4 3 7 A は、特典領域 4 0 9 V への遊技球の進入を阻止し、振分シャッタ 4 3 7 A の上面に接触した遊技球を非特典領域 4 0 9 N（図 7 参照）に進入させることができる。

30

【0345】

振分シャッタ 4 3 7 A は、振分機構 4 3 7 が誘導姿勢である場合には、図 2 4 (C) に示すように、非誘導姿勢であるときより基体 4 0 1 側に引き込まれ、前壁 4 8 1 と振分シャッタ 4 3 7 A の先端との間隔が遊技球の直径より広い位置に配置される。このため、振分シャッタ 4 3 7 A に向けて案内通路 4 9 4 を進行してきた遊技球は、特典領域 4 0 9 V に進入することができる。

【0346】

振分機構 4 3 7 は、非誘導姿勢から誘導姿勢に移行する過程において、図 2 4 (A) に示すように、前壁 4 8 1 と振分シャッタ 4 3 7 A の先端との間隔が遊技球の直径と略同一で、案内通路 4 9 4 に遊技球を進入させることができる位置に配置される姿勢（以下、誘導可能姿勢とも称す）をとる。振分機構 4 3 7 が誘導可能姿勢から誘導姿勢までの範囲の姿勢をとる状態が、振分機構 4 3 7 の進入可能状態である。

40

【0347】

また、図 2 4 (A) に示すように、上進入規制機構 4 5 4 は、基体 4 0 1 の前後方向に移動可能な板状の進入規制シャッタ 4 5 4 A を備える。進入規制シャッタ 4 5 4 A は、上進入規制機構 4 5 4 が進入禁止姿勢（一点鎖線で示す姿勢）である場合に、前壁 4 8 1 と進入規制シャッタ 4 5 4 A の先端との間隔が遊技球の直径よりも狭い間隔 D 1 となる位置に配置される。このため、進入規制シャッタ 4 5 4 A は、案内通路 4 9 4 への遊技球の進入を阻止し、進入規制シャッタ 4 5 4 A の上面に沿って遊技球を進行させる。

50

【0348】

また、進入規制シャッタ454Aは、図24(C)に示すように、上進入規制機構454が進入許容姿勢である場合に、進入禁止姿勢であるときより基体401側に引き込まれ、前壁481と進入規制シャッタ454Aの先端との間隔が遊技球の直径より広い位置に配置される。このため、上進入規制機構454に向けて流下してきた遊技球は、案内通路494に進入することができる。

【0349】

上進入規制機構454は、進入禁止姿勢から進入許容姿勢に移行する過程において、図24(B)に示すように、前壁481と進入規制シャッタ454Aの先端との間隔が遊技球の直径と略同一で、案内通路494に遊技球を進入させることができる位置に配置される進入可能姿勢をとる。上進入規制機構454が進入可能姿勢から進入許容姿勢までの範囲内の姿勢をとる状態が、上進入規制機構454の進行可能状態である。

【0350】

進入規制シャッタ454Aは、上進入規制機構454が進入禁止姿勢である場合に、その先端と前壁481との間隔が、非誘導姿勢をとる振分シャッタ437Aの先端と前壁481との間隔と同一の間隔となる位置に配置されている。このため、上進入規制機構454が進入禁止姿勢から進入可能姿勢に移行するまでに必要な振分シャッタ437Aの移動距離は、振分機構437が非誘導姿勢から誘導可能姿勢になるまでに必要な移動距離と同一の距離D2である。したがって、進入規制シャッタ454Aと振分シャッタ437Aとが同時に移動を同時に開始したとしても、進入規制シャッタ454Aの移動の速度が振分シャッタ437Aの移動の速度よりも遅いために、上進入規制機構454が進入可能姿勢となるまでの時間を振分機構437が誘導可能姿勢となるまでの時間より遅らせることができる。

【0351】

なお、上進入規制機構454は、前壁481と進入規制シャッタ454Aの先端との間隔が遊技球の半径と同一である姿勢となった後も、低速の移動速度で移動する構成であるが、この構成に限らず、回転速度指定フラグのオン状態の期間が時間TB+時間TEよりも短く設定され、その間隔が遊技球の半径と同一となる前に、上進入規制機構454の姿勢変化が遅延形態から通常形態に戻る構成であってもよい。この場合、前壁481と進入規制シャッタ454Aの先端との間で、遊技球の下端が進入規制シャッタ454Aの上面よりも低い位置に入り込むことで、進入規制シャッタ454Aに沿った遊技球の流下を円滑に行えなくなることを抑制できる。

【0352】

また、進入規制シャッタ454Aや振分シャッタ437Aは、前後方向に移動する構成であるが、この構成に限らず、前後方向を軸とする所定の角度で回転により左右方向に傾斜する構成としてもよいし、左右方向を軸とする所定の角度で回転により前後方向に傾斜するように移動する構成としてもよい。また、上進入規制機構454や振分機構437は、板状の可動部材で進入先を振り分ける構成であるが、羽根状の可動部材によって進入先を振り分ける構成としてもよい。

【0353】

ここで、図23の説明に戻り、振分機構437は、時刻t2の直後（例えば、0.01秒）に誘導可能姿勢となってから所定の時間TC（例えば、0.05秒）後であって、上進入規制機構454が進入可能姿勢となる前に（時刻t3）、非誘導姿勢に戻る（時刻t2）。その後、振分機構437は、所定の時間TD（例えば、9.0秒）の間、非誘導姿勢に維持される。振分機構437が再び非誘導姿勢から誘導姿勢への移行を開始するまでの時間TDは、進入規制シャッタ454Aの上流端側で案内通路494に進入してから振分シャッタ437Aに到達するまでの平均時間（以下において、平均進行時間とも称す：例えば、1.5秒）よりも十分に長く設定されている。

【0354】

振分機構437は、一旦非誘導姿勢に戻った後に、再度、誘導姿勢への姿勢変化を開始し

(時刻 t_4)、1 回目の期間 (時刻 $t_1 \sim$ 時刻 t_2) の場合よりも長い時間に亘って誘導姿勢に維持される。なお、詳細は後述するが、振分機構 437 は、一旦、誘導姿勢に移行した後に、所定の時間 T_D に亘り非誘導姿勢をとることで、時短予定の特別遊技状態において、遊技球が特典領域に進入してしまうことを防止することが可能になる。

【0355】

振分機構 437 が 2 回目の誘導姿勢に維持されている間に、上大入賞カウンタの値が規定数 (図 23 では「10」) となった場合 (時刻 t_8)、振分機構 437 は、所定の時間 T_H (例えば、2.5 秒) の経過を待って、非誘導姿勢に戻る (時刻 t_9)。時間 T_H は、案内通路 494 に対する平均進行時間よりも長く設定される。これは、後述するように、上大入賞カウンタの値が規定数 (図 23 においては 10 個) となった場合に、上進入規制機構 454 は進入許容姿勢であれば進入禁止姿勢に戻されるが、進入禁止姿勢に戻される直前に案内通路 494 に進入した遊技球が特典領域 409V に進入しなくなることを抑制するためである。更に、振分機構 437 が非誘導姿勢に戻ってから所定の時間 (0.5 秒) の後に、ラウンド中フラグがオフ状態となり、第 1 ラウンドが終了する (時刻 t_{10})。振分機構 437 が非誘導姿勢に戻ってからラウンド中フラグがオフ状態となるまでの時間は、振分機構 437 が非誘導姿勢に戻る直前に進入した遊技球が特定通路スイッチ 448 にて検出される前に、第 1 ラウンドが終了してしまうことを抑制するためである。

10

【0356】

また、振分機構 437 は、上大入賞カウンタの値が規定数とならない場合には、一点鎖線で示すように、2 回目の誘導姿勢への姿勢変化の開始 (時刻 t_4) から所定の時間 T_G の経過によって非誘導姿勢に戻る (時刻 t_{a9})。更に、振分機構 437 が非誘導姿勢に戻ってから所定の時間の後に、ラウンド中フラグがオフ状態となり、第 1 ラウンドが終了する。

20

【0357】

上進入規制機構 454 は、回転速度指定フラグがオン状態であるために、遅延形態で姿勢変化を開始する。このため、上進入規制機構 454 は、振分機構 437 が誘導可能姿勢となった場合 (時刻 t_1 の直後) に、まだ進入可能姿勢とはならず (図 24 (A) も参照)、振分機構 437 が誘導可能姿勢となってから所定の時間 T_B 後に、進入可能姿勢となる (時刻 t_3)。時間 T_B や時間 T_E は、ステッピングモータの進入許容用の励磁パターンに沿って励磁状態を移行させる時間間隔の設定を変更することで変化させることができる。

30

【0358】

上進入規制機構 454 は、進入可能姿勢となってから所定の時間 T_E (例えば、2.5 秒) の後であって、振分機構 437 が 2 回目の誘導姿勢への移動を開始すると略同時に (時刻 t_4)、進入許容姿勢となり、所定の時間 T_F (例えば、0.8 秒) に亘り進入許容姿勢に維持される (時刻 t_5)。その後、上進入規制機構 454 は、回転速度指定フラグがオフ状態であるために、通常形態の姿勢変化を開始し、所定の時間 (例えば、0.02 秒) 後に、進入禁止姿勢に戻る。このため、上進入規制機構 454 が 1 回目の進行可能状態である期間 (概ね時刻 $t_3 \sim$ 時刻 t_5) に、案内通路 494 に進入した遊技球であっても、特典領域 409V に進入させることができる。なお、上進入規制機構 454 が進入可能姿勢となってから振分機構 437 が 2 回目の誘導姿勢への移動を開始するまでの時間 T_E は、案内通路 494 における遊技球の平均進行時間よりも長く設定される構成であるが、時間 T_E を平均進行時間よりも短く設定して、案内通路 494 に進入した遊技球を特典領域 409V に進入させる確実性を向上させる構成としてもよい。更に、振分機構 437 が 2 回目の誘導姿勢への移動を開始した後に、上進入規制機構 454 が進入可能姿勢となる構成としてもよい。この場合、案内通路 494 に進入した遊技球を特典領域 409V に確実に進入させることができる。

40

【0359】

上進入規制機構 454 は、1 回目の進行可能状態を発生させる動作 (時刻 $t_1 \sim t_5$) から所定の時間 T_K (例えば、1.2 秒) 後に、進入許容姿勢への移動を開始し (時刻 t_6

50

）、その姿勢を所定の時間 T_F に亘り継続する（時刻 t_7 ）。その後、上進入規制機構 454 は、進入禁止姿勢に戻る。この上進入規制機構 454 による 2 回目の進行可能状態を発生させる動作（時刻 t_6 ～時刻 t_7 ）は、振分機構 437 が 2 回目の進入可能状態である期間（時刻 t_4 ～時刻 t_{a9} ）に行われる。また、上進入規制機構 454 は、この 2 回目の進行可能状態を発生させる動作と同じ動作を、更に最大で 6 回（都合 7 回）繰り返す。

【0360】

上進入規制機構 454 が、規定回数（8 回）の進行可能状態を発生させる動作を完了する前に、上大入賞カウンタの値が規定数（10 個）となった場合に、上進入規制機構 454 は、進行可能状態を発生させる動作中であれば、進入禁止姿勢に戻る（時刻 t_9 ）。

10

【0361】

なお、確変予定の特別遊技状態において、上進入規制機構 454 による進行可能状態を発生させる動作を複数回（8 回）に分けて行う構成であるが、この構成に限らず、その動作を 1 回のみ行う構成、例えば、時刻 t_4 で進入許容姿勢となった上進入規制機構 454 の姿勢を継続させる構成としてもよい。同様に、確変予定の特別遊技状態において、振分機構 437 による進入可能状態を発生させる動作を複数回（2 回）に分けて行う構成であるが、この構成に限らず、その動作を 1 回のみ行う構成、例えば、第 1 回目の進行可能状態を発生させる動作を行わない構成としてもよい。

【0362】

また、振分機構 437 が長く進入可能状態である期間（時刻 t_4 ～時刻 t_{a9} ）において、上進入規制機構 454 による進行可能状態を発生させる動作を複数回（7 回）に分けることで、特典領域 409V への遊技球の進入を制限する構成であるが、この構成に限らず、上進入規制機構 454 が進行可能状態である期間において、振分機構 437 による進入可能状態を発生させる構成、例えば、時刻 t_4 で進入許容姿勢となった上進入規制機構 454 の姿勢を継続させ、時刻 t_4 ～時刻 t_{a9} に振分機構 437 による進入可能状態を発生させる動作を複数回繰り返す構成としてもよい。

20

【0363】

ここで、時短予定の特別遊技状態の第 1 ラウンドにおける上進入規制機構 454 及び振分機構 437 の動作について説明する。時短予定の特別遊技状態の第 1 ラウンドにおいては、振分機構 437 に対して、確変予定の特別遊技状態の第 1 ラウンドと同じ制御が主制御基板 920 によって実行される。また、時短予定の特別遊技状態における第 1 ラウンドの最大継続時間 T_I は、振分機構 437 が 2 回目の誘導姿勢（進入可能状態）への変化を開始するまでの時間（時間 T_C + 時間 T_D ）より短く設定されている。このため、時短予定の特別遊技状態の第 1 ラウンドにおいて、振分機構 437 は、1 回の誘導姿勢への姿勢変化が行われるだけで、2 回目の誘導姿勢への姿勢変化は行われない。

30

【0364】

また、上進入規制機構 454 は、時短予定の特別遊技状態の第 1 ラウンドの開始（時刻 t_{b1} ）に伴い、確変予定の特別遊技状態の場合と同様に回転速度指定フラグがオン状態であるため、遅延形態で姿勢変化を開始する。しかし、回転速度指定フラグが設定されている時間が、確変予定の特別遊技状態における時間（時間 T_B + 時間 T_E ）よりも短い時間 T_J （例えば、0.8 秒）に設定されている。このため、上進入規制機構 454 が進入許容姿勢へ変化している途中で回転速度指定フラグがオフ状態となり（時刻 t_{b3} ）、上進入規制機構 454 の姿勢変化が通常形態の速度変化に戻る。この場合、第 1 ラウンドが開始してから所定の時間 T_J までは、確変予定の特別遊技状態の場合と同じ遅延形態で姿勢変化するため、第 1 ラウンドの開始直後に、上進入規制機構 454 の動作形態の相違によって確変予定の特別遊技状態であるか時短予定の特別遊技状態であるかが遊技者によって識別されることを抑制できる。

40

【0365】

また、時間 T_J が経過した後には、上進入規制機構 454 は、進入可能姿勢を経て進入許容姿勢となる。上進入規制機構 454 は、所定の時間 T_F に亘り進入許容姿勢に維持され

50

た後、通常形態で進入禁止姿勢に戻る（時刻 t_{b5} ）。その後は、上進入規制機構 454 が時刻 t_{a8} から時刻 t_{a10} の場合と同様に動作し、第 1 ラウンドが終了する（時刻 t_{b10} ）。第 1 ラウンドの終了から所定の間隔を隔てて、第 2 ラウンドが開始される（時刻 t_{b11} ）。

【0366】

ここで、時短予定の特別遊技状態においては、振分機構 437 がラウンドの開始後に一旦進入可能状態となってから進入禁止状態に戻った後、上進入規制機構 454 が進行可能状態に移行する。このため、振分機構 437 が進入可能状態である状況において振分機構 437 に遊技球が到達することではなく、特典領域 409V に進入することがない。また、時刻 t_{b5} から時刻 t_{b10} までの時間が、案内通路 494 に対する平均進行時間より十分に長い 4 倍程度に設定されている。このため、進入許容動作により遊技球が案内通路 494 に進入したとしても、案内通路 494 に進入した遊技球が進入可能状態でない振分機構 437 に到達し、特典領域 409V に進入してしまうことを防止できる。また、上進入規制機構 454 が進行可能状態でなくなってから第 1 ラウンドの終了まで、振分機構 437 が進入可能状態となることがないため、上進入規制機構 454 による 1 回目の進行可能状態となる動作によって球噛みが発生し、その遊技球と新たに流下してきた遊技球が衝突して、挟まれた遊技球が案内通路 494 に進入すると共に衝突した後続の遊技球が噛まれるといった現象が連続し、遊技球が案内通路 494 に進入してしまうような事態（以下において、球噛み連鎖通過と称す）が発生したとしても、特典領域 409V に進入してしまうことはない。したがって、時短予定の特別遊技状態の第 1 ラウンドにおいて、遊技球が特典領域 409V に流入することを防止できる。

【0367】

このように、上記のパチンコ機 100 であれば、確変予定の特別遊技状態の移行先決定ラウンド（第 1 ラウンド）が開始された場合に、振分機構 437 が誘導可能姿勢（進入可能状態）となった後に、上進入規制機構 454 が進入可能姿勢（進行可能状態）となる。このような場合であっても、上進入規制機構 454 が進行可能状態となるタイミングを遅らせることで、確変予定の特別遊技状態の第 1 ラウンドにおいて、特典領域 409V に少なくとも 1 球の遊技球を確実に進入させることが可能になる。また、第 1 ラウンドの開始から所定の期間の経過後に振分機構 437 が進入可能状態でない期間が設けられ、その期間に球噛み連鎖通過等の異常事態が発生することを抑制できる。

【0368】

また、確変予定の特別遊技状態においては、振分機構 437 は、一旦、短時間（略時間 T_C ）だけ進入可能状態となった後に、所定の時間 T_D の非誘導姿勢を経て、1 回目よりも長時間に亘り進入可能状態となる。このため、振分機構 437 が 2 回目に進入可能状態である期間（時刻 t_4 ～時刻 t_9 ）には遊技球を特典領域 409V にほぼ確実に流入させることができる。

【0369】

また、時短予定の特別遊技状態において、振分機構 437 が短時間だけ進入可能状態となってから非誘導姿勢に戻った後に、上進入規制機構 454 が進行可能状態となる。このため、時短予定の特別遊技状態の移行先決定ラウンドにおいて遊技球が特典領域 409V に進入しないようにできる。また、球噛み連鎖通過によって振分機構 437 の側へ遊技球が進行したとしても、非誘導姿勢をとった振分機構 437 に到達することとなり、特典領域 409V に遊技球が進入してしまうことを防止できる。

【0370】

また、確変予定の特別遊技状態と、時短予定の特別遊技状態とにおいて、いずれも上進入規制機構 454 と振分機構 437 とが同時に動作を開始する。これにより、時短予定の特別遊技状態であっても、振分機構 437 の動作によって、あたかも遊技球を特典領域 409V に進入させることができるかのような演出を実現することができる。

【0371】

また、上記のパチンコ機 100 において、移行先決定ラウンドが第 1 ラウンドに設定され

ている。このため、移行先決定ラウンドより前に、上進入規制機構 454 が動作するラウンドがなく、球噛みが発生した状態で移行先決定ラウンドが開始されることを抑制できる。なお、第 1 ラウンドを移行先決定ラウンドとする構成に限らず、特別遊技状態を構成する複数回のラウンドのいずれか 1 つ又は複数のラウンドで動作する構成としてもよい。また、確変予定の特別遊技状態と時短予定の特別遊技状態において、移行先決定ラウンドを同一のラウンドとする構成に限らず、それらの特別遊技状態で異なるラウンドを移行先決定ラウンドとする構成や、それらの特別遊技状態において実行される移行先決定ラウンドの回数が異なる構成としてもよい。確変予定の特別遊技状態において、移行先決定ラウンドを複数回行う場合には、各移行先決定ラウンドにおいて特典領域 409V に進入させることができる確率を異ならせる構成や、その確率を段階的に変化させる構成としてもよい。

10

【0372】

また、上記のパチンコ機 100 において、確変予定や時短予定の特別遊技状態において、上大入賞装置 434 のみを作動させる構成について説明したが、この構成に限らず、例えば、移行先決定ラウンドが上大入賞装置 434 で実行され、その他のラウンドの一部又は全部を下大入賞装置 433 で実行される構成としてもよい。このように、上大入賞装置 434 と下大入賞装置 433 との連携により、特別遊技状態の複数のラウンドが実行される構成であれば、他のラウンドの全部が下大入賞装置 433 で実行されることが好ましい。この場合、上大入賞装置 434 において、移行先決定ラウンドのみが実行されるために、他のラウンドにおいて上大入賞装置 434 で遊技球の球噛みが発生することを防止でき、

20

【0373】

また、上記のパチンコ機 100 において、移行先決定ラウンドより前に、他のラウンドが実行されない構成としているが、この構成に限らず、他のラウンドが実行される構成としてもよい。この場合、移行先決定ラウンドに先行する他のラウンドにて球噛みが発生し、球噛み連鎖通過に起因して確変予定の特別遊技状態において特典領域 409V に遊技球を進入させられなかったといった事態が発生し易くなるために、球噛みの発生又はその可能性を検出することでその事態を抑制する構成とすることが好ましい。

30

【0374】

球噛みの発生又はその可能性は、例えば、進入許容姿勢から進入禁止姿勢へ向かう上進入規制機構 454 の作動の停止後において、ステッピングモータの駆動軸の位置を検出することや、その停止から所定の時間が経過しても、上大入賞スイッチ 444 で遊技球が検出されること等によって認定することができる。

40

【0375】

なお、球噛み連鎖通過等の異常事態に対応可能な構成としては、上記した動作制御の構成に限らず、上記した動作制御の構成に代えて、または、上記した動作制御の構成に加えて、例えば、以下のような構成を付加して抑制したり、防止したりできる。例えば、移行先決定ラウンドの直前のラウンドの終了時に球噛みと認定されている場合に、遊技球の発射を停止するよう装飾図柄表示装置 479 で遊技者に報知し、その報知を、移行先決定ラウンドで初めて上進入規制機構 454 が進入可能姿勢や進入許容姿勢となるタイミングで解除する。このとき、移行先決定ラウンドまでの時間を延長して移行先決定ラウンドの開始を遅らせ、その開始後に、直前のラウンドで発射された遊技球が上進入規制機構 454 に到達してしまうことを防止したり、遊技球の発射の停止が確認されるまで移行先決定ラウンドが開始されないようにしたりしてもよい。また、移行先決定ラウンドの直前のラウンドの終了時に球噛みと認定されている場合に、移行先決定ラウンドを開始する前に、エラー制御を実行する構成としてもよい。

40

【0376】

<特典領域 409V へ遊技球が進入可能となるラウンドの演出>

次に、特典領域 409V（特定通路）へ遊技球が進入可能となるラウンド（移行先決定ラ

50

ウンド)の演出について、図13と共に、図25～図26を参照して説明する。

【0377】

特典領域409Vへ遊技球が進入可能となるラウンドの演出は、図13に示す左可動部材10(演出手段)及び右可動部材20(演出手段)と共に、図13に示す装飾図柄表示装置479(表示手段)によって実行される。ここで、特典領域409Vへ遊技球が進入可能となるラウンドは、第1特別図柄抽選や第2特別図柄抽選で第1の種類の当りに当選(所定の当選条件の成立)した場合に移行する複数回のラウンドで構成される確変予定の特別遊技状態(図23を参照して説明した確変予定の特別遊技状態と同一)における第1ラウンド(所定のラウンド)として発生する。この第1ラウンドにおいて、上進入規制機構454が進行可能状態へ移行して遊技球が振分機構437側へ進行し、振分機構437が進入可能状態となる期間(進入可能期間)において遊技球が特典領域409Vへ進入可能となる。

10

【0378】

特典領域409Vへ遊技球が進入可能となるラウンド(確変予定の特別遊技状態の第1ラウンド)の演出は、第1ラウンドが開始される前において、第1特別図柄抽選や第2特別図柄抽選で当選した大当りに対応する停止図柄の組合せの表示が装飾図柄表示装置479によってなされた後に実行される。また、その第1ラウンドの演出は、装飾図柄表示装置479とは別の左可動部材10(演出手段)及び右可動部材20(演出手段)による演出動作によって実行される。したがって、装飾図柄表示装置479による表示によって、その表示よりも後に左可動部材10及び右可動部材20の演出動作が実行されることを予告して遊技者の注意を喚起した上で、左可動部材10及び右可動部材20の演出動作を実行でき、その演出動作によって、特典領域409Vへ遊技球が進入可能となること(例えば、進入可能期間の開始や、進入可能期間に特典領域409Vへ遊技球を進入させるために遊技球を発射するタイミング)を遊技者に知らせることができる。

20

【0379】

具体的には、特典領域409Vへ遊技球が進入可能となるラウンドの演出は、確変予定の特別遊技状態の開始後(装飾図柄表示装置479による停止図柄の組合せの表示後)であって、第1ラウンドの開始前から始まる連続した演出とされる。また、その演出は、特典領域409Vへ遊技球が進入可能となる進入可能期間の開始後であって、特典領域409Vに遊技球が進入した場合に終わる。このため、その演出が進入可能期間の開始時を跨いで実行され、特典領域409Vへ遊技球が進入可能となることを進入可能期間の開始の直前に、又は、特典領域409Vへ遊技球が進入可能となったことを、進入可能期間の直後にタイミング良く遊技者に知らせることができる。また、その演出を、第1ラウンドの開始前から始めることで、第1ラウンドの開始時又はその後に始める場合に比べて、長く遊技者に楽しませることができる。また、その演出を、特典領域409Vに遊技球が進入した場合に終わらせることで、特別遊技状態の後に確変遊技状態へ移行することを、左可動部材10及び右可動部材20の演出動作によって確認することができる。

30

【0380】

なお、特典領域409Vへ遊技球が進入可能となるラウンドの演出が、第1ラウンドの開始前から始まる構成であるが、この構成に限らず、その演出は、第1ラウンドの開始時又は開始後に始まる構成としてもよい。また、特典領域409Vへ遊技球が進入可能となるラウンドの演出が、進入可能期間の開始後であって特典領域409Vに遊技球が進入した場合に終了する構成であるが、この構成に限らず、その演出は、特典領域409Vに遊技球が進入した否かに関わらず、進入可能期間から所定の時間後に終わる構成や、進入可能期間の終了時又はその後に終了する構成としてもよく、また、進入可能期間の前に終了する構成としてもよい。また、特典領域409Vへ遊技球が進入可能となるラウンドが、第1ラウンドに設定される構成としているが、この構成に限らず、特典領域409Vへ遊技球が進入可能となるラウンドは、確変予定の特別遊技状態を構成する複数回のラウンドのうち第1ラウンドとは異なるラウンドに設定される構成や、第1ラウンドを含む又は含まない2回以上のラウンドに設定される構成としてもよい。

40

50

【0381】

第1ラウンドが開始される前において装飾図柄表示装置479に表示される停止図柄の組合せとして、確変予定の特別遊技状態に移行する第1の種類の当たりとは別の第2の種類の当たりの場合にも表示される共通の停止図柄の組合せが含まれている。具体的には、第1特別図柄抽選や第2特別図柄抽選の抽選対象として、確変予定の特別遊技状態においては特典領域409Vへ遊技球が進入可能となるラウンドである所定回目のラウンド（第1ラウンド）が、特典領域409Vへ遊技球が進入可能ではない時短予定の特別遊技状態（図23を参照して説明した時短予定の特別遊技状態と同一）に移行する第2の種類の当たりが含まれている。また、第1の種類の当たりに当選した場合の選択対象である複数の停止図柄の組合せと、第2の種類の当たりに当選した場合の選択対象である複数の停止図柄の組合せとに、共通の停止図柄の組合せ（例えば、「333」の数字図柄の組合せ）が含まれている。このため、装飾図柄表示装置479に表示される停止図柄の組合せによっては、その表示後に、特典領域409Vへ遊技球が進入可能となるラウンドが実行されるか否かを判別不能にできる。これにより、遊技者は、左可動部材10及び右可動部材20の演出動作の発生に注目させることができ、また、その発生を期待しつつ遊技することができる。

10

【0382】

また、時短予定の特別遊技状態において、確変予定の特別遊技状態における特典領域409Vへ遊技球が進入可能となるラウンドの演出と途中まで同一である演出が実行される。このため、その演出の途中まで遊技者は確変予定の特別遊技状態であるか時短予定の特別遊技状態であるかを判別できず、遊技者は、時短予定の特別遊技状態であっても、その演出の共通部分が終了するまで期待を維持しつつ遊技することができる。

20

【0383】

特典領域409Vへ遊技球が進入可能となるラウンドの演出は、左可動部材10及び右可動部材20による演出動作のみならず、左可動部材10及び右可動部材20の発光や、装飾図柄表示装置479の表示をも援用して実行される。このため、その演出を左可動部材10及び右可動部材20による演出動作のみで実行する場合よりも、その演出を目立たせることができ、遊技者がその演出を見落とすことを抑制できる。

【0384】

特典領域409Vへ遊技球が進入可能となるラウンドの演出に用いられる左可動部材10と右可動部材20とは、互いに離間して配置される離間姿勢（図13において一点鎖線で示す姿勢）と、離間姿勢よりも近接する位置に配置される近接姿勢（図13において実線で示す姿勢）との間で移動可能である。

30

【0385】

具体的には、遊技盤400には、左可動部材10の左上側に設けられた回転軸（図示せず）の周りに左可動部材10を回転させることを可能とする左回転機構（図示せず）と、左回転機構を駆動する左回転駆動モータ（図示せず）とが設けられている。また、遊技盤400には、回転軸と共に左可動部材10を斜め方向に移動させることを可能とする左斜め移動機構（図示せず）と、左斜め移動機構を駆動する左斜め移動駆動モータ（図示せず）とが設けられている。左可動部材10を左回転駆動モータの順方向の回転により所定の角度（例えば、43度）だけ回転させ、かつ、左斜め駆動モータの順方向の回転により所定の距離だけ右斜め上方に移動させることで、左可動部材10は、上下方向を向く離間姿勢から右斜め下方向を向く近接姿勢に変化する。

40

【0386】

また、遊技盤400には、右可動部材20の右下側に設けられた回転軸（図示せず）の周りに右可動部材20を回転させることを可能とする右回転機構（図示せず）と、右回転機構を駆動する右回転駆動モータ（図示せず）とが設けられている。また、遊技盤400には、回転軸と共に右可動部材20を斜め方向に移動させることを可能とする右斜め移動機構（図示せず）と、右斜め移動機構を駆動する右斜め移動駆動モータ（図示せず）とが設けられている。右可動部材20を右回転駆動モータの順方向の回転により左可動部材10

50

と同一の角度（例えば、43度）だけ回転させ、かつ、右斜め駆動モータの順方向の回転により左可動部材10と同一の距離だけ左斜め下方に移動させることで、右可動部材20は、上下方向を向く離間姿勢から左斜め上方向を向く近接姿勢に変化する。

【0387】

左可動部材10と右可動部材20とは、近接姿勢において、それらの長手方向が同一方向に傾斜し、所定の間隔以下で近接する配置をとる。また、左可動部材10と右可動部材20とは、左回転駆動モータと左斜め駆動モータとを逆方向に回転させ、また、右回転駆動モータと右斜め駆動モータとを逆方向に回転させることで、近接姿勢から離間姿勢へと変化する。なお、左可動部材10や右可動部材20の回転や斜め移動には個別のモータからの動力を個別の機構によって伝達し、それらの動作を独立して行える構成であるが、この構成に限らず、例えば、左回転機構と左斜め移動機構とが連結されておりそれらを単一のモータで駆動する構成や、左回転機構と右回転機構とが連結されておりそれらを単一のモータで駆動する構成としてもよい。

10

【0388】

左可動部材10には、その背面側に全体に亘って点在させた多数の発光素子と、左可動部材10の長手方向に沿って一列に配置した複数の発光素子19が設けられる。また、右可動部材20にも、その背面側に全体に亘って点在させた多数の発光素子と、右可動部材20の長手方向に沿って一列に配置した複数の発光素子29が設けられる。

【0389】

以下において、確変予定の特別遊技状態においては特典領域409Vへ遊技球が進入可能であるが、時短予定の特別遊技状態においては特典領域409Vへ遊技球が進入可能でない第1ラウンドにおける左可動部材10及び右可動部材20の演出動作の制御や、装飾図柄表示装置479による表示の制御について、図25及び図26を参照して説明する。

20

【0390】

図25は、特典領域409Vへ遊技球が進入可能となるラウンド（第1ラウンド）における演出の制御を示すタイミングチャートである。なお、図25において、上側部分に、確変予定の特別遊技状態における演出の制御を示すと共に、下側部分に、時短予定の特別遊技状態における演出の制御であって確変予定の特別遊技状態と相違する制御を示す。また、図25において、ラウンドの後半の制御を省略すると共に、特別遊技状態が開始される直前の装飾図柄による図柄の変動表示の期間（図柄変動期間）の一部の制御を示す。

30

【0391】

図26は、特典領域409Vへ遊技球が進入可能となるラウンド（第1ラウンド）における演出の推移を模式的に示す説明図である。図26（A）は、確変予定の特別遊技状態と時短予定の特別遊技状態とで共通の殻割り演出の開始直後（図25の時刻tc2直後）を示し、図26（B）は、殻割り演出中（図25の時刻tc5直後）を示し、図26（C）は、確変予定の特別遊技状態における宝出現演出の開始直後（図25の時刻tc8直後）を示し、図26（D）は、時短予定の特別遊技状態における殻割れず演出の開始直後（図25の時刻td8直後）を示す。

【0392】

第1特別図柄抽選や第2特別図柄抽選により第1の種類の大きりに当選した単位遊技において、図25に示すように、装飾図柄表示装置479における装飾図柄による変動表示（図25において変動演出）の後に、第1の種類の大きりに対応する停止図柄の組合せが確定表示される。これにより、図柄変動期間が終了する。このとき、装飾図柄表示装置479に表示される停止図柄の組合せは、確変予定の特別遊技状態に移行する第1の種類の大きりと、時短予定の特別遊技状態に移行する第2の種類の大きりとで共通で選択可能な停止図柄の組合せであり、この停止図柄の組合せによってはいずれの特別遊技状態に移行するのかを遊技者は判別できないとして説明する。装飾図柄表示装置479による変動表示や確定表示は、主制御基板920からの指示に基づき、副制御基板940によって実行される。具体的には、主制御基板920は、第1特別図柄抽選や第2特別図柄抽選の抽選結果、変動表示や確定表示の開始のタイミングなどを副制御基板940に通知し、副制御基

40

50

板 9 4 0 は、通知された抽選結果に基づいて装飾図柄による変動表示や確定表示の具体的な内容を決定し、それらの表示の進行を、通知された変動表示や確定表示の開始のタイミングに基づいて、第 1 特別図柄や第 2 特別図柄の変動表示や確定表示と同期させて管理する。

【 0 3 9 3 】

装飾図柄表示装置 4 7 9 において装飾図柄による停止図柄の組合せが表示された後の時刻 $t c 1$ に、確変予定の特別遊技状態が開始される。具体的には、役連作動スイッチ 4 4 5 により遊技球が検出された場合に、確変予定の特別遊技状態が開始される。確変予定の特別遊技状態の開始により、装飾図柄表示装置 4 7 9 において、特別遊技状態の開始を示すオープニング演出（図 2 5 における O P 演出）が開始される。確変予定の特別遊技状態において、その開始から第 1 ラウンドの開始までの間に、所定の期間（図 2 5 におけるオープニング期間）が設けられている。

10

【 0 3 9 4 】

オープニング期間中であって、オープニング演出が終了する時刻 $t c 2$ に、左可動部材 1 0 及び右可動部材 2 0 の演出動作と共に、その動作に連携する装飾図柄表示装置 4 7 9 における表示を伴う演出が開始される。具体的には、左可動部材 1 0 と右可動部材 2 0 とが、装飾図柄表示装置 4 7 9 に表示された宝卵 4 8 2 の殻を挟んで割るかのように見せる演出（図 2 6（A）及び図 2 6（B）参照：以下において、殻割りミッション演出とも称す）が開始される。殻割りミッション演出（時刻 $t c 1$ ～時刻 $t c 1 0$ ，時刻 $t d 1$ ～時刻 $t d 1 0$ ）において、宝卵 4 8 2 の殻を割ろうとする殻割り演出（時刻 $t c 1$ ～時刻 $t c 8$ ，時刻 $t d 1$ ～時刻 $t d 8$ ）に引き続き、宝卵 4 8 2 の殻が割れて宝 4 8 3 が出現した場合の宝出現演出（時刻 $t c 8$ ～時刻 $t c 1 0$ ）、又は、宝卵 4 8 2 の殻が割れない場合の殻割れず演出（時刻 $t d 8$ ～時刻 $t d 1 0$ ）が実行される。殻割り演出は、確変予定の特別遊技状態と時短予定の特別遊技状態とに共通で実行されるが、宝出現演出は、確変予定の特別遊技状態で実行され、一方、殻割れず演出は、時短予定の特別遊技状態で実行される。このため、殻割り演出における左可動部材 1 0 及び右可動部材 2 0 の演出動作は、特典領域 4 0 9 V へ遊技球が進入可能となるか否かを示唆し、宝出現演出の表示と宝出現演出における左可動部材 1 0 及び右可動部材 2 0 の演出動作は、特典領域 4 0 9 V へ遊技球が進入可能となることを明確に遊技者に知らせる動作となる。

20

【 0 3 9 5 】

殻割り演出の開始に伴い、左可動部材 1 0 を回転させる左回転駆動モータ（図 2 5 の回転駆動モータ）と、右可動部材 2 0 を回転させる右回転駆動モータ（図 2 5 の回転駆動モータ）とが順方向の回転を開始する。殻割りミッション演出の全体に亘り、左可動部材 1 0 を回転させる場合には、右可動部材 2 0 も、左可動部材 1 0 と同一の回転角度だけ、離間姿勢の場合となす角（回転後の左可動部材 1 0 や右可動部材 2 0 の長手方向と離間姿勢の場合の長手方向となす角）の増減が同一となる方向に、同時に回転させる制御が実行される。したがって、以下において、左回転駆動モータと右回転駆動モータとを識別することなく、図 2 5 に示すように、それらを纏めて回転駆動モータと称して説明する。

30

【 0 3 9 6 】

回転駆動モータは、副制御基板 9 4 0 によって制御される。具体的には、副制御基板 9 4 0 の R O M には、順方向の回転（図 2 5 における順回転）、逆方向の回転（図 2 5 における逆回転）又は回転の停止（図 2 5 における停止）を指定する回転駆動情報が、それらの動作を切り替えるタイミング（例えば、順方向の回転を指定する時刻 $t c 2$ 及び時刻 $t c 5$ ；逆方向の回転を指定する時刻 $t c 6$ 、停止を指示する時刻 $t c 3$ 、時刻 $t c 7$ ）と関連づけて記憶されている。

40

【 0 3 9 7 】

また、副制御基板 9 4 0 の R A M には、演出時間の経過を計測する演出タイマの値を記憶している。演出タイマの値は、主制御基板 9 2 0 からの特別遊技状態の開始（オープニング期間の開始）や各ラウンドの開始の通知に応じて、オープニング期間や各ラウンドの最大継続時間（最大継続時間 T A，最大継続時間 T I）に対応する値に設定され、一定間隔

50

(例えば、2ms)で1ずつ減少するように更新される。このため、演出タイマは、副制御基板940において演出時間の経過を計測するが、主制御基板920からの適宜の通知(特別遊技状態の開始や各ラウンドの開始の通知)に基づいて設定されるために、主制御基板920と同期させることができる。

【0398】

副制御基板940は、演出タイマの値に基づいて、左回転駆動モータや右回転駆動モータの動作を切り替えるタイミングを判定し、そのタイミングに関連付けられた回転駆動情報に基づいて、左回転駆動モータや右回転駆動モータを順方向に回転させたり、逆方向に回転させたり、停止させたりする。

【0399】

また、殻割り演出の開始に伴い、装飾図柄表示装置479において、回転している左可動部材10の上端に沿って転がるように宝卵482が出現する表示が行われる。

【0400】

殻割り演出が開始される時刻tc2から所定の時間(例えば、0.2秒)後であって、オープニング期間中(第1ラウンドの開始前)である時刻tc3に、回転駆動モータの回転が停止され、左可動部材10及び右可動部材20の回転が停止する。これにより、図26(A)に示すように、左可動部材10と右可動部材20とは、離間姿勢とのなす角が、離間姿勢と近接姿勢とのなす角(例えば、43度)よりも小さい角度(例えば、38度)である姿勢をとる。このとき、左可動部材10や右可動部材20は、その大部分が装飾図柄表示装置479の表示部479aの前側に配置される。また、装飾図柄表示装置479において、左可動部材10の上端に沿って転がってきた宝卵482が、左可動部材10の可動側端部(回転軸側とは反対側の端部)と右可動部材20の可動側端部とで挟まれて固定されるような表示が行われる。

【0401】

時刻tc3から所定の時間(例えば、0.1秒)後であって、オープニング期間中(第1ラウンドの開始前)である時刻tc4に、回転駆動モータが順方向の回転を開始する。また、回転駆動モータは、時刻tc4から所定の時間(例えば、0.1秒)後の時刻tc5に逆方向の回転に切り替わり、更に、時刻tc5から所定の時間(例えば、0.1秒)後の時刻tc6に停止する。時刻tc4から時刻tc6の回転駆動モータの動作によって、左可動部材10と右可動部材20とは、離間姿勢とのなす角が、図26(A)に示す宝卵482を挟む姿勢の場合よりも大きく、離間姿勢と近接姿勢とのなす角と同一の角度である図26(B)に示す姿勢へと変化した後に、宝卵482を挟む姿勢に戻る。また、装飾図柄表示装置479において、図26(B)に示すように、左可動部材10と右可動部材20との姿勢変化で可動側端部の間隔が狭くなるにつれて、左可動部材10と右可動部材20とで宝卵482が圧迫されて変形する表示が行われ、その後、宝卵482が挟まれた元の形に戻る表示が行われる。また、左可動部材10と右可動部材20とが宝卵482を圧迫する姿勢をとる場合に、図26(B)に示すように、宝卵482にひびが入る表示が行われる。

【0402】

時刻tc6の後に、図25に示すように、時刻tc4から時刻tc6で実行される回転駆動モータの動作が、所定の時間(例えば、0.2秒)を隔てて、第1ラウンドの開始後の時刻tc8まで繰り返され、第1ラウンドの開始後に殻割り演出が終了する。これにより、左可動部材10と右可動部材20とが、あたかも、装飾図柄表示装置479に表示された宝卵482を割ろうとして、宝卵482を圧迫しているかのように見せる演出を行える。また、装飾図柄表示装置479において、左可動部材10と右可動部材20との動作回数が多くなるほど、宝卵482に入るひびが大きくなる表示が行われる。これにより、宝卵482が割れて進入可能期間が発生することへの期待感を増幅することができる。

【0403】

なお、殻割り演出において、回転駆動モータが、一定の時間間隔で左可動部材10と右可動部材20との間隔を狭めたり広げたりさせる動作を繰り返す構成であるが、この構成に

10

20

30

40

50

限らず、回転駆動モータは、例えば、繰り返し回数が増加するにつれて繰り返しの時間間隔が短くなる等、繰り返しの時間間隔を異ならせて左可動部材 10 と右可動部材 20 との間隔を狭めたり広げたりさせる動作を繰り返す構成としてもよい。また、例えば、回転駆動モータは、繰り返し回数が増加するにつれ、左可動部材 10 と右可動部材 20 とが宝卵 482 を挟む姿勢に維持される時間が長くなる等、回転駆動モータが順方向の回転から逆方向の回転への切り替えの間に回転駆動モータを停止させる時間を設け、その時間を繰り返し回数によって変化させた動作を繰り返す構成としてもよい。また、殻割り演出において、回転駆動モータは、左可動部材 10 と右可動部材 20 との間隔を狭めたり広げたりさせる動作を遊技者の意思に関わらず自動的に実行する構成であるが、パチンコ機 100 に既存の押圧操作装置 261 の操作等又は新たに設けられる装置に対する遊技者の入力操作に依りて、その動作を実行する構成としてもよい。例えば、時刻 t_{c4} ～時刻 t_{c8} の期間が押圧操作装置 261 に対する遊技者の入力操作が可能な期間（操作可能期間）として設けられ、その期間における入力操作の回数が規定の回数以上となった場合に、殻割り演出が終了する構成としてもよい。

10

【0404】

殻割り演出の途中の時刻 t_1 において、ラウンド中フラグがオン状態となり、第 1 ラウンドが開始される。ラウンド中フラグについては、図 23 を参照した上記の説明を参照することとし、その概要について説明する。ラウンド中フラグは、確変予定の特別遊技状態にあっては所定の最大継続時間 T_A の後に、また、時短予定の特別遊技状態にあっては所定の最大継続時間 T_I の後に、オフ状態となり、第 1 ラウンドが終了する。また、上大入賞スイッチ 444 で検出される遊技球の個数が規定数となった場合には、最大継続時間 T_A の経過前であってもオフ状態となり、第 1 ラウンドが終了する。

20

【0405】

また、第 1 ラウンドが開始されると、上進入規制機構 454 が進入禁止姿勢から進入許容姿勢への姿勢変化を開始する。上進入規制機構 454 の動作については、図 23 を参照した上記の説明を参照することとし、その概要について説明する。上進入規制機構 454 は、第 1 ラウンドが開始される時刻 t_1 の後、時刻 t_3 に進入可能姿勢を経て、時刻 t_4 に進入許容姿勢となる。その後、上進入規制機構 454 は、時刻 t_5 に進入許容姿勢から進入禁止姿勢への姿勢変化を開始し、進入可能姿勢を経て進入禁止姿勢に戻る。このため、上進入規制機構 454 は、概ね時刻 t_3 ～時刻 t_5 （時間 T_E + 時間 T_F ）において進行可能状態をとる。また、上進入規制機構 454 は、概ね時刻 t_6 ～時刻 t_7 において進行可能状態をとり、更に、図示しないが、時刻 t_6 ～時刻 t_7 における進入可能状態と同様に、所定の時間 T_K を隔てて、所定回数だけ進行可能状態をとる（図 23 参照）。

30

【0406】

また、第 1 ラウンドが開始されると、振分機構 437 が非誘導姿勢から誘導姿勢への姿勢変化を開始する。振分機構 437 の動作については、図 23 を参照した上記の説明を参照することとし、その概要について説明する。第 1 ラウンドが開始される時刻 t_1 の直後に、誘導可能姿勢を経て誘導姿勢となる。時刻 t_1 から所定の時間 T_C 後の時刻 t_2 に、振分機構 437 は、誘導姿勢から非誘導姿勢への姿勢変化を開始し、誘導可能姿勢を経て非誘導姿勢に戻る。振分機構 437 は、概ね時刻 t_1 ～時刻 t_2 において進入可能状態となるが、この進入可能状態をとる期間に案内通路 494 を通して遊技球が案内されることはなく、この期間は、特典領域 409V へ遊技球が進入可能な状態ではなく、進入可能期間とはならない。

40

【0407】

また、時刻 t_2 から所定の時間 T_D 後に、振分機構 437 は、再度、非誘導姿勢から誘導姿勢への姿勢変化を開始する。その後、所定の時間（図 23 における時間 T_G ）後に、誘導姿勢から非誘導姿勢への姿勢変化を開始し、誘導可能姿勢を経て非誘導姿勢に戻る。このため、振分機構 437 は、時刻 t_4 直後から 2 回目の進入可能状態となる。この 2 回目の進入可能状態である期間には、上進入規制機構 454 が進行可能状態である場合に案内通路 494 に進入した遊技球が進行してくるため、この 2 回目の進入可能状態である期間

50

は、特典領域 4 0 9 V へ遊技球が進入可能であり、進入可能期間となる。

【 0 4 0 8 】

時刻 t_{c8} において、回転駆動モータが順方向の回転を開始する。このため、図 2 6 (C) に示すように、左可動部材 1 0 と右可動部材 2 0 とは、宝卵 4 8 2 を挟む姿勢から宝卵 4 8 2 を圧迫する姿勢へと変化する。また、装飾図柄表示装置 4 7 9 において、宝卵 4 8 2 が割れて宝 4 8 3 (図中はダイヤモンド) が出てくる宝出現演出の表示が開始される。この宝出現演出における宝 4 8 3 の表示が、確変移行の特別遊技状態への移行に対応し、装飾図柄表示装置 4 7 9 において、第 1 の種類の大当りに当選したことが判り易く明示される。宝 4 8 3 が表示された後、装飾図柄表示装置 4 7 9 において左可動部材 1 0 と右可動部材 2 0 との間から宝 4 8 3 が移動する表示が行われる。

10

【 0 4 0 9 】

また、宝出現演出の開始時期において、右打ち遊技手法の開始を遊技者に促すために、装飾図柄表示装置 4 7 9 において、右打ち遊技手法で遊技を行うことを指示する操作情報 (例えば、図 2 6 (A) 等における表示部 4 7 9 a の右上の「右打ち」) が表示される。この操作情報の表示は、必ずしも宝出現演出の開始時期において表示される必要はなく、殻割り演出中においても操作情報が表示される構成としてもよい。

【 0 4 1 0 】

ここで、宝出現演出において、宝卵 4 8 2 からはその種類や色や大きさや個数が異なる宝 4 8 3 を出現させる表示を実行するが、それらの宝 4 8 3 が出現する割合は、背面設定スイッチ 9 0 5 および初期化スイッチ 9 0 7 の操作により設定可能な 3 段階の確率状態によって異ならせている。このため、宝卵 4 8 2 から出現した宝によって現在設定されている確率状態を示唆することができ、遊技者は、現在設定されている確率状態を推測することができる。なお、宝卵 4 8 2 から出現する宝 4 8 3 によって確率状態を示唆する構成であるが、この構成に限らず、例えば、プレミアム演出を発生させるといった特典を得るためのポイントを付与する構成としてもよい。また、宝出現演出が進入可能期間の開始を知らせると共に、確率状態を示唆する構成であるが、確率状態を示唆する構成は必ずしも必要な構成ではない。

20

【 0 4 1 1 】

左可動部材 1 0 と右可動部材 2 0 との間から宝 4 8 3 が移動する表示が行われた後の時刻 t_{c9} に、左可動部材 1 0 を右上側に移動させる左斜め移動駆動モータ (図 2 5 の斜め移動駆動モータ) と、右可動部材 2 0 を左下側に移動させる右斜め移動駆動モータ (図 2 5 の斜め移動駆動モータ) とが順方向の回転を開始する。タイマ殻割りミッション演出の全体に亘り、左可動部材 1 0 を斜め移動させる場合には、右可動部材 2 0 も、左可動部材 1 0 と同一の移動量だけ、離間姿勢に対して遠ざかる方向及び近づく方向のうち左可動部材 1 0 と同一の方向に、同時に移動させる制御が実行される。したがって、以下において、左斜め移動駆動モータと右斜め移動駆動モータとを識別することなく、図 2 5 に示すように、それらを纏めて斜め移動駆動モータと称して説明する。

30

【 0 4 1 2 】

移動駆動モータは、副制御基板 9 4 0 によって制御される。具体的には、副制御基板 9 4 0 の ROM には、順方向の回転 (図 2 5 における順回転) 、逆方向の回転 (図 2 5 における逆回転) 又は回転の停止 (図 2 5 における停止) を指定する斜め移動駆動情報が、それらの動作を切り替えるタイミング (例えば、順方向の回転を指定する時刻 t_{c9} ; 逆方向の回転を指定する時刻 t_{c11} ; 停止を指定する時刻 t_{c8} 及び時刻 t_{c12}) と関連づけて記憶されている。

40

【 0 4 1 3 】

時刻 t_{c9} から所定の時間 (例えば、0.2 秒) 後であって、上進入規制機構 4 5 4 が進行可能状態となる時刻 t_3 と略同じ時刻 t_{c10} に、斜め移動駆動モータが停止する。このため、左可動部材 1 0 と右可動部材 2 0 とが、近接姿勢となる。この近接姿勢において、左可動部材 1 0 と右可動部材 2 0 とは、遊技領域 4 0 9 へ遊技球が流下する入口部分 4 0 9 E から特典領域 4 0 9 V へ向かう方向側へ連続する配置 (特典領域指示配置) をとる

50

。これにより、特典領域 409V に遊技球が進入可能なことを遊技者に知らせることができる。左可動部材 10 と右可動部材 20 とが近接姿勢となることで、宝出現演出が終了し、殻割りミッション演出も終了する。なお、殻割りミッション演出が、左可動部材 10 や右可動部材 20 の演出動作と装飾図柄表示装置 479 における表示とで実行される構成であるが、この構成に限らず、殻割りミッション演出は、左可動部材 10 及び右可動部材 20 の少なくとも一方の演出動作のみで実行される構成や、左可動部材 10 及び右可動部材 20 の少なくとも一方の演出動作に代えて又は加えて、パチンコ機 100 に既存の又は新たに設けられる別の可動部材の動作で実行される構成としてもよい。左可動部材 10 や右可動部材 20 とは別の可動部材を用いる場合には、遊技盤 400 に設けられる可動部材のみならず、例えば、前ブロック 102 に設けられる可動部材を動作させる構成であってもよい。また、殻割りミッション演出は、左可動部材 10 及び右可動部材 20 の少なくとも一方の演出動作と共に、装飾図柄表示装置 479 の表示に代えて又は加えて、装飾図柄表示装置とは別のパチンコ機 100 に既存の又は新たに設けられる装置による表示や、既存の枠発光装置 271～275（図 10 参照）や盤面発光装置 490 等又は新たに設けられる装置による発光や、既存の音響装置 281, 282（図 3 参照）や新たに設けられる装置による音響で実行される構成としてもよい。

10

【0414】

殻割りミッション演出の終了に伴って、引き続き、特典領域 409V に遊技球を進入させるように遊技球の発射操作をすることを、文字情報を用いて具体的に指示する特定発射操作演出としての V を狙え演出が開始される。V を狙え演出が開始されると、左可動部材 10 と右可動部材 20 とが近接姿勢をとる状態のままで、装飾図柄表示装置 479 において、特典領域 409V に遊技球を進入させるように文字で指示する表示が行われる。この V を狙え演出は、特典領域 409V に進入した遊技球を検出する特定通路スイッチ 448 によって遊技球が検出されるまで継続される。特定発射操作演出の開始時期は、特典領域 409V に遊技球が進入可能な期間（時間 TE）の開始と同時であってもよいし、その時間 TE の開始後であってもよい。なお、特定発射操作演出の開始時期を、時間 TE の開始前としてもよいが、少なくとも時短移行の特別遊技状態であることが振分機構 437 の動作で確認可能となる時間 TJ の経過後とすることが好ましい。

20

【0415】

V を狙え演出の開始後の時刻 tc11 に、特定通路スイッチ 448 によって特典領域 409V へ進入した遊技球が検出されると、斜め移動駆動モータが逆方向の回転を開始すると共に、回転駆動モータも逆方向の回転を開始する。このため、左可動部材 10 と右可動部材 20 とは、近接姿勢から離間姿勢への姿勢変化を開始する。斜め移動駆動モータについては tc11 から所定の時間（例えば、0.2 秒）後の時刻 tc12 に、回転駆動モータについては tc11 から所定の時間（例えば、0.2 秒）後の時刻 tc13 に、逆方向の回転が停止される。これにより、時刻 tc13 以降、左可動部材 10 と右可動部材 20 とは近接姿勢に維持される。

30

【0416】

ここで、左可動部材 10 や右可動部材 20 の発光形態について説明する。左可動部材 10 や右可動部材 20 は、殻割り演出や宝出現演出や V を狙え演出等の各種の演出の進行に応じた形態で発光する。

40

【0417】

左可動部材 10 や右可動部材 20 が離間姿勢から宝卵 482 を挟む姿勢への変化を開始する時刻 tc2 から左可動部材 10 と右可動部材 20 とが宝卵 482 を圧迫するような動作を開始する前の時刻 tc4 までの期間において、左可動部材 10 の背面側に全体に亘って点在させた多数の発光素子（図示せず）と、右可動部材 20 の背面側に全体に亘って点在させた多数の発光素子（図示せず）とが点灯する。このため、左可動部材 10 や右可動部材 20 は、それらの全面が点灯する形態（図 25 における点灯）で発光する。

【0418】

また、左可動部材 10 と右可動部材 20 とが宝卵 482 を圧迫するような動作を開始する

50

前の時刻 t_{c4} からその繰り返しの動作を終了する時刻 t_{c8} までの期間においては、左可動部材 10 と右可動部材 20 とが宝卵 482 を挟む姿勢よりも近づいた姿勢をとっている場合に、左可動部材 10 と右可動部材 20 との背面側に全体に亘って点在させた多数の発光素子が点灯する。このため、左可動部材 10 や右可動部材 20 は、それらの全面が動作に合わせて点滅する形態（図 25 における可動部材連動の点滅）で発光する。

【0419】

また、宝出現演出が実行される時刻 t_{c8} から時刻 t_{c10} までの期間において、左可動部材 10 と右可動部材 20 との背面側に全体に亘って点在させた多数の発光素子が所定の間隔（例えば、0.1 秒）で点灯する。このため、左可動部材 10 や右可動部材 20 は、それらの全面が点滅する形態（図 25 における高速点滅）で発光する。

10

【0420】

また、V を狙え演出が実行される時刻 t_{c10} から時刻 t_{c11} までの期間において、左可動部材 10 と右可動部材 20 との長手方向に沿って一列に配置した複数の発光素子 29 が、左可動部材 10 の回転軸側端部から可動側端部に向けて順次に点灯し、それに引き続き、右可動部材 20 の可動側端部から回転軸側端部に向けて順次に点灯する。このため、左可動部材 10 の回転軸側端部から特典領域 409V の近傍に位置する右可動部材 20 の回転軸側端部に向けて光が流れる形態（図 25 における流れ点滅）で発光する。

【0421】

ここで、時短予定の特別遊技状態における演出について説明する。時短予定の特別遊技状態において、時刻 t_{d1} ～時刻 t_{d8} までは、確変予定の特別遊技状態における時刻 t_{c1} ～時刻 t_{c8} までと同一の演出が実行される。

20

【0422】

上進入規制機構 454 は、時短予定の特別遊技状態の第 1 ラウンドが開始される時刻 t_{b1} に、進入禁止姿勢から進入許容姿勢への姿勢変化を開始する。上進入規制機構 454 は、時刻 t_{b3} の直後に進入可能姿勢を経て、進入許容姿勢となる。その後、上進入規制機構 454 は、時刻 t_{b4} に進入許容姿勢から進入禁止姿勢への姿勢変化を開始し、進入可能姿勢を経て、進入禁止姿勢に戻る。このため、上進入規制機構 454 は、概ね時刻 t_{b3} ～時刻 t_{b5} （時間 T_F ）において進行可能状態をとる。

【0423】

また、振分機構 437 は、振分機構 437 は、確変予定の特別遊技状態と同様に、概ね時刻 t_{b1} ～時刻 t_{b2} において進入可能状態となるが、この進入可能状態である期間に案内通路 494 を通して遊技球が案内されることはなく、この進入可能状態である期間は、特典領域 409V へ遊技球を進入可能な期間（進入可能期間）とはならない。また、振分機構 437 は、最大継続時間 T_I が確変予定の特別遊技状態のような時刻 t_4 以降の 2 回目の進入可能状態が発生するまでの時間よりも短く設定されているため、2 回目の進入可能状態をとることはない。したがって、時短予定の特別遊技状態の第 1 ラウンドにおいて、特典領域 409V に遊技球を進入可能な期間（進入可能期間）は発生しない。

30

【0424】

時刻 t_{d8} において、確変予定の特別遊技状態と同様に、回転駆動モータが順方向の回転を開始する。このため、左可動部材 10 と右可動部材 20 とは、宝卵 482 を挟む姿勢から宝卵 482 を圧迫する姿勢へと変化する。これにより、殻割れず演出が開始される。しかし、確変予定の特別遊技状態とは異なり、図 26（D）に示すように、装飾図柄表示装置 479 において、宝卵 482 が割れず、図 26（C）に示す宝 483（図中はダイヤモンド）が出てこない表示が開始される。

40

【0425】

時刻 t_{d8} から所定の時間（例えば、0.1 秒）後の時刻 t_{d13} に、回転駆動モータが逆方向の回転を開始する。これにより、左可動部材 10 と右可動部材 20 とは、宝卵 482 を圧迫する姿勢から、宝卵 482 を挟む姿勢を通り越して、姿勢離間姿勢への姿勢変化を開始する。また、装飾図柄表示装置 479 において、宝卵 482 が圧迫されるが割れず、あたかも宝卵 482 が左可動部材 10 と右可動部材 20 とを跳ね除けるように元の形に

50

戻る表示が行われる。また、左可動部材 10 と右可動部材 20 との姿勢離間姿勢への姿勢変化により、宝卵 482 の支えがなくなり落下するような表示が行われる。殻割れず演出は、装飾図柄表示装置 479 において左可動部材 10 と右可動部材 20 との間から宝卵 482 が下方に移動する表示が行われた後であって、第 1 ラウンド中の時刻 t_{c10} に終了する。

【0426】

また、殻割れず演出が実行される時刻 t_{c8} から時刻 t_{c10} までの期間において、左可動部材 10 と右可動部材 20 との背面側に全体に亘って点在させた多数の発光素子が、確変予定の特別遊技状態における宝出現演出の場合よりも長い所定の間隔（例えば、0.5 秒）で点灯する。このため、左可動部材 10 や右可動部材 20 は、それらの全面が宝出現演出の場合より低頻度で点滅する形態（図 25 における低速点滅）で発光する。

10

【0427】

なお、殻割れず演出が第 1 ラウンドの途中で終了する構成であるが、この構成に限らず、殻割れず演出は、第 1 ラウンドの終了と同時に（時刻 t_{b10} ）に終了する構成や、第 1 ラウンド後に終了する構成としてもよい。殻割れず演出が第 1 ラウンド後に終了する構成の場合には、殻割れず演出は、第 2 ラウンドの開始前までに終了することが好ましい。

【0428】

殻割れず演出の後の時刻 t_{d10} から時刻 t_{d14} まで、装飾図柄表示装置 479 において、進入可能期間が発生しないことを示す残念演出が実行される。残念演出が開始されると、装飾図柄表示装置 479 において、進入可能期間が発生しないことを示す表示（例えば、残念との文字表示）が行われる。また、特別遊技状態の開始時から右打ち遊技手法による遊技を促す流下位置情報（図 26（D）の右上の「右打ち」）が表示されているが、残念演出が開始された場合に、その流下位置情報の表示は、線幅を太くしたり、大きくしたり、点滅させたりする等、強調して表示される。これにより、結果に落胆して遊技球の発射を停止してしまったり、遊技球の発射を停止して結果を見守っていた場合に遊技球の発射を再開せず又は発射が遅れてしまったりすることで、第 2 ラウンド以降で不利益を受けないように、遊技者に注意を喚起することができる。

20

【0429】

以上で説明したパチンコ機 100 によれば、確変予定の特別遊技状態において第 1 ラウンドが開始されて進入可能期間へ移行する場合に、装飾図柄表示装置 479 によって、確変予定の特別遊技状態の第 1 ラウンドの開始前に所定の表示情報（宝 483）が表示され、その表示後に所定の演出動作（近接姿勢への変化）が行われる。そして、所定の演出動作の後には、特典領域 409V に遊技球が進入し、確変遊技状態へと移行する。このため、進入可能期間を生じる確変予定の特別遊技状態が発生する場合において、装飾図柄表示装置 479 による宝 483 の表示により、予告として左可動部材 10 や右可動部材 20 の演出動作が生じることを遊技者に知らせて、左可動部材 10 や右可動部材 20 の近接姿勢への変化によって、特典領域 409V へ遊技球が進入可能となったことを遊技者に知らせることが可能になる。したがって、左可動部材 10 や右可動部材 20 の所定の演出動作を見逃して、特典領域 409V に遊技球を進入させて確変遊技状態を発生させる機会を失うといった不具合の発生を抑制することが可能になる。また、動作による左可動部材 10 や右可動部材 20 の報知の方が、表示による装飾図柄表示装置 479 の報知よりも目立たせることが可能になり、特典領域 409V へ遊技球が進入可能となる機会を遊技者が見逃してしまう事態の発生を抑制できる。

30

40

【0430】

また、特典領域 409V へ遊技球が進入可能な状況は、装飾図柄表示装置 479 による所定の表示情報の表示と、その表示情報の表示後における装飾図柄表示装置 479 より遊技者に近い前側に配置される可動部材 10, 20 の姿勢変化とによって遊技者に示される。このため、特典領域 409V へ遊技球が進入可能な状況が時間的に近づいていることを、遊技者に近い部材（装置）を用いて、より判り易く遊技者に示唆することができる。

【0431】

50

＜特典領域４０９Ｖへ遊技球を好適に進入させることが可能な演出＞

次に、特典領域４０９Ｖへ遊技球を好適に進入させることが可能な演出について、図５と共に、図２７～図３１を参照して説明する。特典領域４０９Ｖへ遊技球を進入させることが可能な場合に実行される演出の一種として、後述する右入力操作装置８０１Ｒの右入力レバー８１０Ｒを遊技者が操作することで演出に参加可能な片手参加型の演出が実行される。片手参加型の演出においては、遊技者が発射操作装置２５０による発射操作を操作している手を右入力レバー８１０Ｒへ移動することで、右入力レバー８１０Ｒの操作を行い易く構成される。

【０４３２】

片手参加型の演出は、特典領域４０９Ｖへ遊技球が進入可能な状態となるラウンドの実行中であって進入可能期間となる前に実行される。片手参加型の演出が実行されると、遊技者が発射操作をしない可能性が高まり、発射操作がされない分、遊技球が振分機構４３７の設けられる上大入賞装置４３４の側へ進行することを抑制することができる（図７参照）。このため、例えば、上記したような球噛み連鎖通過が発生する状況であっても、進入可能期間の開始前に、上大入賞装置４３４に多数の遊技球が進入して進入可能期間が発生しなくなる事態を抑制することができる。これにより、進入可能期間において遊技球を特典領域４０９Ｖへ進入できなくなる事態を防止し易くすることができる。

【０４３３】

片手参加型の演出では、入力操作装置として、前ブロック１０２の右端に設けられる右入力操作装置８０１Ｒ（図５参照）が用いられる。右入力操作装置８０１Ｒは、遊技者が手で握る操作をすることで入力を行える右入力レバー８１０Ｒを備えている。右入力レバー８１０Ｒは、図５に示すように、前ブロック１０２の右端であって、台座２５１に設けられた発射ハンドル２５２を回転操作することで遊技球の発射を調節可能な発射操作装置２５０の上方側に配置されている。また、右入力レバー８１０Ｒは、前面装飾体２１０の開口２１０Ａを塞ぎつつ後方側を視認可能とする中央パネル２２０よりも前方側（遊技者側）に突出して配置される。このため、発射操作装置２５０による発射操作（発射ハンドル２５２の回転操作）を行う右手の方が左手よりも右入力レバー８１０Ｒに近く、その分、右入力レバー８１０Ｒの操作を右手で行い易くすることができる。

【０４３４】

図２７は、図５のＸ１－Ｘ１を含む切断面により右入力レバー８１０Ｒの配置及び構造を模式的に示す断面図である。右入力レバー８１０Ｒは、図２７に示すように、装飾図柄表示装置４７９や、遊技盤４００の後方側に設けられた左可動部材１０及び右可動部材２０や、遊技盤４００の前面側に形成された遊技領域４０９（右流下領域４０９Ｒ）よりも前方側に配置されている。

【０４３５】

右入力レバー８１０Ｒは、遊技者によって握られる右握り壁８１１Ｒと、右操作部材８１２Ｒとを備えている。右操作部材８１２Ｒは、遊技者側から見て右握り壁８１１Ｒの左斜め前側に突出した突出位置（図２７（Ａ）の実線で示す位置）と、突出位置より右斜め後側に移動し、右握り壁８１１Ｒに少なくとも一部が埋没する埋没位置（図２７（Ｂ）の破線で示す位置）とをとる。右操作部材８１２Ｒは、遊技者による操作が行われていない状況においては、突出位置に配置される。

【０４３６】

右操作部材８１２Ｒは、右入力レバー８１０Ｒを握る操作に基づいて、右斜め後側（図２７における右下側）へ押圧されて移動する。右操作部材８１２Ｒの移動は、右握り壁８１１Ｒの内部空間に設けられた右握り操作検出スイッチ（図示せず）によって検出される。右握り操作検出スイッチによる右入力レバー８１０Ｒを握る操作の検出は、副制御基板９４０によって監視され、その操作に応じて装飾図柄表示装置４７９の表示内容の制御等が副制御基板９４０によって行われる。

【０４３７】

右入力レバー８１０Ｒは、右操作部材８１２Ｒ及び右握り壁８１１Ｒの前方側、左方側、

10

20

30

40

50

下方側、上方側及び後方側を覆う被覆壁（以下において、右被覆壁 8 1 3 R と称す）を備えている。このため、遊技者が右入力レバー 8 1 0 R を掴んで右操作部材 8 1 2 R を操作しようとする場合に、右方側から右入力レバー 8 1 0 R を掴むように制限できる。このように、右入力レバー 8 1 0 R に対しての右操作部材 8 1 2 R の操作は左手より右手の方が容易に行える構成とされていることで、右入力レバー 8 1 0 R への入力操作が可能な期間（有効期間 T L）において、遊技者が発射操作装置 2 5 0 の発射操作を止めて遊技球の発射が停止され易くすることができる。

【 0 4 3 8 】

具体的には、右被覆壁 8 1 3 R は、右握り壁 8 1 1 R の左方側において右握り壁 8 1 1 R の後端部分よりも後側に延びる左壁 8 1 4 L と、右握り壁 8 1 1 R の前端部分と左壁 8 1 4 L の前端部分とに繋がり、右操作部材 8 1 2 R の前方側を覆う前壁 8 1 4 F とを備えている。左壁 8 1 4 L と前壁 8 1 4 F は、遊技者側から見て左手前側からの右操作部材 8 1 2 R への接触操作を不能とする部位であり、これにより、発射操作をしていない左手を用いた右操作部材 8 1 2 R に対する操作を困難にすることができる。

10

【 0 4 3 9 】

また、右被覆壁 8 1 3 R は、左壁 8 1 4 L の下端部分から右握り壁 8 1 1 R 側に延びて右握り壁 8 1 1 R や前壁 8 1 4 F の下端部分に繋がり、右操作部材 8 1 2 R の下方側を覆う下壁 8 1 4 D と、左壁 8 1 4 L の上端部分から右握り壁 8 1 1 R 側に延びて右握り壁 8 1 1 R や前壁 8 1 4 F の上端部分に繋がり、右操作部材 8 1 2 R の上方側を覆う上壁 8 1 9 U（図 5 参照）とを備えている。このため、発射操作をしていない左手を利用して、右入力レバー 8 1 0 R の下方側や上方側から右操作部材 8 1 2 R を操作することを困難にすることができる。

20

【 0 4 4 0 】

また、右被覆壁 8 1 3 R は、左壁 8 1 4 L の後端部分から右握り壁 8 1 1 R 側に延びて、下壁 8 1 4 D や上壁 8 1 4 U の後端部分に繋がり、右操作部材 8 1 2 R の後方側を覆う後壁 8 1 4 B を備えている。このため、発射操作をしていない左手の指を利用し、左壁 8 1 4 L や下壁 8 1 4 D や上壁 8 1 4 U の後方側の隙間部分から指を回り込ませての右操作部材 8 1 2 R に対する操作を困難にすることができる。

【 0 4 4 1 】

左壁 8 1 4 L は、右操作部材 8 1 2 R の右端から指先を挿入可能な空間が右入力レバー 8 1 0 R の内部に形成される距離だけ隔てて設けられ、また、後壁 8 1 4 B は、右握り壁 8 1 1 R の後端部分から指を挿入可能な距離だけ隔てて設けられる。このため、遊技者は、右握り壁 8 1 1 R の後側に形成された右側に開口した部分から右手の指先を入れることで、右操作部材 8 1 2 R に指先を容易に接触させることができる。また、遊技者は、右握り壁 8 1 1 R の右端に手のひらを当て、また、右操作部材 8 1 2 R の左端に親指以外のいずれかの指先を接触させて手を握ることで、右操作部材 8 1 2 R を右斜め後側（右握り壁 8 1 1 R 側）に容易に押圧できる。

30

【 0 4 4 2 】

なお、左手による右操作部材 8 1 2 R の操作を困難にする右被覆壁 8 1 3 R によって必ずしも常に左手による操作を困難にする必要はない。例えば、右被覆壁 8 1 3 R の少なくとも一部分が他の部分に対して変位動作可能に設けられ、当該一部分の相対位置を変化させることで、左手による右操作部材 8 1 2 R の操作を一時的に許容可能にする構成としてもよい。例えば、左壁 8 1 4 L が他の壁とは別部材によって移動可能に設けられ、左壁 8 1 4 L が前後方向や上下方向に移動することで、右入力レバー 8 1 0 R の左側に開口が形成されるようにし、左手による右入力レバー 8 1 0 R を握る操作を一時的に可能にしたり困難にしたりする構成としてもよい。また、右被覆壁 8 1 3 R に代えて、右入力レバー 8 1 0 R とは別体であり、前ブロック 1 0 2 に設けられる移動可能な部材が、右操作部材 8 1 2 R の左方側や前方側を覆うように移動してきて、左手で右操作部材 8 1 2 R を握る操作を制限する構成としてもよい。また、右入力レバー 8 1 0 R に設けられる右被覆壁 8 1 3 R のすべてを設ける必要はなく、右被覆壁 8 1 3 R を構成する壁の少なくとも一部（例え

40

50

ば、下壁 8 1 4 D や後壁 8 1 4 B) を設けない構成としてもよい。また、右入力レバー 8 1 0 R が前ブロック 1 0 2 の右端に設けられた構成としているが、この構成に限らず、前ブロック 1 0 2 の中央側や左側にレバーを設ける構成としてしてもよく、この構成の場合であっても、右側に開口した部分に指先を差し込んで操作部材を操作させる構成とするなど、左手では操作できない又は操作し難い形状の入力レバーを採用することが好ましい。

【0443】

右入力レバー 8 1 0 R は、前ブロック 1 0 2 の基枠 2 0 1 に設けられた支持機構によって移動可能に支持されている。また、右入力レバー 8 1 0 R を握る操作は、右入力レバー 8 1 0 R の移動が右レバー移動規制装置 8 0 4 R によって規制されている場合に行えるように構成される。

10

【0444】

ここで、特典領域 4 0 9 V へ遊技球が進入可能となるラウンド（第 1 ラウンド）において、右入力レバー 8 1 0 R を用いる片手参加型の演出として実行される片手参加型の殻割りミッション演出の推移について説明する。図 2 8 は、確変予定の特別遊技状態における片手参加型の演出の制御であって、当該演出に遊技者が参加する場合の制御を示すタイミングチャートである。なお、図 2 8 において、ラウンドの後半の制御を省略すると共に、特別遊技状態が開始される直前の装飾図柄による図柄の変動表示の期間（図柄変動期間）の一部の制御を示す。

【0445】

図 2 9 は、確変予定の特別遊技状態における片手参加型の演出の推移であって、当該演出に遊技者が参加する場合の推移を模式的に示す説明図である。図 2 9 (A) は、確変予定の特別遊技状態と時短予定の特別遊技状態とで共通である殻割り演出の実行中（図 2 8 の時刻 $t_c 3$ 直後）を示し、図 2 9 (B) は、殻割り演出に引き続き実行される宝出現演出の実行中（図 2 8 の時刻 $t_c 8$ 直後）を示す。また、図 2 9 (C) は、時短予定の特別遊技状態において殻割り演出に引き続き実行される殻割れず演出の実行中（図 2 8 の時刻 $t_d 8$ 直後）を示し、図 2 9 (D) は、殻割り演出に引き続き実行される V 出現演出中（図 2 8 の時刻 $t_c 8$ 直後）を示す。

20

【0446】

以下においては、図 2 8 に示す片手参加型の殻割りミッション演出の制御において、図 2 6 に示す殻割りミッション演出の制御との相違部分についてのみ説明する。以下において、図 2 6 に示す殻割りミッション演出を、片手参加型の殻割りミッション演出と明確に区別するため、非参加型の殻割りミッション演出とも称す。なお、参加型の殻割りミッション演出と、非参加型の殻割りミッション演出とは、遊技者が、いずれの演出を実行するかを予め選択可能に構成してもよく、例えば、遊技の実行を待機するデモ画面の表示中において選択操作を可能としてもよいし、パチンコ機 1 0 0 の副制御基板 9 4 0 における抽選によっていずれの演出を実行するかを選択してもよく、参加型の演出が複数種類設定されている場合においても、予め選択可能としてもよいし、抽選で演出の内容が選択されるようにしてもよい。

30

【0447】

片手参加型の殻割りミッションと非参加型の殻割りミッションとの主な相違部分は、以下の 3 つである。第 1 に、片手参加型の殻割りミッション演出の制御においては、殻割り演出が実行される期間（時刻 $t_c 2$ ～時刻 $t_c 8$: 図 2 6 に示す場合と同一の期間）の少なくとも一部に、右入力レバー 8 1 0 R を握る操作を有効なものとして受け付ける有効期間 TL が設定される。以下において、右入力レバー 8 1 0 R を握る操作の有効期間 TL が設定される殻割り演出を、片手参加型の殻割り演出とも称す。第 2 に、片手参加型の殻割りミッション演出の制御においては、第 1 ラウンドが開始される前のオープニング演出（OP 演出）が実行される期間（時刻 $t_c 1$ ～時刻 $t_c 2$: 図 2 6 に示す場合と同一の期間）に、装飾図柄表示装置 4 7 9 において、遊技者の操作（例えば、右入力レバー 8 1 0 R を握る操作や発射ハンドル 2 5 2 を回転させる操作）に関する各種の情報（以下において、入力操作関連情報とも称す）が表示される。また、第 3 に、片手参加型の殻割り演出が実

40

50

行される期間において、左可動部材 10 と右可動部材 20 とが、副制御基板 940 によって制御される規定の動作ではなく、遊技者による右入力レバー 810 R を握る操作に応じて動作する。以下において、片手参加型の殻割り演出において遊技者が右入力レバー 810 R を握る操作を行う場合には、発射操作装置 250 から右手を離して、右手で右入力レバー 810 R を握る操作を行うものとして説明する。

【0448】

確変予定の特別遊技状態が開始される時刻 t_{c1} であって、右入力レバー 810 R を握る操作の有効期間 T_L よりも前において、オープニング演出（図 28 の OP 演出）が実行され、装飾図柄表示装置 479 に、右入力レバー 810 R を握る操作の準備として、入力操作関連情報の一種であり、右入力レバー 810 R を掴む動作を指示する操作準備指示情報（例えば、「右入力レバーを掴め」との文字情報）が表示される。なお、操作準備指示情報は、文字情報である構成であるが、この構成に限らず、これに代えて、又は、これに加えて、右入力レバー 810 R の掴み方や右操作部材 812 R の動き方などにより、右入力レバー 810 R の操作方法を画像情報として表示する構成としてもよいし、音声により操作方法を出力する構成としてもよい。また、操作準備指示情報を出力する構成は必須の構成ではなく、省略してもよい。

10

【0449】

また、オープニング演出が開始される時刻 t_{c1} に、装飾図柄表示装置 479 において、図示しないが、右入力レバー 810 R を握る操作の有効期間 T_L の開始タイミングを示唆する開始示唆情報（例えば、数字のカウントダウン表示やメーターの減少表示）が表示される。なお、開始示唆情報についても、文字表示、画像表示、音声のいずれか又は、組合せを出力してもよいし、開始示唆情報を出力する構成を省略してもよい。

20

【0450】

また、オープニング演出が開始される時刻 t_{c1} に、装飾図柄表示装置 479 において、操作指示演出において、遊技球を打ち出さなくてもよいことを遊技者に知らせる発射不要情報（「球の打ち出しは不要だよ！」との文字情報：図 29（A）参照）が表示される。これにより、遊技者は、発射操作装置 250 から手を離してもよいことを知ることができ、発射操作装置 250 を握っている右手を戸惑うことなく右入力レバー 810 R に移動させ、右入力レバー 810 R を右手で掴むことができる。発射不要情報は、操作指示演出に引き続き実行される殻割り演出が終了する時刻 t_{c8} まで継続して表示される。なお、発射不要情報についても、文字表示、画像表示、音声のいずれか又は、組合せを出力してもよいし、発射不要情報を出力する構成を省略してもよい。

30

【0451】

また、オープニング演出に引き続き片手参加型の殻割り演出が開始される時刻 t_{c2} に、装飾図柄表示装置 479 において、操作準備指示情報に代えて、右入力レバー 810 R を握る操作を指示する右握り操作指示情報 484 S（例えば、「右入力レバー連続で握れ」との文言：図 29（A）参照）が表示される。右握り操作指示情報 484 S は、オープニング演出に引き続き実行される片手参加型の殻割り演出が終了する時刻 t_{c8} まで継続して表示される。なお、右握り操作指示情報 484 S は、文字で表示される構成であるが、この構成に限らず、右操作部材 812 R が連続して動作している状態や右入力レバー 810 R を右手で連続して握る状態を示す画像などにより、右入力レバー 810 R の操作方法を画像で表示する構成としてもよく、音声出力をしてもよく、省略してもよい。

40

【0452】

オープニング演出に引き続き実行される片手参加型の殻割り演出中の時刻 t_{e1} に、右入力レバー 810 R を握る操作の有効期間 T_L であるか右入力レバー 810 R を握る操作を有効なものとして受け付けない期間であるかを識別する右握り操作有効フラグがオン状態となる。右握り操作有効フラグは、副制御基板 940 の RAM に記憶されている。右握り操作有効フラグがオン状態である期間において、右入力レバー 810 R を握る操作に基づき、右握り操作検出スイッチによって右操作部材 812 R の移動が検出された場合、副制御基板 940 は、当該検出を有効なものとして判断して受け付ける。一方、右握り操作有効フ

50

ラグがオフ状態である期間においては、右握り操作検出スイッチによって右操作部材 8 1 2 R の移動が検出されたとしても、副制御基板 9 4 0 は当該検出を無効なものと判断して受け付けない。

【0453】

右握り操作有効フラグがオン状態となると、副制御基板 9 4 0 の演出タイマに、副制御基板 9 4 0 の ROM に記憶された右入力レバー 8 1 0 R を握る操作の有効期間 TL の長さに対応する値が初期設定される。右握り操作有効フラグは、殻割り演出が実行される期間に亘ってオン状態に維持され、殻割り演出の終了時（時刻 $t_c 8$ ）であって第 1 ラウンドが開始（時刻 t_1 ）された後に、オフ状態となる。

【0454】

ここで、右入力レバー 8 1 0 R は、装飾図柄表示装置 4 7 9（操作可能表示手段）によって右握り操作指示情報 4 8 4 S（図 2 9（A）参照：所定の操作情報）が表示された場合に、手で握る操作（所定の入力操作）を実行可能に構成されている。そして、右入力レバー 8 1 0 R を握る操作を有効に受け付ける有効期間 TL の開始と同時に又は開始の前に、装飾図柄表示装置 4 7 9 によって、右入力レバー 8 1 0 R を握る操作を遊技者に指示する右握り操作指示情報 4 8 4 S が表示される。また、右入力レバー 8 1 0 R を握る操作の有効期間 TL は、第 1 ラウンドの開始から進入可能期間の開始までの少なくとも一部を含む期間に設定されている。このため、遊技者が発射操作装置 2 5 0 に対する発射操作を止めて右入力レバー 8 1 0 R を握る操作を行う場合には、たとえ上進入規制機構 4 5 4（図 2 9（A）参照）による球噛みに起因する球噛み連鎖通過が発生したとしても、第 1 ラウンドの開始から進入可能期間の開始までの期間に、上進入規制機構 4 5 4 の設置箇所に到達し、振分機構 4 3 7 側に進行してしまう遊技球の個数を減らす又は無くすることができる。

【0455】

また、右入力レバー 8 1 0 R を握る操作の有効期間 TL は、第 1 ラウンドの開始から進入可能期間の開始まで期間において、右入力レバー 8 1 0 R を握る操作の有効期間 TL 外である時間（以下において、無効時間とも称す）が、遊技球が連続して発射される場合の発射間隔に相当する時間に規定数を乗じた時間未満となる長さとなるように設定されることが好ましく、無効時間が、発射間隔に相当する時間に規定数より 2 以上小さい数を乗じた時間未満となる長さとなるように設定されることが更に好ましい。第 1 ラウンドの開始から進入可能期間の開始までにおける右入力レバー 8 1 0 R を握る操作の無効時間が短くなるにつれて、球噛み連鎖通過が発生したとしても振分機構 4 3 7 側に進行する遊技球の個数を減らすことができ、無効時間が発射間隔に相当する時間に規定数より 2 以上小さい数を乗じた時間未満に設定した場合には、球噛み連鎖通過により進行した遊技球の個数が規定数まで到達してしまうことをほぼ確実に防止できる。

【0456】

第 1 ラウンドの開始から進入可能期間の開始までの期間（時刻 t_1 ～時刻 t_4 ：概ね 9.0 秒）において右握り操作有効フラグがオフ状態である時間（右入力レバー 8 1 0 R を握る操作の無効時間）は、遊技球が連続して発射される場合の発射間隔に相当する時間（例えば、0.6 秒）に規定数（例えば、10 個）を乗じた時間（例えば、6.0 秒）よりも十分に短い時間（例えば、2.5 秒）となるように、右入力レバー 8 1 0 R を握る操作の有効期間 TL の終端は設定されている。このため、進入可能期間が開始される前に、たとえ遊技球の球噛み連鎖通過が発生したとしても、規定数以上の遊技球が案内通路 4 9 4 に進入して上大入賞スイッチ 4 4 4 で検出されてしまうことを防止できる。

【0457】

また、右入力レバー 8 1 0 R を握る操作の有効期間 TL が終了してから上進入規制機構 4 5 4 の 1 回目の進行可能状態が終了（概ね時刻 t_5 ）するまでの時間が、遊技領域 4 0 9 に向けて発射された遊技球が上進入規制機構 4 5 4 の設置箇所に到達するまでの平均的な時間（例えば、2.0 秒：以下において、上進入規制機構 4 5 4 への平均到達時間とも称す）よりも長くなるように、有効期間 TL（例えば、2.5 秒）の終端は設定されている。このため、有効期間 TL の直後に発射された遊技球を、上進入規制機構 4 5 4 が 1 回目

10

20

30

40

50

の進行可能状態である期間内に上進入規制機構 454 に到達させることが可能となり、有効期間 TL に亘り遊技球の発射が停止されたとしても、遊技者に不利益を与えることを防止できる。

【0458】

また、右入力レバー 810R を握る操作の有効期間 TL が終了してから進入可能期間が開始されるまでの時間が、上進入規制機構 454 への平均到達時間に、案内通路 494 に対する平均進行時間（例えば、1.5 秒）を加えた時間（例えば、3.5 秒）よりも短くなるように、有効期間 TL の終端は設定されている。このため、有効期間 TL が終了した後に遊技者が遊技球の発射を再開したとしても、有効期間 TL の直後に発射され、案内通路 494 に進入した遊技球を特典領域 409V に進入させることが可能となり、有効期間 TL に亘り遊技球の発射が停止されたとしても、遊技者に不利益を与えることを防止できる。

10

【0459】

なお、右入力レバー 810R を握る操作の有効期間 TL は第 1 ラウンドの開始前に開始される構成であるが、右入力レバー 810R を握る操作の有効期間は、第 1 ラウンドの開始後に開始される構成としてもよい。この場合には、第 1 ラウンドの開始から進入可能期間の開始までの期間において、有効期間 TL の前後で右握り操作有効フラグがオフ状態である時間の総和が、遊技球が連続して発射される場合の発射間隔に相当する時間に規定数を乗じた時間より短くなるように、有効期間 TL の始端や終端が設定されていることが好ましい。

20

【0460】

右入力レバー 810R を握る操作の有効期間 TL において、右入力レバー 810R を握る操作が行われ、右握り操作検出スイッチがオン状態となると（例えば、時刻 te4）、回転駆動モータが順方向の回転を開始する。また、回転駆動モータは、時刻 te4 から所定の時間（例えば、0.1 秒）後の時刻 te5 に逆方向の回転に切り替わり、更に、時刻 te5 から所定の時間（例えば、0.1 秒）後の時刻 te6 に停止する。時刻 te4 から時刻 te6 の回転駆動モータの動作によって、左可動部材 10 と右可動部材 20 とは、図 29（A）に示す宝卵 482 を挟む姿勢から宝卵 482 を圧迫する姿勢（図 26（B）参照）へ変化した後に、宝卵 482 を挟む姿勢に戻る。時刻 te4 から時刻 te6 の動作は、右握り操作検出スイッチがオン状態となるたびに実行される（図 28 においては 9 回動作する場合が示されている）。

30

【0461】

右入力レバー 810R を握る操作の有効期間 TL において、右入力レバー 810R を握る操作が所定の回数（例えば、6 回）以上、右握り操作検出スイッチで検出された場合に、片手参加型の殻割り演出に引き続き宝出現演出が実行される。一方、有効期間 TL において、右入力レバー 810R を握る操作を行わない、又は、右入力レバー 810R を握る操作を行うもの所定の回数未満しか行わない場合には、装飾図柄表示装置 479 において、片手参加型の殻割り演出に引き続き、図 29（D）に示すように、進入可能期間の発生を前もって告知する V 前告知情報 486（図 29（D）の V 球）が宝卵 482 から出現する表示が行われる V 出現演出が実行される。

40

【0462】

なお、有効期間 TL における右入力レバー 810R を握る操作が所定の回数以上行われたことを条件として、殻割り演出に引き続き宝出現演出を行う構成としているが、この構成に限らず、有効期間 TL を分割した複数の分割期間（例えば、1 秒ごとの 9 つの期間）を設け、各判定期間において右入力レバー 810R を握る操作が少なくとも 1 回行われたことを条件として、殻割り演出に引き続き宝出現演出を行う構成とすることが好ましい。この好ましい構成の場合には、長時間（有効期間 TL の全体）に亘って、連続して右入力レバー 810R を握る操作を行うように、遊技者を誘導することが可能になる。このため、たとえば球噛み連鎖通過が発生したとしても、第 1 ラウンドの開始から進入可能期間の開始までに上大入賞スイッチ 444 で検出される遊技球の個数を減少させる効果を、有効期間 TL

50

の一部又は全部で右入力レバー 8 1 0 R を握る操作が実行されない場合に比べて向上させることができる。

【0 4 6 3】

片手参加型の殻割り演出に引き続き実行される宝出現演出（時刻 t_{c8} ～時刻 t_{c10} ）において、回転駆動モータは、順方向の回転をし、左可動部材 1 0 と右可動部材 2 0 とが宝卵 4 8 2 を圧迫する姿勢をとる（時刻 t_{e14} ）。装飾図柄表示装置 4 7 9 には、宝卵 4 8 2 が圧迫された表示が行われ、その後に、特典領域 4 0 9 V へ遊技球が進入可能状態が開始されることを遊技者に知らせる情報であり、かつ、現在設定されている確率状態を推測可能な情報である図 2 9（B）に示すような宝 4 8 3 が宝卵 4 8 2 から出現する表示が行われる。

10

【0 4 6 4】

次に、時短予定の特別遊技状態の第 1 ラウンド（確変予定の特別遊技状態における特典領域 4 0 9 V へ遊技球が進入可能となるラウンドに対応するラウンド）において、右入力レバー 8 1 0 R を用いる片手参加型の演出として実行される片手参加型の殻割りミッション演出の推移について、図 2 9（C）と共に、図 3 0 を参照して説明する。図 3 0 は、時短予定の特別遊技状態における片手参加型の演出の制御であって、当該演出に遊技者が参加する場合の制御を示すタイミングチャートである。

【0 4 6 5】

図 3 0 に示すように、オープニング演出（OP 演出）が実行される時刻 t_{d1} ～時刻 t_{d2} においては、図 2 8 に示す確変予定の特別遊技状態の時刻 t_{c1} ～時刻 t_{c2} と同様（同一）の表示演出の制御が行われる。また、片手参加型の殻割り演出が実行される時刻 t_{d2} ～時刻 t_{d8} において、図 2 8 に示す確変予定の特別遊技状態の時刻 t_{c2} ～時刻 t_{c8} と同様（同一）の表示演出の制御が行われる。

20

【0 4 6 6】

片手参加型の殻割り演出において、右入力レバー 8 1 0 R を握る操作の有効期間 T_L が設けられ、その有効期間 T_L において遊技者は、確変予定の場合と同様に右入力レバー 8 1 0 R を握る操作をすることができる。時短予定の特別遊技状態においては、片手参加型の殻割り演出の後に引き続き、殻割れず演出が実行される。殻割れず演出において、図 2 9（C）に示すように、装飾図柄表示装置 4 7 9 に、宝卵 4 8 2 が割れずに下方へ移動する表示が行われる。すなわち、殻割れず演出では、図 2 9（B）に示すような宝 4 8 3 が出現しない表示が行われる。

30

【0 4 6 7】

次に、確変予定の特別遊技状態の第 1 ラウンドで実行される片手参加型の殻割りミッション演出に遊技者が参加しない場合に対する片手参加型の殻割りミッション演出の推移について、図 2 9（D）と共に、図 3 1 を参照して説明する。図 3 1 は、確変予定の特別遊技状態における片手参加型の演出の制御であって、当該演出に遊技者が参加しない場合の制御を示すタイミングチャートである。なお、図 3 1 において、第 1 ラウンドの後半の制御を省略すると共に、特別遊技状態が開始される直前の装飾図柄による図柄の変動表示の期間（図柄変動期間）の一部の制御を示す。以下において、図 2 8 に示す片手参加型の殻割りミッション演出に参加する場合の制御との相違部分についてのみ説明する。

40

【0 4 6 8】

殻割り演出中であって右握り操作有効フラグがオン状態である期間（右入力レバー 8 1 0 R を握る操作の有効期間 T_L ）において、右入力レバー 8 1 0 R が操作されないために、回転駆動モータは停止された状態に維持される。

【0 4 6 9】

殻割り演出に引き続き、宝出現演出に代えて、装飾図柄表示装置 4 7 9 に宝卵 4 8 2 から V 前告知情報 4 8 6 が出現する表示が行われる V 出現演出が実行される（時刻 t_{c8} ～時刻 t_{c10} ）。V 前告知情報 4 8 6 の出現は、特典領域 4 0 9 V へ遊技球が進入可能な状態が開始されることを遊技者に知らせる情報ではあるが、現在設定されている確率状態を推測可能な情報ではない。

50

【0470】

確変予定の特別遊技状態において、右入力レバー810Rを握る操作によって参加型の演出としての殻割りミッション演出（具体的には、殻割り演出）に参加した場合には、現在設定されている確率状態を推測可能な情報が与えられる（宝483の出現）が、殻割りミッション演出に参加しない場合には、現在設定されている確率状態を推測可能な情報は与えられない。現在設定されている確率状態は遊技の勝敗に関与するため多くの遊技者にとって関心事であるため、確率状態を推測可能な情報が与えられる可能性がある参加型の演出には、遊技の勝敗に関与しない情報（プレミアム演出を発生させるといった特典を得るためのポイント）が与えられる参加型の演出の場合に比べて多くの遊技者を演出に参加させることが可能になる。なお、必ずしも参加型の演出に参加しない場合に、確率状態を推測可能な情報を表示しない構成とする必要はなく、参加した場合の方が参加しない場合より高確率で確率状態を推測可能な情報を表示する構成とし、参加しない場合においても確率状態を推測可能な情報を表示してもよく、参加した場合においても一定の確率で確率状態を推測可能なV前告知情報486を表示するようにしてもよい。

10

【0471】

以上で説明したパチンコ機100であれば、参加型の演出を実行することで右入力レバー810Rを握る操作を遊技者に促すことができ、第1ラウンドの開始から進入可能期間の開始までの期間の少なくとも一部において、発射操作装置250（発射ハンドル252）を操作している右手を右入力レバー810Rへ移動し遊技球の発射を停止するように遊技者を誘導することが可能になる。これにより、第1ラウンドの実行中であって進入可能期間となる前に、規定数以上の遊技球が振分機構437側へ進行してしまい、確変予定の特別遊技状態が発生したにも関わらず、確変遊技状態に移行させられなくなったといった事態の発生を抑制可能となる。

20

【0472】

また、右入力レバー810Rを左手では操作し難い形状とすることで、発射操作装置250を操作する右手によって右入力レバー810Rを操作させ易くでき、第1ラウンドの開始から進入可能期間の開始までの期間の少なくとも一部における遊技球の発射の停止を促進することができる。

【0473】

＜特典領域409Vへ遊技球が進入可能なラウンドの両手参加型の演出＞

30

次に、特典領域409Vへ遊技球を進入可能なラウンドにおいて、好適な演出を実行可能な構成について、図5と共に、図32～図37を参照して説明する。特典領域409Vへ遊技球が進入可能なラウンドで実行される演出の一種として、右入力操作装置801Rと、右入力操作装置801Rよりも左側に設けられる後述の左入力操作装置801Lとを、遊技者が両手で操作することで演出に参加可能な両手参加型の演出が実行される。

【0474】

以下において、両手参加型の演出としての両手参加型の殻割りミッション演出の推移の説明に先立ち、両手参加型の殻割りミッション演出で用いる右入力操作装置801Rや左入力操作装置801Lについて説明する。図32は、図5のX1-X1を含む切断面により右入力操作装置801R及び左入力操作装置801Lの配置及び構造を模式的に示す断面図である。

40

【0475】

右入力操作装置801Rは、遊技球が流下する遊技領域409（右流下領域409R）や装飾図柄表示装置479の前側に位置するように設けられている。具体的には、パチンコ機100は、右入力レバー810Rを移動可能に支持する右支持機構802Rを備え、右入力操作装置801Rの一部をなす右入力レバー810Rが、図5に示すように、前ブロック102の右端に位置する右端配置（実線で示す配置）と、前ブロック102の中央側に位置する中央配置（一点鎖線で示す配置）との間で移動可能である。このため、右入力レバー810Rは、右操作部材812Rを握る操作により情報を入力する装置として機能すると共に、遊技領域409の前側や装飾図柄表示装置479の前側における右入力レバ

50

ー 8 1 0 R を移動させる操作により情報を入力する装置として、更に、遊技領域 4 0 9 の前側や装飾図柄表示装置 4 7 9 の前側において右入力レバー 8 1 0 R 自体が移動することにより演出を実行する装置としても機能する。

【 0 4 7 6 】

右入力レバー 8 1 0 R は、右端配置において、遊技領域 4 0 9 の一部である右流下領域 4 0 9 R を流下する遊技球を流下位置に寄らずに視認できるように位置している。また、右入力レバー 8 1 0 R は、中央配置において、装飾図柄表示装置 4 7 9 の前側に位置する。このため、右入力レバー 8 1 0 R を装飾図柄表示装置 4 7 9 の前側において移動することができ、装飾図柄表示装置 4 7 9 における演出よりも目立つ演出や迫力のある演出を実行することが可能になる。

10

【 0 4 7 7 】

また、右入力レバー 8 1 0 R は、右端配置と中央配置との間の移動において、装飾図柄表示装置 4 7 9 の前側や右流下領域 4 0 9 R の前側（2 点鎖線で示す配置）に配置される状態をとる。このため、装飾図柄表示装置 4 7 9 における演出や、遊技盤 4 0 0 に設けられた左可動部材 1 0 や右可動部材 2 0 等による演出などの遊技盤 4 0 0 における演出よりも目立つ演出や迫力のある演出を、右入力レバー 8 1 0 R によって実行することが可能になる。

【 0 4 7 8 】

また、右入力レバー 8 1 0 R は、装飾図柄表示装置 4 7 9 や遊技領域 4 0 9 の前側に移動した位置で操作可能である。このため、装飾図柄表示装置 4 7 9 や遊技領域 4 0 9 における演出よりも目立つ位置で、右入力レバー 8 1 0 の操作を実行することが可能になる。

20

【 0 4 7 9 】

また、パチンコ機 1 0 0 は、図 5 に示すように、右入力操作装置 8 0 1 R よりも左側に設けられた左入力操作装置 8 0 1 L を備えている。左入力操作装置 8 0 1 L は、遊技球が流下する遊技領域 4 0 9 や装飾図柄表示装置 4 7 9 の前側に位置するように設けられた左入力レバー 8 1 0 L を備えている。

【 0 4 8 0 】

具体的には、左入力操作装置 8 0 1 L は、図 5 に示すように、発射操作装置 2 5 0（発射ハンドル 2 5 2）の設置側と反対側の前ブロック 1 0 2 の左端において、前ブロック 1 0 2 の前方側（遊技者側）に突出するように設けられた左入力レバー 8 1 0 L と、左入力レバー 8 1 0 L を移動可能に支持する左支持機構 8 0 2 L とを備えている。

30

【 0 4 8 1 】

左入力レバー 8 1 0 L は、図 5 に示すように、右入力レバー 8 1 0 R と左右対称な形状であり、右握り壁 8 1 1 R と同様の左握り壁 8 1 1 L と、右操作部材 8 1 2 R と同様の左操作部材 8 1 2 L と、右被覆壁 8 1 3 R と同様の左被覆壁 8 1 3 L を備えている。また、左支持機構 8 0 2 L も、図 5 に示すように、右支持機構 8 0 2 R と左右対称な形状であり、左入力レバー 8 1 0 L は、前ブロック 1 0 2 の左端に位置する左端配置（実線で示す配置）と、前ブロック 1 0 2 の中央側であって装飾図柄表示装置 4 7 9 の前側に位置する中央配置（一点鎖線で示す配置）との間で移動可能である。

【 0 4 8 2 】

左入力レバー 8 1 0 L は、左端配置と中央配置との間の移動において、遊技領域 4 0 9 の一部である左流下領域 4 0 9 L の前側に配置される状態をとる。このため、左入力レバー 8 1 0 L と右入力レバー 8 1 0 R との双方を中央配置に移動させる操作に基づく動作によって、装飾図柄表示装置 4 7 9 や遊技盤 4 0 0 における演出よりも目立つ演出や迫力のある演出を実行することが可能になる。

40

【 0 4 8 3 】

また、左入力レバー 8 1 0 L は、装飾図柄表示装置 4 7 9 や左流下領域 4 0 9 L（遊技領域 4 0 9）の前側に移動した位置で操作可能である。このため、装飾図柄表示装置 4 7 9 や遊技領域 4 0 9 における演出よりも目立つ位置で、右入力レバー 8 1 0 の操作を実行することが可能になる。

50

【0484】

なお、左入力レバー810Lや右入力レバー810Rは、装飾図柄表示装置479の前側に配置された場合に、正面視で左入力レバー810Lの一部や右入力レバー810Rの一部が装飾図柄表示装置479と重なる構成であるが、この構成に限らず、正面視で左入力レバー810Lの全体や右入力レバー810Rの全体が装飾図柄表示装置479と重なる構成としてもよい。また、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとが装飾図柄表示装置479の前側に配置される中央配置をとる場合に、正面視で左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとの全体によって装飾図柄表示装置479の一部が覆われる構成であるが、この構成に限らず、正面視で左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとの全体によって装飾図柄表示装置479の全体が覆われる構成としてもよい。

10

【0485】

また、右入力レバー810Rは、遊技領域409と装飾図柄表示装置479との双方の前側に配置可能に設けられる構成であるが、この構成に限らず、遊技領域409や装飾図柄表示装置479の一方の前側に配置可能に設けられる構成としてもよい。これは、左入力レバー810Lについても同様である。

【0486】

また、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとの双方が、遊技領域409の前側に配置可能に設けられる構成であるが、この構成に限らず、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとの少なくとも一方が遊技領域409の前側に配置可能に設けられる構成としてもよい。また、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとの双方が、装飾図柄表示装置479の前側に配置可能に設けられる構成であるが、この構成に限らず、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとの少なくとも一方が装飾図柄表示装置479の前側に配置可能に設けられる構成としてもよい。

20

【0487】

右入力レバー810Rを移動可能に支持する右支持機構802Rは、右入力レバー810Rが取り付けられる支持台（以下において、右支持台820Rとも称す）を備えている。右支持台820Rは、上下方向に連続する垂直部分と、垂直部分の下端から前方側に連続する水平部分とを有する側面視でL字形状をなす形状であり、水平部分で右入力レバー810Rの下端を支持する。

【0488】

また、右支持機構802Rは、前ブロック102の基枠201の右上隅部分に固定された固定回転軸（以下において、右外側固定回転軸821Rとも称す）と、右支持台820Rの右端側の中央部分に固定された可動回転軸（以下において、右外側可動回転軸822R）と、右外側固定回転軸821Rと右外側可動回転軸822Rとを連結する支持腕（以下において、右外側支持腕823Rとも称す）とを備えている。

30

【0489】

また、右支持機構802Rは、前ブロック102の基枠201において右外側固定回転軸821Rの左上側に固定された固定回転軸（以下において、右内側固定回転軸824Rとも称す）と、右支持台820Rの左端の上側部分に固定された可動回転軸（以下において、右内側可動回転軸825R）と、右内側固定回転軸824Rと右内側可動回転軸825Rとを連結する支持腕（以下において、右内側支持腕826Rとも称す）とを備えている。

40

【0490】

右外側固定回転軸821Rに対する右内側固定回転軸824Rの位置と、右外側可動回転軸822Rに対する右内側可動回転軸825Rの位置とは、相対的に同一の位置であり、右外側支持腕823Rと右内側支持腕826Rとは、同一の長さである。すなわち、右支持機構802Rは、平行リンク機構を形成する。このため、右支持台820Rに設けられることで右支持機構802Rに支持された右入力レバー810Rは、右端配置と中央配置との間の移動において、回転することなく姿勢を一定に保ちながら移動する。したがって、遊技者が右入力レバー810Rを握る操作する場合と同様に右入力レバー810Rを握

50

んでいたとしても手首を捻ったりすることなく、右入力レバー 8 1 0 R を円滑に移動させることができる。

【0 4 9 1】

左支持機構 8 0 2 L は、右支持機構 8 0 2 R と左右対称な形状であるため、左支持台 2 2 0 L（右支持台 2 2 0 R に相当）と、左外側固定回転軸 8 2 1 L（右外側固定回転軸 8 2 1 R に相当）と、左外側可動回転軸 8 2 2 L（右外側可動回転軸 8 2 2 R に相当）と、左外側支持腕 8 2 3 L（右外側支持腕 8 2 3 R に相当）と、左内側固定回転軸 8 2 4 L（右内側固定回転軸 8 2 4 R に相当）と、左内側可動回転軸 8 2 5 L（右内側可動回転軸 8 2 5 R に相当）と、左内側支持腕 8 2 6 L（右内側支持腕 8 2 6 R に相当）とを備え、平行リンク機構を形成している。このため、右入力レバー 8 1 0 R の場合と同様に、左入力レバー 8 1 0 L についても、左入力レバー 8 1 0 L の姿勢を変化させることなく、移動操作を円滑に行うことができる。なお、左入力レバー 8 1 0 L や右入力レバー 8 1 0 R は、平行リンク機構を用いて姿勢が変化することなく移動する構成であるが、この構成に限らず、平行リンク機構を用いることなく姿勢が変化しないで移動する構成としてもよいし、平行リンク機構を用いないで姿勢が変化しながら移動する構成としてもよい。

10

【0 4 9 2】

左入力レバー 8 1 0 L が左端配置をとり、右入力レバー 8 1 0 R が右端配置をとる場合に、左入力レバー 8 1 0 L と右入力レバー 8 1 0 R とは、所定の間隔（例えば、4 0 c m 以上：指先を最大限開いた状態における一般成人男性の親指の先から中指の先までの長さ以上の長さ）を隔てて位置している。このため、左入力レバー 8 1 0 L と右入力レバー 8 1 0 R との双方が片手で操作されることを防止できる。

20

【0 4 9 3】

左入力レバー 8 1 0 L と右入力レバー 8 1 0 R とが中央配置をとる場合、左入力レバー 8 1 0 L と右入力レバー 8 1 0 R とがほぼ隙間なく配置される。このため、左入力レバー 8 1 0 L が装飾図柄表示装置 4 7 9 を覆う領域と、右入力レバー 8 1 0 R が装飾図柄表示装置 4 7 9 を覆う領域とが連続した領域となり、装飾図柄表示装置 4 7 9 における連続した広い領域を覆うことができる。

【0 4 9 4】

右入力操作装置 8 0 1 R は、右外側固定回転軸 8 2 1 R を中心として右外側支持腕 8 2 3 R を回転させることで、右入力レバー 8 1 0 R を移動させる右レバー回転駆動モータ 8 3 1 R を備えている。右レバー回転駆動モータ 8 3 1 R は、双方向に回転可能であり、所定の方向に回転することで、右入力レバー 8 1 0 R を右端配置側から中央配置側に移動させることができ、また、所定の方向とは逆の方向に回転することで、右入力レバー 8 1 0 R を中央配置側から右端配置側に移動させることができる。以下において、右入力レバー 8 1 0 R を右端配置側から中央配置側に移動させる右レバー回転駆動モータ 8 3 1 R の回転方向（正面視で右回転）を順方向とも称し、その逆を逆方向とも称す。

30

【0 4 9 5】

左入力操作装置 8 0 1 L は、左外側固定回転軸 8 2 1 L を中心として左外側支持腕 8 2 3 L を回転させることで、左入力レバー 8 1 0 L を移動させる左レバー回転駆動モータ 8 3 1 L を備えている。左レバー回転駆動モータ 8 3 1 L は、双方向に回転可能であり、所定の方向に回転することで、左入力レバー 8 1 0 L を左端配置側から中央配置側に移動させることができ、また、順方向とは逆の方向に回転することで、左入力レバー 8 1 0 L を中央配置側から右端配置側に移動させることができる。以下において、左入力レバー 8 1 0 L を右端配置側から中央配置側に移動させる左レバー回転駆動モータ 8 3 1 L の回転方向（正面視で左回転）を順方向とも称し、その逆を逆方向とも称す。

40

【0 4 9 6】

右入力操作装置 8 0 1 R は、左入力レバー 8 1 0 L と右入力レバー 8 1 0 R との連結操作に基づく右入力レバー 8 1 0 R の右端配置から中央配置側への移動を検出する右連結操作検出スイッチ 8 3 8 R を備えている。具体的には、右入力操作装置 8 0 1 R は、右連結操作検出スイッチ 8 3 8 R として、右入力レバー 8 1 0 R が右端配置である場合に、右外側

50

支持腕 8 2 3 R に接触してオン状態をとり、右入力レバー 8 1 0 R が右端配置から中央配置側へ移動することで、右外側支持腕 8 2 3 R から離間してオフ状態をとるボタンスイッチを備えている。

【0 4 9 7】

左入力操作装置 8 0 1 L は、左入力レバー 8 1 0 L の左端配置から中央配置側への移動を検出する左連結操作検出スイッチ 8 3 8 L を備えている。具体的には、左入力操作装置 8 0 1 L は、左連結操作検出スイッチ 8 3 8 L として、左入力レバー 8 1 0 L が左端配置である場合に、左外側支持腕 8 2 3 L に接触してオン状態をとり、左入力レバー 8 1 0 L が左端配置から中央配置側へ移動することで、左外側支持腕 8 2 3 L から離間してオフ状態をとるボタンスイッチを備えている。

10

【0 4 9 8】

右入力操作装置 8 0 1 R は、右入力レバー 8 1 0 R の右端配置側から中央配置への移動を検出する右連結状態検出スイッチ 8 3 9 R を備えている。具体的には、右入力操作装置 8 0 1 R は、右連結状態検出スイッチ 8 3 9 R として、右入力レバー 8 1 0 R が中央配置に移動することで、右外側支持腕 8 2 3 R に接触してオン状態をとり、右入力レバー 8 1 0 R が中央配置に移動するまでは、右外側支持腕 8 2 3 R から離間してオフ状態をとるボタンスイッチを備えている。

【0 4 9 9】

左入力操作装置 8 0 1 L は、左入力レバー 8 1 0 L の右端配置側から中央配置への移動を検出する左連結状態検出スイッチ 8 3 9 L を備えている。具体的には、左入力操作装置 8 0 1 L は、左連結状態検出スイッチ 8 3 9 L として、左入力レバー 8 1 0 L が中央配置に移動することで、左外側支持腕 8 2 3 L に接触してオン状態をとり、左入力レバー 8 1 0 L が中央配置に移動するまでは、左外側支持腕 8 2 3 L から離間してオフ状態をとるボタンスイッチを備えている。

20

【0 5 0 0】

右入力操作装置 8 0 1 R は、右入力レバー 8 1 0 R の移動を規制する右レバー移動規制装置 8 0 4 R を備えている。具体的には、右レバー移動規制装置 8 0 4 R は、前後方向に移動可能な右レバー規制部材 8 4 1 R を備えている。右レバー規制部材 8 4 1 R は、右支持台 8 2 0 R の垂直部分に形成された陥没穴（図示せず）に挿入され、右支持台 8 2 0 R の移動を制限することで、右入力レバー 8 1 0 R の右端配置からの移動を規制する規制位置（図 2 7（A）参照）と、陥没穴から抜け出し、右入力レバー 8 1 0 R の右端配置からの移動を許容する許容位置（図 3 2（A））をとる。また、右レバー移動規制装置 8 0 4 R は、右レバー規制部材 8 4 1 R を駆動する移動駆動ソレノイド（図示せず）を備えている。右レバー移動駆動ソレノイドの動作は、副制御基板 9 4 0 によって制御される。

30

【0 5 0 1】

左入力操作装置 8 0 1 L は、左入力レバー 8 1 0 L の左端配置からの移動を規制する左レバー移動規制装置 8 0 4 L を備えている。具体的には、左レバー移動規制装置 8 0 4 L は、右レバー移動規制装置 8 0 4 R と同一の構造であり、右レバー規制部材 8 4 1 R と同様の左レバー規制部材 8 4 1 L と、右レバー移動駆動ソレノイドと同様の左レバー移動駆動ソレノイド（図示せず）を備えている。

40

【0 5 0 2】

左入力操作装置 8 0 1 L と右入力操作装置 8 0 1 R には、左入力レバー 8 1 0 L と右入力レバー 8 1 0 R とを連結可能な装置を備えている。具体的には、右入力レバー 8 1 0 R には、右被覆壁 8 1 3 R の左端において上下に離間して配置された上側電磁石 8 1 8 R と下側電磁石 8 1 9 R とが設けられている。また、左入力レバー 8 1 0 L には、左被覆壁 8 1 3 L の右端において上下に離間する上側電磁石 8 1 8 L と下側電磁石 8 1 9 L とが設けられている。

【0 5 0 3】

左入力レバー 8 1 0 L の上側電磁石 8 1 8 L は、右入力レバー 8 1 0 R と左入力レバー 8 1 0 L とが中央配置である場合に、右入力レバー 8 1 0 R の上側電磁石 8 1 8 R と対向す

50

る位置に配置され、また、左入力レバー 810 L の下側電磁石 819 L は、右入力レバー 810 R と左入力レバー 810 L とが中央配置である場合に、右入力レバー 810 R の下側電磁石 819 R と対向する位置に配置される。このため、例えば、上側電磁石 818 L の右側が N 極となり、上側電磁石 818 R の左側が S 極となるように、上側電磁石 818 L と上側電磁石 818 R とが励磁されることで、図 32 (C) に示すように、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とを引き付けて連結し、連結された状態で維持することが可能になる。一方、例えば、上側電磁石 818 L の右側が N 極となり、上側電磁石 818 R の左側も N 極となるように、上側電磁石 818 L と上側電磁石 818 R とが励磁されることで、図 31 (B) に示すように、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とを反発させ、離間した状態で維持することが可能になる。

10

【0504】

上側電磁石 818 L、下側電磁石 819 L、上側電磁石 818 R 及び下側電磁石 819 R の励磁は、副制御基板 940 によって制御される。

【0505】

ここで、確変予定の特別遊技状態において特典領域 409 V へ遊技球が進入可能となる第 1 ラウンドで、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とを用いる両手参加型の演出として実行される両手参加型の殻割りミッション演出の推移について説明する。両手参加型の殻割りミッション演出において、装飾図柄表示装置 479 に、画像による表示演出に加えて、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とを連結させる操作を指示する情報や、操作の準備や終了を指示する情報や、発射ハンドル 252 の回転操作を指示する情報など、遊技者による入力操作に関連する入力操作関連情報が表示される。また、両手参加型の殻割りミッション演出において、遊技者は、確変予定の特別遊技状態と時短予定の特別遊技状態とで共通で実行される殻割り演出の一部の期間で演出に参加することができる。以下において、両手参加型の殻割りミッション演出における殻割り演出を、両手参加型の殻割り演出とも称す。

20

【0506】

図 33 は、確変予定の特別遊技状態における両手参加型の演出（殻割りミッション演出）の制御であって、当該演出に遊技者が参加する場合の制御を示すタイミングチャートである。なお、図 33 において、第 1 ラウンドの後半の制御を省略すると共に、特別遊技状態が開始される直前の装飾図柄による図柄の変動表示の期間（図柄変動期間）の一部の制御を示す。以下において、両手参加型の殻割りミッション演出の制御において、図 28 に示す片手参加型の殻割りミッション演出に遊技者が参加する場合の制御との相違部分についてのみ説明する。

30

【0507】

また、図 34 は、確変予定の特別遊技状態における両手参加型の演出（両手参加型の殻割りミッション演出）の推移であって、当該演出に遊技者が参加する場合の推移を模式的に示す説明図である。図 34 (A) は、確変予定の特別遊技状態と時短予定の特別遊技状態とで共通で実行される両手参加型の殻割り演出の開始直後（図 33 の時刻 t f 1）を示し、図 34 (B) は、殻割り演出中（図 32 の時刻 t f 4 の直後）を示し、図 34 (C) は、確変予定の特別遊技状態における宝出現演出の開始直後（図 25 の時刻 t f 16）を示し、図 34 (D) は、確変予定の特別遊技状態における宝出現演出中（図 25 の時刻 t f 18 直後）を示す。

40

【0508】

確変予定の特別遊技状態が開始される時刻 t c 1 に、図 33 に示すように、装飾図柄表示装置 479 において、オープニング演出（OP 演出）が開始されて、表示部 479 a の中央の下端から上側に向かって宝卵 482 が出現する表示が開始される。また、装飾図柄表示装置 479 において、入力操作関連情報として、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とを操作する準備として左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とを掴む動作を指示する操作準備指示情報が表示される。操作準備指示情報の表示は、オープニング演出が終了する時刻 t c 2 まで継続する。操作準備指示情報は、表示を開始するタイミ

50

ングや表示を終了するタイミングを指定する時間情報と共に、副制御基板 940 の ROM に記憶されている。

【0509】

オープニング演出に引き続き両手参加型の殻割り演出が開始される時刻 t_{c2} に、装飾図柄表示装置 479 において、操作準備指示情報に代えて、入力操作関連情報の一種であり、左入力レバー 810L と右入力レバー 810R とを中央で連結させるように、両入力レバーを中央配置側に移動させる操作（以下において、連結操作とも称す）を指示する連結操作指示情報（例えば、図 34（A）における「左右のレバーを連結して殻を割れ」との文字情報）が表示される。連結操作指示情報は、オープニング演出に引き続き実行される殻割り演出が終了する時刻 t_{c8} まで継続して表示される。なお、連結操作指示情報 484D は、文字で表示される構成であるが、この構成に限らず、左入力レバー 810L と右入力レバー 810R とが連結する動作を示す画像や、左入力レバー 810L と右入力レバー 810R とを両手で連結させる動作を示す画像などにより、左入力レバー 810L と右入力レバー 810R との操作方法を画像で表示する構成としてもよいし、音声により操作指示情報を出力する構成としてもよい。また、操作指示情報を出力する構成は必須の構成ではなく、省略してもよい。

10

【0510】

操作指示演出に引き続き実行される両手参加型の殻割り演出中の時刻 t_{f1} に、左入力レバー 810L と右入力レバー 810R との連結操作を受け付ける期間（以下において、連結操作の有効期間 TL と称す）であるか連結操作を受け付けない期間であるかを識別する連結操作有効フラグがオン状態となる。連結操作有効フラグは、副制御基板 940 の RAM に記憶されている。連結操作有効フラグがオン状態である期間において、連結操作に基づき左入力レバー 810L の左端端配置からの移動が左連結操作検出スイッチ 838L によって検出された場合に、また、右入力レバー 810R の右端配置からの移動が右連結操作検出スイッチ 838R によって検出された場合に、副制御基板 940 は、左連結操作検出スイッチ 838L や右連結操作検出スイッチ 838R による検出を有効なものと判断して受け付ける。一方、連結操作有効フラグがオフ状態である期間においては、左連結操作検出スイッチ 838L や右連結操作検出スイッチ 838R による検出を無効なものと判断して受け付けない。

20

【0511】

連結操作有効フラグがオン状態となると、副制御基板 940 の演出タイマ（図示せず）に、副制御基板 940 の ROM に記憶された連結操作の有効期間 TL の長さに対応する値が初期設定される。連結操作有効フラグは、両手参加型の殻割り演出の終了（時刻 t_{c8} ）までオン状態に維持される。

30

【0512】

第 1 ラウンドの開始から進入可能期間の開始までの期間（時刻 t_1 ～時刻 t_4 ：概ね 9.0 秒）において連結操作有効フラグがオフ状態である時間（連結操作の有効時間）は、遊技球が連続して発射される場合の発射間隔に相当する時間（例えば、0.6 秒）に規定数（例えば、10 個）を乗じた時間（例えば、6.0 秒）よりも十分に短い時間（例えば、2.5 秒）に設定される。左入力レバー 810L と右入力レバー 810R との連結操作は両手で行う必要があり、その期間中は、発射操作装置 250 の発射操作は行えず、遊技球が発射されない。このため、例えば、上進入規制機構 454 により遊技球の球噛みが発生していたとしても、進入可能期間が開始される前に、規定数以上の遊技球が案内通路 494 に進入してしまうことを防止できる。

40

【0513】

また、連結操作有効フラグがオン状態となると、左入力レバー 810L の移動を規制する左レバー規制部材 841L を駆動する左レバー移動規制ソレノイドと、右入力レバー 810R の移動を規制する右レバー規制部材 841R を駆動する右レバー移動規制ソレノイドがオン状態となる。左レバー移動規制ソレノイドと右レバー移動規制ソレノイドとは、同じタイミングでオン状態やオフ状態へ移行するため、図 33 において、それらのソレノイ

50

ドを区別せずに移動規制ソレノイドとして示す。移動規制ソレノイドがオン状態となると左レバー規制部材 841L と右レバー規制部材 841R とが規制配置から許容配置に変化する。これにより、左入力レバー 810L を左端配置から中央配置へと変化させることが可能になり、また、右入力レバー 810R を右端配置から中央配置へと変化させることが可能になる。移動規制ソレノイドの動作は、副制御基板 940 の ROM に記憶された移動規制ソレノイドをオン状態やオフ状態に移行するタイミングを指定する時間情報に基づいて制御される。移動規制ソレノイドは、連結操作の有効期間 TL の終了後の時刻 tf18 にオフ状態となる。

【0514】

また、連結操作有効フラグがオン状態となると、左入力レバー 810L に設けられた上側電磁石 818L と下側電磁石 819L とが、右側（右入力レバー 810R 側）が N 極となるように励磁され、右入力レバー 810R に設けられた上側電磁石 818R と下側電磁石 819R とが、左側（左入力レバー 810L 側）が N 極となるように励磁される。左入力レバー 810L に設けられた上側電磁石 818L と下側電磁石 819L とは同一タイミングで同一極性に励磁されるため、それらの電磁石を区別せずに、図 33 に示すように左レバー電磁石 818L, 819L とも称し、同様に、右入力レバー 810R に設けられた上側電磁石 818R と下側電磁石 819R とを区別せずに、図 33 に示すように右レバー電磁石 818R, 819R とも称す。左レバー電磁石 818L, 819L と右レバー電磁石 818R, 819R が同極の N 極に励磁（図 33 における N 極励磁）されると、左入力レバー 810L と右入力レバー 810R とが近接する位置に移動したとしても、左レバー電磁石 818L, 819L と右レバー電磁石 818R, 819R とが反発し、左入力レバー 810L と右入力レバー 810R との連結が阻止される（図 32（B）参照）。

【0515】

左レバー電磁石 818L, 819L に対しては、N 極励磁のみが行われるが、右レバー電磁石 818R, 819R に対しては、左側を S 極とする励磁（図 33 における S 極励磁：時刻 tf16～時刻 tf17）も行われる。具体的には、副制御基板 940 の ROM には、左レバー電磁石 818L, 819L の状態を切り替えるタイミングを指定する時間情報が記憶され、副制御基板 940 の RAM には、励磁状態とするのか非励磁状態とするのかを指定する左励磁情報（例えば、非励磁の場合は 0、励磁の場合は 1）が記憶されている。また、副制御基板 940 の ROM には、右レバー電磁石 818R, 819R の状態を切り替えるタイミングを指定する時間情報が記憶され、副制御基板 940 の RAM には、N 極励磁状態とするか S 極励磁状態とするか非励磁状態とするかを指定する右励磁情報（非励磁の場合は 0、N 極励磁の場合は 1、S 極励磁の場合は 2）が記憶されている。

【0516】

なお、左レバー電磁石 818L, 819L と右レバー電磁石 818R, 819R とを逆極性で励磁することで、左入力レバー 810L と右入力レバー 810R との連結が阻止される構成であるが、この構成に限らず、左レバー回転駆動モータ 831L 及び右レバー回転駆動モータ 831R の少なくとも一方を逆方向（左入力レバー 810L や右入力レバー 810R 中央配置から離れる方向）に回転させる駆動力を発生させる制御を行うことで、左入力レバー 810L と右入力レバー 810R との連結が阻止される構成としてもよい。

【0517】

連結操作有効フラグがオン状態となった後、遊技者が左入力レバー 810L と右入力レバー 810R との連結操作を開始すると（時刻 tf4）、左連結操作検出スイッチ 838L 及び右連結操作検出スイッチ 838R がオン状態となる。遊技者は左入力レバー 810L と右入力レバー 810R とを左右対称に移動させているとして、図 33 においては、左連結操作検出スイッチ 838L と右連結操作検出スイッチ 838R とを区別せず、連結操作検出スイッチとして示す。

【0518】

なお、左入力レバー 810L と右入力レバー 810R との連結操作が行われていることを判断する構成は、上記構成に限らず、例えば、左連結操作検出スイッチ 838L 及び左連

結操作検出スイッチ 838 L の一方のみを設け、左連結操作検出スイッチ 838 L 及び左連結操作検出スイッチ 838 L の一方の検出状態に基づいて、副制御基板 940 で左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R との連結操作が行われていると判断する構成としてもよい。

【0519】

左連結操作検出スイッチ 838 L 及び右連結操作検出スイッチ 838 R の双方がオン状態となると、図示しないが、左連結操作検出スイッチ 838 L 及び右連結操作検出スイッチ 838 R の双方がオン状態である積算時間が計測される。具体的には、副制御基板 940 の RAM に記憶された左連結操作検出スイッチ 838 L 及び右連結操作検出スイッチ 838 R の双方がオン状態である積算時間を計測する積算時間カウンタに、規定の判定時間 T M (例えば、6.0 秒) に対応する値が初期設定される。積算時間カウンタは、連結操作有効フラグがオン状態であり、かつ、左連結操作検出スイッチ 838 L 及び右連結操作検出スイッチ 838 R の双方がオン状態である場合、所定の時間 (例えば、2 ms) ごとに 1 ずつ減算される。副制御基板 940 は、積算時間カウンタが 0 となることによって、遊技者によって連結操作が行われたと判断する。

10

【0520】

連結操作の有効期間 T L において、左連結操作検出スイッチ 838 L 及び右連結操作検出スイッチ 838 R の双方がオン状態となる時間が規定の判定時間 T M 以上となる時刻 t f 15 に、図示しない演出選択フラグがオン状態となる。演出選択フラグは、装飾図柄表示装置 479 において両手参加型の殻割り演出に引き続き実行される演出を指定する情報であり、副制御基板 940 の RAM に記憶されている。これにより、演出選択フラグが殻割り演出の終了時にオン状態である場合には、装飾図柄表示装置 479 において、両手参加型の殻割り演出に引き続き、宝卵 482 が割れて宝 483 が出現する宝出現演出が実行される。一方、有効期間 T L において連結操作が行われず、又は、連結操作は行われるものの規定の判定時間未満しか行われず、演出選択フラグが殻割り演出の終了時にオフ状態である場合には、詳細は後述するが、装飾図柄表示装置 479 において、両手参加型の殻割り演出に引き続き、宝卵 482 が割れず宝 483 が出現しない殻割れず演出が実行される。

20

【0521】

なお、左連結操作検出スイッチ 838 L 及び右連結操作検出スイッチ 838 R の双方がオン状態となる時間が規定の判定時間 T M 以上となったことを条件として、両手参加型の殻割り演出に引き続き宝出現演出を行う構成としているが、この構成に限らず、例えば、有効期間 T L を分割した複数の分割期間 (例えば、1 秒ごとの 9 つの期間) を設け、各判定期間の少なくとも一部において左連結操作検出スイッチ 838 L 及び右連結操作検出スイッチ 838 R の双方がオン状態であることを条件として、殻割り演出に引き続き宝出現演出を行う構成としてもよい。また、左連結操作検出スイッチ 838 L 及び右連結操作検出スイッチ 838 R に基づく条件に代えて又は加えて、後述する左連結操作検出スイッチ 838 L 及び右連結操作検出スイッチ 838 R により左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R との連結が検出されることを条件として、両手参加型の殻割り演出に引き続き宝出現演出を行う構成としてもよい。

30

40

【0522】

また、左連結操作検出スイッチ 838 L 及び右連結操作検出スイッチ 838 R の双方がオン状態である時間が規定の判定時間 T M 以上となる時刻 t f 15 に、装飾図柄表示装置 479 において、連結操作指示情報 484 D に加えて、連結操作を継続するように遊技者に促す情報 (例えば、図 34 (B) における「もう少しだ!」) が表示される。これにより、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とが連結はしないが近接した配置をとる状態を両手参加型の殻割り演出が終了するまで継続させることが可能になる。なお、連結操作を継続するように促す情報の表示時期は、規定の判定時間 T M 以上となる時刻に限らず、判定時間 T M までの残り時間が一定以下になった場合としてもよい。

【0523】

50

連結操作有効フラグがオフ状態（連結操作の有効期間 T L の終了）となる時刻 t c 8 に、殻割り演出が終了し、宝出現演出（時刻 t c 8 ～時刻 t c 10）が開始される。

【0524】

宝出現演出が開始されると、左レバー電磁石 818 L, 819 L が N 極励磁状態に維持されたままで、右レバー電磁石 818 R, 819 R は S 極励磁状態となる。これにより、左レバー電磁石 818 L, 819 L と右レバー電磁石 818 R, 819 R とが引き付け合い、図 34 (C) に示すように、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とが連結される。左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とが連結されることで、装飾図柄表示装置 479 に表示されている宝卵 482 の全体が左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とで覆われた状態となる。

10

【0525】

右レバー電磁石 818 R, 819 R の S 極励磁状態は、所定の時間（例えば、1.0 秒）継続される。装飾図柄表示装置 479 において、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とが連結している状態で宝卵 482 の殻が割れ、宝卵 482 の破片が左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R の背後から左右に飛び出す表示が行われる。

【0526】

また、宝出現演出が開始されると、左レバー回転駆動モータ 831 L が、左入力レバー 810 L を左端配置側から中央配置側に向けて移動させる順方向に回転する。また、右レバー回転駆動モータが、右入力レバー 810 R を右端配置側から中央配置側に向けて移動させる順回転で駆動される。左レバー回転駆動モータ 831 L と右レバー回転駆動モータ 831 R とは同じタイミングで同じ方向に回転させたり停止させたりするために、以下においては、図 34 に示すように、それらのモータを区別せずに、レバー回転駆動モータ 831 L, 831 R とも称す。

20

【0527】

具体的には、副制御基板 940 の ROM には、レバー回転駆動モータ 831 L, 831 R を順方向（左入力レバー 810 L や右入力レバー 810 R を中方配置側に移動させる方向）に回転させたり、順方向とは逆の逆方向（左入力レバー 810 L については左端配置側に移動させ、右入力レバー 810 R については右端配置側に移動させる方向）に回転させたり、回転を停止させたりするタイミングを指定する時間情報を記憶している。また、副制御基板 940 の RAM には、時間の経過と共に変化する駆動情報（例えば、順方向の回転の場合は 1、逆方向の回転の場合は 2、停止の場合は 0）が記憶されている。これにより、副制御基板 940 は、レバー回転駆動モータ 831 L, 831 R の状態を適宜に切り替え、左入力レバー 810 L や右入力レバー 810 R を移動させることができる。レバー回転駆動モータ 831 L, 831 R の順方向の回転は、例えば、右入力レバー 810 R を右端配置から中央配置に移動させるために必要な時間（例えば、0.5 秒）よりも短い所定の時間（例えば、0.1 秒）だけ実行される。

30

【0528】

左レバー電磁石 818 L, 819 L と右レバー電磁石 818 R, 819 R とが引き付け合うように励磁することに加えて、レバー回転駆動モータ 831 L, 831 R を順方向に回転させることで、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とを連結させることができる間隔を大きくし、連結の確実性を向上させることができる。なお、左レバー電磁石 818 L, 819 L と右レバー電磁石 818 R, 819 R とが引き付け合うように励磁することに加えて、レバー回転駆動モータ 831 L, 831 R を順方向に回転させる構成としているが、左レバー電磁石 818 L, 819 L と右レバー電磁石 818 R, 819 R とが引き付け合うように励磁すること、又は、レバー回転駆動モータ 831 L, 831 R を順方向に回転させることの一方によって、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とを連結する構成としてもよい。

40

【0529】

左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とが連結されると、左連結状態検出スイッチ 839 L と右連結状態検出スイッチ 839 R との双方がオン状態となる（時刻 t f 16

50

）。遊技者は左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とを左右対称に移動させているとして、図 33 においては、左連結状態検出スイッチ 839 L と右連結状態検出スイッチ 839 R とを区別せず、連結状態検出スイッチとして示す。左連結状態検出スイッチ 839 L のオン状態と右連結状態検出スイッチ 839 R とのオン状態は、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とが連結されている期間に亘り継続される。

【0530】

左レバー電磁石 818 L, 819 L と右連結電磁石とが消磁により非励磁状態となる時刻 t_{f17} に、レバー回転駆動モータ 831 L, 831 R は、逆方向に回転し、回転を開始してから所定の時間（例えば、0.5 秒）後に停止する。これにより、左入力レバー 810 L は中央配置から左端配置に戻り、また、右入力レバー 810 R は中央配置から右端配置に戻る（時刻 t_{f18} ）。

10

【0531】

また、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とが連結されると、副制御基板 940 において、入力操作関連情報の一種として、連結操作指示情報 484 D に代えて、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R との連結操作を終了するように遊技者に指示する操作終了指示情報 487 D（例えば、図 34（C）における「左右のレバーを離せ！」）が表示される。これにより、レバー回転駆動モータ 831 L, 831 R の逆方向の回転で、左入力レバー 810 L を中央配置から左端配置に、また、右入力レバー 810 R を中央配置から右端配置に円滑に移動させることができる。

【0532】

20

V を狙え演出が開始される時刻 t_3 に、回転駆動モータは、順方向の回転を開始する。これにより、左可動部材 10 と右可動部材 20 とは、互いに近接するように中央側に向けて移動する。左可動部材 10 と右可動部材 20 とが、遊技領域 409 の入口部分 409 E から特典領域 409 V へ向かう方向側へ連続する特典領域指示配置（図 13 参照）をとる時刻 t_{f19} になると、回転駆動モータは、順方向の回転を停止する。これにより、左可動部材 10 と右可動部材 20 とが特典領域指示配置をとり、特典領域 409 V に遊技球が進入可能なことを遊技者に知らせることができる。

【0533】

ここで、時短予定の特別遊技状態における両手参加型の演出（両手参加型の殻割りミッション演出）に遊技者が参加する場合の両手参加型の演出の推移について、図 35 と共に、図 37（A）及び図 37（B）を参照して説明する。図 35 は、時短予定の特別遊技状態における両手参加型の演出の制御であって、当該演出に遊技者が参加する場合の制御を示すタイミングチャートである。なお、図 35 において、第 1 ラウンドの後半の制御を省略すると共に、特別遊技状態が開始される直前の装飾図柄による図柄の変動表示の期間（図柄変動期間）の一部の制御を示す。

30

【0534】

また、図 37 は、確変予定の特別遊技状態の両手参加型の演出に遊技者が参加する場合以外における両手参加型の演出の推移を模式的に示す説明図である。図 37（A）及び図 37（B）は、時短予定の特別遊技状態における両手参加型の演出に遊技者が参加する場合であって、図 37（A）が殻割れず演出の開始直後（時刻 t_{d8} の直後）を示し、図 37（B）が殻割れず演出中（時刻 t_{g17} ）を示す。また、図 37（C）及び図 37（D）は、確変予定の特別遊技状態の両手参加型の殻割り演出に遊技者が参加しない場合であって、図 37（C）が殻割れず演出の開始直後（時刻 t_{d8} の直後）を示し、図 37（D）が V 後告知演出中（時刻 t_{c11} ）を示す。

40

【0535】

オープニング演出（OP 演出）が実行される時刻 t_{d1} ～時刻 t_{d2} において、確変予定の特別遊技状態の時刻 t_{c1} ～時刻 t_{c2} と同様の表示演出が、装飾図柄表示装置 479 で実行される。また、両手参加型の殻割り演出が実行される時刻 t_{d2} ～時刻 t_{d8} において、確変予定の特別遊技状態の時刻 t_{c2} ～時刻 t_{c8} と同様の表示が装飾図柄表示装置 479 で行われる。

50

【0536】

時短予定の特別遊技状態における両手参加型の殻割り演出において、連結操作有効フラグがオン状態となる時刻 t_{g1} となった後、遊技者が左入力レバー 810L と右入力レバー 810R との連結操作を開始すると（時刻 t_{g4} ）、左連結操作検出スイッチ 838L 及び右連結操作検出スイッチ 838R がオン状態となる。

【0537】

時短予定の特別遊技状態においては、連結操作有効フラグがオン状態となっている期間中に、左連結状態検出スイッチ 839L と右連結状態検出スイッチ 839R との双方がオン状態をとる時間が規定の判定時間 T_M となったとしても（時刻 t_{g15} ）、演出選択フラグは、確変予定の特別遊技状態の場合のようにオン状態とはならずオフ状態に維持される。このため、両手参加型の殻割り演出に引き続き、装飾図柄表示装置 479 において、宝卵 482 が割れず、宝 483（図 34（D）参照）が出現しない表示を行う殻割れず演出（時刻 t_{d8} ～時刻 t_{d10} ）が実行される。なお、時短予定の特別遊技状態においては、遊技者が連結操作を行っても、その操作時間の長さによらず殻割れず演出が実行されるため、判定時間 T_M の計測は行わなくてもよい。

10

【0538】

殻割れず演出が開始（時刻 t_{d8} ）されても、左レバー電磁石 818L，819L や右レバー電磁石 818R，819R は、N 極励磁状態を維持する。このため、確変予定の特別遊技状態の場合には、右レバー電磁石 818R，819R が S 極励磁状態に変化することで左入力レバー 810L と右入力レバー 810R とが連結されるが（図 34（C）参照）、時短予定の特別遊技状態の場合には、図 37（A）に示すように、左入力レバー 810L と右入力レバー 810R とは連結されない。

20

【0539】

また、殻割れず演出が開始（時刻 t_{d8} ）されても、左入力レバー 810L と右入力レバー 810R との連結を補助するためのレバー回転駆動モータ 831L，831R の順方向の回転は実行されない。

【0540】

殻割れず演出が開始（時刻 t_{d8} ）されると、装飾図柄表示装置 479 において、入力操作関連情報の一種として、連結操作指示情報 484D に代えて、図 37（A）に示すように、操作終了指示情報 487D が表示される。

30

【0541】

また、殻割れず演出が開始されると、装飾図柄表示装置 479 において、左入力レバー 810L と右入力レバー 810R との連結が失敗に終わったことを示す情報（図 37（A）における「連結失敗！」との文字情報）が表示される。なお、左入力レバー 810L と右入力レバー 810R との連結が失敗に終わったことを示す情報が表示されるが、この情報の表示は必須ではない。

【0542】

操作終了指示情報 487D が表示された後の時刻 t_{g17} に、左レバー電磁石 818L，819L と右連結電磁石とが消磁により非励磁状態となり、また、レバー回転駆動モータ 831L，831R が逆方向に回転し、左入力レバー 810L は左端配置に戻り、また、右入力レバー 810R は右端配置に戻る（時刻 t_{g18} ）。

40

【0543】

また、時刻 t_{g17} に、装飾図柄表示装置 479 において、入力操作関連情報の一種として、操作終了指示情報 487D に代えて、図 37（B）に示すように、右打ち指示情報 485 が表示される。

【0544】

レバー回転駆動モータ 831L，831R が停止した後の時刻 t_{f18} に、殻割れず演出に引き続き残念演出が実行される。

【0545】

ここで、確変予定の特別遊技状態の両手参加型の殻割りミッション演出に遊技者が参加し

50

ない場合における両手参加型の殻割りミッション演出の推移について、図 3 6 と共に、図 3 7 (C) 及び図 3 7 (D) を参照して説明する。図 3 6 は、確変予定の特別遊技状態における両手参加型の演出の制御であって、当該演出に遊技者が参加しない場合の制御を示すタイミングチャートである。なお、図 3 6 において、第 1 ラウンドの後半の制御を省略すると共に、特別遊技状態が開始される直前の装飾図柄による図柄の変動表示の期間（図柄変動期間）の一部の制御を示す。以下において、両手参加型の殻割りミッション演出に参加する場合（図 3 4 に示す場合）の制御との相違部分についてのみ説明する。

【0546】

確変予定の特別遊技状態における両手参加型の殻割り演出において、左入力レバー 8 1 0 L と右入力レバー 8 1 0 R との連結操作が行われない場合、連結操作有効フラグがオン状態である期間（連結操作の有効期間 T L）に亘り、左連結状態検出スイッチ 8 3 9 L と右連結状態検出スイッチ 8 3 9 R とがオフ状態に維持される。このため、演出選択フラグは、両手参加型の演出に遊技者が参加する場合のようにオン状態とはならず、オフ状態に維持される。したがって、両手参加型の殻割り演出に引き続き、装飾図柄表示装置 4 7 9 において、宝卵 4 8 2 が割れず、宝 4 8 3（図 3 4 (D) 参照）が出現しない表示を行う殻割れず演出（時刻 t c 8 ～時刻 t c 1 0）が実行される。このとき実行される殻割れず演出は、時短予定の特別遊技状態で実行される殻割れず演出（時刻 t d 8 ～時刻 t d 1 0：図 3 5 参照）と同一の演出である。したがって、両手参加型の殻割り演出が実行される期間に加えて、殻割れず演出が実行される期間においても、遊技者は、装飾図柄表示装置 4 7 9 の表示によって、確変予定の特別遊技状態であるのか時短予定の特別遊技状態であるのかを区別することができない。

【0547】

また、左連結状態検出スイッチ 8 3 9 L と右連結状態検出スイッチ 8 3 9 R とがオフ状態に維持されているため、右レバー電磁石 8 1 8 R，8 1 9 R は、両手参加型の殻割り演出が終了しても（時刻 t c 8）、左レバー電磁石 8 1 8 L，8 1 9 L と同極性の N 極励磁状態に維持される。このため、左入力レバー 8 1 0 L と右入力レバー 8 1 0 R とが連結されることはない。

【0548】

また、左連結状態検出スイッチ 8 3 9 L と右連結状態検出スイッチ 8 3 9 R とがオフ状態に維持されているため、レバー回転駆動モータ 8 3 1 L，8 3 1 R は、左入力レバー 8 1 0 L と右入力レバー 8 1 0 R との連結を補助するための順方向への回転が実行されない。このため、遊技者は、左入力レバー 8 1 0 L や右入力レバー 8 1 0 R の動作によって、確変予定の特別遊技状態であるのか時短予定の特別遊技状態であるのかを区別することができない。

【0549】

殻割れず演出の開始時（時刻 t c 8）に、左入力レバー 8 1 0 L が左端配置をとり、かつ、右入力レバー 8 1 0 R が右端配置をとるため、左入力レバー 8 1 0 L を左端配置に戻したり、右入力レバー 8 1 0 R を右端配置に戻したりするための逆方向への回転も実行されない。また、殻割れず演出の開始時に、左入力レバー 8 1 0 L が左端配置をとり、かつ、右入力レバー 8 1 0 R が右端配置をとるため、図 3 7 (C) に示すように、装飾図柄表示装置 4 7 9 において、操作終了指示情報 4 8 7 D は表示されない。一方、殻割れず演出の開始時に、左入力レバー 8 1 0 L が左端配置をとっていない場合や右入力レバー 8 1 0 R が右端配置をとっていない場合には、装飾図柄表示装置 4 7 9 において、操作終了指示情報 4 8 7 D が表示され、レバー回転駆動モータ 8 3 1 L，8 3 1 R の逆方向への回転が実行され、左入力レバー 8 1 0 L を左端配置に戻し、右入力レバー 8 1 0 R を右端配置に戻す。

【0550】

殻割れず演出の終了後であって進入可能期間が開始（時刻 t 4）された後に、特典領域 4 0 9 V に進入した遊技球が特定通路スイッチ 4 4 8 で検出されると（時刻 t h 1 9）、確変遊技状態への移行が確定したことを遊技者に告知する V 後告知演出（時刻 t h 1 9 ～時

刻 t c 1 2) が実行される。

【 0 5 5 1 】

V 後告知演出において、回転駆動モータ（図示せず）が順方向の回転を開始し（時刻 t h 1 9 ）、また、斜め移動駆動モータ（図示せず）が順方向の回転を開始し（時刻 t h 1 9 ）、左可動部材 1 0 と右可動部材 2 0 とが離間姿勢からの移動を開始する。左可動部材 1 0 及び右可動部材 2 0 の斜め移動が完了し（時刻 t h 2 0 ）、左可動部材 1 0 及び右可動部材 2 0 の斜め移動が完了すると（時刻 t h 2 1 ）、左可動部材 1 0 及び右可動部材 2 0 とは、図 3 7 （ D ）に示すように、遊技領域 4 0 9 へ遊技球が流下する入口部分 4 0 9 E から特典領域 4 0 9 V へ向かう方向側へ連続する特典領域指示配置をとる。

【 0 5 5 2 】

左可動部材 1 0 と右可動部材 2 0 とが特典領域指示配置となった後の時刻 t c 1 1 に、回転駆動モータ（図示せず）が逆方向の回転を開始し、また、斜め移動駆動モータ（図示せず）が逆方向の回転を開始する。左可動部材 1 0 及び右可動部材 2 0 の斜め移動が完了し（時刻 t c 1 2 ）、左可動部材 1 0 及び右可動部材 2 0 の斜め移動が完了すると（時刻 t c 1 3 ）、左可動部材 1 0 と右可動部材 2 0 とは、離間姿勢に戻る。

【 0 5 5 3 】

以上で説明したパチンコ機 1 0 0 であれば、特典領域 4 0 9 V へ遊技球が進入可能となるラウンド（第 1 ラウンド）において、左入力操作装置 8 0 1 L の一部である左入力レバー 8 1 0 L が遊技領域 4 0 9 （左流下領域 4 0 9 L ）よりも前側に位置する演出が実行でき、右入力操作装置 8 0 1 R の一部である右入力レバー 8 1 0 R が遊技領域 4 0 9 （右流下領域 4 0 9 R ）よりも前側に位置する演出が実行できる。これにより、左入力レバー 8 1 0 L と右入力レバー 8 1 0 R とによる演出を、遊技領域やその後側に設けられた部材（例えば、左可動部材 1 0 や右可動部材 2 0 ）による演出よりも目立たせることが可能になる。したがって、特典領域 4 0 9 V に遊技球が進入可能な状態の到来を遊技者が見逃してしまう事態の発生を抑制できる。

【 0 5 5 4 】

また、パチンコ機 1 0 0 であれば、特典領域 4 0 9 V へ遊技球が進入可能となるラウンド（第 1 ラウンド）において、左入力操作装置 8 0 1 L の一部である左入力レバー 8 1 0 L が装飾図柄表示装置 4 7 9 よりも前側に位置する演出が実行でき、右入力操作装置 8 0 1 R の一部である右入力レバー 8 1 0 R が装飾図柄表示装置 4 7 9 よりも前側に位置する演出が実行できる。これにより、装飾図柄表示装置 4 7 9 による演出よりも目立たせることが可能になる。したがって、特典領域 4 0 9 V に遊技球が進入可能な状態の到来を遊技者が見逃してしまう事態の発生を抑制できる。

【 0 5 5 5 】

また、パチンコ機 1 0 0 であれば、特典領域 4 0 9 V へ遊技球が進入可能となるラウンド（第 1 ラウンド）において、左入力操作装置 8 0 1 L の一部である左入力レバー 8 1 0 L が装飾図柄表示装置 4 7 9 よりも前側に位置する状態での連結操作による演出が実行でき、右入力操作装置 8 0 1 R の一部である右入力レバー 8 1 0 R が装飾図柄表示装置 4 7 9 よりも前側に位置する状態での連結操作による演出が実行できる。これにより、装飾図柄表示装置 4 7 9 による演出よりも目立たせることが可能になる。したがって、特典領域 4 0 9 V に遊技球が進入可能な状態の到来を遊技者が見逃してしまう事態の発生を抑制できる。

【 0 5 5 6 】

また、パチンコ機 1 0 0 であれば、発射操作装置 2 5 0 と、右入力レバー 8 1 0 R と、左入力レバー 8 1 0 L とが設けられ、両手参加型の演出が実行された場合において右入力レバー 8 1 0 R を右手で操作し、左入力レバー 8 1 0 L を左手で操作した場合に、装飾図柄表示装置 4 7 9 によって宝 4 8 3 の画像が表示される表示制御が副制御基板 9 4 0 の制御によって実行される。このため、発射操作装置 2 5 0 から手を離して遊技球が発射されていない状態で、両手を用いた右入力レバー 8 1 0 R と左入力レバー 8 1 0 L との操作に基づいた演出を遊技者に楽しませることができ、演出への注目度を高めることができる。

10

20

30

40

50

【0557】

また、パチンコ機100であれば、副制御基板940が装飾図柄表示装置479を制御して、片手参加型の演出実行中には、右入力レバー810Rに対して片手で操作を行う場合に対応する片手参加型の演出画像を表示し、両手参加型の演出実行中には、右入力レバー810Rと左入力レバー810Lとに対して両手で操作を行う場合に対応する両手参加型の演出画像を表示する制御を行う。このため、発射操作をしないことで遊技球の発射が停止された状態での両手による入力操作手段の操作に基づいた演出を、片手参加型の演出画像とは異なる演出画像を用いた特別な演出として、遊技者に楽しませることができる。

【0558】

また、パチンコ機100であれば、両手参加型の演出が実行された場合に、右入力レバー810Rと左入力レバー810Lを両手で操作した場合には、装飾図柄表示装置479によって宝483の画像が表示され、右入力レバー810Rと左入力レバー810Lとのいずれか一方を片方の手で操作した場合には、宝483の画像が表示されない表示制御が副制御基板940の制御によって実行される。このため、発射操作をしないことで遊技球の発射が停止された状態での両手による操作に基づいた演出を稀少なものとして遊技者に楽しませることができる。

10

【0559】

また、パチンコ機100であれば、両手参加型の演出が実行された場合に、右入力レバー810Rと左入力レバー810Lを両手で操作して、装飾図柄表示装置479の正面に近い中央配置側に移動する操作をすることによって宝483の画像が表示される。このため、発射操作をしないことで遊技球の発射が停止された状態での両手による操作によって装飾図柄表示装置479への関心が高められた状態で、右入力レバー810R及び左入力レバー810Lの操作と、装飾図柄表示装置479の表示演出とを組み合わせた演出を遊技者に楽しませることができる。

20

【0560】

また、パチンコ機100であれば、発射操作装置250と、右入力レバー810Rと、左入力レバー810Lと、電磁石818R, 819R, 818L, 819Lとが設けられ、所定の操作タイミングとしての確変予定の特別遊技状態における両手参加型の演出実行中に、遊技者が右入力レバー810Rと左入力レバー810Lとを中央配置とした状態にて電磁石818R, 819R, 818L, 819Lの励磁が制御され、右入力レバー810Rと左入力レバー810Lとが中央配置にて連結された状態に維持される制御が行われる。このため、電磁石818R, 819R, 818L, 819Lによって右入力レバー810Rと左入力レバー810Lとが中央配置の位置に維持される操作感を利用した演出を遊技者に楽しませることができる。

30

【0561】

また、パチンコ機100であれば、遊技者側から見て装飾図柄表示装置479の表示画面の手前側に右入力レバー810Rと左入力レバー810Lとが重ならない位置から表示画面の中央部分の手前側に重なる位置まで右入力レバー810Rと左入力レバー810Lとを移動可能に構成されている。このため、右入力レバー810Rと左入力レバー810Lと、装飾図柄表示装置479に表示される画像とを一体的に遊技者が視認し易い演出を実現することができる。このため、右入力レバー810Rと左入力レバー810Lとを、表示画像に組み合わされた表示対象として関連させた演出を実行することができる。よって、装飾図柄表示装置479の前側に重なって配置される立体的な可動部材を、遊技者があたかも動作させることができるような演出を実現することができる。

40

【0562】

次に、確変予定の特別遊技状態や時短予定の特別遊技状態で実行される両手参加型の殻割りミッション演出において、図33～図37に示す場合とは別の演出の推移を辿る形態について、図38～図43を参照して説明する。以下においては、新たな演出を含む両手参加型の殻割りミッション演出の推移の説明に先立ち、当該演出で利用可能な左入力操作装置801Lや右入力操作装置801Rの特性について説明する。

50

【0563】

右入力操作装置801Rは、右入力レバー810Rを支持する右外側支持腕823Rに連結された右レバー回転駆動モータ831Rとして、サーボモータを備えている。このサーボモータは、動力を供給するACモータやDCモータやパルスモータ等の動力供給部（図示せず）と、右外側支持腕823Rの回転方向や回転位置や回転速度を検出可能なエンコーダ等の移動検出部（図示せず）とを備えている。このため、サーボモータの動力供給部の回転制御によって、右入力レバー810Rを中央配置側や右端配置側に移動させたり、一定の速度で移動させたり、回転移動位置（右端配置の場合に対する右外側支持腕823Rの回転角度）に基づいて速度を変化させながら移動させたり、時間の経過に基づいて速度を変化させながら移動させたりできる。また、右入力レバー810Rの回転移動位置をサーボモータの移動検出部で常に検出することができる。

10

【0564】

また、右レバー回転駆動モータ831Rとしてサーボモータを用いることで、右入力レバー810Rが遊技者の操作によって移動する場合であっても、移動検出部は、右外側支持腕823Rの回転方向や回転角度や回転速度を検出可能である。このため、右入力レバー810Rが遊技者の操作によって移動する場合に、右入力レバー810Rの回転移動位置をサーボモータの移動検出部で常に検出しながら、遊技者の操作に対して一定の反力や、右入力レバー810Rの回転移動位置に基づいて変化する反力や、時間の経過に基づき変化する反力を発生させることができる。したがって、遊技者が右入力レバー810Rを操作する際に、遊技者に多様な操作感を与えることができる。

20

【0565】

また、左入力操作装置801Lは、左入力レバー810Lを支持する左外側支持腕823Lに連結された左レバー回転駆動モータ831Lとして、右レバー回転駆動モータ831Rの場合と同様のサーボモータを備えている。このため、左入力レバー810Lについても、右入力レバー810Rに関して説明したように、多様な形態で移動させたり、多様な操作感を遊技者に与えたりできる。

【0566】

左入力レバー810Lや右入力レバー810Rは、前後方向（遊技盤400に対して近づくいたり遠ざかったりする方向）に移動可能に構成されている。ここで、左入力レバー810Lや右入力レバー810Rを前後方向に移動可能とする構成について、図38を参照して説明する。図38は、図5のX1-X1を含む切断面により左入力レバー810L及び右入力レバー810Rの前後方向の動作を模式的に示す説明図である。図38（A）は、左入力レバー810Lが一点鎖線で示す左端配置（位置XL F）から実線で示す中央配置側（位置XL 7）へ移動し、右入力レバー810Rが一点鎖線で示す右端配置（位置XR F）から実線で示す中央配置側（位置XR 7）へ移動する場合を示す。また、図38（B）は、各入力レバー810L，810Rが、一点鎖線で示す中央配置側へ移動した位置において、実線で示す前後方向へ移動する場合を示している。

30

【0567】

右入力操作装置801Rは、図38に示すように、右支持台820Rに対して右入力レバー810Rを前後方向に移動可能に連結された前後移動機構（以下において、右レバー前後移動機構851Rとも称す）と、右レバー前後移動機構851Rを介して右入力レバー810Rを前後方向に移動させる駆動力を発生する前後移動駆動モータ（以下において、右レバー前後移動駆動モータ852Rとも称す）とを備えている。また、左入力操作装置801Lは、右レバー前後移動機構851Rと同様の前後移動機構（以下において、左レバー前後移動機構851Lとも称す）と、右レバー前後移動駆動モータ852Rと同様の前後移動駆動モータ（以下において、左レバー前後移動駆動モータ852Lとも称す）を備えている。

40

【0568】

具体的には、右入力操作装置801Rは、右レバー前後移動駆動モータ852Rとして、ACモータやDCモータやパルスモータ等の回転による駆動力を発生する駆動モータを備

50

え、また、右レバー前後移動機構 8 5 1 R として、例えば、駆動モータの回転軸に接続されたピニオンギアと右入力レバー 8 1 0 R に接続されたラックギアとを備えている。このため、駆動モータの回転による駆動力を直線方向の駆動力に変換して右入力レバー 8 1 0 R に伝達することができる。左レバー前後移動機構 8 5 1 L や右レバー前後移動駆動モータ 8 5 2 R についても同様である。

【0569】

例えば、右入力操作装置 8 0 1 R は、ピニオンギアやラックギアとして平歯ギア（スパーギア）が用いられ、駆動モータの回転軸の方向が右入力レバー 8 1 0 R の移動する前後方向に対して垂直な左右方向となるように駆動モータが配置された構成としてもよい。また、ピニオンギアやラックギアとしてヘリカルギアが用いられ、駆動モータの回転軸の方向が前後方向となるように駆動モータが配置される構成としてもよい。なお、左入力レバーや右入力レバー 8 1 0 R を前後方向に移動させる駆動源として、回転による駆動力を発生する駆動モータを備える構成であるが、この構成に限らず、ソレノイド等の直線方向の駆動力を発生する装置を動力源とする構成としてもよい。

【0570】

まず、確変予定の遊技状態で実行される両手参加型の殻割りミッション演出において、当該演出に遊技者が参加する場合について、図 3 9 ～ 図 4 1 を参照して説明する。

【0571】

図 3 9 は、確変予定の特別遊技状態における両手参加型の演出（両手参加型の殻割りミッション演出）の図 3 3 に示す場合とは別の制御であって、当該演出に遊技者が参加する場合の制御を示すタイミングチャートである。なお、図 3 9 において、第 1 ラウンドの後半の制御を省略すると共に、特別遊技状態が開始される直前の装飾図柄による図柄の変動表示の期間（図柄変動期間）の一部の制御を示す。

【0572】

図 4 0 は、左入力レバー 8 1 0 L や右入力レバー 8 1 0 R が回転移動する場合の動作制御を示す説明図である。図 4 0 (A) 及び図 4 0 (B) は、遊技者の入力操作に基づいて各入力レバー 8 1 0 L, 8 1 0 R が移動する場合の操作感を発現させる各レバー回転駆動モータ 8 3 1 L, 8 3 1 R の動作制御を示すグラフであり、図 4 0 (C) 及び図 4 0 (D) は、遊技者の入力操作によらずに左入力レバー 8 1 0 L 及び右入力レバー 8 1 0 R が回転移動する場合の各レバー回転駆動モータ 8 3 1 L, 8 3 1 R の動作制御を示すグラフである。

【0573】

図 4 1 は、確変予定の特別遊技状態における両手参加型の演出の図 3 4 に示す場合とは別の推移であって、当該演出に遊技者が参加する場合の推移を模式的に示す説明図である。

【0574】

以下においては、図 3 9 ～ 図 4 1 に示す両手参加型の殻割りミッション演出の制御における図 3 3 及び図 3 4 に示す両手参加型の殻割りミッション演出の制御との相違部分について説明する。

【0575】

図 3 9 に示すように、確変予定の特別遊技状態が開始される時刻 t_{c1} に、装飾図柄表示装置 4 7 9 において、オープニング演出（OP 演出）が開始される。また、時刻 t_{c1} に、装飾図柄表示装置 4 7 9 において、入力操作関連情報として、左入力レバー 8 1 0 L と右入力レバー 8 1 0 R とを操作する準備として各入力レバー 8 1 0 L, 8 1 0 R とを掴む動作を指示する操作準備指示情報（図 3 9 における「操作準備」）が表示される。

【0576】

オープニング演出において、図 4 1 (A) に示すように、表示部 4 7 9 a の中央の下端から上側に向かって宝卵 4 8 2 が出現する表示が開始される。宝卵 4 8 2 としては、通常宝卵 4 8 2 N、通常宝卵 4 8 2 N よりも殻が硬い硬宝卵 4 8 2 H 及び通常宝卵 4 8 2 N よりも殻が軟らかい軟宝卵 4 8 2 S の 3 種のいずれかが出現する。

【0577】

10

20

30

40

50

具体的には、副制御基板 940 は、宝卵 482 の種類を選択する乱数カウンタを RAM に備え、乱数カウンタの値と宝卵 482 の種類との対応を示す種類判定情報を ROM に記憶している。このため、種類判定情報を参照することで、選択された乱数カウンタの値に応じて出現する宝卵 482 の種類を決定することができる。また、副制御基板 940 は、選択された宝卵の種類を示す情報（例えば、通常宝卵：1、硬宝卵 482 H：0、軟宝卵 482 S：2）が宝卵識別情報として RAM に記憶されており、宝卵識別情報に基づいて、通常宝卵 482 N、硬宝卵 482 H 及び軟宝卵 482 S の 3 種のいずれか 1 種を出現させる。種類判定情報は、例えば、宝卵 482 の種類を選択する乱数カウンタが取り得る値が 100 個（例えば、0～99）である場合に、50 個の値（例えば、0～49）を通常宝卵 482 N に対応付け、20 個の値を硬宝卵 482 H に対応付け、30 個の値を軟宝卵 482 S に対応付ける情報であり、出現する宝卵 482 の種類が所定の割合（例えば、通常宝卵：硬宝卵 482 H：軟宝卵 482 S＝50：20：30）となるように設定されている。

10

【0578】

出現する宝卵 482 は、装飾図柄表示装置 479 において、種類によらず同一の表示で表示される。このため、遊技者は、出現時の表示によっては、宝卵 482 の種類を判別できない。宝卵 482 の種類は、詳細は後述するが、左入力レバー 810 L や右入力レバー 810 R を、出現した宝卵 482 を挟むかのように中央配置側に遊技者が移動させることで判別できる。

【0579】

また、副制御基板 940 は、確変予定の特別遊技状態で参照される種類判定情報（以下において、確変予定時の種類判定情報とも称す）とは別に、時短予定の特別遊技状態で参照される種類判定情報（以下において、時短予定時の種類判定情報とも称す）を ROM に記憶している。時短予定時の種類判定情報は、宝卵 482 の種類を選択する乱数カウンタが取り得る値のすべてを、通常宝卵 482 N 又は軟宝卵 482 S に対応付ける情報としている。このため、時短予定の特別遊技状態においては、硬宝卵 482 H は出現しないように設定されている（例えば、通常宝卵：硬宝卵 482 H：軟宝卵 482 S＝65：0：35）。なお、時短予定の特別遊技状態においては、時短予定時の種類判定情報の設定によって、硬宝卵 482 H が出現しない構成としているが、この構成に限らず、時短予定時の種類判定情報は、宝卵 482 の種類を選択する乱数カウンタが取り得る値の一部が硬宝卵 482 H に対応付けられるものの、対応付けられる乱数カウンタの値の個数が確変予定時の種類判定情報の場合よりも少なくなるように設定され、時短予定の特別遊技状態で硬宝卵 482 H が出現する割合（例えば、通常宝卵：硬宝卵 482 H：軟宝卵 482 S＝65：5：30）が確変予定の特別遊技状態の場合よりも少なくなるように設定された構成としてもよい。

20

30

【0580】

オープニング演出に引き続き、図 39 に示すように、両手参加型の殻割り演出が開始されると（時刻 tc2）、装飾図柄表示装置 479 において、入力操作関連情報として、操作準備指示情報に代えて、出現した宝卵 482 を両入力レバー 810 L、810 R で挟むように、各入力レバー 810 L、810 R を中央配置側に移動させる操作（以下において、挟み操作とも称す）を指示する挟み操作指示情報 488（図 39 における「挟み操作」が表示される。具体的には、図 41（A）における「左右のレバーで殻を挟め！」との文字情報が表示される。挟み操作指示情報 488 の表示は、図 39 に示すように、所定の時間（例えば、2.0 秒）継続され、時刻 ti3 に終了する。挟み操作指示情報 488 は、表示を開始するタイミングや表示を終了するタイミングを指定する時間情報と共に、副制御基板 940 の ROM に記憶されている。

40

【0581】

なお、挟み操作指示情報 488 は、文字で表示される構成であるが、この構成に限らず、両入力レバー 810 L、810 R が近接する動作を示す画像や、両入力レバー 810 L、810 R を両手で近接させる動作を示す画像などにより、各入力レバー 810 L、810 R

50

Rの操作方法を画像で表示する構成としてもよいし、音声により挟み操作を指示する情報を出力する構成としてもよい。また、挟み操作指示情報を出力する構成は必須の構成ではなく、省略してもよい。

【0582】

両手参加型の殻割り演出中の時刻 t_{f1} に、遊技者による各入力レバー810L, 810Rの移動を有効なものとする有効期間（図33における連結操作の有効期間TLと同一の期間）であるか無効なものとする無効期間であるかを識別する移動操作有効フラグがオン状態となる。移動操作有効フラグは、副制御基板940のRAMに記憶されている。移動操作有効フラグがオン状態となると、副制御基板940の演出タイマ（図示せず）に、副制御基板940のROMに記憶された所定の値（期間TLに相当する値）が初期設定される。移動操作有効フラグは、両手参加型の殻割り演出が終了する時刻 t_{c8} までオン状態に維持される。

10

【0583】

移動操作有効フラグがオン状態である期間を含み、移動規制ソレノイドがオン状態であって各入力レバー810L, 810Rが移動可能な期間において、各入力レバー810L, 810Rの回転移動位置が、各レバー回転駆動モータ831L, 831Rとしてのサーボモータにおける移動検出部（エンコーダ）によって検出され、レバー位置情報として記憶される。レバー位置情報は、移動検出部によって検出される各外側支持腕823L, 823Rの回転角度（左外側支持腕823Lの左端配置から中央配置側への回転角度や右外側支持腕823Rの右端配置から中央配置側への回転角度）に基づき、各入力レバー810L, 810Rの位置を識別する情報である。レバー位置情報の値は、副制御基板940のRAMに記憶され、遊技者の操作や各レバー回転駆動モータ831L, 831Rの動作による各入力レバー810L, 810Rの移動に応じて変化する。

20

【0584】

以下において、右入力レバー810Rの回転移動位置は、理解を容易にするために、右入力レバー810Rの左端（中央側の端）を基準とする左右方向の位置で特定する。具体的には、図41（A）や図39に示すように、右端配置をとる位置を位置XRFとし、中央配置をとる位置を位置XCとし、位置XCから等間隔で離れた位置を位置XC側から順に位置XR1～位置XR8とする。同様に、左入力レバー810Lの回転移動位置についても、左入力レバー810Lの右端の位置を基準とする左右方向の位置で特定し、左端配置をとる位置を位置XLF、中央配置をとる位置を位置XC、位置XCから等間隔で離れた位置を位置XC側から順に位置XL1～位置XL8とする。

30

【0585】

移動操作有効フラグがオン状態となる時刻 t_{f1} に、遊技者の操作を受けて各入力レバー810L, 810Rが回転移動する場合の各レバー回転駆動モータ831L, 831Rの動作制御（以下において、受動制御Aと称す：図39における「受A」）が開始される。受動制御Aにおいて、各入力レバー810L, 810Rを中央側（位置XC側）へ移動させる遊技者による操作力に対して、各入力レバー810L, 810Rの回転移動位置に応じた反力を生じさせるように、各レバー回転駆動モータ831L, 831Rが制御される。これにより、左入力レバー810Lや右入力レバー810Rの操作感を回転移動位置によって変化させることができる。

40

【0586】

ここで、受動制御Aにおける各レバー回転駆動モータ831L, 831Rの動作制御について、図41（A）を参照して説明する。以下において、両レバー回転駆動モータ831L, 831Rの制御は同一であるため、右レバー回転駆動モータ831Rの動作制御についてのみ具体的に説明する。

【0587】

受動制御Aにおいて、右入力レバー810Rのレバー位置情報が位置XRFに対応する値である場合、右レバー回転駆動モータ831Rは、遊技者による右入力レバー810Rに対する操作力を打ち消すように、所定の最大値（最大反力FR0）まで反力を生じさせる

50

。最大反力 F_{R0} は、右入力レバー 810R の自重による回転移動を阻止可能な値よりも大きな値に設定されている。このため、遊技者が右入力レバー 810R を回転移動させる操作を行わなければ、右入力レバー 810R を位置 XRF に維持することができる。また、右入力レバー 810R のレバー位置情報が位置 XRF に対応する値である場合に右入力レバー 810R が最大反力 F_{R0} 以上の操作力で操作されると、右入力レバー 810R は位置 XRF から中央側へ向けて回転移動を開始する。

【0588】

レバー位置情報が位置 XRF に対応する値と位置 XR8 に対応する値との間である場合に、右レバー回転駆動モータ 831R により生じる最大反力は、位置 XRF に対応する値から離れ位置 XR8 に対応する値に近づくにつれて大きくなるように設定されている。このため、右入力レバー 810R を回転移動させる操作において、回転移動の距離が大きくなるにつれて反力が大きくなり、あたかもコイルバネによる付勢を受けているかのような操作感を遊技者に与えることができる。

10

【0589】

また、右レバー回転駆動モータ 831R により生じる最大反力は、右入力レバー 810R のレバー位置情報が位置 XR8 に対応する値となった場合に、最大反力 F_{R1} から不連続に増加するように設定されている。このため、右入力レバー 810R が宝卵 482 の右側に接するよう見える位置 XR8 まで移動した場合、あたかも右入力レバー 810R が宝卵 482 に物理的に衝突したかのような操作感を遊技者に与えることができる。

【0590】

右入力レバー 810R のレバー位置情報が位置 XR8 に対応する値となった場合の最大反力は、宝卵識別情報の値（選択されている宝卵 482 の種類）によって異なる値となるように設定されている。具体的には、右入力レバー 810R のレバー位置情報が位置 XR8 に対応する値となった場合の最大反力は、宝卵識別情報が通常宝卵 482N に対応する値である場合、実線で示すように、最大反力 F_{R1} より大きな最大反力 F_{R2} に設定される。また、右入力レバー 810R のレバー位置情報が位置 XR8 に対応する値となった場合の最大反力は、宝卵識別情報が硬宝卵 482H に対応する値である場合には、一点鎖線で示すように、最大反力 F_{R1} より大きく最大反力 F_{R2} よりも大きい最大反力 F_{R2H} となるに設定され、宝卵識別情報が軟宝卵 482S に対応する値である場合には、二点鎖線で示すように、最大反力 F_{R1} よりも大きい最大反力 F_{R2} よりも小さい最大反力 F_{R2S} に設定される。このため、右入力レバー 810R は、硬宝卵 482H が選択されている場合には、通常宝卵 482N が選択されている場合よりも大きな反力を受け、位置 XR8 から位置 XC 側に回転移動させ難くなる。また、右入力レバー 810R は、軟宝卵 482S が選択されている場合には、通常宝卵 482N が選択されている場合より小さな反力しか受けず、位置 XR8 から位置 XC 側に回転移動させ易くなる。したがって、遊技者は、装飾図柄表示装置 479 における表示によっては宝卵 482 の種類を判別することができなかつたものの、右入力レバー 810R を位置 XR8 から位置 XC 側に更に移動させる際に受ける反力の相違に基づく移動のし易さによっては判別することができる。

20

30

【0591】

また、右レバー回転駆動モータ 831R により生じる最大反力は、右入力レバー 810R のレバー位置情報が位置 XR8 に対応する値から位置 XC に対応する値に向かうにつれて、最大反力 F_{RU} まで増加するように設定されている。このため、右入力レバー 810R を位置 XR8 から位置 XC 側に更に回転移動させていく場合、右入力レバー 810R が位置 XR8 から位置 XC 側に向かうにつれて、右入力レバー 810R を回転移動させ難くなる。したがって、詳細は後述するが、装飾図柄表示装置 479 において実行される右入力レバー 810R の回転移動に伴い宝卵 482 が右入力レバー 810R で押圧されて変形していくような表示との連携により、宝卵 482 の変形が進むにつれて更なる変形が難しくなるような操作感を遊技者に与えることができる。

40

【0592】

また、右入力レバー 810R のレバー位置情報が位置 XRF に対応する値と位置 XR8 に

50

対応する値との間である場合、最大反力の増加率（最大反力 F_{RU} に到達するまでの傾斜角度）が、宝卵 482 の種類によって異なる値となるように設定されている。

【0593】

具体的には、宝卵識別情報が硬宝卵 482 H に対応する値である場合、最大反力の増加率は、宝卵識別情報が通常宝卵 482 N に対応する値である場合よりも大きくなるように設定されている。このため、硬宝卵 482 H が選択されている場合であって、右入力レバー 810 R を位置 X R 8 より位置 X C 側に回転移動させていく場合、通常宝卵 482 N が選択されている場合よりも、右入力レバー 810 R の移動に伴う反力の増加率が大きくなり、宝卵 482 が更に変形し難くなるような操作感を与えることができる。また、宝卵識別情報が軟宝卵 482 S に対応する値である場合、最大反力の増加率は、宝卵識別情報が通常宝卵 482 N に対応する値である場合よりも小さくなるように設定されている。このため、軟宝卵 482 S が選択されている場合であって、右入力レバー 810 R を位置 X R 8 より位置 X C 側に回転移動させていく場合、通常宝卵 482 N が選択されている場合よりも、右入力レバー 810 R の移動に伴う反力の増加率が小さく、宝卵 482 が変形し易いような操作感を与えることができる。

10

【0594】

例えば、遊技者が一定の操作力 F_M で操作している場合には、通常宝卵 482 N が選択されていると、右入力レバー 810 R を位置 X R 7 まで移動させることができ、硬宝卵 482 H が選択されていると、右入力レバー 810 R を位置 X R 8 と位置 X R 7 の間までしか移動させることはできず、軟宝卵 482 S が選択されていると、位置 X R 7 を越えて位置 X R 6 まで移動させることができる。このため、遊技者が反力 F_{R2H} より大きな操作力で操作され、右入力レバー 810 R を位置 X R 8 から移動させる際の反力の違いによって宝卵 482 の種類による違いを判別できなかったとしても、位置 X R 8 よりも位置 X C 側への回転移動のし易さ（宝卵 482 の変形し易さ）によって宝卵 482 の種類を判別できる。

20

【0595】

また、受動制御 A において、一旦、遊技者が右入力レバー 810 R を中央配置側へ移動した後に、右入力レバー 810 R から手を離すことで右入力レバー 810 R の自重による右端配置側への回転移動、又は、右端配置側へ移動させる操作による右端配置側への回転移動に対して、図示しないが、右レバー回転駆動モータ 831 R は、反力を生じないように制御される。また、右入力レバー 810 R が最下端位置（右外側支持腕 823 R が上下方向を向く位置）に回転移動した場合には、右レバー回転駆動モータ 831 R は、図示しないが、最大反力 F_{R0} と同じ大きさの駆動力で、右入力レバー 810 R を右端配置となる位置 X R F まで回転移動させるように制御される。

30

【0596】

また、受動制御 A において、遊技者が左入力レバー 810 L を左端配置から中央配置側へ回転移動させる場合に、左レバー回転駆動モータ 831 L は、遊技者による右入力レバー 810 R の右端配置から中央配置側への回転移動の場合と同様の反力が生じるように制御される。このため、遊技者が左入力レバー 810 L を回転移動させる場合に、右入力レバー 810 R の場合と同様の操作感を遊技者に与えることができる。

40

【0597】

以下においては、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とが遊技者によって左右対称に操作力 F_M で操作され、宝卵 482 として通常宝卵 482 N が選択されている場合を説明する。

【0598】

図 39 の説明に戻り、移動操作有効フラグがオン状態となった後の時刻 t_{f4} に、遊技者による左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R との挟み操作（中央配置側への回転移動）が開始されると、各レバー位置情報が各入力レバー 810 L, 810 R の操作量に応じて変化を開始する。

【0599】

50

各レバー位置情報に基づき、左入力レバー 810 L が宝卵 482 に接触するように見える位置 X L 8 に移動し、かつ、右入力レバー 810 R が宝卵 482 に接触するように見える位置 X R 8 に移動したことが検出される時刻 t_{i1} に、各レバー回転駆動モータ 831 L、831 R の制御に基づく反力が最大反力 F_{R1} から最大反力 F_{R2} に変化する（図 40（A）参照）。このため、遊技者は、あたかも左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とが宝卵 482 に物理的に接触したかのような感触を受ける。

【0600】

各入力レバー 810 L、810 R は、時刻 t_{i1} 後も回転移動を続け、時刻 t_{i1} 後の各入力レバー 810 L、810 R の回転移動に伴い、装飾図柄表示装置 479 において、あたかも、両入力レバー 810 L、810 R で宝卵 482 が挟まれ、両入力レバー 810 L、810 R からの圧迫によって変形していくような表示（図 41（B）参照）が実行される。

10

【0601】

時刻 t_{i2} に、各入力レバー 810 L、810 R は、図 41（A）に実線で示すように、各レバー回転駆動モータ 831 L、831 R の制御に基づく反力と操作力 F_M とが釣り合う位置 X L 7、X R 7 まで回転移動して停止する。

【0602】

ここで、各入力レバー 810 L、810 R が操作力 F_M とは異なる操作力で遊技者によって操作された場合について説明する。各入力レバー 810 L、810 R が操作力 F_M よりも小さく、かつ、最大反力 F_{R1} と最大反力 F_{R2} との間の反力に相当する操作力で挟み操作された場合には、各入力レバー 810 L、810 R は、各レバー回転駆動モータ 831 L、831 R の制御に基づく反力と操作力とが釣り合う位置 X L 8、X R 8 まで移動して停止する。装飾図柄表示装置 479 においては、宝卵 482 が変形せずに両入力レバー 810 L、810 R で挟まれているかのような表示が実行される。また、各入力レバー 810 L、810 R は、操作力 F_M よりも小さいが、最大反力 F_{R2} より大きい操作力で挟み操作された場合には、位置 X L 8、X R 8 を超えて回転移動するが、位置 X L 7、X R 7 までは回転移動しない。装飾図柄表示装置 479 においては、操作力 F_M の場合よりも宝卵 482 が小さい変形量で圧迫された表示が実行される。

20

【0603】

また、各入力レバー 810 L、810 R が操作力 F_M よりも大きい操作力で挟み操作された場合、各入力レバー 810 L、810 R は、位置 X L 7、X R 7 よりも位置 X C 側まで回転移動し、装飾図柄表示装置 479 においては、操作力 F_M の場合よりも宝卵 482 が大きい変形量で圧迫された表示が実行される。また、操作力が操作力 F_M よりも大きいが、各レバー回転駆動モータ 831 L、831 R で発生可能な上限である最大反力 F_{RU} より小さい場合には、各入力レバー 810 L、810 R は、位置 X L 6、X R 6 と位置 X L 5、X R 5 との間の位置を越えて位置 X C まで回転移動することはできない。また、各入力レバー 810 L、810 R が最大反力 F_{RU} より大きい操作力で挟み操作された場合、各入力レバー 810 L、810 R は、各レバー回転駆動モータ 831 L、831 R に基づく反力のみによっては位置 X C まで回転移動してしまうことを抑制できない。このため、各入力レバー 810 L、810 R が最大反力 F_{RU} より大きい操作力で挟み操作された場合であっても、左レバー電磁石 818 L、819 L と右レバー電磁石 818 R、819 R とを同極性で励磁することで、各入力レバー 810 L、810 R を離間させる磁力を発生させて、各入力レバー 810 L、810 R が位置 X C まで移動してしまうことを抑制可能にしている。

30

40

【0604】

なお、左入力レバー 810 L が位置 X L 8 よりも位置 X C 側に回転移動した場合に、宝卵 482 の左半分が変形し、右入力レバー 810 R が位置 X R 8 よりも位置 X C 側に回転移動した場合に、宝卵 482 の右半分が変形する表示が実行される構成であるが、例えば、左入力レバー 810 L が挟み操作されず、右入力レバー 810 R が位置 X R 8 よりも位置 X C 側に回転移動する挟み操作を行った場合に、右入力レバー 810 R の左端に宝卵 48

50

2 が接した状態で左側に移動する表示が実行される構成としてもよい。

【0605】

また、各レバー回転駆動モータ831L, 831Rの受動制御Aに基づき、各入力レバー810L, 810Rの個別の位置によって反力を変化させる構成としているが、この構成に限らず、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとの相対位置によって反力を変化させる構成としてもよい。例えば、左入力レバー810Lや右入力レバー810Rに対して左右対称でない操作がなされた場合、宝卵482に接触して見える位置に先に到達した入力レバーによって宝卵482が他方の入力レバー側に移動し、宝卵482が中心からずれた位置で両入力レバー810L, 810Rに挟まれる表示がなされ、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとの間隔が宝卵482の幅に対応する長さよりも小さくなるにつれて各入力レバー810L, 810Rに対する反力が大きくなるように、各レバー回転駆動モータ831L, 831Rを制御する構成としてもよい。この構成の場合には、例えば、右入力レバー810Rのみに対して挟み操作を行って左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとの間隔を小さくした場合、右入力レバー810Rに対して反力（感触）が変化すると共に、左入力レバー810Lに対しても反力（感触）が変化し、一方の入力レバーの操作によって、各入力レバー810L, 810Rの操作感を変化させることができる。このように、一方の入力レバーに対する操作によって、一方の入力レバーに対する操作感に加えて又は代えて、操作されなかった他方の入力レバーに対する操作感を変化させる構成としてもよい。

10

20

【0606】

また、各入力レバー810L, 810Rを位置XCから離れる方向へ移動させる場合に、各レバー回転駆動モータ831L, 831Rの制御による反力を発生させない構成としているが、この構成に限らず、両入力レバー810L, 810Rによって宝卵482が挟まれる表示の後に、左入力レバー810Lが位置XL8よりも位置XL側へ移動することや、右入力レバー810Rが位置XR8よりも位置XR側へ移動することを制限する反力（例えば、逆回転方向の最大反力： $-FRU$ ）を発生させるように、各レバー回転駆動モータ831L, 831Rを制御する構成としてもよい。

【0607】

また、各入力レバー810L, 810Rを位置XCから離れる方向へ移動させる場合に、各レバー回転駆動モータ831L, 831Rの制御による反力を発生させない構成としているが、この構成に限らず、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとによって宝卵482が挟まれる表示の後に、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとが宝卵482に吸着し、左入力レバー810Lが位置XL8よりも左端配置側へ移動させたり右入力レバー810Rを位置XR8よりも右端配置側へ移動させたりしようとすると、宝卵482が横方向に引っ張られて伸びる表示がなされ、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとの間隔が大きくなるにつれて反力が大きくなるように、各レバー回転駆動モータ831L, 831Rを制御する構成としてもよい。この構成の場合には、一方の入力レバーに対して操作を行うと、操作された入力レバーに対する操作感を変化させると共に、他方の入力レバーに操作が行われなかったとしても、他方の入力レバーに対する操作感を変化させることができ、画像表示による宝卵482が両入力レバー810L, 810Rに吸着しているような操作感を与えることができる。

30

40

【0608】

挟み操作指示情報の表示が開始される時刻 t_{c2} から所定の時間（例えば、2.0秒）後の時刻 t_{i3} に、左入力レバー810Lや右入力レバー810Rを握る操作を有効なものとして受け付ける有効期間 T_N であるか左入力レバー810Lや右入力レバー810Rを握る操作を有効なものとして受け付けない無効期間であるかを識別する握り操作有効フラグがオン状態となる。左入力レバー810Lを握る操作に基づき、左握り操作検出スイッチによって左操作部材812Lの移動が検出された場合や、右入力レバー810Rを握る操作に基づき、右握り操作検出スイッチによって右操作部材812Rの移動が検出された場合に、副制御基板940は、当該検出を有効なものとして判断して受け付ける。

50

【0609】

握り操作有効フラグがオン状態となると、移動操作有効フラグの有効期間TLを計測する演出タイマとは別に副制御基板940のRAMに設けられたタイマに、副制御基板940のROMに記憶された左入力レバー810Lや右入力レバー810Rを握る操作の有効期間TNの長さに対応する値が初期設定される。握り操作有効フラグは、有効期間TNに亘ってオン状態に維持された後にオフ状態となる。

【0610】

また、握り操作有効フラグがオン状態となった時刻ti3に、装飾図柄表示装置479において、挟み操作指示情報488に代えて、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとを同時に握る操作を指示する両握り操作指示情報489（図39における「両握り操作」：図41（B）及び図41（C）における「左右のレバーを同時に連続して握れ」との文字情報）が表示される。両握り操作指示情報489は、表示を開始するタイミングや表示を終了するタイミングを指定する時間情報と共に、副制御基板940のROMに記憶されている。

10

【0611】

なお、両握り操作指示情報489は、文字で表示される構成であるが、この構成に限らず、左操作部材812Lや右操作部材812Rが連続して動作している状態や左入力レバー810Lや右入力レバー810Rを両手で連続して握る状態を示す画像などにより、左入力レバー810Lや右入力レバー810Rの操作方法を画像で表示する構成としてもよく、音声出力をしてもよく、省略してもよい。

20

【0612】

握り操作有効フラグの有効期間TNにおいて、左入力レバー810Lや右入力レバー810Rを握る操作が実行された一部の場合に、装飾図柄表示装置479において、宝卵482に亀裂が入ったり亀裂が長くなったりする表示が行われる（図41（C）参照）。宝卵482の亀裂は、左入力レバー810Lと接するように見える位置から中央側に向けて、また、右入力レバー810Rと接するように見える位置からも中央側に向けて進行する。右側から進行する亀裂は、8段階進行すると宝卵482の中央（位置XC）に到達し、宝卵482の中央を越えては進行しない。また、左側から進行する亀裂も、8段階進行すると宝卵482の中央に到達し、宝卵482の中央を越えては進行しない。

【0613】

左側から進行した亀裂と右側から進行した亀裂との双方が、確変予定の特別遊技状態においては、宝卵482の中央まで到達して繋がる場合が発生するものの、時短予定の特別遊技状態においては、宝卵482の中央で繋がる場合は発生しない。このため、亀裂が宝卵482の中央で繋がった場合には、その時点で、確変予定の特別遊技状態であって進入可能期間が発生することが確定する。

30

【0614】

左入力レバー810Lが位置XL8よりも位置XC側に位置し、かつ、右入力レバー810Rが位置XR8よりも位置XC側に位置し、宝卵482が各入力レバー810L、810Rで挟むように表示されている状態で、左入力レバー810Lや右入力レバー810Rを握る操作が実行された場合にのみ、宝卵482に亀裂が入ったり亀裂が長くなったりする表示が行われる。このため、左入力レバー810Lや右入力レバー810Rを握る操作によって、あたかも左入力レバー810Lや右入力レバー810Rから宝卵482に衝撃が与えられて亀裂が進行したかのような演出を実行できる。

40

【0615】

また、一度の左入力レバー810Lや右入力レバー810Rを握る操作に基づく宝卵482の亀裂の進行は、5種の進行量を識別する情報（0～4の数字：以下において、進行識別情報とも称す）の組合せで指定されるパターンによって管理され、亀裂の進行量は、選択されている宝卵482の種類によって変化する。具体的には、副制御基板940のROMには、0から4の数字の組合せで指定される亀裂進行パターン、例えば、[0040100102000030]や、[003000100000200]が複数記憶されてい

50

る。

【0616】

副制御基板940は、複数の亀裂進行パターンから左入力レバー810L用の亀裂進行パターンと、右入力レバー810R用の亀裂進行パターンとを選択し、左入力レバー810Lや右入力レバー810Rを握る操作が実行されるごとに、選択された亀裂進行パターンの値を先頭から順に進行識別情報として選択する。また、副制御基板940のRAMには、亀裂の進行が繰り返された場合の進行量の総量を識別する亀裂進行情報が記憶されている。亀裂進行情報には、亀裂進行パターンから選択された進行識別情報から宝卵の種類を識別する宝卵識別情報（硬宝卵482H：0、通常宝卵：1、軟宝卵482S：2）を減じた値（マイナスとなる場合は「0」）が記憶される。

10

【0617】

例えば、亀裂進行パターンとして[003010010200104]が選択されると、宝卵482として硬宝卵482Hが選択されている場合には、左入力レバー810Lや右入力レバー810Rを握る操作に基づき、亀裂進行情報として[0030100102001040...]の順に記憶される。ここで、「...」は以後（16回目の操作後）0が続くことを意味している。また、宝卵482として通常宝卵482Nが選択されている場合には、亀裂進行情報として[00200000001000030...]の順に記憶され、宝卵482として軟宝卵482Sが選択されている場合には、亀裂進行情報として[00100000000000020...]の順に記憶される。

【0618】

亀裂進行情報が「0」である場合、装飾図柄表示装置479において、亀裂が進行しない表示が行われる。また、亀裂進行情報が「1」である場合には1段階、亀裂進行情報が「2」である場合には2段階、亀裂進行情報が「3」である場合には3段階だけ亀裂が進行する表示が装飾図柄表示装置479で実行される。また、亀裂進行情報が「4」である場合は、左側から進行する亀裂と右側から進行する亀裂とが宝卵482の中央で繋がる表示が実行される。

20

【0619】

亀裂進行情報には、亀裂進行パターンを構成する進行識別情報から宝卵識別情報を減じた値が設定される。宝卵識別情報として通常宝卵482Nに対して硬宝卵482Hよりも大きい値が設定されているために、亀裂進行情報として記憶される値は、通常宝卵482Nが選択されている場合に硬宝卵482Hが選択されている場合よりも小さくなる。このため、同一の亀裂進行パターンが選択されたとしても、通常宝卵482Nに対する亀裂の進行を硬宝卵482Hよりも遅くすることができ、また、宝卵識別情報として軟宝卵482Sに対して通常宝卵482Nよりも大きい値が設定されているために、亀裂進行情報として記憶される値は、硬宝卵482Hが選択されている場合に通常宝卵482Nが選択されている場合よりも小さくなる。このため、同一の亀裂進行パターンが選択されたとしても、軟宝卵482Sに対する亀裂の進行を通常宝卵482Nよりも遅くすることができる。

30

【0620】

副制御基板940のROMに記憶された複数の亀裂進行パターンには、通常宝卵482Nが選択された場合であっても、軟宝卵482Sが選択された場合であっても、亀裂が宝卵482の中央まで到達しない表示がなされる第1種のパターンが含まれている。また、複数の亀裂進行パターンには、通常宝卵482Nが選択された場合には宝卵482の中央まで到達するが、軟宝卵482Sが選択された場合には到達しない表示がなされる第2種のパターンが含まれている。更に、複数の亀裂進行パターンには、通常宝卵482Nが選択された場合であっても、軟宝卵482Sが選択された場合であっても、亀裂が宝卵482の中央まで到達する表示がなされる第3種のパターンが含まれている。

40

【0621】

副制御基板940は、確変予定の特別遊技状態にあっては、各入力レバー810L、810R用の亀裂進行パターンとして、第1種、第2種及び第3種のパターンのいずれかを選択する。このため、通常宝卵482Nが選択されている場合であっても、軟宝卵482S

50

が選択されている場合であっても、左側から進行する亀裂と右側から進行する亀裂とが宝卵 482 の中央まで到達して繋がる表示（亀裂貫通表示とも称す）や、それらの亀裂の少なくとも一方が宝卵 482 の中央まで到達せず繋がらない表示（非亀裂貫通表示とも称す）を装飾図柄表示装置 479 で実行することができる。

【0622】

一方、副制御基板 940 は、時短予定の特別遊技状態にあっては、少なくとも一方の入力レバー用の亀裂進行パターンとして、第 1 種類のパターンを選択する。このため、亀裂貫通表示が実行されることを防止できる。これにより、左側から進行する亀裂と右側から進行する亀裂との双方が宝卵 482 の中央まで到達して繋がる表示を実行することで、現時点実行中の特別遊技状態が確変予定の特別遊技状態であることを、殻割りミッション演出の最終結果（宝 483（図 34（D）参照）の出現の有無）の表示前に、遊技者に知らせることができる。

【0623】

副制御基板 940 は、左入力レバー 810 L や右入力レバー 810 R を握る操作を検出した場合であって、亀裂進行情報の値が「1」以上である場合に（例えば、時刻 t_{i4} ，時刻 t_{i5} ，時刻 t_{i6} ）、左レバー前後移動駆動モータ 852 L や右レバー前後移動駆動モータ 852 R を制御して、亀裂進行情報の値に応じた移動量で、左入力レバー 810 L や右入力レバー 810 R を所定の短い時間（例えば、0.01 秒）内に前後に移動させる。これにより、宝卵 482 の亀裂が進行する場合に、亀裂を進行させる撃力を左入力レバー 810 L や右入力レバー 810 R が与え、その撃力の反動を受けたかのような感触を左入力レバー 810 L や右入力レバー 810 R を通して遊技者に与えることができる。

【0624】

具体的には、副制御基板 940 は、左レバー前後移動駆動モータ 852 L や右レバー前後移動駆動モータ 852 R を駆動するタイミングを指定する情報（以下において、前後移動駆動情報とも称す）を ROM に記憶している。副制御基板 940 は、握り操作有効フラグの有効期間 T_N を測定するタイマを参照して、各レバー前後移動駆動モータ 852 L，852 R の駆動を切り替える。また、副制御基板 940 は、左レバー前後移動駆動モータ 852 L や右レバー前後移動駆動モータ 852 R の回転方向を指定する情報を RAM に記憶している。

【0625】

各レバー前後移動駆動モータ 852 L，852 R は、回転方向を指定する情報（図示せず）に基づいて異なる方向に駆動される。具体的には、各レバー前後移動駆動モータ 852 L，852 R は、回転方向を指定する情報が「0」である場合には順方向に駆動され、回転方向を指定する情報が「1」である場合には逆方向に駆動される。各レバー前後移動駆動モータ 852 L，852 R が順方向で駆動された場合には、各入力レバー 810 L，810 R は前方側に移動し、逆方向で駆動された場合には、各入力レバー 810 L，810 R は後方側に移動する。

【0626】

また、副制御基板 940 は、各レバー前後移動駆動モータ 852 L，852 R の駆動において亀裂進行情報を参照し、各レバー前後移動駆動モータ 852 L，852 R は、亀裂進行情報の値に基づいて異なる回転速度で駆動される。各レバー前後移動駆動モータ 852 L，852 R は、亀裂進行情報「0」である場合に、駆動中であれば停止され、駆動中でなければ停止した状態を維持する。また、各レバー前後移動駆動モータ 852 L，852 R は、亀裂進行情報「1」である場合には低速で、亀裂進行情報「2」である場合には中速で、亀裂進行情報「3」である場合には高速で駆動される。

【0627】

例えば、時刻 t_{i4} において、左入力レバー 810 L 用の亀裂進行情報の値が「2」である場合に、図 39 に示すように、左レバー前後移動駆動モータ 852 L が所定の時間（例えば 0.05 秒）だけ中速で順回転し、その後、所定の時間（例えば、0.05 秒）だけ中速で逆回転する。これにより、左入力レバー 810 L は、図 38（B）に示すように、

基準位置 Z D から位置 Z M まで移動し、位置 Z M で折り返して基準位置 Z D に戻る。また、時刻 $t_i 4$ において、右入力レバー 8 1 0 R 用の亀裂進行情報の値が「3」である場合、図 3 9 に示すように、右レバー前後移動駆動モータ 8 5 2 R が所定の時間（例えば 0.05 秒）だけ高速で順回転し、その後、所定の時間（例えば、0.05 秒）だけ高速で逆回転する。これにより、右入力レバー 8 1 0 R は、図 3 8 (B) に示すように、基準位置 Z D から位置 Z S まで移動し、位置 Z S で折り返して基準位置 Z D に戻る。また、図 3 9 には、時刻 $t_i 5$ において左入力レバー 8 1 0 L 用の亀裂進行情報の値が「1」であり、かつ、右入力レバー 8 1 0 R 用の亀裂進行情報の値が「2」である場合、時刻 $t_i 6$ において左入力レバー 8 1 0 L 用の亀裂進行情報の値が「1」であり、かつ、右入力レバー 8 1 0 R 用の亀裂進行情報の値が「2」である場合の左レバー前後移動駆動モータ 8 5 2 L や右レバー前後移動駆動モータ 8 5 2 R の動作が示されている。

10

【0628】

亀裂進行情報の値が「1」以上であり、装飾図柄表示装置 4 7 9 に表示された宝卵 4 8 2 の亀裂が進行する場合に、左レバー前後移動駆動モータ 8 5 2 L や右レバー前後移動駆動モータ 8 5 2 R が短時間（0.1 秒）に前後に一度だけ移動する。このため、左入力レバー 8 1 0 L や右入力レバー 8 1 0 R が、宝卵 4 8 2 の亀裂を進行させる撃力の反動（衝撃）を受けたような感触を遊技者に与えることができる。

【0629】

また、亀裂進行情報の値が大きくなるにつれ、同一の短時間内で、左レバー前後移動駆動モータ 8 5 2 L や右レバー前後移動駆動モータ 8 5 2 R が高速で駆動される。このため、宝卵 4 8 2 の亀裂が大きく進行する表示がなされる場合に、左入力レバー 8 1 0 L や右入力レバー 8 1 0 R の前後方向の移動距離が大きく、大きな衝撃を受けたような感触を遊技者に与えることができる。

20

【0630】

遊技者の握り操作に応じて亀裂が亀裂進行情報に基づいて進行すると、亀裂の進行状態を示す亀裂状態情報が更新される。亀裂状態情報は、副制御基板 9 4 0 の RAM に記憶され、亀裂が進行するごとに、亀裂進行情報の値が加算された値に更新される。

【0631】

握り操作有効フラグがオン状態からオフ状態となる時刻 $t_i 7$ に、受動制御 A とは異なる操作感を各入力レバー 8 1 0 L や右入力レバー 8 1 0 R の回転移動位置に応じて生じさせる受動制御 B（図 3 9 における「受 B」）が開始される。受動制御 B は、移動操作有効フラグがオン状態からオフ状態となる時刻 $t_c 8$ まで継続される。具体的には、各レバー回転駆動モータ 8 3 1, 8 3 1 R は、各入力レバー 8 1 0 L, 8 1 0 R を中央配置側へ移動させる遊技者による挟み操作に対して、図 4 0 (B) に示す制御が実行される。受動制御 B において、宝卵 4 8 2 の種類及び左入力レバー 8 1 0 L や右入力レバー 8 1 0 R の回転移動位置に応じて異なる反力（例えば、図 4 0 (A) に示す場合の 2 倍）を生じさせるように制御される。

30

【0632】

受動制御 B において、左入力レバー 8 1 0 L や右入力レバー 8 1 0 R の回転移動位置に応じた最大反力は、宝卵 4 8 2 の亀裂の進行の段階（亀裂状態情報の値）によっても変化する。具体的には、通常宝卵 4 8 2 N が選択されている場合であって、亀裂の進行が第 1 段階以上で第 4 段階以下である場合には、亀裂が発生していない場合（図 4 0 (A)）に比べて、図 4 0 (B) に点線で示すように、最大反力が小さくなるように設定される。このため、操作力 F M で操作されている場合には、左入力レバー 8 1 0 L は位置 X L 6 に、右入力レバー 8 1 0 R は位置 X R 6 まで移動する。また、通常宝卵 4 8 2 N の亀裂の進行が第 5 段階又は第 6 段階である場合には、最大反力は、実線で示すように、点線で示す場合より更に小さくなるように設定される。このため、操作力 F M で操作されている場合には、左入力レバー 8 1 0 L は位置 X L 6 に、右入力レバー 8 1 0 R は位置 X R 6 まで移動する。また、通常宝卵 4 8 2 N の亀裂の進行が第 7 段階又は第 6 段系である場合には、最大反力は、破線で示すように、実線で示す場合より更に小さくなるように設定される。この

40

50

ため、操作力 F M で操作されている場合には、左入力レバー 8 1 0 L は位置 X L 4 に、右入力レバー 8 1 0 R は位置 X R 4 まで移動する。このように、宝卵 4 8 2 の亀裂が進行するにつれて最大反力を小さく設定することで、あたかも亀裂が生じたこと、また、亀裂が進行したことによって、宝卵 4 8 2 が変形し易くなったかのような感触を遊技者に与えることができる。

【0633】

また、握り操作有効フラグがオン状態からオフ状態となる時刻 t i 7 に、装飾図柄表示装置 4 7 9 において、両握り操作指示情報 4 8 9 に代えて、左入力レバー 8 1 0 L と右入力レバー 8 1 0 R とを連結させる操作を指示する連結操作指示情報 4 8 4 D (図 3 9 における「連結操作」：図 4 1 (D) における「左右のレバーを連結して殻を割れ」との文字情報)が表示される。

10

【0634】

連結操作指示情報 4 8 4 D が表示された後の時刻 t i 8 において、操作力 F M で操作した場合に最大位置 (位置 X L 5) まで移動している各入力レバー 8 1 0 L, 8 1 0 R を、操作力 F C よりも大きく最大反力 F R U よりも小さい操作力 F C で位置 X C 側へ移動させると、時刻 t i 9 に、左入力レバー 8 1 0 L は位置 X L 1 まで、右入力レバー 8 1 0 R は位置 X R 1 まで移動する。

【0635】

移動操作有効フラグがオン状態からオフ状態となる時刻 t c 8 に、時刻 t i 7 ~ 時刻 t c における制御 (図 4 0 (B) に示す制御) に代えて、各レバー前後移動駆動モータ 8 5 2 L, 8 5 2 R が、各入力レバー 8 1 0 L, 8 1 0 R を位置 X C に移動させる駆動力を生じるように制御される (図 3 9 における「能 A」：以下において能動制御 A とも称す)。能動制御 A は、時刻 t f 1 7 まで継続される。具体的には、能動制御 A において、各レバー前後移動駆動モータ 8 5 2 L, 8 5 2 R が、各入力レバー 8 1 0 L, 8 1 0 R を位置 X C 側に向かわせる順方向に最大駆動力 (最大反力 F R U と同一の大きさの力) で回転駆動される。

20

【0636】

また、時刻 t c 8 に、右レバー電磁石 8 1 8 R, 8 1 9 R が N 極励磁から S 極励磁に切り替わり、左レバー電磁石 8 1 8 L, 8 1 9 L と右レバー電磁石 8 1 8 R, 8 1 9 R とを引き付ける磁力が発生する。

30

【0637】

各レバー前後移動駆動モータによる回転移動及び左レバー電磁石 8 1 8 L, 8 1 9 L と右レバー電磁石 8 1 8 R, 8 1 9 R とを引き付け合う磁力により、時刻 t f 1 6 に、左入力レバー 8 1 0 L と右入力レバー 8 1 0 R とが連結される。

【0638】

レバー位置情報に基づいて両入力レバー 8 1 0 L, 8 1 0 R が位置 X C に位置することが検出されると (時刻 t f 1 6)、装飾図柄表示装置 4 7 9 において、連結操作指示情報 4 8 4 D に代えて、操作終了指示情報 4 8 7 D (図 3 9 における「操作終了」：図 3 4 (C) 参照)が表示される。

【0639】

操作終了指示情報 4 8 7 D が表示された後の時刻 t i 1 0 に、各レバー前後移動駆動モータ 8 5 2 L, 8 5 2 R が所定の時間 (例えば 0.05 秒) だけ高速で順方向に回転し、その後、所定の時間 (例えば、0.05 秒) だけ高速で逆方向に回転する動作を繰り返す (図 3 9 においては 3 回)。これにより、各入力レバー 8 1 0 L, 8 1 0 R は、連結状態を保ちながら位置 Z D と位置 Z S との間を繰り返し前後移動させて、両入力レバー 8 1 0 L, 8 1 0 R が前後移動する感触を遊技者に伝達可能とする。

40

【0640】

また、移動操作有効フラグがオン状態からオフ状態となってから所定の時間 (例えば 1.0 秒) 後の時刻 t f 1 7 に、各レバー回転駆動モータ 8 3 1 L, 8 3 1 R は、左入力レバー 8 1 0 L が位置 X L F をとり、右入力レバー 8 1 0 R が位置 X R F に移動させる駆動力

50

を生じるように制御される（図 39 における「能 B」：以下において、能動制御 B とも称す）。能動制御 B は、時刻 t_{f18} まで継続される。具体的には、能動制御 B において、各レバー前後移動駆動モータ 852L, 852R は、左入力レバー 810L を位置 XLF 側に向かわせ、右入力レバー 810R を位置 XRF 側に向かわせる逆方向に最大駆動力（-FRU と同一の力）で回転駆動される。これにより、左入力レバー 810L を位置 XLF（左端配置）に、右入力レバー 810 を位置 XLF（右端配置）に戻すことができる。

【0641】

ここで、能動制御 A 及び能動制御 B の実行期間中には、遊技者に対して能動制御の実行と、能動制御の種類とが示唆されるように構成することが好ましく、例えば、両入力レバー 810L, 810R の内側に設けられる熱源が発熱することで、遊技者に対して、能動制御の実行が示唆され、その熱源の位置が変化することで能動制御の種類が示唆されるように構成してもよい。具体的には、両入力レバー 810L, 810R の内側に、左操作部材 812L と右操作部材 812R とは別に、副制御基板 940 の制御によって、突出した状態と、退避した状態（押し込まれた状態）とが切り替えられ、また、突出方向とは別の方向に移動動作が可能ないように、ソレノイドやモータ等の駆動力によって移動動作が可能な動作部分を有する構成とし、更に、動作部分の表面部分（操作面）を熱くする熱源としてのヒータを内蔵する。そして、能動制御 A の期間中には、動作部分が遊技者の手に接触可能に突出した状態で熱くなり、能動制御 B の期間中には、左操作部材 812L と右操作部材 812R の操作面が別の位置で遊技者の手に接触して熱くなるように制御を行う。これにより、遊技者は、能動制御が実行されていることと、能動制御 A の実行であるか能動制御 B の実行であるかを、動作部分の状態によって示唆することができる。なお、能動制御の実行と種類の示唆方法として、必ずしも熱くなる部分の配置位置を変化させる必要はなく、これに代えて、またはこれに加えて、動作部分の突出量が異なるように動作させる構成とし、能動制御 A の期間中には、動作部分が少し突出した状態となるまで退避した状態との移動を繰り返し、能動制御 B の期間中には、能動制御 A の場合より大きく突出した状態で操作面が移動を繰り返すように制御を行ってもよい。これにより、遊技者に対して、動作部分の出力動作を用いて、具体的には、異なる位置での打突の感触や、異なる位置での熱さの感覚を、遊技者の手に伝達することを用いて、遊技の状況を遊技者に示唆することができる。

【0642】

次に、時短予定の特別遊技状態における両手参加型の演出（両手参加型の殻割りミッション演出）に遊技者が参加する場合の両手参加型の演出の推移について、図 42 を参照して説明する。図 42 は、時短予定の特別遊技状態における両手参加型の演出の制御であって、当該演出に遊技者が参加する場合の制御を示すタイミングチャートである。なお、図 42 において、第 1 ラウンドの後半の制御を省略すると共に、特別遊技状態が開始される直前の装飾図柄による図柄の変動表示の期間（図柄変動期間）の一部の制御を示す。

【0643】

オープニング演出（OP 演出）が実行される時刻 t_{d1} ～時刻 t_{d2} において、確変予定の特別遊技状態の時刻 t_{c1} ～時刻 t_{c2} と同様の表示演出が、装飾図柄表示装置 479 で実行される。オープニング演出において、宝卵 482 が出現する表示が開始されるが、宝卵 482 の種類は時短予定時の種類判定情報に基づいて決定され、確変予定の種類判定情報に基づく場合よりも軟宝卵 482S の出現率が高く、また、硬宝卵 482H は出現しない。

【0644】

オープニング演出に引き続き両手参加型の殻割り演出が実行される時刻 t_{d2} ～時刻 t_{d8} において、確変予定の特別遊技状態の時刻 t_{c2} ～時刻 t_{c8} と同様の表示演出が装飾図柄表示装置 479 で行われる。

【0645】

時短予定の特別遊技状態における両手参加型の殻割り演出（時刻 t_{d2} ～時刻 t_{g8} ）において、移動操作有効フラグがオン状態となる時刻 t_{g1} に、左レバー回転駆動モータ 8

10

20

30

40

50

3 1 L や右レバー回転駆動モータ 8 3 1 R は、時刻 t_{f1} ～時刻 t_{i7} において、左入力レバー 8 1 0 L や右入力レバー 8 1 0 R を中央配置側へ移動させる遊技者による操作力に対して、図 4 1 (A) に示すように、左入力レバー 8 1 0 L や右入力レバー 8 1 0 R の回転移動位置に応じて異なる反力を生じさせるように制御される（図 3 9 における「受 A」）。これにより、左入力レバー 8 1 0 L や右入力レバー 8 1 0 R の回転移動位置によって左入力レバー 8 1 0 L や右入力レバー 8 1 0 R の操作感を変化させることができる。

【0 6 4 6】

時短予定の特別遊技状態における両手参加型の殻割り演出において、移動操作有効フラグがオン状態となる時刻 t_{g1} となった後、遊技者が左入力レバー 8 1 0 L と右入力レバー 8 1 0 R と挟み操作（中央配置側への移動）が開始されると（時刻 t_{j1} ）、レバー位置情報が各入力レバー 8 1 0 L, 8 1 0 R の操作量に応じて変化を開始する。

10

【0 6 4 7】

時短予定の特別遊技状態においては、移動操作有効フラグがオン状態となっている期間中に、左連結状態検出スイッチ 8 3 9 L と右連結状態検出スイッチ 8 3 9 R との双方がオン状態をとる時間が規定の判定時間 T_M となったとしても（時刻 t_{g15} ）、演出選択フラグは、確変予定の特別遊技状態の場合のようにオン状態とはならずオフ状態に維持される。このため、両手参加型の殻割り演出に引き続き、装飾図柄表示装置 4 7 9 において、宝卵 4 8 2 が割れず、宝 4 8 3 が出現しない表示を行う殻割れず演出（時刻 t_{d8} ～時刻 t_{d10} ）が実行される。なお、時短予定の特別遊技状態においては、遊技者が連結操作を行っても、その操作時間の長さによらず殻割れず演出が実行されるため、判定時間 T_M の計測は行わなくてもよい。

20

【0 6 4 8】

両手参加型の殻割り演出後に実行される殻割れず演出が開始（時刻 t_{d8} ）されても、確変予定の特別遊技状態の殻割り演出の場合とは異なり、左入力レバー 8 1 0 L と右入力レバー 8 1 0 R とを位置 X_C （中央配置）へ移動させる各レバー回転駆動モータ 8 3 1 L, 8 3 1 R の順方向の回転は実行されない。また、殻割れず演出が開始（時刻 t_{d8} ）されても、左レバー電磁石 8 1 8 L, 8 1 9 L や右レバー電磁石 8 1 8 R, 8 1 9 R は、N 極励磁状態を維持する。このため、確変予定の特別遊技状態の場合とは異なり、左入力レバー 8 1 0 L と右入力レバー 8 1 0 R とは連結されない。

【0 6 4 9】

殻割れず演出において、確変予定の特別遊技状態では左入力レバー 8 1 0 L と右入力レバー 8 1 0 R とが連結された場合に実行される左レバー前後移動駆動モータ 8 5 2 L や右レバー前後移動駆動モータ 8 5 2 R の駆動が実行されず、各入力レバー 8 1 0 L, 8 1 0 R の前後移動は発生しない。

30

【0 6 5 0】

移動操作有効フラグがオン状態からオフ状態となってから所定の時間（例えば 1.0 秒）後の時刻 t_{j11} に、左レバー回転駆動モータ 8 3 1 L や右レバー回転駆動モータ 8 3 1 R は、左入力レバー 8 1 0 L が位置 X_{LF} （左端配置）をとり、右入力レバー 8 1 0 R が位置 X_{RF} （右端配置）をとるように移動させる駆動力を生じるように制御される（図 3 9 における「能 C」）。この制御は、時刻 t_{g18} まで継続される。具体的には、左レバー前後移動駆動モータ 8 5 2 L や右レバー前後移動駆動モータ 8 5 2 R が、左入力レバー 8 1 0 L を左端配置側に向かわせ、右入力レバー 8 1 0 R を右端配置側に向かわせる方向に所定の駆動力（ $-F_{RU}$ より小さい力）で駆動される。これにより、左入力レバー 8 1 0 L を位置 X_{LF} （左端配置）に、右入力レバー 8 1 0 R を位置 X_{RF} （右端配置）に、確変予定の特別遊技状態の場合よりも低速で戻すことができる。

40

【0 6 5 1】

ここで、確変予定の特別遊技状態の両手参加型の殻割りミッション演出に遊技者が参加しない場合における両手参加型の殻割りミッション演出の推移について、図 4 3 を参照して説明する。図 4 3 は、確変予定の特別遊技状態における両手参加型の演出の制御であって、当該演出に遊技者が参加しない場合の制御を示すタイミングチャートである。なお、図

50

43において、第1ラウンドの後半の制御を省略すると共に、特別遊技状態が開始される直前の装飾図柄による図柄の変動表示の期間（図柄変動期間）の一部の制御を示す。また、比較のために、両手参加型の殻割りミッション演出に参加する場合（図39に示す場合）の制御を破線で示している。以下において、両手参加型の殻割りミッション演出に参加する場合（図39に示す場合）の制御との相違部分についてのみ説明する。

【0652】

確変予定の特別遊技状態における両手参加型の殻割り演出において、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとの挟み操作が行われない場合、両手参加型の殻割り演出に引き続き、装飾図柄表示装置479において、宝卵482が割れず、宝483が出現しない表示を行う殻割れず演出（時刻tc8～時刻tc10）が実行される。このとき実行される殻割れず演出は、時短予定の特別遊技状態で実行される殻割れず演出（時刻tg8～時刻td10：図42参照）と同一の演出である。

【0653】

また、移動操作有効フラグがオン状態となる時間tf1から所定の時間の経過（例えば、1.5秒）後の時刻tk7に、各入力レバーの位置を識別するレバー位置情報に基づき、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとの移動の有無が判断される。左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとの移動がないと判断されると、左レバー回転駆動モータ831Lや右レバー回転駆動モータ831Rは、左入力レバー810Lが位置XLF（左端配置）をとり、右入力レバー810Rが位置XRF（右端配置）をとるように移動させる駆動力を生じるように制御される（図39における「能B」）。この制御は、時刻tk11まで継続される。この制御は、左入力レバー810Lを位置XLF（左端配置）、右入力レバー810Rを位置XRF（右端配置）に確実に戻すための制御であるため、必ずしも必要な制御ではなく、省略してもよい。

【0654】

また、各入力レバー回転駆動モータ831L、831Rは、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとを連結させる順方向への回転が実行されず、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとが連結されない。このため、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとが連結された場合の左レバー前後移動駆動モータ852Lや右レバー前後移動駆動モータ852Rの駆動が実行されず、各入力レバー810L、810Rの前後移動が発生しない。

【0655】

上記パチンコ機100において、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとを備えている。左入力レバー810Lは、左操作部材812Lを押圧する握り操作を実行可能であり、左レバー回転駆動モータ831Lの制御や遊技者による手動の操作による回転移動が可能である。また、右入力レバーは、右操作部材812Rを押圧する握り操作を実行可能であり、右レバー回転駆動モータ831Rの制御や遊技者による手動の操作による回転移動が可能である。確変予定の特別遊技状態や時短予定の特別遊技状態で発生する両手参加型の殻割りミッション演出において、左入力レバー810Lが左端配置から移動した位置XL8～位置XCの間に位置している場合、かつ、右入力レバー810Rが右端配置から移動した位置XR8～位置XCの間に位置している場合に、時刻ti4、時刻ti5、時刻ti6における握り操作に応じて、左入力レバー810Lは、左レバー前後移動駆動モータ852Lにより前後方向に往復移動し、かつ、右入力レバー810Rは、右レバー前後移動駆動モータ852Rにより前後方向に往復移動する。このため、左入力レバー810Lや右入力レバー810Rの全体によって、左入力レバー810Lや右入力レバー810Rを操作する手が移動される感触（以下、移動感触ともいう）を出力することができる。また、左操作部材812Lと右操作部材812Rの制御によって、左入力レバー810Lや右入力レバー810Rを操作する手に対して、異なる位置での打突の感触（以下、打突感触ともいう）や、異なる位置での熱さの感覚（以下、温度感触ともいう）を伝達する出力を行うことができる。

【0656】

したがって、上記パチンコ機１００であれば、入力機能に加えて出力機能を兼ね備えた左入力レバー８１０Ｌや右入力レバー８１０Ｒの動作制御により、異なる位置での移動感触、打突感触または温度感触を伝達する出力動作を実行することができる。これにより、遊技者に与える出力の印象を、出力位置の変化を通じて変化させることができる。

【０６５７】

また、左入力レバー８１０Ｌや右入力レバー８１０Ｒを移動させることで遊技者に左入力レバー８１０Ｌや右入力レバー８１０Ｒに注目させ、その注目させた場所の近傍で、移動感触等を伝達する出力動作を実行することが可能となり、異なる位置での感触に対しての出力機能による演出効果を高めることも可能になる。

【０６５８】

また、左入力レバー８１０Ｌや右入力レバー８１０Ｒを握る操作を行っている手の感触を異ならせるために、遊技者は微小な感触の相違を感じ取ることが可能になる。このため各レバー前後移動駆動モータ８５２Ｌ，８５２Ｒとして低出力で小型のモータを用いたり、左入力レバー８１０Ｌや右入力レバー８１０Ｒを前後方向に短い距離だけ移動可能な小型の機構を用いたりでき、左入力レバー８１０Ｌや右入力レバー８１０Ｒに出力機能を付加したとしても、左入力レバー８１０Ｌや右入力レバー８１０Ｒの移動性を確保し易くなる。

【０６５９】

なお、左入力レバー８１０Ｌや右入力レバー８１０Ｒは、移動感触、打突感触、または、温度感触を、異なる位置で伝達する出力動作を可能とする構成であるが、これらの構成は全て備える必要はなく、一部の構成を備えるように構成してもよく、また、これらの構成に限らず、他の構成を含むようにしてもよい。例えば、各入力レバー８１０Ｌ，８１０Ｒが、前後方向に代えて又は加えて左右方向や上下方向に移動可能に設けられ、前後方向とは異なる一方向に移動したり、複数の方向を組み合わせた斜め方向に一直線的に移動したり、移動方向を時間的に変化させて所定の平面内に沿って又は立体的に移動したりすることで移動感触を与える構成としてもよい。この構成の場合、例えば、各入力レバー８１０Ｌ，８１０Ｒを握る操作に基づく移動の場合には、左入力レバー８１０Ｌと右入力レバー８１０Ｒとが離間するように左右方向に移動させ、左入力レバー８１０Ｌと右入力レバー８１０Ｒとが連結した場合の移動では、前後方向に移動させるなど、演出の進行に応じて移動形態を変化させることで、各入力レバー８１０Ｌ，８１０Ｒの移動による演出効果を高めることもできる。

【０６６０】

また、各入力レバー８１０Ｌ，８１０Ｒの全体が移動することで、各入力レバー８１０Ｌ，８１０Ｒを操作する手に移動感触を与える構成であるが、この構成に限らず、各入力レバー８１０Ｌ，８１０Ｒの一部を移動させること、例えば、右握り壁８１１Ｒが右被覆壁８１３Ｒに対して移動可能に設けられ、右握り壁８１１Ｒが移動することで移動感触を与える構成としてもよい。この場合、各入力レバー８１０Ｌ，８１０Ｒの全体を移動させる場合に比べて、機構を簡素化したり、移動動作をさせる駆動源として駆動力の小さい小型の動力源を用いたりすることも可能になる。したがって、各入力レバー８１０Ｌ，８１０Ｒを回転させることや各入力レバー８１０Ｌ，８１０Ｒを握ることによる入力操作を行う機能に加えて移動感触等を伝達する出力機能を付加したとしても、各入力レバー８１０Ｌ，８１０Ｒの操作性を更に確保し易くできる。

【０６６１】

また、各入力レバー８１０Ｌ，８１０Ｒの一部を移動させることで出力を行う場合、当該移動する部分は、各入力レバー８１０Ｌ，８１０Ｒの他の部分の移動に伴って、他の部分との相対位置が変化せずに移動する構成としてもよいし、他の部分との相対位置が他の部分の移動に連動して変化しながら移動する構成としてもよい。

【０６６２】

また、左入力レバー８１０Ｌと右入力レバー８１０Ｒとの双方が移動感触等を伝達する出力を行う構成であるが、この構成に限らず、一方の入力レバーが移動感触等を伝達する出

10

20

30

40

50

力を行う構成としてもよい。

【0663】

また、各入力レバー810L, 810Rは、温度感触を伝達する出力機能として、上記の構成に代えて、または、上記の構成に加えて、例えば、右握り壁811Rの表面や内部に発熱装置が設けられ、右握り壁811Rの温度変化による出力を行う構成を含むようにしてもよい。

【0664】

また、各入力レバー810L, 810Rは、遊技者が直接に触れる部分を移動させることで、触覚で感じとれる出力を行う構成としているが、この構成に限らず、例えば、右被覆壁813Rに発熱装置が設けられ、発熱装置からの放熱による出力を行う構成や、右被覆壁813Rに送風装置が設けられ、送風装置からの送風による出力を行う構成など、遊技者が直接には触れない箇所からの触覚（例えば、腕や顔の触覚）で感じとれる出力を遊技者側に行う構成としてもよい。

【0665】

また、各入力レバー810L, 810Rは、入力機能に加えて触覚で感じとれる出力動作を実行する構成であるが、この構成に限らず、例えば、各入力レバー810L, 810Rに音響装置が設けられ、聴覚によって感じとれる出力を行う構成や、各入力レバー810L, 810Rに過熱や蒸発により芳香を放つ芳香装置が設けられ、嗅覚で感じ取れる出力を行う構成など、視覚とも触覚とも異なる感覚により識別できる出力を行う構成としてもよい。

【0666】

また、各入力レバー810L, 810Rは、移動感触を出力可能な位置まで、遊技者の操作によって回転移動する構成としているが、この構成に限らず、左端配置や右端配置から出力可能な位置まで又はその手前までの移動が、各レバー回転駆動モータ831L, 831Rからの駆動力によって実行される構成としてもよい。この構成の場合、移動感触を出力可能な位置への各入力レバー810L, 810Rの移動によって、遊技者に各入力レバー810L, 810Rを注目させることが可能になる。

【0667】

また、各入力レバー810L, 810Rによる出力は、各入力レバー810L, 810Rが基準位置（左端配置や右端配置）から移動した移動位置（位置XL8～位置XC, 位置XR8～位置XC）をとる場合にのみ実行される構成としているが、この構成に限らず、各入力レバー810L, 810Rが左端配置や右端配置をとる場合にも実行される構成、例えば、装飾図柄表示装置479で操作準備情報が表示される期間（tc1～tc2, td1～td2）の開始前又は開始後の一部の場合に実行される構成としてもよい。この構成の場合、各入力レバー810L, 810Rに対する操作（挟み操作）が可能になることを、各入力レバー810L, 810Rによる移動によって遊技者に知らせることが可能になる。

【0668】

また、各入力レバー810L, 810Rによる出力は、特別遊技状態や通常遊技状態において、両手参加型の殻割りミッション演出とは別の演出において、各入力レバー810L, 810Rが左端配置や右端配置をとる場合に実行される構成としてもよい。この場合、各入力レバー810L, 810Rが基準位置をとる場合と移動位置をとる場合とで同一の出力がなされたとしても、移動位置をとる場合には、各入力レバー810L, 810Rが基準位置をとる場合より顔の近くに移動することで大きな出力として遊技者に感じさせることが可能になる。例えば、送風による出力の場合には各入力レバー810L, 810Rが遊技者の皮膚が露出した顔に近づくように移動するため強い風と感じさせたり、音響による出力の場合には遊技者の耳に近づくように移動するため大音量と感じさせたり、芳香による演出の場合には、遊技者の鼻に近づくように移動するため強い芳香と感じさせたりすることが可能になる。このため、両手参加型の殻割りミッション演出における各入力レバー810L, 810Rによる出力を、他の場合に比べて特別な出力とすることができる

。

【0669】

また、移動可能な各入力レバー810L, 810Rに入力機能に加えて出力機能を付加する構成について説明したが、入力機能はないが移動可能な部材や装置に出力機能を付加する構成としてもよい。

【0670】

また、上記パチンコ機100において、左入力レバー810Lは、左端配置から中央配置との間で回転移動が可能であり、右入力レバー810Rは、右端配置から中央配置との間で回転移動が可能である。各入力レバー810L, 810Rは、上下方向と左右方向とを含む同一平面に沿って回転移動する。左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとは離間した形態（少なくとも一方が中央配置でない形態）から連結した形態（双方が中央配置である形態）に形態変化が可能である。両手参加型の殻割りミッション演出が発生した場合であって、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとが連結された形態をとる場合の一部で（時刻t_i10～時刻t_f17）、左入力レバー810Lや右入力レバー810Rの全体が、離間した形態から連結した形態へと変化する場合は、回転移動の動作とは異なり、前後方向へ複数回に亘り往復移動する。

10

【0671】

したがって、上記パチンコ機100であれば、左入力レバー810Lや右入力レバー810Rの全体が可動部として機能し、連結した形態をとる場合に、離間した形態から連結した形態への変化過程の動作とは異なる動作で移動する。このため、左入力レバー810Lや右入力レバー810Rが前後方向に移動する場合と移動しない場合とで各入力レバー810L, 810Rに対する操作感を変化させたり、各入力レバー810L, 810Rの移動によって演出を実行したりすることが可能になる。また、各入力レバー810L, 810Rの全体を高速で移動させることによって、各入力レバー810L, 810Rの形状は変化しないが、残像現象によって、あたかも各入力レバー810L, 810Rの形状が変化したかのように遊技者に見せることも可能になる。

20

【0672】

なお、左入力レバー810Lや右入力レバー810Rは、離間した形態と連結した形態との間の形態変化を所定の平面内での回転移動で実現し、離間した形態となる場合に当該平面に垂直な方向に直線的に移動（前後移動）する構成であるが、この構成に限らず、当該平面から離れるように直線的又は曲線的に移動する構成としてもよい。

30

【0673】

また、左入力レバー810Lや右入力レバー810Rは、離間した形態と連結した形態との間の形態変化を所定の平面内での回転移動で実現し、離間した形態をとる場合に当該平面から離れるように移動する構成であるが、この構成に限らず、例えば、連結した形態となる場合に回転移動の移動中心に近づく又は遠ざかるように直線的又は曲線的に移動するなど、当該平面内において回転移動で辿る経路とは異なる経路で移動する構成としてもよい。

【0674】

また、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとは、離間した形態をとる場合に前後方向に同一の動作（左入力レバー810Lが前側に所定の移動量で移動する場合には、右入力レバー810Rも前側に同じ移動量で移動する）をする構成であるが、この構成に限らず、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとの少なくとも一部が接触する状態や接触しているとみなせる程度に近接した状態や離間しているが正面視で接触して見える状態を保ちながら、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとが前後方向に異なる動作（例えば、各入力レバー810Rの前後逆方向への移動や異なる移動量での移動）をする構成としてもよい。

40

【0675】

また、左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとは、連結した形態をとる場合の移動で、両入力レバー810L, 810Rの相対位置が変化せずに移動する構成であるが、

50

この構成に限らず、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R との少なくとも一部が接触する又は接触しているとみなせる程度に近接した状態を保ちながら相対位置が変化するように移動する構成としてもよい。例えば、左入力レバー 810 L が中央配置よりも更に左端配置から離れる位置まで移動可能に、右入力レバー 810 R が中央配置よりも更に右端配置から離れる位置まで移動可能に設けられ、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R との上下位置をずらしながら両入力レバー 810 L, 810 R を全体として左右に移動させる構成としてもよい。また、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とは、連結した形態をとる場合の移動において、例えば、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とが上下方向に対して傾斜可能に設けられ、上下方向に対する傾斜角が変化するように移動する構成や、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とが上下方向に対して回転可能に設けられ、上下方向を軸として回転しながら左入力レバー 810 L の左端から右入力レバー 810 R の右端までの幅が小さくなるように両入力レバー 810 L, 810 R が更に近づくように移動する構成や、回転移動と前後移動との組み合わせで周回運動したり、両入力レバー 810 L, 810 R が前後に重なるようにスライド移動したりする構成としてもよい。

10

【0676】

また、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とは、各レバー回転駆動モータ 831 L, 831 R の制御により連結した形態にできる範囲の位置（位置 X L 8 や位置 X R 8 よりも位置 X C 側）までは、遊技者の手動による挟み操作で移動させる構成であるが、この構成に限らず、各入力レバー 810 L, 810 R が移動可能であるすべての位置から各レバー回転駆動モータ 831 L, 831 R の制御により連結した状態に移動する構成としてもよい。

20

【0677】

また、各入力レバー 810 L, 810 R は、遊技者による挟み操作が有効な期間の終了により、各レバー回転駆動モータ 831 L, 831 R の制御に基づいて回転移動して、連結した形態となる構成であるが、この構成に限らず、遊技者による挟み操作が可能な期間の終了後に、各入力レバー 810 L, 810 R を握るなどの別の操作を行うことを条件として、例えば、各入力レバー 810 L, 810 R を握り続ける操作（長押し操作）を行うことを条件として、各入力レバー 810 L, 810 R が各レバー回転駆動モータ 831 L, 831 R の制御に基づいて回転移動して、連結した形態となる構成としてもよい。

30

【0678】

また、各入力レバー 810 L, 810 R は、各レバー回転駆動モータ 831 L, 831 R の制御に基づく回転移動により連結した形態となった後に、各レバー前後移動駆動モータ 852 L, 852 R の制御に基づく前後方向に移動する構成であるが、各レバー回転駆動モータ 831 L, 831 R の制御に基づく回転移動により連結した形態に変化させつつ、各レバー前後移動駆動モータ 852 L, 852 R の制御に基づく前後移動を連結した形態となる前から実行する構成としてもよい。

【0679】

また、各入力レバー 810 L, 810 R は、連結した形態をとる場合、各レバー前後移動駆動モータ 852 L, 852 R の制御により前後移動することで移動感触を出力する構成であるが、この構成に限らず、例えば、各レバー前後移動駆動モータ 852 L, 852 R としてサーボモータを設けたり、各入力レバー 810 L, 810 R が前端又は後端に位置していることを検出するスイッチを設けたりするなど、各入力レバー 810 L, 810 R の前後移動を検出可能な装置を設け、遊技者が各入力レバー 810 L, 810 R を前後移動させる操作を行うことにより、各入力レバー 810 L, 810 R を回転移動させたり、各操作部材 812 L, 812 R を押下したりする入力と異なる入力を行える構成としてもよい。この構成の場合、遊技者が各入力レバー 810 L, 810 R を前後移動させる操作は、制御により時間的に許容したり禁止したりすることが可能な構成や、例えば、連結した形態をとった場合に各操作部材 812 L, 812 R を押下するなど、遊技者による他の操作に基づいて可能になる構成としてもよい。また、連結した形態をとる場合にのみ入力

40

50

が可能になる構成に限らず、各入力レバー 810L, 810R の所定の範囲の位置（例えば、位置 XL8～位置 XC, 位置 XR8～位置 XC）への回転移動により、連結した形態となる前から入力が可能になる構成であってもよい。

【0680】

また、上記パチンコ機 100 において、両手参加型の殻割りミッション演出では、両入力レバー 810L, 810R が離間した形態であって左入力レバー 810L が位置 XC～位置 XL8、右入力レバー 810R が位置 XC～位置 XR8 に配置されている場合（時刻 t_{i3} ～時刻 t_{i7} ）には、各入力レバー 810L, 810R を握り操作が有効となり、両入力レバーがその他の位置に配置されている場合には、握り操作が無効となる。

【0681】

したがって、上記パチンコ機 100 であれば、各入力レバー 810L, 810R の位置によって、各入力レバー 810L, 810R を握る操作が阻止又は無効化されない状態と、阻止又は無効化される状態とを発現できる。これにより、各入力レバー 810L, 810R を入力に特化したものとしたり、各入力レバー 810L, 810R の位置の変化によって入力に特化した場合とは異なる操作感や操作方向で入力可能なものとしたり、各入力レバー 810L, 810R の位置の変化によって各入力レバー 810L, 810R を演出に特化したものとしたりして、多目的に機能を切り替えることが可能になる。

【0682】

なお、各入力レバー 810L, 810R は、両入力レバー 810L, 810R が離間した形態をとる一部の位置に配置されている場合に握り操作が有効となる構成であるが、この構成に限らず、両入力レバー 810L, 810R が離間した形態をとるすべての位置に配置されている場合（左入力レバー 810L について位置 XC～位置 XL F、右入力レバー 810R について位置 XC～位置 XR F）に握り操作が有効になる構成としてもよい。この構成の場合には、各遊技者にとって各入力レバー 810L, 810R に対する操作がしやすい位置で、握り操作を実行することが可能になる。

【0683】

また、各入力レバー 810L, 810R は、離間した形態をとる 1 つの連続した範囲の位置に配置されている場合に握り操作が有効になる構成であるが、この構成に限らず、複数に分離する連続した範囲の位置（例えば、左入力レバー 810L について位置 XL1～位置 XL5 の範囲と位置 XL6～位置 XL8 の範囲）に配置されている場合に握り操作が有効になる構成としてもよい。

【0684】

また、各入力レバー 810L, 810R は、離間した形態をとる連続した範囲に位置する場合に握り操作が有効になる構成であるが、この構成に限らず、特定の位置（例えば、左入力レバー 810L について位置 XL8、右入力レバー 810R について位置 XR8）に配置されている場合に握り操作が有効になる構成としてもよい。

【0685】

また、各入力レバー 810L, 810R は、離間した形態をとる場合に握り操作が有効になる構成であるが、この構成に限らず、離間した形態をとる場合に代えて又は加えて、連結した形態をとる場合に握り操作が有効になる構成としてもよい。

【0686】

また、各入力レバー 810L, 810R は、常に握る操作（各操作部材 812L, 812R の押下）は可能であるが、握り操作有効フラグの制御によって有効又は無効を切り替える構成であるが、この構成に限らず、各操作部材 812L, 812R の押下を許容する位置と阻止する位置とをとることが可能な壁部材を各入力レバー 810L, 810R に別途に設け、各操作部材 812L, 812R と壁部材との相対位置が変化することで物理的に切り替える構成としてもよい。

【0687】

ここで、各入力レバー 810L, 810R が動作する条件として、遊技者による継続的な操作を条件とする場合について説明する。上記したように、両入力レバー 810L, 81

10

20

30

40

50

0 Rが離間した形態から連結した形態へ変化する場合に、その形態変化の条件として、遊技者による継続的な操作（長押し操作）を条件としてもよい。

【0688】

例えば、受動制御Aと能動制御Bの期間中においては、両入力レバー810L，810Rの左操作部材812Lと右操作部材812Rとを握り続ける操作を行った場合に、能動制御に切り替わるような制御を副制御基板940に設けてもよい。この能動制御としては、各入力レバー810L，810Rが各レバー回転駆動モータ831L，831Rの制御に基づいて回転移動し、両入力レバー810L，810Rが連結した形態に近づく構成としてもよい。

【0689】

具体的には、受動制御Aと能動制御Bの期間中において、副制御基板940は、両入力レバー810L，810Rが離間した形態から連結した形態へ変化させる制御を行う場合において、左操作部材812Lと右操作部材812Rとの両方に対して握り続ける長押し操作が継続されているか否かを判定する。そして、長押し操作が実行されていれば、その期間中には、離間した形態から連結した形態へと形態変化が進行するように各レバー回転駆動モータ831L，831Rを回動させる制御を行う。これにより、左操作部材812Lと右操作部材812Rとの両方に対しての長押し操作を条件として両入力レバー810L，810Rの形態変化が進行し、両入力レバー810L，810Rの形態変化を進行させるか進行させないかを遊技者の単純な押圧操作によって決定させることができる。この両入力レバー810L，810Rの形態変化の進行状況は外観だけでなく、遊技者の操作部

10

20

【0690】

また、能動制御Bの期間中において、左操作部材812Lと右操作部材812Rとの両方に対して握り続ける長押し操作が実行されている場合に、単純に長押し操作が継続されているだけで、連結した状態となるだけでは、操作が単純になって遊技者の意識が操作に向かない可能性がある。このため、連結した形態へ形態変化した後に、連結した形態から離間した形態へと形態変化が更に進行するように各レバー回転駆動モータ831L，831Rを制御して両入力レバー810L，810Rの動作させる制御を含むように副制御基板940を構成してもよい。これにより、単純な長押し操作だけでは、連結した状態を維持できず、連結した状態でタイミングよく、握り操作を解除することを必要条件にして、連結した状態が継続されるように副制御基板940の制御を構成することができる。この連結した状態が継続されるのは、タイミングよく、断続的に握り操作を繰り返す（連打する）など、他の操作方法を必要とするようにしてもよい。

30

【0691】

また、遊技者による継続的な操作を条件とする演出の別例としては、例えば、装飾図柄表示装置479の表示画面に表示された宝卵482を一定時間（例えば、10秒間）、左右の両側から挟んだ（つかんだ）状態とし続けることに成功したら、宝483を表示し、宝卵482を挟んで潰してしまったり、両入力レバー810L，810Rの挟む力が弱くて間から下方へ落下したら、宝483を表示しないように演出を制御してもよい。この場合においても、両入力レバー810L，810R左操作部材812Lと右操作部材812Rとの両方に対して握り続ける長押し操作が継続された分、中央側に、両入力レバー810L，810Rが移動し、手を離すと、その位置に停止し、連打することで、離間するように、副制御基板940で移動制御をしてもよい。そして、宝卵482が、回転するなどして向きを代える動作を行うように表示制御を行い、その向きの変化に伴って宝卵482の横幅が変化し、その分、両入力レバー810L，810Rによって圧迫される力が変化するように制御し、目標値としての両入力レバー810L，810Rの距離が変動するようにすることが好ましい。これにより、入力操作を単純にし過ぎることなく、装飾図柄表示装置479の表示画面の内容と、その手前側に配置される両入力レバー810L，810Rを組み合わせた演出の興趣を遊技者に提供することができる。

40

50

【0692】

また、遊技者による継続的な操作が実行された場合に、両入力レバー810L, 810Rのうち継続的な操作が行われたレバーの外形形態が、その継続的な操作が行われた期間の長さに対応して変化するようにしてもよい。例えば、両入力レバー810L, 810Rが連結した形態において、両入力レバー810L, 810Rの外周部分から外方側に放射状に突出するような可動部材を設けて、長押し操作が実行された場合に、可動部材の突出した数や突出量に応じて、遊技者にとって有利な設定（例えば、出球率の設定）であるか否かを示唆したり、保留されている単位遊技において特別図柄抽選の当選が含まれているか否かを示唆するようにしてもよい。

【0693】

なお、本発明は、上記実施形態に限られることはなく、例えば、以下に記載するように変形して実施してもよい。この場合に、以下に記載する各構成を上記実施形態に対して適用してもよく、以下に記載する複数の構成を組み合わせることで上記実施形態に対して適用してもよい。

【0694】

上記実施形態においては、特典領域409Vの近傍（特典領域409Vそのものや特典領域409Vへの遊技球の進入に関与する上大入賞装置434）を指し示すことを可能としたり、遊技者の意識を向かわせたりすることが可能な構成として、複数の可動部材10, 20の動作の組み合わせと、それら可動部材10, 20に設けられる発光素子19を発光させる発光演出との両方を実施する構成について説明したが、必ずしも動作の組み合わせと発光演出との両方を実施する必要はなく、いずれか一方のみを実施するように構成してもよく、例えば、1つの可動部材に設けられる発光素子19を用いて特定の方向を指示（示唆）するようにしてもよい。

【0695】

また、上記実施形態において、移行先決定ラウンドで、振分機構437が進入可能状態へ移行した後に上進入規制機構454が進行可能状態となる構成は必ずしも設ける必要はない。この場合であっても、装飾図柄表示装置479が第1ラウンドの開始前に第1の種類の大当りの当選に対応した所定の表示情報としての宝483を表示し、左可動部材10や右可動部材20が、特典領域409Vへ遊技球が進入可能な状況を遊技者に示し、移行先決定ラウンドでは、遊技球の発射を一旦停止し、宝483の表示や可動部材10, 20の近接姿勢への変化を契機として遊技者に遊技球を発射させることを促すことにより、遊技球を特典領域409Vへ好適に進入させることを可能とすることができる。

【0696】

また、上記実施形態においては、装飾図柄表示装置479において大当りに対応する停止図柄の組合せでは、大当りの種類が確変移行の特別遊技状態に移行するか、時短移行の特別遊技状態に移行するかを明示しない場合について説明したが、これに限らず、停止図柄の組合せの表示において、第1の種類の大当りや第2の種類の大当りのいずれに当選したかを表示してもよく、これに代えて又は加えて、大当りの当選の種類を示す特定のキャラクタ等を装飾図柄表示装置479に表示してもよい。装飾図柄表示装置479において、装飾図柄による停止図柄の組合せとは異なるもので大当りの種類を表示する場合には、その表示を、特別遊技状態が開始される直前ではなく、大当りに当選した単位遊技に対応する装飾図柄の変動期間中や、大当りに当選した単位遊技の実行が保留され、その単位遊技よりも前に実行される単位遊技に対応する装飾図柄の変動期間中に表示する構成としてもよい。更に、この場合には、特典領域409Vへ遊技球が進入可能となるラウンドの演出も装飾図柄の変動期間中に開始される構成としてもよい。また、左可動部材10及び右可動部材20の演出動作より前に実行される表示が、装飾図柄表示装置479によって実行される構成であるが、この構成に限らず、その表示は、パチンコ機100に既存の他の表示装置又は新たに設けられる表示装置によって実行される構成としてもよい。

【0697】

また、上記実施形態においては、非参加型や片手参加型や両手参加型の演出（殻割りミッ

10

20

30

40

50

ション演出)を、特別遊技状態の少なくとも一部の期間を含めて実行する構成について説明したが、この構成に限らず、非参加型や片手参加型や両手参加型の演出(殻割りミッション演出)を特別遊技状態である期間を含まず、図柄変動期間において実行する構成としてもよい。また、非参加型や片手参加型や両手参加型の演出を図柄変動期間において実行する場合には、第1特別図柄抽選や第2特別図柄抽選で所定の当選条件(第1の大当たりや第2の大当たり)が成立した後に実行される単位遊技(所定の当選条件が成立した始動入賞に基づく単位遊技や当選時に既に保留された単位遊技)に係る図柄変動期間において実行する構成とし、非参加型や片手参加型や両手参加型の演出によって、特典領域409Vへ遊技球が進入させることができるか否かを示唆する構成としてもよい。

【0698】

また、上記実施形態において、特別遊技状態において特典領域409Vへ遊技球が進入させることが可能な進入可能期間が発生するか否かを示唆する演出として、非参加型や参加型(片手参加型及び両手参加型)の演出を実行する構成であるが、この構成に限らず、他の状況が発生または移行するか否かを示唆する演出として、非参加型と片手参加型と両手参加型の演出の少なくとも一部を実行する構成としてもよい。例えば、第1特別図柄抽選や第2特別図柄抽選で所定の当選条件の成立としての大当たり当選したか否かを示唆する演出として、非参加型や参加型の演出を実行する構成としてもよいし、大当たり当選の期待度を示す演出として実行する構成としてもよい。非参加型や参加型の演出を所定の当選条件が成立したか否かを示唆する演出として実行する場合には、当該演出を図柄変動期間において実行する構成としてもよいし、また、始動入賞が成立して図柄変動期間が開始されるまでの期間中に実施してもよいし、特別遊技状態中に特別遊技状態後の図柄変動が待機されている状況において、当該演出を、特別遊技状態の途中(例えば、エンディング期間)で実行してもよいし、特別遊技状態後に実行される単位遊技において実行する構成としてもよい。この場合には、宝483の表示として、大当たり当選の期待度を示す数値情報(例えば、50%)の表示をしてもよいし、大当たり当選の期待度が一定確率以上であることを示す「激アツ」や大当たり当選に対応した「当確」などの文字情報を表示してもよいし、始動入賞を示す画像として色のついた球(例えば、赤色、黄色、虹色の球)を表示することで保留回数を表示する表示部に大当たり期待度を示唆する画像を表示する構成としてもよい。

【0699】

また、非参加型や参加型の演出は、図柄変動期間において所定の演出(例えば、所定のキャラクタを用いた戦闘の演出)が実行されるか否かを示唆する演出として用いてもよく、この場合には、宝483の表示として、特定の演出が実行されることを示唆する「発展」の文字情報を表示してもよいし、複数のキャラクタのいずれかの演出が実行される場合においてキャラクタの種類を表す種別情報(例えば、「兵士」や「小僧」)に対応する文字や、キャラクタの画像を表示してもよい。

【0700】

また、非参加型や参加型の演出は、特別遊技状態におけるラウンド数やラウンドが継続されるか否かを示唆する演出として用いてもよく、この場合には、宝483の表示としてラウンド数を示す数字を含む「10R」等の数値情報や、特別遊技状態が終了しないで継続することを示す「継続」の文字情報を表示してもよい。

【0701】

また、非参加型や参加型の演出は、遊技の実行を待機する状況(例えば、デモ画面の表示中)において実行される演出として用いてもよく、例えば、今日の運勢を占うおみくじの演出が可能としてもよく、この場合には、宝483の表示として、「大吉」や「小吉」といった文字情報を抽選で表示するようにしてもよいし、図柄変動期間中に表示される期待度の異なる演出(例えば、「魚群」や「泡」)等の演出画像が一定の確率で選択されて表示されるようにしてもよい。

【0702】

また、上記実施形態における左入力レバー810Lと右入力レバー810Rとの各操作部

10

20

30

40

50

に対して、移動操作量を検出可能な操作量検出手段（例えば、エンコーダ）と、各操作部を動作させる動作手段（例えば、モータ）とを設けて、副制御基板 940 の制御によって各操作部を、遊技者の操作なしに動作させたり、動作を容易にするアシスト力を作用させるようにしてもよい。例えば、参加型の演出として、両手参加型の演出を必ずしも両手で操作した場合に限って実行可能とする必要はなく、片手でも参加可能にし、例えば、デモ画面中において遊技者が両手参加型の演出を片手で参加したいことを選択できるように構成し、片手での参加を選択した場合には、両手の操作をしなくても一方のレバーを操作したら、他方のレバーが一方の操作量に追従して同一の操作量で動作するように構成してもよい。

【0703】

また、上記実施形態における左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R との操作が必要な両手参加型の演出について、片手で参加した場合には、判定時間 T M に達することがなく、片手の操作がない場合と同一の演出が限定される場合について説明したが、片手で参加した場合には、両手で参加した場合は異なる片手操作の別の演出が実行されるようにしてもよい。また、両手参加型の演出実行中において、片手で参加した場合には、片手の参加もない場合とは異なる画像であって片手で参加した場合に対応する特定の画像（例えば、「両手で操作してください」の文字画像）を表示する構成としてもよい。

【0704】

また、上記実施形態における左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R との操作が必要な両手参加型の演出と、片手参加型の演出とを同一の操作部を利用する構成について説明したが、片手参加型の演出と両手参加型の演出とが別々の操作部を用いて実行される構成としてもよい。

【0705】

また、上記実施形態においては、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とが別々に動作する構成について説明したが、必ずしも別々に動作する必要はなく、ギヤやベルト等の駆動力を伝達する伝達手段を介して 2 つのレバーを連結しておき、両レバーが連結されて一体的に動作が可能に構成してもよく、この連結状態と連結が解除された状態とを遊技者の操作や副制御基板 940 の制御によって切り替えられるように構成してもよい。

【0706】

また、上記実施形態においては、片手参加型と両手参加型との演出のいずれかが実行される場合について説明したが、遊技者の操作を検出して、その操作によって片手参加型の演出が実行されるか、両手参加型の演出が実行されるかが切り替わるように構成してもよい。

【0707】

また、上記実施形態においては、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とが左右の端から中央側に移動することで、レバーと装飾図柄表示装置 479 の表示画面とが近づく操作が可能な場合について説明したが、レバーの操作（移動動作）によって各レバーが前後方向においても位置変化するように構成し、レバーと装飾図柄表示装置 479 の表示画面との前後位置が遊技者の操作によって変化するように構成してもよく、この場合には、レバーが中央側へ移動した場合に装飾図柄表示装置 479 の表示画面に近づくような操作が可能に構成してもよい。

【0708】

また、上記実施形態においては、左入力レバー 810 L と右入力レバー 810 R とがパチンコ機 100 の左右両側に設けられる場合について説明したが、2 つのレバーのいずれかに代えて、または、2 つのレバーに加えて、パチンコ機 100 の上部にレバーを設けて、片手参加型の演出や両手参加型の演出を可能にしてもよい。

【0709】

＜特典領域 409 V に遊技球が進入した場合の演出＞

次に、特典領域 409 V に遊技球が進入した場合に、複数の可動部により実行される演出（以下において、V 入賞演出とも称す）について、図 44 ～ 図 48 を参照して説明する。

10

20

30

40

50

図４４は、Ｖ入賞演出で動作する複数の可動部を備えた遊技盤６００の正面図である。なお、図４４において、遊技盤６００を構成する部材のうち主要な部材のみを示し、また、Ｖ入賞演出で動作する可動部の前側に配置され、前後方向に重なるように配置された部材については一点鎖線で示し、Ｖ入賞演出で動作する可動部や当該可動部と前後方向に重ならない部材については実線で示す。

【０７１０】

パチンコ機１００は、図７に示す遊技盤４００を、図４４に示す別の遊技盤６００に入れ替えることで、別の機種として利用することができ、以下においては、この遊技盤６００を備えたパチンコ機１００の各種の可動部に関連する構成について説明する。遊技盤６００は、演出用の各種の部材や装置に関連する構成が異なること以外は、上記した図７に示す遊技盤４００と同様の構成である。このため、遊技盤６００において、遊技盤４００と同様の役割を果たす部材については、同一参照符号を付して説明を省略し、相違部分についてのみ説明する。

10

【０７１１】

遊技盤６００には、Ｖ入賞演出で動作する可動部として、図４４に示すように、装飾図柄表示装置４７９の右端側に配置された右前可動部６１０と、装飾図柄表示装置４７９の左端側に配置された左後可動部６２０とが設けられている。また、遊技盤６００には、Ｖ入賞演出で動作する可動部として、右前可動部６１０の後方側に配置された右後可動部６３０と、左後可動部６２０の前方下方側に配置された左前可動部６４０とが設けられている。Ｖ入賞演出で動作する各可動部は、装飾図柄表示装置４７９よりも前方側であって、遊技盤６００の基体４０１や基体４０１に設けられる中央構造体４２０よりも後方側に配置されている。

20

【０７１２】

右前可動部６１０は、装飾図柄表示装置４７９に対して、左後可動部６２０よりも前後方向で遠い位置（基体４０１に対して近い位置）に配置され、左前可動部６４０よりも前後方向で近い位置（基体４０１に対して遠い位置）に配置されている。また、右後可動部６３０は、装飾図柄表示装置４７９に対して、左後可動部６２０と前後方向でほぼ同じ距離を隔てて配置されている。

【０７１３】

右前可動部６１０と左後可動部６２０と右後可動部６３０と左前可動部６４０とは、確変予定の特別遊技状態の進入可能期間（例えば、図３９等参照）において、特典領域４０９Ｖに遊技球が進入した場合（Ｖ入賞の場合）に動作し、Ｖ入賞演出を実行する。具体的には、Ｖ入賞演出で動作する各可動部は、Ｖ入賞演出において、図４４に実線で示された配置（以下において、通常配置）から図４４に二点鎖線で示された配置（以下において、出現配置）へ移動し、その後、通常配置に戻る。

30

【０７１４】

右前可動部６１０は、可動懸垂部材６１１と、可動支持部材６１２と、可動懸垂基体６１９とを備えている。可動支持部材６１２は、後述する駆動機構に移動可能に連結されている。また、可動懸垂基体６１９は、可動支持部材６１２に揺動可能に支持されている。可動懸垂部材６１１は、可動懸垂基体６１９の前面側に設けられ、可動懸垂基体６１９と一体化されている。可動懸垂部材６１１は、移動可能な可動支持部材６１２に揺動可能に支持された可動懸垂基体６１９に一体化して設けられることで、可動支持部材６１２の移動に伴い、可動懸垂基体６１９と共に移動可能であり、可動懸垂基体６１９と共に可動支持部材６１２に対して揺動可能である。このため、可動懸垂部材６１１は、可動支持部材６１２の移動に伴い姿勢の変化が可能となる。また、可動支持部材６１２の移動によって可動懸垂基体６１９が安定姿勢（通常配置でとる姿勢）から変化すると、可動懸垂基体６１９は、可動支持部材６１２に対する揺動による姿勢変化を自重により継続することも可能になる。

40

【０７１５】

なお、可動懸垂基体６１９は、可動支持部材６１２の移動に伴い可動支持部材６１２に対

50

する姿勢が変化する構成であるが、この構成に限らず、可動支持部材 6 1 2 に対して可動懸垂基体 6 1 9 の姿勢を変化させることが可能な駆動機構と駆動源とを別途に設け、駆動源の駆動制御に基づき、可動懸垂基体 6 1 9 を所定の角度だけ回転させたり、可動懸垂基体 6 1 9 を所定の角度範囲で繰り返し回転させたりして、可動支持部材 6 1 2 に対する姿勢を変化させる構成としてもよい。この構成の場合には、可動支持部材 6 1 2 の移動の有無や移動の形態（移動の速度や加速度など）に依らず、可動懸垂基体 6 1 9 の姿勢を多様に変化させることができる。

【0716】

また、可動懸垂基体 6 1 9 は、可動支持部材 6 1 2 に対して左右方向の揺動が可能に支持された構成であるが、この構成に限らず、左右方向に代えて又は加えて前後方向の揺動が可能に支持される構成としてもよい。

10

【0717】

可動懸垂部材 6 1 1 は、水平方向よりも鉛直方向側に長く連続する縦長の形状とされている。このため、揺動による振れ角が小さくても、可動懸垂部材 6 1 1 の下端部分の移動量を大きくでき、遊技者に姿勢変化を大きく見せることが可能になる。また、可動懸垂部材 6 1 1 には、前面側の全体に凹凸による装飾（図 4 5 参照）が施されている。

【0718】

なお、可動懸垂部材 6 1 1 に施される装飾は、凹凸によって形成された構成に限らず、可動懸垂部材 6 1 1 に対する着色のパターンによって形成される構成や、図形や模様などが描かれたシールを貼着するなど、可動懸垂部材 6 1 1 とは別の部材によって形成される構成としてもよい。また、可動懸垂部材 6 1 1 は、前面側の全体に装飾が施される構成であるが、この構成に限らず、前面側の一部に装飾が施される構成であってもよく、また、前面側に代えて又は加えて側面側や裏面側の少なくとも一部に装飾が施される構成としてもよい。また、可動懸垂部材 6 1 1 に施される装飾について説明した各種の装飾形態は、左後可動部 6 2 0 における後述の左後可動部材 6 2 1 や、右後可動部 6 3 0 における後述の近可動部材 6 3 1、中間可動部材 6 3 2 及び遠可動部材 6 3 3 や、左前可動部 6 4 0 における後述の中央可動部材 6 4 1 などに施される装飾に対して適用してもよい。

20

【0719】

可動懸垂部材 6 1 1 は、通常配置において、遊技者側から見て装飾図柄表示装置 4 7 9 の表示部 4 7 9 a に対して右流下領域 4 0 9 R に近い側に配置されている。具体的には、可動懸垂部材 6 1 1 は、以下のように配置される。

30

【0720】

可動懸垂部材 6 1 1 は、通常配置において、遊技者側から見て、表示部 4 7 9 a で装飾図柄の変動表示が行われて変動表示の停止結果が表示される表示領域 4 7 9 b（例えば、表示部 4 7 9 a における中央側の左右幅の 7 5 % で上下幅の 7 5 % の領域）の右方側において、表示領域 4 7 9 b の上端よりも上側に対応する高さ位置から表示領域 4 7 9 b の下端よりも下側に対応する高さ位置までの連続する範囲に亘って配置される。このため、通常配置をとる可動懸垂部材 6 1 1（詳細には、可動懸垂部材 6 1 1 の左端部分）によって、表示部 4 7 9 a における表示領域 4 7 9 b と右流下領域 4 0 9 R とを左右に区画することが可能になる。

40

【0721】

なお、可動懸垂部材 6 1 1 の上端は、遊技者側から見て、表示領域 4 7 9 b の上端よりも上側に対応する高さ位置に配置される構成であるが、この構成に限らず、表示領域 4 7 9 b の上端に対応する高さ位置と同一の位置に配置される構成や、表示領域 4 7 9 b の上端に対応する高さ位置よりも下側で近接する位置（例えば、1 c m 以下、好ましくは 0 . 5 m m 以下の範囲で下側の位置）に対応する高さ位置に配置される構成としてもよい。同様に、可動懸垂部材 6 1 1 の下端は、遊技者側から見て、表示領域 4 7 9 b の下端よりも下側に対応する高さ位置に配置される構成であるが、この構成に限らず、表示領域 4 7 9 b の下端に対応する高さ位置と同一の位置に配置される構成や、表示領域 4 7 9 b の下端に対応する高さ位置よりも上側で近接する位置（例えば、1 c m 以下、好ましくは 0 . 5 m

50

m以下の範囲で上側の位置)に対応する高さ位置に配置される構成としてもよい。

【0722】

通常配置において、可動懸垂部材611の左側の部分は、表示部479aの右端側の前方であって、中央構造体420の開口420aの内側部分の後方に配置されている。また、可動懸垂部材611の右側の部分は、表示部479aの右端側の前方から、基体401の開口や中央構造体420の開口420aを跨いで右流下領域409Rの後方に至る位置に配置されている。このため、表示部479aと可動懸垂部材611と右流下領域409Rとが左右方向に連続するように遊技者に見せることが可能になる。したがって、表示部479aと右流下領域409Rとの間から遊技盤600の背面側や遊技盤600より後方に配置される各種の制御装置や駆動装置や配線などを視認し難くし、表示部479aと右流下領域409Rとを見栄え良く区画することが可能になる。

10

【0723】

左後可動部620は、左後可動部材621と、左後可動基体629とを備えている。左後可動基体629は、後述する駆動機構に移動可能に連結されている。また、左後可動部材621は、左後可動基体629の前側に一体化して設けられる。このため、左後可動部材621は、駆動機構の作動に伴い、左後可動基体629と共に移動する。

【0724】

左後可動基体629は、詳細は後述するが、駆動機構の作動に伴い、左右方向へ概ね直線的な移動が可能であると共に、姿勢の変化が可能となるように駆動機構に支持されている。

20

【0725】

左後可動部材621は、水平方向よりも鉛直方向側に長く連続する縦長の形状とされている。また、左後可動部材621には、前面側の全体に凹凸による装飾(図45参照)が施されている。

【0726】

左後可動部材621は、通常配置において、遊技者側から見て表示部479aに対して左流下領域409Lに近い側に配置されている。具体的には、可動懸垂部材611は、以下のように配置される。

【0727】

左後可動部材621は、通常配置において、遊技者側から見て、表示部479aの表示領域479bの左方側において、表示領域479bの上端よりも上側に対応する高さ位置から表示領域479bの下端よりも下側に対応する高さ位置までの連続する範囲に亘って配置される。このため、通常配置をとる左後可動部材621(詳細には、左後可動部材621の右端部分)によって、表示部479aにおける表示領域479bと左流下領域409Lとを左右に区画することが可能になる。

30

【0728】

なお、左後可動部材621の上端は、遊技者側から見て、表示領域479bの上端よりも上側に対応する高さ位置に配置される構成であるが、この構成に限らず、表示領域479bの上端に対応する高さ位置と同一の位置に配置される構成や、表示領域479bの上端に対応する高さ位置よりも下側で近接する位置(例えば、1cm以下、好ましくは0.5mm以下の範囲で下側の位置)に対応する高さ位置に配置される構成としてもよい。同様に、左後可動部材621の下端は、遊技者側から見て、表示領域479bの下端よりも下側に対応する高さ位置に配置される構成であるが、この構成に限らず、表示領域479bの下端に対応する高さ位置と同一の位置に配置される構成や、表示領域479bの下端に対応する高さ位置よりも上側で近接する位置(例えば、1cm以下、好ましくは0.5mm以下の範囲で上側の位置)に対応する高さ位置に配置される構成としてもよい。

40

【0729】

通常配置において、左後可動部材621の一部は、表示部479aの左端側の前方であって、中央構造体420の開口420aの内側部分の後方に配置されている。また、左後可動部材621の一部は、表示部479aの左端側の前方から、基体401の開口や中央構

50

造体 4 2 0 の開口 4 2 0 a を跨いで左流下領域 4 0 9 L の後方に至る位置に配置されている。このため、表示部 4 7 9 a と左後可動部材 6 2 1 と左流下領域 4 0 9 L とが左右方向に連続するように遊技者に見せることが可能になる。したがって、表示部 4 7 9 a と右流下領域 4 0 9 R との区画の場合と同様の理由によって、表示部 4 7 9 a と左流下領域 4 0 9 L とを見栄え良く区画することが可能になる。

【0730】

可動懸垂部材 6 1 1 の一部は、基体 4 0 1 や中央構造体 4 2 0 と前後方向に重なる位置に配置されているが、基体 4 0 1 と中央構造体 4 2 0 とが無色透明の樹脂で形成され、また、基体 4 0 1 や中央構造体 4 2 0 において、可動懸垂部材 6 1 1 と前後方向に重なる範囲には、光を遮断する部材は設けられていない。このため、可動懸垂部材 6 1 1 のほぼ全体が、遊技者によって視認可能となっている。

10

【0731】

また、左後可動部材 6 2 1 の一部は、基体 4 0 1 や中央構造体 4 2 0 と前後方向に重なる位置に配置されているが、基体 4 0 1 と中央構造体 4 2 0 とが無色透明の樹脂で形成され、また、基体 4 0 1 や中央構造体 4 2 0 において、可動懸垂部材 6 1 1 と前後方向に重なる範囲には、光を遮断する部材は設けられていない。また、左後可動部材 6 2 1 の一部は、基体 4 0 1 や中央構造体 4 2 0 に加えて、後述する左前可動部 6 4 0 の可動円盤部材 6 4 9 と前後方向に重なる位置に配置されているが、可動円盤部材 6 4 9 が无色透明の樹脂で形成され、可動円盤部材 6 4 9 において左後可動部材 6 2 1 と前後方向に重なる範囲には、光を遮断する装飾は施されていない。このため、左後可動部材 6 2 1 のほぼ全体が遊技者によって視認可能となっている。

20

【0732】

なお、基体 4 0 1 や中央構造体 4 2 0 は、无色透明の樹脂で形成される構成に限らず、有色の光透過性素材で形成される構成としてもよい。この構成であっても、可動懸垂部材 6 1 1 や左後可動部材 6 2 1 が光透過性素材との混色によって異なる色に見えたとしても、遊技者は可動懸垂部材 6 1 1 や左後可動部材 6 2 1 を視認することが可能である。

【0733】

可動懸垂部材 6 1 1 は、光透過性素材で形成されている。また、可動懸垂部材 6 1 1 の背後には、可動懸垂基体 6 1 9 に設けられ、光を出力可能な発光基板（図示せず）が配置されている。このため、可動懸垂部材 6 1 1 は、当該発光基板から出力された光を前方側（遊技者側）に透過させることができ、発光可能となる。

30

【0734】

可動懸垂部材 6 1 1 の背後に配置された発光基板は、可動懸垂部材 6 1 1 を向く一面側に、可動懸垂部材 6 1 1 において装飾が施された範囲に亘って点在させた多数の発光素子を備えている。このため、多数の発光素子からの光によって、可動懸垂部材 6 1 1 に施された装飾の全体を発光させることが可能になる。当該発光基板は、副制御基板 9 4 0 に電氣的に接続され、当該発光基板に設けられた各発光素子は、副制御基板 9 4 0 によって発光制御される。

【0735】

なお、可動懸垂部材 6 1 1 は、前面側の全体に亘って装飾が施され、前面側の全体が発光する構成であるが、この構成に限らず、可動懸垂部材 6 1 1 の前面側の一部が発光し、装飾の一部が発光したり、可動懸垂部材 6 1 1 の前面側の一部に施された装飾が発光したりする構成としてもよい。また、可動懸垂部材 6 1 1 は、発光基板からの光によって装飾を発光した状態で遊技者に示すことが可能な構成であるが、この構成に限らず、装飾が施された可動懸垂部材 6 1 1 に代えてドット表示装置や液晶表示装置などの表示装置を可動懸垂基体 6 1 9 に設け、当該装置によって装飾を表示する構成としてもよい。また、可動懸垂部材 6 1 1 について説明した各種の発光形態は、左後可動部材 6 2 1 や、右後可動部 6 3 0 における後述する近可動部材 6 3 1、中間可動部材 6 3 2 及び遠可動部材 6 3 3 の各々や、左前可動部 6 4 0 における後述する中央可動部材 6 4 1 の発光形態として適用してもよい。

40

50

【0736】

左後可動部材621は、光透過性素材で形成されている。また、左後可動部材621の背後には、左後可動基体629に設けられ、光を出力可能な発光基板（図示せず）が配置されている。このため、左後可動部材621は、当該発光基板から放出された光を前方側（遊技者側）に透過させることができ、発光可能となる。

【0737】

左後可動部材621の背後に配置された発光基板は、左後可動部材621を向く一面側に、左後可動基体629において装飾が施された範囲に亘って点在させた多数の発光素子を備えている。このため、多数の発光素子からの光によって、左後可動基体629の装飾の全体を発光させることが可能になる。当該発光基板は、副制御基板940に電氣的に接続され、当該発光基板に設けられた各発光素子は、副制御基板940によって発光制御される。

10

【0738】

可動懸垂部材611と左後可動部材621とは、通常遊技状態や確変遊技状態や時短遊技状態において、通常配置をとり、装飾図柄表示装置479で第1特別図柄抽選や第2特別図柄抽選に係る変動表示中に発光する。具体的には、可動懸垂部材611と左後可動部材621とは、各変動表示に対して変動期間に亘って点灯したり、点滅したりする。このため、可動懸垂部材611と左後可動部材621とを発光させない場合に比べて、通常遊技状態や確変遊技状態や時短遊技状態において、可動懸垂部材611が発光することで表示部479aと右流下領域409Rとを明瞭に区画し、また、左後可動部材621が発光することで表示部479aと左流下領域409Lとを明瞭に区画することが可能になる。

20

【0739】

基体401には、右流下領域409Rにおいて表示部479aに対して右方側の部分に、光透過性素材で形成され、絵や模様などの装飾が施された樹脂薄板（図示せず）が設けられている。このため、通常配置をとる可動懸垂部材611の発光に基づき、当該樹脂薄板の装飾が後方側から照らされ、遊技者は、右流下領域409Rの範囲を容易に識別することが可能となる。また、通常配置をとる可動懸垂部材611の発光に基づく光であって当該樹脂薄板を透過した光で、右流下領域409Rを流下する遊技球を照らし、当該遊技球が流下する様子を視認し易くすることが可能になる。

【0740】

また、基体401には、左流下領域409Lにおいて表示部479aに対して左方側の部分に、光透過性部材で形成され、絵や模様などの装飾が施された樹脂薄板（図示せず）が設けられている。このため、通常配置をとる左後可動部材621の発光に基づき、当該樹脂薄板の装飾が照らされ、遊技者は、左流下領域409Lの範囲を容易に識別することが可能となる。また、通常配置をとる左後可動部材621の発光に基づく光であって当該樹脂薄板を透過した光によって、左流下領域409Lを流下する遊技球を照らし、当該遊技球が流下する様子を視認し易くすることが可能になる。

30

【0741】

なお、基体401に施される右流下領域409Rに対する装飾と、基体401に施される左流下領域409Lに対する装飾とは、個別の樹脂薄板に形成される構成であるが、この構成に限らず、右流下領域409Rと左流下領域409Lとに跨る1つの樹脂薄板に形成される構成としてもよい。また、基体401に設けられる樹脂薄板は、右流下領域409Rや左流下領域409Lの一部に装飾を施す構成であるが、この構成に限らず、右流下領域409Rや左流下領域409Lの全体に装飾を施す構成や、基体401の全体に装飾を施す構成としてもよい。

40

【0742】

可動懸垂部材611と左後可動部材621とは、繰り返し実行される変動表示に伴って頻繁に発光する。このため、遊技者に可動懸垂部材611と左後可動部材621との存在や大まかな形状を印象付ける（刷り込む）ことが可能になる。可動懸垂部材611の存在や形状を強く印象付ける観点からは、可動懸垂部材611と左後可動部材621との発光色

50

や発光パターンによって、大当りの期待度を示唆するなど遊技者の注目を引く演出を実行することが好ましい。

【0743】

なお、可動懸垂部材611と左後可動部材621とは、すべての変動表示に対する変動期間に亘って発光する構成であるが、この構成に限らず、変動期間の少なくとも一部の期間に発光する構成としてもよいし、例えば、遊技状態において特定の演出（例えば、装飾図柄の変動に加えて、キャラクタが登場してバトルやミッションを行う発展演出）が実行される場合にのみ発光するなど、一部の変動表示に対して発光する構成としてもよい。

【0744】

また、可動懸垂部材611と左後可動部材621とが変動表示中に発光する構成であるが、この構成に限らず、変動表示中に加えて保留がある場合には後続する変動表示との間においても発光する構成や、変動表示中であるか否かに関わらず遊技者が発射ハンドル252（図5参照）を操作している場合に発光する構成や、通常遊技状態においては変動表示中に発光するものの、確変遊技状態や時短遊技状態においては変動表示中であるか否かに関わらず発光する構成としてもよい。この場合、右流下領域409Rに遊技球を流下させる確変遊技状態や時短遊技状態において、左流下領域409Lに遊技球を流下させる通常遊技状態とは異なる発光形態で発光させる構成、例えば、通常遊技状態では点灯したり点滅したりするが、確変遊技状態や時短遊技状態では上端側から下端側（遊技球の流下方向）に向かって光が流れるように見えるように発光する構成とし、右流下領域409Rと左流下領域409Lとのいずれに遊技球を流下させるかを遊技者に知らせることが好ましい。

10

20

【0745】

右後可動部630は、回転可能な可動台座部材639と、可動台座部材639に対して回転可能に設けられ、通常配置において上下方向に並ぶ3つの可動部材とを備えている。可動台座部材639の前面側には、当該3つの可動部材として、可動台座部材639の回転軸684から近い側（下側）から順に、近可動部材631、中間可動部材632及び遠可動部材633が設けられている。近可動部材631、中間可動部材632及び遠可動部材633には、前面側の全体に亘り、凹凸による装飾（図45参照）が施され、また、可動台座部材639にも、前面側の一部に凹凸による装飾（図45参照）が施されている。

【0746】

右後可動部630は、通常配置において、左前可動部640の可動懸垂部材611と前後方向に大部分が重なるように、可動懸垂部材611の背後に配置されている。このため、通常配置において、右後可動部630の大部分が視認できず、僅かな部分しか視認できない。

30

【0747】

可動台座部材639、近可動部材631、中間可動部材632及び遠可動部材633の各々は、光透過性素材で形成されている。また、可動台座部材639の背後には、可動台座部材639に設けられ、光を出力可能な発光基板（図示せず）が配置されている。このため、可動台座部材639は、当該発光基板から出力された光を前方側（遊技者側）に透過させることができ、発光可能となる。また、近可動部材631、中間可動部材632及び遠可動部材633の各々は、可動台座部材639を透過した光を前方側（遊技者側）に透過させることができ、発光可能となる。

40

【0748】

可動台座部材639の背後に配置された発光基板は、可動台座部材639を向く一面側に、近可動部材631、中間可動部材632、遠可動部材633及び可動台座部材639において装飾が施された範囲に亘って点在させた多数の発光素子を備えている。当該発光基板は、副制御基板940に電氣的に接続され、当該発光基板に設けられた各発光素子は、副制御基板940によって発光制御される。

【0749】

左前可動部640は、後述する駆動機構に連結され、回転移動可能な可動円盤部材649

50

と、可動円盤部材 6 4 9 に設けられ、可動円盤部材 6 4 9 に対して回転可能な中央可動部材 6 4 1 とを備えている。このため、中央可動部材 6 4 1 は、駆動機構による可動円盤部材 6 4 9 の回転移動に伴って回転移動すると共に、可動円盤部材 6 4 9 に対して回転する。

【0750】

中央可動部材 6 4 1 や可動円盤部材 6 4 9 の一部は、通常配置において、基体 4 0 1 や中央構造体 4 2 0 に加えて、一般入賞装置 4 3 9 A 等の入賞口へ遊技球を向かわせる通路を形成する一般通路部材 6 0 8, 6 0 9 と前後方向に重なるように配置されている。一般通路部材 6 0 8, 6 0 9 は光透過性部材で形成されている。このため、中央可動部材 6 4 1 や可動円盤部材 6 4 9 のほぼ全体が視認可能となっている。

10

【0751】

中央可動部材 6 4 1 には、光透過性素材で形成され、前面側の全体に亘って、キャラクタの形状に対応する外形形状及び起伏形状による装飾（図 4 5 参照）が施されている。また、中央可動部材 6 4 1 において、装飾が施された部分には、キャラクタが描かれたシールが貼着されている。中央可動部材 6 4 1 に貼着されるシールも光透過性素材で形成されている。

【0752】

可動円盤部材 6 4 9 は、無色透明の樹脂で形成されている。可動円盤部材 6 4 9 の左上側の周縁部分 6 4 9 a（2 箇所の切り欠き 6 4 9 b の間の部分であって回転中心に対して約 90° の範囲）には、その背面側に凹凸による装飾（図示せず）が施され、可動円盤部材 6 4 9 において左上側の周縁部分 6 4 9 a 以外の周縁部分には、その前面側に凹凸及び凸部の着色による装飾（図 4 5 参照）が施されている。

20

【0753】

可動円盤部材 6 4 9 において、左上側の周縁部分 6 4 9 a の装飾は、他の周縁部分（例えば、下側の周縁部分）と比べて、簡素な装飾とされている。具体的には、左上側の周縁部分 6 4 9 a の装飾は、他の周縁部分における装飾（例えば、多数の星形の装飾）と比べて、起伏の深さが浅い凹凸部分によって構成され、また、起伏部分が少ない構成とされており、概ね円周方向に沿った少数（例えば、7 本）の細い線状の溝で形成されている。このため、可動円盤部材 6 4 9 には、左上側の周縁部分 6 4 9 a を透かした背後の視認性の低下を抑制しつつ装飾の機能を付加することが可能になる。左上側の周縁部分 6 4 9 a の装飾は、詳細は後述するが、可動円盤部材 6 4 9 に対する中央可動部材 6 4 1 の回転動作による演出に関連する装飾となる。

30

【0754】

中央可動部材 6 4 1 の背後には、可動円盤部材 6 4 9 に設けられ、光を出力可能な発光基板（図示せず）が配置されている。このため、中央可動部材 6 4 1 は、当該発光基板から出力された光であって可動円盤部材 6 4 9 を透過した光を、前方側（遊技者側）に透過させることができ、発光可能となる。

【0755】

中央可動部材 6 4 1 の中央部分の背後に配置された発光基板は、中央可動部材 6 4 1 を向く一面側に、中央可動部材 6 4 1 において装飾が施された範囲に亘って点在させた多数の発光素子を備えている。当該発光基板は、副制御基板 9 4 0 に電氣的に接続され、当該発光基板に設けられた多数の発光素子は、副制御基板 9 4 0 によって発光制御される。

40

【0756】

可動円盤部材 6 4 9 において左後可動部材 6 2 1 と前後方向に重なる周縁部分 6 4 9 a が、他の周縁部分と比較して簡素な装飾とされている。このため、周縁部分 6 4 9 a の背後に左後可動部材 6 2 1 が配置された状況において、左後可動部材 6 2 1 における周縁部分 6 4 9 a に重なる部位を視認し易くすることが可能になる。また、周縁部分 6 4 9 a の背後には、中央可動部材 6 4 1 を発光させる発光基板が配置されていない。このため、左後可動部材 6 2 1 の下端部分は、周縁部分 6 4 9 a の後側で前後方向に重なるものの、基体 4 0 1 や中央構造体 4 2 0 と共に周縁部分 6 4 9 a を透かして視認可能となっている。

50

【0757】

周縁部分649aに形成される装飾としての溝は、可動円盤部材649の裏面側にのみ形成され、表面側は平坦な面によって構成されている。このため、可動円盤部材649の表面側からの光によっては、装飾としての溝部分を目立たないようにすることができる。よって、左後可動部材621における周縁部分649aに重なる部分を、より一層視認し易くすることが可能になる。

【0758】

可動懸垂部材611と左後可動部材621とは、特典領域409Vに遊技球が進入した場合に出現配置に移動する。出現配置において、可動懸垂部材611と左後可動部材621とは、図44に二点鎖線で示すように、それらの一部が前後方向に重なって見える近接した配置をとる。このため、可動懸垂部材611と左後可動部材621との組み合わせによって、特典領域409V（所謂、Vゾーン）を示唆する「V」の文字を形成することができる。これにより、特典領域409Vに遊技球が進入したことを遊技者に知らせることが可能になる。

10

【0759】

可動懸垂部材611は、出現配置において、左後可動部材621より左流下領域409Lに近い位置に配置され、また、左後可動部材621は、出現配置において、可動懸垂部材611より右流下領域409Rに近い位置に配置される。このため、左後可動部材621と可動懸垂部材611とで形成される「V」の文字の左半分が、可動懸垂部材611と左後可動部材621とのうち通常配置で右側（右流下領域409Rに近い側）に配置されていた部材で形成され、その右半分が、通常配置で左側に配置されていた部材で形成される。これにより、「V」の文字の左半分が通常配置で左側に配置されていた左後可動部材621で形成され、その右半分が通常配置で右側に配置されていた可動懸垂部材611によって「V」の文字が形成される場合に比べて、意外性のある配置によって、特典領域409Vに遊技球が進入したことを遊技者に知らせることができる。

20

【0760】

右後可動部材630は、出現配置において、左後可動部材621や中央可動部材641と通常配置の場合よりも近接した配置をとる。また、右後可動部材630は、出現配置において、可動懸垂部材611と前後方向に重ならず、左後可動部材621及び中央可動部材641とも前後方向に重ならない位置に移動する。このため、遊技者は、近可動部材631、中間可動部材632、遠可動部材633及び可動台座部材639における装飾の全体を視認できるようになる。

30

【0761】

また、出現配置において、遠可動部材633における装飾としての「i」の文字と、中間可動部材632における装飾としての「v」の文字と、近可動部材631における装飾としての「a」の文字とが、可動懸垂部材611と左後可動部材621とで形成される「V」の文字に近い側から順に横並びに配置される。これにより、近可動部材631、中間可動部材632及び遠可動部材633は、可動懸垂部材611及び左後可動部材621と共に、機種を示唆する単語（V i v a）を遊技者に示すことができ、V入賞演出において、可動懸垂部材611及び左後可動部材621と関連する一体的な演出を実行できる。

40

【0762】

中央可動部材641は、出現配置において、可動懸垂部材611や可動台座部材639と通常配置の場合よりも近接した配置をとる。中央可動部材641は、詳細は後述するが、出現配置の近傍に配置された状態で、出現配置をとる可動懸垂部材611や左後可動部材621や近可動部材631や中間可動部材632や遠可動部材633の配置に関連した動作を実行し、また、出現配置から通常配置へ戻る可動懸垂部材611の移動に関連した動作を実行する。これにより、V入賞演出において、可動懸垂部材611、左後可動部材621、近可動部材631、中間可動部材632及び遠可動部材633のいずれとも関連する一体的な演出を実行できる。

【0763】

50

ここで、V入賞演出における右前可動部610や左後可動部620や右後可動部630や左前可動部640の動作の説明に先立ち、V入賞演出で動作する各可動部の構造やその駆動機構について、図45を参照して説明する。図45は、V入賞演出で動作する複数の可動部とそれらの動作に関連する構成を示す斜視図である。なお、図45において、V入賞演出で動作する各可動部の動作に関連する部材と、当該各可動部との関連を明確にするために、一部の部材を取り外した状態で示している。

【0764】

遊技盤600には、右前可動部610を動作させる駆動機構が設けられている。右前可動部610を動作させる駆動機構は、図45に示すように、装飾図柄表示装置479の前方の上方側に設けられ、右前可動部610の移動において可動支持部材612を誘導する誘導レール661と、可動支持部材612を移動させる付勢力を与える移動付勢部材662とを備えている。

10

【0765】

誘導レール661は、装飾図柄表示装置479の上方側において左右方向に一直線に連続する棒状体であり、右前可動部610を動作させる駆動機構を取り付ける基体（図示せず：以下において、右前駆動機構取付基体）に設けられている。誘導レール661には、可動支持部材612に形成され、誘導レール661の長手方向の一部の周縁を覆う筒形状の連結部612aが摺動可能に連結されている。このため、可動支持部材612は、誘導レール661に沿って左右方向に直線移動が可能となる。

【0766】

移動付勢部材662は、弾性変形が可能なコイルバネで形成され、一部が誘導レール661に沿って左右方向に連続し、一部が上下方向に連続する状態で配置される。なお、移動付勢部材662は、図45において、円形の断面形状が連続する柱状に模式的に示している。また、移動付勢部材662は、コイルバネを用いる構成に限らず、ゴム等の弾性変形によって付勢力を発生させる他の部材を用いる構成としてもよい。

20

【0767】

移動付勢部材662の一端は、可動支持部材612に接続され、他端は、左前可動部640を動作させる駆動機構を取り付ける図示しない基体（図示せず）に接続され、装飾図柄表示装置479の左上隅の前方において曲げられている。可動支持部材612が通常配置をとる場合、移動付勢部材662は、自然長よりも伸ばされた状態をとり、また、可動支持部材612が出現配置（図46（B）参照）をとる場合であっても、通常配置の場合よりも縮んだ状態となるものの、自然長よりも伸ばされた状態をとる。このため、移動付勢部材662は、可動支持部材612を左側へ移動させる方向に付勢することが可能であり、また、可動支持部材612が通常配置に対応する位置から出現配置に対応する位置への移動を完了するまで、可動支持部材612に付勢力を与え続けることが可能になる。

30

【0768】

右前可動部610を動作させる駆動機構は、装飾図柄表示装置479の左上隅の前方に設けられた回転ローラ663を備えている。回転ローラ663は、誘導レール661の左端近傍で図示しない右前駆動機構取付基体に設けられている。移動付勢部材662は、回転ローラ663の外円周の一部に接触することで、曲げられた状態を維持している。

40

【0769】

回転ローラ663は、前後方向を回転軸として回転可能に設けられている。このため、移動付勢部材662が曲げられた状態であっても、移動付勢部材662の弾性変形による伸縮に伴い回転ローラ663が回転することで、移動付勢部材662の弾性変形による伸縮を円滑に行えるようにすることが可能になる。したがって、移動付勢部材662の縮小によって可動支持部材612を左側へ円滑に移動させることが可能になる。

【0770】

なお、移動付勢部材666は、回転可能な回転ローラ663によって曲げられた状態で配置される構成であるが、この構成に限らず、右前駆動機構取付基体に前方側に突出する円形状や円弧状や折れ線状の回転不能な突出壁を設けて、当該突出壁との接触によって曲げ

50

られた状態に維持される構成としてもよい。

【0771】

移動付勢部材662が曲げられた状態で配置されていることで、可動支持部材612が通常配置をとる場合の自然長からの伸長量を長く確保することが可能になり、可動支持部材612に強い付勢を与えることが可能になり、また、可動支持部材612を長い距離に亘り移動させることが可能になる。これにより、可動支持部材612や可動支持部材612に追従して移動する可動懸垂部材611を長距離に亘り高速で移動させることが可能になる。したがって、出現配置となった場合に「V」の文字を形成する可動懸垂部材611と左後可動部材621とのうち、通常配置において右側に配置される可動懸垂部材611を、左後可動部材621よりも長い距離に亘り高速で移動させることが可能になる。

10

【0772】

また、移動付勢部材662は、誘導レール661の左端近傍においてほぼ直角に曲げられて下方向に連続するように配置され、移動付勢部材662において下方向に連続する部分は、可動体（例えば、開閉シャッタや開閉羽根）を有する入賞装置等の複雑な装置が設けられていない左流下領域409Lの背後に配置されている。このため、移動付勢部材662において下方向に連続する部分を配置する空間を確保し易く、移動付勢部材662の長さや太さなどに対する選択の自由度を高めることができ、可動支持部材612を移動させる速度を高速化し易くすることが可能になる。

【0773】

なお、移動付勢部材662は、水平方向に連続する部分に対して、ほぼ垂直に曲げられた状態で配置される構成について例示したが、この構成に限らず、水平方向に連続する部分に対して傾斜する方向（例えば、80°や100°）に曲げられた状態で配置される構成とするなど、他の方向側に曲げられる構成としてもよい。また、移動付勢部材662は、水平方向から上下方向に曲げられた状態で配置される構成としているが、この構成に限らず、例えば、前後方向に連続する部分を有するように曲げられた状態で配置される構成としてもよい。また、移動付勢部材662は、1箇所曲げられた状態で配置される構成としているが、この構成に限らず、例えば、2箇所曲げられた折れ線状で配置されるなど、複数箇所曲げられた状態で配置される構成としてもよい。

20

【0774】

また、右前可動部610を動作させる駆動機構は、可動支持部材612と接触可能な位置に配置された駆動スライダ664と、駆動スライダ664を移動させる駆動軸部材665とを備えている。

30

【0775】

駆動軸部材665は、図示しない右前駆動機構用の基体に回転可能に設けられ、誘導レール661の前方側において誘導レール661と並行に配置された棒状体である。駆動軸部材665の表面には、螺旋溝665aが形成されている。

【0776】

駆動軸部材665は、複数の連動するギア668を介して連結された駆動モータ651によって駆動される。駆動モータ651は、副制御基板940に電氣的に接続され、副制御基板940によって駆動制御される。

40

【0777】

駆動スライダ664には、駆動軸部材665に連結される連結部分664aが形成されている。連結部分664aは、駆動軸部材665の長手方向の一部の周縁を囲む筒形状とされている。連結部分664aには、内側中空部分において駆動軸部材665に向かって突出し、駆動軸部材665の螺旋溝665aに挿入される係合突起（図示せず）が設けられている。これにより、駆動軸部材665の回転に伴い、螺旋溝665aが連結部分664aの係合突起を押圧し、駆動スライダ664を駆動軸部材665に沿って移動させることができる。

【0778】

駆動スライダ664には、連結部分664aから誘導レール661に向かう前側に突出す

50

る突出部分 6 6 4 b が形成されている。突出部分 6 6 4 b は、可動支持部材 6 1 2 において連結部 6 1 2 a の左側に突出した移動被圧部 6 1 2 d の左側であって、移動被圧部 6 1 2 d と接触可能な位置に配置されている。このため、駆動スライダ 6 6 4 の右側（出現配置から通常配置に向かう側）への移動により移動被圧部 6 1 2 d を押圧し、可動支持部材 6 1 2 を右側へ移動させることが可能になる。したがって、可動懸垂部材 6 1 1 を出現配置側から通常配置側へ移動させることが可能になる。

【0779】

また、右前可動部 6 1 0 を動作させる駆動機構は、可動支持部材 6 1 2 の移動を規制可能な規制部材 6 6 6 a と、回転軸 6 6 6 b 周りに規制部材 6 6 6 a を回転させることが可能な回転部材 6 6 6 c と、回転部材 6 6 6 c を付勢する規制付勢部材 6 6 6 d とを備えている。

10

【0780】

回転部材 6 6 6 c は、図示しない右前駆動機構取付基体に設けられた上下方向に連続する回転軸 6 6 6 b に連結され、回転軸 6 6 6 b 周りに回転可能に設けられている。規制付勢部材 6 6 6 d は、長手方向の一端において右前駆動機構取付基体と連結され、長手方向の他端において回転部材 6 6 6 c と連結されている。

【0781】

規制部材 6 6 6 a は、回転軸 6 6 6 b 周りに回転可能な回転部材 6 6 6 c から下方に突出して設けられ、回転部材 6 6 6 c の回転に伴って、回転軸 6 6 6 b を中心として回転移動する。これにより、規制部材 6 6 6 a は、可動支持部材 6 1 2 において連結部 6 1 2 a から上側に突出する規制被圧部 6 1 2 c に対して左側（移動付勢部材 6 6 2 からの付勢による可動支持部材 6 1 2 の移動方向側）に対向して位置し、規制被圧部 6 1 2 c と接触可能な規制配置と、規制配置の場合よりも後方側に回転移動し、規制被圧部 6 1 2 c と左右方向で対向せず、規制被圧部 6 1 2 c と接触しない規制解除配置とをとることが可能になる。

20

【0782】

回転部材 6 6 6 c は、規制付勢部材 6 6 6 d によって、上面視で右回転させる方向の付勢を受ける。このため、回転部材 6 6 6 c に連結された規制部材 6 6 6 a も、規制付勢部材 6 6 6 d から付勢を受け、規制解除配置側から規制配置側に移動させる付勢を受ける。

【0783】

また、規制部材 6 6 6 a は、規制配置において、回転部材 6 6 6 c の回転軸 6 6 6 b よりも前方側に位置するように設けられる。このため、規制部材 6 6 6 a は、規制配置をとる場合、移動付勢部材 6 6 2 から付勢を受けている可動支持部材 6 1 2 からの押圧によって、規制配置を維持させる付勢を受ける。したがって、規制付勢部材 6 6 6 d に基づく付勢に加えて移動付勢部材 6 6 2 に基づく付勢によって、規制部材 6 6 6 a を規制配置に強固に維持することができる。

30

【0784】

規制部材 6 6 6 a は、円筒形状であり、当該円筒の中心軸を回転中心として回転可能に回転部材 6 6 6 c に設けられている。このため、規制部材 6 6 6 a を規制配置から規制解除配置に移動させる場合に、規制部材 6 6 6 a と規制被圧部 6 1 2 c と間の摩擦抵抗を低減させることができる。したがって、規制部材 6 6 6 a が移動付勢部材 6 6 2 から強い付勢を受けていたとしても、移動付勢部材 6 6 2 からの付勢に抗して可動支持部材 6 1 2 を右側に、かつ、可動支持部材 6 1 2 よりも後方側に、規制部材 6 6 6 a を円滑に移動させ、規制部材 6 6 6 a による可動支持部材 6 1 2 に対する移動規制を円滑に解除することが可能になる。

40

【0785】

また、右前可動部 6 1 0 を動作させる駆動機構は、駆動軸部材 6 6 5 の左端近傍において駆動スライダ 6 6 4 と接触可能な位置に配置された被押圧部材 6 6 7 a と、被押圧部材 6 6 7 a と連結され、回転軸 6 6 7 c 周りに回転可能な回転部材 6 6 7 b とを備えている。また、当該駆動機構は、回転部材 6 6 7 b の回転に連動してスライド移動が可能なスライ

50

ド部材 667d と、スライド部材 667d と規制部材 666a が設けられた回転部材 666c とを連結する連結軸 667e とを備えている。

【0786】

回転部材 667b は、上下方向に連続する回転軸 667c を中心として回転可能に、図示しない右前駆動機構取付基体に設けられている。

【0787】

被押圧部材 667a は、回転部材 667b において回転軸 667c が設けられた一端側とは反対側の一端に設けられている。このため、被押圧部材 667a は、回転部材 667b と共に、回転軸 667c を中心とした回転移動が可能となる。

【0788】

被押圧部材 667a の一部は、回転部材 667b から駆動軸部材 665 に向けて下方に突出するように配置される。これにより、被押圧部材 667a は、駆動モータ 651 の駆動により移動してきた駆動スライダ 664 と接触可能となる。

【0789】

被押圧部材 667a が駆動モータ 651 の駆動により移動してきた駆動スライダ 664 によって左側へ押圧された場合、回転部材 667b は、回転軸 666b を中心として回転移動する。

【0790】

被押圧部材 667a の一部は、回転部材 667b からスライド部材 667d とは反対側に向かって上方に突出するように配置されている。被押圧部材 667a において上方に突出した部分は、スライド部材 667d の左端側に形成された前後方向に連続する長方形の開口に挿入されている。このため、回転部材 667b が上面視で左回転すると、被押圧部材 667a において上方に突出した部分が、スライド部材 667d を左側に押圧する。これにより、被押圧部材 667a と駆動スライダ 664 との接触によって回転部材 667b が回転した場合、スライド部材 667d は、左側にスライド移動する。

【0791】

連結軸 667e は、規制部材 666a が設けられた回転部材 666c からスライド部材 667d に向かって下方に突出するように、回転部材 666c に設けられている。連結軸 667e は、スライド部材 667d に形成された前後方向に連続する長方形の開口に挿入されている。このため、スライド部材 667d が左側へスライド移動した場合、スライド部材 667d が連結軸 667e を押圧し、回転部材 666c が上面視で左回転する。これにより、規制部材 666a は、回転部材 666c の左回転に伴い、規制配置側から規制解除配置側へ回転移動する。したがって、駆動スライダ 664 の移動によって、規制部材 666a による可動支持部材 612 の移動規制を解除することが可能になる。

【0792】

遊技盤 600 には、左後可動部 620 を動作させる駆動機構が設けられている。左後可動部 620 を動作させる駆動機構は、左前可動部 640 の後方側に配置された左後基体 679 に対して左後可動基体 629 をその上端部分で支持する上端支持腕 671 と、上端支持腕 671 と左後可動基体 629 とを回転可能に連結する可動連結軸 673 と、上端支持腕 671 と左後基体 679 とを回転可能に連結する固定回転軸 674 とを備えている。

【0793】

また、左後可動部 620 を動作させる駆動機構は、左後基体 679 に対して左後可動基体 629 をその中央部分で支持する中央支持腕 672 と、中央支持腕 672 と左後可動基体 629 とを回転可能に連結する可動連結軸 675 と、中央支持腕 672 と左後基体 679 とを回転可能に連結する固定回転軸 676 とを備えている。

【0794】

また、左後可動部 620 を動作させる駆動機構は、上端支持腕 671 に形成された長方形の開口 671a に挿入され、上端支持腕 671 を回転移動させる作動軸 677 と、作動軸 677 を移動させる回転可能な作動盤 678 と、駆動モータ（図示せず）の動力を作動盤 678 に伝達する複数の連動するギア（図示せず）とを備えている。

10

20

30

40

50

【0795】

左後可動部材621は、駆動モータの駆動による作動盤678の回転に基づき、上端支持腕671が作動軸677で押圧されることで固定回転軸674周りに回転移動する。左後可動部材621を駆動する駆動モータは、副制御基板940に電氣的に接続されており、副制御基板940によって駆動制御される。また、駆動モータからの動力に基づく上端支持腕671の回転移動に伴い、中央支持腕672も回転移動する。

【0796】

遊技盤600には、右後可動部630を動作させる駆動機構が設けられている。右後可動部630を動作させる駆動機構は、左後基体689に設けられ、右後可動部630の可動台座部材639を回転可能に支持する回転軸684と、可動台座部材639を回転させる動力を与える作動軸685と、駆動モータ653からの動力を作動軸685に伝達する複数の連動するギア688とを備えている。

10

【0797】

作動軸685は、左後基体689に回転移動可能に設けられ、可動台座部材639に形成された長形状の開口に挿入されている。また、作動軸685は、駆動モータ653からの複数の連動するギア688を介した動力に基づき、正面視で左回転方向に回転移動し、可動台座部材639を押圧することが可能である。このため、可動台座部材639は、駆動モータ653からの動力に基づき、回転軸684周りに回転移動可能となる。

【0798】

右後可動部630を動作させる駆動機構は、可動台座部材639に設けられ、近可動部材631を回転可能に支持する回転軸（図示せず）と、可動台座部材639を回転移動させるギアに連結され、近可動部材631を回転させる動力を伝達する複数の連動するギア（図示せず）とを備えている。このため、近可動部材631は、駆動モータ653からの動力に基づき、可動台座部材639と共に回転移動可能となり、また、可動台座部材639に対して回転可能となる。駆動モータ653は、副制御基板940に電氣的に接続されており、副制御基板940によって駆動制御される。

20

【0799】

右後可動部630を動作させる駆動機構は、可動台座部材639に設けられ、中間可動部材632を回転可能に支持する回転軸（図示せず）と、近可動部材631を回転させる複数の連動するギアを介して可動台座部材639を回転移動させる複数の連動するギア688に連結され、中間可動部材632を回転させる動力を伝達する複数の連動するギア（図示せず）とを備えている。このため、中間可動部材632は、駆動モータ653からの動力に基づき、可動台座部材639と共に回転移動可能となり、また、可動台座部材639に対して回転可能となる。また、中間可動部材632は、近可動部材631と連動して回転する。

30

【0800】

右後可動部630を動作させる駆動機構は、可動台座部材639に設けられ、遠可動部材633を回転可能に支持する回転軸（図示せず）と、近可動部材631や中間可動部材632を回転させる複数の連動するギアを介して可動台座部材639を回転移動させるギアに連結され、遠可動部材633を回転させる動力を伝達する複数の連動するギア（図示せず）とを備えている。このため、遠可動部材633は、駆動モータ653からの動力に基づき、可動台座部材639と共に回転移動可能となり、また、可動台座部材639に対して回転可能となる。また、遠可動部材633は、近可動部材631及び中間可動部材632と連動して回転する。

40

【0801】

中間可動部材632は、近可動部材631や遠可動部材633よりも可動台座部材639から離れる前方側であって、右前可動部610の可動懸垂部材611の背後に近接して配置される。これにより、右後可動部630と右前可動部610とが通常配置である場合に、右前可動部610に施された装飾を中間可動部材632と可動懸垂部材611との隙間から視認させ難くすることが可能になる。

50

【0802】

中間可動部材632は、近可動部材631や遠可動部材633の少なくとも一部と前後方向に重なるように配置される。これにより、右後可動部630と右前可動部610とが通常配置である場合に、近可動部材631や遠可動部材633と可動懸垂部材611との隙間が大きくなったとしても、近可動部材631や遠可動部材633に施された装飾を視認させ難くすることが可能になる。

【0803】

遊技盤600には、左前可動部640を動作させる駆動機構が設けられている。左前可動部640を動作させる駆動機構は、左前基体（図示せず）に設けられ、可動円盤部材649の右上側の部分を回転移動可能に支持する回転軸691と、可動円盤部材649を回転移動させる動力を与えるスライド移動可能な作動板692とを備えている。また、左前可動部640を動作させる駆動機構は、作動板692をスライド移動させる動力を与える回転移動可能な作動軸693と、作動軸693を回転移動させる回転可能な回転腕694と、駆動モータ654の動力を回転腕694に伝達する複数の連動するギア695（一部のみ図示）とを備えている。

10

【0804】

左前可動部640を駆動する駆動モータ654は、副制御基板940に電氣的に接続されており、副制御基板940によって駆動制御される。

【0805】

作動板692は、可動円盤部材649の後方側において、左前基体に、上下方向のスライド移動が可能に設けられている。作動板692には、左右方向を長手方向とする長方形状の開口（図示せず）が形成されており、当該開口には、可動円盤部材649に形成された作動突起（図示せず）が挿入されている。作動突起は、可動円盤部材649において、回転軸691よりも左側の部分の背面から後方側に突出するように形成されている。

20

【0806】

作動板692が上側へスライド移動した場合、作動突起が作動板692によって上側へ押圧され、可動円盤部材649は、回転軸691周りに右回転する。また、作動板692が下側へスライド移動した場合、作動突起が作動板692によって下側へ押圧され、可動円盤部材649は、回転軸691周りに左回転する。

【0807】

作動板692には、左右方向を長手方向とする長方形状の開口が形成されており、当該開口に作動軸693が挿入されている。作動軸693は、回転腕694の回転中心から半径方向に突出する端部に設けられ、複数の連動するギア695を介して伝達される駆動モータ654からの動力に基づく回転腕694の回転に伴い回転移動する。このため、作動軸693の回転移動によって作動軸693が作動板692を押圧し、作動板692は、上側や下側へスライド移動する。したがって、作動板692のスライド移動に伴って動作する可動円盤部材649は、駆動モータ654の駆動に基づいて、回転軸691周りに回転移動可能となる。

30

【0808】

左前可動部640を動作させる駆動機構は、可動円盤部材649の中央近傍に設けられ、中央可動部材641を回転可能に支持する中央回転軸（図示せず）と、可動円盤部材649の回転移動に伴い動作する複数の連動するギア（図示せず）とを備えている。このため、中央可動部材641は、可動円盤部材649と共に回転軸691周りに回転移動可能となり、また、可動円盤部材649に対して中央回転軸周りに回転可能となる。

40

【0809】

ここで、右前可動部610の動作形態について、図46を参照して説明する。図46は、V入賞演出で動作する右前可動部610の動作形態を模式的に示す説明図である。図46（A）が右前可動部610に対して移動規制された状態を示し、図46（B）が右前可動部610に対して移動規制が解除された状態を示す。

【0810】

50

図４６（Ａ）に示すように、通常配置において、移動付勢部材６６２からの付勢を受けている右前可動部６１０の可動支持部材６１２の移動は、規制配置をとる規制部材６６６ａと、可動支持部材６１２の規制被圧部６１２ｃとの接触によって規制されている。このため、右前可動部６１０の可動懸垂部材６１１は、装飾図柄表示装置４７９の右端側に位置する通常配置に維持される。

【０８１１】

進入可能期間の開始前に、駆動モータ６５１が駆動されて駆動軸部材６６５が順方向に回転し、駆動スライダ６６４が位置Ｘａから被押圧部材６６７ａに接触する位置Ｘａ１まで移動する。これにより、右前可動部６１０に対する移動規制が解除された場合に、移動付勢部材６６２からの付勢によって、右前可動部６１０を出現配置まで一気に極めて短い時間（例えば、０．０２秒）で移動させることが可能になる。なお、駆動スライダ６６４が位置Ｘａから被押圧部材６６７ａに接触する位置Ｘａ１まで移動するタイミングとしては、進入可能期間の開始前であればよく、規制部材６６６ａによって可動支持部材６１２の移動が規制された直後であってもよい。

10

【０８１２】

進入可能期間において特典領域４０９Ｖに遊技球が進入した場合、駆動モータ６５１が駆動されて駆動軸部材６６５が順方向に回転し、図４６（Ｂ）に示すように、駆動スライダ６６４が位置Ｘａ１から位置Ｘａ２まで移動する。この移動によって、駆動スライダ６６４が被押圧部材６６７ａを押圧し、被押圧部材６６７ａが回転軸６６７ｃ周りに回転移動する。被押圧部材６６７ａの回転移動に基づき、規制部材６６６ａが規制配置から規制解除配置に変化し、規制被圧部６１２ｃの左側に配置されていた規制部材６６６ａが規制被圧部６１２ｃに対して後方側へ移動する。これにより、可動支持部材６１２に対する移動規制が解除され、右前可動部６１０が図４６（Ｂ）に示す出現配置に向けて移動を開始する。

20

【０８１３】

可動支持部材６１２は、図４６（Ｂ）に示すように、通常配置に対応する位置Ｘｂから、出現配置に対応する位置Ｘｂ２まで移動する。可動支持部材６１２が位置Ｘｂ２まで移動すると、規制被圧部６１２ｃが右前可動部６１０を動作させる駆動機構の上側を覆うカバー基体（図示せず）に設けられた上停止部材６５７に接触することで停止する。また、可動懸垂部材６１１は、可動懸垂基体６１９の下端に設けられた左ローラ６１８Ｌが装飾図柄表示装置４７９の下側の前方に配置された中央下基体６５９の左端に設けられた下停止部材６５８に接触することで停止する。

30

【０８１４】

なお、可動支持部材６１２が位置Ｘｂ２まで移動する直前の一定区間（例えば、移動可能範囲の残り１０％の区間）において、コイルバネとダンパーとを組み合わせたブレーキ機構によって可動支持部材６１２が減速し易くするように構成してもよい。これにより、可動支持部材６１２を高速で移動可能としつつ、停止直前で効率良く可動支持部材６１２の速度を減速することができ、停止位置にて跳ね返ったりするような動作を抑制することができる。

【０８１５】

出現配置に対応する位置Ｘｂ２に一定の時間、可動支持部材６１２が配置された後に、可動支持部材６１２は、通常配置に対応する位置Ｘｂに戻るよう移動動作を開始する。具体的には、進入可能期間の開始から所定の時間（例えば、３．０秒）が経過した場合、駆動軸部材６６５の逆回転（順回転と逆方向の回転）が開始され、駆動スライダ６６４が右側への移動を開始する。

40

【０８１６】

駆動スライダ６６４が右側へ移動し、可動支持部材６１２の移動被圧部６１２ｄと接触すると、可動支持部材６１２は、駆動スライダ６６４からの押圧によって、駆動スライダ６６４と共に右側へ移動する。

【０８１７】

50

駆動スライダ 664 の右側への移動に伴い、回転部材 666 c 及びスライド部材 667 d を介して規制付勢部材 666 d からの付勢を受けている被押圧部材 667 a は、駆動スライダ 664 に追従して、回転軸 667 c 周りに上面視で右回転移動する。この駆動スライダ 664 の右側への移動に伴う回転部材 666 c の右回転移動により、規制部材 666 a が規制解除配置から規制配置側へ回転移動する。駆動スライダ 664 が被押圧部材 667 a と離間する位置まで移動すると、規制部材 666 a は規制配置をとる。

【0818】

駆動スライダ 664 の右側への移動が進行し、駆動スライダ 664 と共に右側に移動する可動支持部材 612 が規制被圧部 612 c において規制部材 666 a と接触すると、規制被圧部 612 c の右端面が規制部材 666 a を押圧して、規制部材 666 a を規制配置から規制解除配置側へ回転移動させる。規制被圧部 612 c の左端面が規制部材 666 a の右側に移動すると、規制部材 666 a が右回転移動して規制配置に戻る。

10

【0819】

ここで、可動懸垂部材 611 の移動中の姿勢について説明する。図 46 (A) において、通常配置から出現配置への移動中の可動懸垂部材 611 を一点鎖線で示し、出現配置から通常配置への移動中の可動懸垂部材 611 を二点鎖線で示している。

【0820】

可動懸垂部材 611 は、可動支持部材 612 において連結部 612 a の下方側に突出する支持部 612 b に揺動可能に支持されているため、可動支持部材 612 の通常配置から出現配置側への移動において、可動懸垂部材 611 の下端が上端よりも遅れて移動を開始する。

20

【0821】

可動懸垂基体 619 には、左ローラ 618 L よりも右側において、右ローラ 618 R が後方に突出して設けられている。また、中央下基体 659 には、前方側に突出するように形成され、右ローラ 618 R の上側に配置された規制壁 659 a が設けられている。このため、可動懸垂基体 619 の移動中において、右ローラ 618 R が規制壁 659 a に接触し、可動懸垂部材 611 の下端に対する上端の遅れ（傾斜角度）が規制される。可動懸垂部材 611 の移動において、可動支持部材 612 が移動付勢部材 662 からの強い付勢によって高速で移動するため、図 46 (A) に一点鎖線で示すように、可動懸垂部材 611 は、右ローラ 618 R が規制壁 659 a に接触した状態の姿勢に維持される。

30

【0822】

可動懸垂部材 611 は、出現配置から通常配置側への移動において、可動支持部材 612 の右側への移動に伴い、左ローラ 618 L と下停止部材 658 との接触を保ちながら、接点を中心にして回転し、可動懸垂部材 611 の下端側がほぼ移動せずに上端側は移動する。このため、可動懸垂部材 611 は、通常配置における姿勢（自重による安定姿勢）に戻るよう姿勢変化する。この姿勢変化によって、左ローラ 618 L が下停止部材 658 から離間する際、可動懸垂部材 611 の下端側が回転中心 611 C に対して右回転している状態で右側への移動を開始する。また、可動懸垂部材 611 は、駆動モータ 651 からの駆動力に基づいて、移動付勢部材 662 からの強い付勢に抗して低速で移動する。このため、回転中心 611 C に対して右回転している状態で右側への移動を開始した可動懸垂部材 611 は、揺動を維持しながら出現配置側から通常配置側へ移動する。

40

【0823】

以下において、V 入賞演出の推移について、図 47 及び図 48 を参照して説明する。図 47 は、V 入賞演出において複数の可動部が通常配置から出現配置に移動するまでの推移を模式的に示す説明図である。図 47 (A) は、複数の可動部が通常配置から出現配置への移動を開始した直後の状態を示し、図 47 (B) は、右前可動部 610 と左後可動部 620 とがすれ違う状態を示し、図 47 (C) は、複数の可動部が出現配置をとる状態を示している。また、図 48 は、V 入賞演出において複数の可動部が出現配置から通常配置に戻るまでの推移を模式的に示す説明図である。図 48 (A) は、複数の可動部が出現配置から通常配置への移動を開始する直前の状態を示し、図 48 (B) は、左後可動部 620 と

50

右後可動部 6 3 0 とが通常配置に戻った直後の状態を示し、図 4 8 (C) は、右前可動部 6 1 0 が揺動しながら通常配置へ向かう状態を示している。

【0 8 2 4】

進入可能期間が開始され、特典領域 4 0 9 V に遊技球が進入すると、右前可動部 6 1 0 の可動支持部材 6 1 2 に対する規制部材 6 6 6 a による移動規制が解除される。これにより、可動支持部材 6 1 2 は、移動付勢部材 6 6 2 からの付勢によって、図 4 7 (A) に破線で示す通常配置から左側（出現配置側）へ向けて移動を開始する。このとき、可動支持部材 6 1 2 は、移動規制の解除により移動付勢部材 6 6 2 からの強い付勢を一気に受け、極めて短時間（例えば、0.02 秒）に通常配置から出現配置まで高速で移動する。これにより、可動懸垂部材 6 1 1 を、可動支持部材 6 1 2 の移動に追従して高速で移動させることが可能になる。

10

【0 8 2 5】

可動懸垂部材 6 1 1 は、可動支持部材 6 1 2 において連結部 6 1 2 a の下方側に突出する支持部 6 1 2 b に揺動可能に支持されているために、可動懸垂部材 6 1 1 の下端が上端よりも遅れて移動を開始し、図 4 7 (A) に示すように、移動中も通常配置の姿勢（自重により安定した姿勢）よりも下端が上端よりも右側に位置する姿勢（以下において、右振れ姿勢とも称す）を保ちながら移動する。可動懸垂部材 6 1 1 は、移動開始の直後から通常配置での姿勢とは異なる姿勢で移動するため、通常配置での姿勢と同じ姿勢で移動する場合に比べ、可動懸垂部材 6 1 1 の移動に遊技者が気づき難くすることが可能になる。また、通常遊技状態などにおける変動表示中の発光によって、可動懸垂部材 6 1 1 の通常配置での姿勢が印象付けられているため、通常配置での姿勢と異なる姿勢で移動した場合には、同じ姿勢で移動する場合に比べて、可動懸垂部材 6 1 1 の移動に遊技者が気づき難くすることが可能になる。

20

【0 8 2 6】

可動懸垂部材 6 1 1 は、通常配置から出現配置への移動中において、右ローラ 6 1 8 R（図 4 5 及び図 4 6 参照）と中央下基体 6 5 9 の規制壁 6 5 9 a（図 4 5 及び図 4 6 参照）との接触によって振れ角に制限を受け、一定の振れ角（例えば、25°）で傾斜する姿勢に維持される。このため、可動懸垂部材 6 1 1 が振れ角を変化させて揺動しながら移動する場合に比べて、可動懸垂部材 6 1 1 の移動に遊技者が気づき難くすることが可能になる。

30

【0 8 2 7】

可動懸垂部材 6 1 1 の発光は、通常配置からの移動を開始する直前に停止され、出現配置への移動の完了まで停止状態を維持する。このため、可動懸垂部材 6 1 1 を通常配置から出現配置となるまで消灯した状態で移動でき、発光した状態で移動させる場合よりも可動懸垂部材 6 1 1 の移動を視認し難くすることが可能になる。

【0 8 2 8】

表示部 4 7 9 a の上端側（図 4 4 に示す中央構造体 4 2 0 の開口 4 2 0 a の上端の近傍から上側）の前方には、表示部 4 7 9 a の左右幅に亘って他の可動部材（図示せず）が設けられ、可動支持部材 6 1 2 は、通常配置においても通常配置から出現配置へ移動する過程においても別の可動部材の背後に位置する。このため、可動支持部材 6 1 2 は、ほぼ視認できず、可動支持部材 6 1 2 に追従して移動する可動懸垂部材 6 1 1（右前可動部 6 1 0）の移動に、可動支持部材 6 1 2 の移動によって遊技者が気付いてしまうことを防止することができる。

40

【0 8 2 9】

また、特典領域 4 0 9 V に遊技球が進入すると、左後可動部材 6 2 1 が移動を開始する。左後可動部材 6 2 1 は、図 (B) に示すように、右側に向けて概ね直線的に移動しつつ、その上端が下端よりも通常配置の場合に比べて右側に突出するように姿勢を変化させながら移動する。

【0 8 3 0】

可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とは、装飾図柄表示装置 4 7 9 からの前後方向

50

の距離が異なる位置に設けられている。このため、出現配置に移動する過程で、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とを前後方向にずれた状態ですれ違わせることが可能になる。また、可動懸垂部材 6 1 1 を直線的に移動させることができ、非直線的に移動させる場合に比べて、通常配置から出現配置まで移動距離を低減し短時間に移動させることが可能になる。

【0831】

また、特典領域 4 0 9 V に遊技球が進入すると、右後可動部 6 3 0 の可動台座部材 6 3 9 が回転移動を開始する。また、可動台座部材 6 3 9 の回転移動に伴い、近可動部材 6 3 1 や中間可動部材 6 3 2 や遠可動部材 6 3 3 が、可動台座部材 6 3 9 に対しても回転を開始する。

10

【0832】

具体的には、近可動部材 6 3 1 は、可動台座部材 6 3 9 の回転（左回転）による回転移動に伴い、可動台座部材 6 3 9 に対して、回転中心 6 3 9 C を中心として可動台座部材 6 3 9 の回転角度と同じ角度だけ逆の方向に回転（右回転）する。このため、右後可動部 6 3 0 の移動過程において、近可動部材 6 3 1 は、姿勢が変化せずに移動する。

【0833】

近可動部材 6 3 1 は、装飾図柄表示装置 4 7 9 の右下隅の表示部 4 7 9 a と正面視で重ならない位置であって、可動台座部材 6 3 9 の回転中心 6 3 9 C に対して右側に配置されている。このため、近可動部材 6 3 1 は、一旦左上側へ移動した後に左下側に移動し、表示部 4 7 9 a の前面側に配置される。

20

【0834】

中間可動部材 6 3 2 は、可動台座部材 6 3 9 の回転による回転移動に伴い、可動台座部材 6 3 9 に対して、回転中心 6 3 2 C を中心として可動台座部材 6 3 9 の回転角度と同じ角度だけ同一の方向に回転（左回転）する。このため、右後可動部 6 3 0 の移動過程において、中間可動部材 6 3 2 は、可動台座部材 6 3 9 の回転角度の 2 倍の角度で姿勢が変化しながら移動する。このため、中間可動部材 6 3 2 の装飾（図中の「v」の文字）を遊技者に認識させ難くすることが可能になる。

【0835】

遠可動部材 6 3 3 は、可動台座部材 6 3 9 の回転（左回転）による回転移動に伴い、可動台座部材 6 3 9 に対して、回転中心 6 3 3 C を中心として可動台座部材 6 3 9 の回転角度と同じ角度だけ逆の方向に回転（右回転）する。このため、右後可動部 6 3 0 の移動過程において、遠可動部材 6 3 3 は、姿勢が変化せずに移動する。遠可動部材 6 3 3 は、可動台座部材 6 3 9 の回転によって、中間可動部材 6 3 2 よりも速い速度で長い距離を移動するため、遠可動部材 6 3 3 の姿勢を変化させながら移動させなくても、遠可動部材 6 3 3 の装飾（図中の「i」の文字）を容易には認識できなくすることが可能になる。

30

【0836】

なお、通常配置から出現配置への移動において、近可動部材 6 3 1 及び遠可動部材 6 3 3 は、中間可動部材 6 3 2 よりも少ない回転量で移動する構成であるが、この構成に限らず、中間可動部材 6 3 2 よりも近可動部材 6 3 1 及び遠可動部材 6 3 3 の一方又は両方が多い回転量で移動する構成としてもよいし、中間可動部材 6 3 2 と比べて近可動部材 6 3 1 及び遠可動部材 6 3 3 の一方又は両方が同一量の回転量で移動する構成としてもよい。

40

【0837】

可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とは、出現配置において、特典領域 4 0 9 V（所謂、Vゾーン）を示唆する「V」の文字を、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 との形状の組合せで形成する。これにより、遊技者は、特典領域 4 0 9 V に遊技球が進入したことを、遊技球の流下を見なくても、可動懸垂部材 6 1 1 と左前可動部 6 4 0 との動作によって知ることができる。また、特典領域 4 0 9 V に遊技球が進入したことを、可動懸垂部材 6 1 1 と左前可動部 6 4 0 との動作で知らせるため、装飾図柄表示装置 4 7 9 の表示によって知らせる場合よりも目立つ形態で知らせることが可能になる。また、可動懸垂部材 6 1 1 と左前可動部 6 4 0 とは、装飾図柄表示装置 4 7 9 よりも遊技者に近い前側

50

で動作するため、特典領域 4 0 9 V に遊技球が進入したことを装飾図柄表示装置 4 7 9 で表示する場合よりも迫力のある形態で知らせることが可能になる。

【0 8 3 8】

「V」の文字の一部を形成する可動懸垂部材 6 1 1 は、視認が容易でない高速で通常配置から出現配置まで移動する。このため、「V」の文字が突然出現したかのような印象を遊技者に与える意表を突く可動演出を実行することが可能になる。

【0 8 3 9】

出現配置において、可動懸垂部材 6 1 1 の少なくとも一部は、遊技者側から見て左後可動部材 6 2 1 の移動軌跡内に配置される。具体的には、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とは、通常配置から出現配置への移動過程で、左右逆方向に移動して前後にずれた状態ですれ違い、一部の前後方向に重なる部分を除き左右の配置が入れ替わる。このため、通常配置において左後可動部材 6 2 1 よりも右側に配置されていた可動懸垂部材 6 1 1 が、出現配置においては、左後可動部材 6 2 1 の左側に配置される。

10

【0 8 4 0】

右前可動部 6 1 0 の可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 は、概ね左右対称な形状とされている。また、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とに概ね左右対称な装飾（図 4 5 参照）が施されている。このため、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とで形成された「V」の文字を見ても、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 との配置が通常配置と出現配置とで左右入れ替わっていることに遊技者が気づき難くすることが可能になる。詳細は後述するが、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とが出現配置から通常配置に戻る場合に、それらの配置の左右入れ替わりに遊技者が気づき易い形態で、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とは移動する。

20

【0 8 4 1】

なお、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とが概ね左右対称な形状され、出現配置において「V」の文字を形成する可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 との配置を容易には判別できない構成であるが、この構成に限らず、可動懸垂部材 6 1 1 と可動懸垂部材 6 1 1 と左右対称でない形状とし、出現配置において可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 との配置を判別できる構成としてもよい。例えば、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とが左右対称でない形状である場合としては、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とが、異なる多角形状（台形と三角形など）である場合や、異なる曲線形状である場合や、同様の多角形状であるものの一方の部材の各辺が直線で構成される角張った形状であるのに対して他方の部材の各辺が湾曲した曲線で構成される丸みを帯びた形状である場合や、上下方向の長さや左右方向の幅の異なる形状である場合などが挙げられる。

30

【0 8 4 2】

また、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とに概ね左右対称な装飾が施され、出現配置において「V」の文字を形成する可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 との配置を容易には判別できない構成であるが、この構成に限らず、可動懸垂部材 6 1 1 の装飾と左右対称でない装飾が施され、出現配置において可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 との配置を判別できる構成としてもよい。例えば、可動懸垂部材 6 1 1 の装飾と左後可動部材 6 2 1 の装飾とが左右対称でない場合としては、それらの装飾において、模様が異なる場合や、配色が異なる場合や、凹凸の起伏量が異なる場合などが挙げられる。

40

【0 8 4 3】

特典領域 4 0 9 V に遊技球が進入してから所定の時間（例えば、1.0 秒）の後に、図 4 7（C）に示すように、可動円盤部材 6 4 9 が、回転中心 6 4 9 C を中心として回転移動を開始する。また、中央可動部材 6 4 1 が、可動円盤部材 6 4 9 に回転移動に伴って回転中心 6 4 9 C を中心とする回転移動を開始すると共に、可動台座部材 6 3 9 に対しても、回転中心 6 4 1 C を中心とする回転を開始する。

【0 8 4 4】

可動円盤部材 6 4 9 は、所定の最大回転角度（例えば、90°）で回転移動し、一点鎖線

50

で示す通常配置から実線で示す出現配置となる。通常配置から出現配置への移動において、中央可動部材 6 4 1 の移動の距離（例えば、10 cm）は、近可動部材 6 3 1 と略同一の移動距離に設定され、中間可動部材 6 3 2 の移動の距離（例えば、20 cm）及び遠可動部材 6 3 3 の移動の距離（例えば、30 cm）よりも短く設定されている。また、中央可動部材 6 4 1 の移動速度は、近可動部材 6 3 1、中間可動部材 6 3 2 及び遠可動部材 6 3 3 の移動速度よりも低速に設定され、例えば、中間可動部材 6 3 2 の移動速度の略 1 / 2 の速度に設定されている。

【0845】

また、通常配置から出現配置への移動において、中央可動部材 6 4 1 の回転量は、近可動部材 6 3 1、中間可動部材 6 3 2 及び遠可動部材 6 3 3 の回転量よりも多い回転量となるように設定され、例えば、中間可動部材 6 3 2 の回転量が略 0.5 回転に設定されるのに対して、略 4.5 回転となるように設定されている。このため、通常配置から出現配置への移動において、中央可動部材 6 4 1 は、例えば、中間可動部材 6 3 2 よりも移動距離が小さく低速で移動するものの、中間可動部材 6 3 2 よりも回転量が多く、中間可動部材 6 3 2 に施された装飾の場合と同様に、回転移動中に中央可動部材 6 4 1 に施された装飾を容易には視認できなくすることが可能になる。したがって、中央可動部材 6 4 1 は、後述するように出現配置へ移動した後に、可動懸垂部材 6 1 1 や左後可動部材 6 2 1 や中間可動部材 6 3 2 などと関連して動作するが、通常配置から出現配置への移動中においては、出現配置における中間可動部材 6 3 2 の姿勢を推測し難くし、可動懸垂部材 6 1 1 や左後可動部材 6 2 1 や中間可動部材 6 3 2 などとの関連性を推測し難くすることが可能になる。

10

20

【0846】

なお、中央可動部材 6 4 1 は、通常配置から出現配置への移動において、近可動部材 6 3 1、中間可動部材 6 3 2 及び遠可動部材 6 3 3 よりも多い回転量で移動距離が小さく低速で移動する構成であるが、この構成に限らず、例えば、近可動部材 6 3 1、中間可動部材 6 3 2 及び遠可動部材 6 3 3 の少なくとも一部よりも少ない回転量で移動する構成や、近可動部材 6 3 1、中間可動部材 6 3 2 及び遠可動部材 6 3 3 の少なくとも一部よりも移動距離が大きい構成や、近可動部材 6 3 1、中間可動部材 6 3 2 及び遠可動部材 6 3 3 の少なくとも一部よりも移動速度が速い構成としてもよい。また、中央可動部材 6 4 1、近可動部材 6 3 1、中間可動部材 6 3 2 及び遠可動部材 6 3 3 は、円弧状に移動する構成であるが、この構成に限らず、少なくとも一部の部材が直線的に移動又は円弧とは異なる曲線や折れ線に沿って移動する構成としてもよい。

30

【0847】

出現配置となった後、可動円盤部材 6 4 9 は、最大回転角度よりも小さい角度範囲（例えば、5°）で往復する回転移動を繰り返す。この可動円盤部材 6 4 9 の往復回転移動によって、中央可動部材 6 4 1 は、回転中心 6 3 1 C の位置を大幅には変化させずに、可動円盤部材 6 4 9 に対して所定の角度範囲（例えば、85°）で往復回転を繰り返す。

【0848】

中央可動部材 6 4 1 には、キャラクタが所持品を所持した様子（例えば、カメラを構えた様子）の装飾が施されおり、中央可動部材 6 4 1 が往復回転移動することで、可動懸垂部材 6 1 1、左後可動部材 6 2 1、近可動部材 6 3 1、中間可動部材 6 3 2 及び遠可動部材 6 3 3 で形成される装飾（「V i b a」の文字列）の全体を見渡すような仕草が実行される。

40

【0849】

中央可動部材 6 4 1 に形成された周縁部分 6 4 9 a は、通常配置（図 48（C）の一点鎖線で示す配置）における左上側から移動して、出現配置においては右上側に位置する。周縁部分 6 4 9 a には、概ね円周方向に沿った少数の細い線状の溝により形成される装飾（図示せず）が施されており、中央可動部材 6 4 1 において中心から周縁近傍まで突出し、周縁部分で矩形状をなす所定の突出部分 6 4 1 a（キャラクタが持つカメラに対応する部分）は、周縁部分 6 4 9 a の前側において溝に沿って往復する回転移動を繰り返す。この

50

ため、概ね円周方向に沿った溝による装飾が突出部分 6 4 1 a の移動による残像を示すように遊技者に見せることが可能になる。したがって、周縁部分 6 4 9 a に施される装飾は、通常配置において周縁部分 6 4 9 a の背後に重なるように配置される左後可動部材 6 2 1 の下端部分の視認性の低下を抑制するために簡素な装飾に留めているものの、周縁部分 6 4 9 a の装飾によって中央可動部材 6 4 1 の往復する回転移動を効果的に装飾することが可能になる。

【0850】

また、周縁部分 6 4 9 a は、出現配置において、可動懸垂部材 6 1 1 と前後方向に重なる位置に位置する。このため、周縁部分 6 4 9 a は、左後可動部材 6 2 1 や表示部 4 7 9 a よりも前方に配置される可動懸垂部材 6 1 1 の発光に基づく光で照らすことが可能になり、通常配置の場合のように左後可動部材 6 2 1 や表示部 4 7 9 a の発光に基づく光で照らされる場合よりも、周縁部分 6 4 9 a の装飾を目立たせることが可能になる。

10

【0851】

進入可能期間が開始されてから所定の時間（例えば、6.0 秒）の後に、図 48（A）に示すように、可動支持部材 6 1 2 と左後可動部材 6 2 1 と可動台座部材 6 3 9 とは、出現配置から通常配置側への移動を開始する。左後可動部材 6 2 1 と可動台座部材 6 3 9 とは、通常配置から出現配置への移動の場合よりも遅い速度（例えば、通常配置から出現配置への速度の $1/5$ の速度）で移動し、所定の時間（例えば、0.5 秒）で出現配置まで戻る。また、可動支持部材 6 1 2 は、通常配置から出現配置への移動の場合に比べて遅い速度であって、大幅に遅い速度（例えば、通常配置から出現配置への平均速度の $1/250$ の速度）で移動し、所定の長い時間（例えば、5.0 秒）をかけて出現配置まで戻る。可動支持部材 6 1 2 や左後可動部材 6 2 1 や可動台座部材 6 3 9 を通常配置から出現配置への移動の場合よりも遅い速度で移動させることで、特典領域 4 0 9 V へ遊技球が進入し、確変遊技状態に移行することが確定したことへの満足感に余韻を与えることが可能になる。

20

【0852】

可動懸垂部材 6 1 1 は、可動支持部材 6 1 2 の出現配置から通常配置側への移動に伴い、左口ーラ 6 1 8 L と下停止部材 6 5 8 との接点を中心にして回転し、下端側はほぼ移動せずに上端側のみが移動する。このため、可動支持部材 6 1 2 の出現配置側への移動が開始した直後において、可動懸垂部材 6 1 1 が右側へ移動するのではなく所定の時間（例えば、1.0 秒）の間は、可動懸垂部材 6 1 1 の姿勢のみ変化しているように見える。

30

【0853】

左後可動部材 6 2 1 は、可動懸垂部材 6 1 1 が姿勢のみ変化しているように見えている間に、可動懸垂部材 6 1 1 の背後を通過して移動する。このため、出現配置において可動懸垂部材 6 1 1 と左前可動部 6 4 0 とが左右入れ替わって配置されていたことを遊技者に知らせることが可能になる。

【0854】

また、左後可動部材 6 2 1 は、可動懸垂部材 6 1 1 が姿勢のみ変化しているように見えている間に、通常配置に戻る。これにより、右前可動部 6 1 0 が装飾図柄表示装置 4 7 9 の前方側に取り残され、装飾図柄表示装置 4 7 9 の左右方向の中央を超えて遠い位置まで可動懸垂部材 6 1 1 が移動していたことを遊技者に知らせることが可能になる。また、可動懸垂部材 6 1 1 の通常配置から出現配置への移動においてその移動を視認し難くし、また、出現配置への移動後において可動懸垂部材 6 1 1 の配置を特定し難くしているため、取り残された可動懸垂部材 6 1 1 によって、可動懸垂部材 6 1 1 が遊技者に気付かれないように長い距離を高速で移動していたことへの驚きを遊技者に与えることが可能になる。

40

【0855】

また、可動懸垂部材 6 1 1 の通常配置側への移動が開始されると、装飾図柄表示装置 4 7 9 において、特典領域 4 0 9 V へ遊技球が進入して確変遊技状態に移行することが確定したことを祝う打上花火 6 0 3 が打ち上げられる表示が実行される。また、中央可動部材 6 4 1 は、上記往復回転移動において、左回転は低速で右回転は高速で回転する。これによ

50

り、中央可動部材 6 4 1 によって、装飾図柄表示装置 4 7 9 に表示されている打上花火 6 0 3 が打ち上がる様子をカメラで追いかける仕草を実行することが可能になる。

【0856】

左後可動部材 6 2 1 と可動懸垂部材 6 1 1 とが通常配置に戻った後であって、右前可動部材 6 1 0 の姿勢が通常配置と同じ姿勢（自重による安定姿勢）になると、可動懸垂部材 6 1 1 は、通常配置側への移動において左右の揺動を開始する。この後、右前可動部材 6 1 0 の移動において、図 4 8（B）に示すように、可動懸垂部材 6 1 1 は、左右の揺動を維持しつつ通常配置側へ移動する。可動懸垂部材 6 1 1 の揺動は、通常配置に戻るまで継続される。

【0857】

可動懸垂部材 6 1 1 の揺動が開始されると、可動懸垂部材 6 1 1 は、装飾図柄表示装置 4 7 9 における表示と同種の態様に構成される態様で発光する。具体的には、可動懸垂部材 6 1 1 は、下端側から上端側へ光が流れるように見える態様（発光パターン）で発光し、打上花火 6 0 3 の上昇速度と略同一の速度で上方側へ発光部分が上昇する態様の演出が実行される。これにより、可動懸垂部材 6 1 1 による発光演出を、装飾図柄表示装置 4 7 9 で表示されている打上花火 6 0 3 と同期して打上花火 6 0 3 を装飾する演出とできる。したがって、可動懸垂部材 6 1 1 と装飾図柄表示装置 4 7 9 とで一体感のある発光演出を実行でき、また、当該一体感のある発光演出を、可動懸垂部材 6 1 1 を低速で移動させることで長く楽しませることが可能になる。

【0858】

また、可動懸垂部材 6 1 1 の揺動が開始されると、装飾図柄表示装置 4 7 9 において、画像で表示されたキャラクタが可動懸垂部材 6 1 1 の下端部分を抱えて、バランスをとるように左右にふらつきながら右側に移動していく表示が実行される。これにより、画像で表示されたキャラクタが移動しながら花火を打ち上げているかのように見せる演出を実行でき、可動懸垂部材 6 1 1 の揺動と装飾図柄表示装置 4 7 9 の表示とで一体感のある演出を実行することが可能になる。

【0859】

また、右前可動部材 6 1 0 の揺動が開始された後において、中央可動部材 6 4 1 は、左回転は低速で、右回転は高速で実行される往復回転において、その回転角度が時間の経過に伴って減少するように動作する。時間の経過に伴って、中央可動部材 6 4 1 から可動懸垂部材 6 1 1 が遠ざかっていき、キャラクタが可動懸垂部材 6 1 1 の下端から上端までを見上げる角度は小さくなる。このため、左後可動部材 6 2 1 によって、可動懸垂部材 6 1 1 による発光で模した花火が遠ざかっていき、当該花火の打ち上がる様子をカメラで追っているかのように見せる演出を実行することが可能になる。したがって、左後可動部材 6 2 1 の往復回転と可動懸垂部材 6 1 1 の通常配置側への移動とで一体感のある演出を実行することが可能になる。

【0860】

右前可動部材 6 1 0 が通常配置に戻ると、装飾図柄表示装置 4 7 9 における打上花火 6 0 3 の表示が終了する。

【0861】

また、可動懸垂部材 6 1 1 が通常配置に戻ると、中央可動部材 6 4 1 が所定の最大回転角度（例えば、90°）で回転移動し、図 4 8（C）に示すように、一点鎖線で示す出現配置から実線で示す通常配置に戻る。

【0862】

なお、上記実施形態においては、通常配置と出現配置とにおいて、V 出現演出で動作する各可動部材（可動懸垂部材 6 1 1、左後可動部材 6 2 1、近可動部材 6 3 1、中間可動部材 6 3 2、遠可動部材 6 3 3、中央可動部材 6 4 1）は、装飾図柄表示装置 4 7 9 の表示部 4 7 9 a と前後方向に重なる位置をとる構成としているが、この構成に限らず、通常配置や出現配置において、V 出現演出で動作する各可動部材の少なくとも 1 つが表示部 4 7 9 a と前後方向に重ならない位置をとる構成としてもよい。

10

20

30

40

50

【0863】

また、上記実施形態においては、可動懸垂部材611は、通常配置において、遊技者から見て、装飾図柄表示装置479の表示部479aと右流下領域409Rとの双方に重なる位置に配置された構成としているが、この構成に限らず、表示部479aと右流下領域409Rとの少なくとも一方に重なる位置に配置される構成としてもよいし、いずれとも重ならない位置に配置される構成としてもよい。

【0864】

また、上記実施形態においては、左後可動部材621は、通常配置において、遊技者から見て、装飾図柄表示装置479と左流下領域409Lとの双方に重なる位置に配置された構成としているが、この構成に限らず、装飾図柄表示装置479と左流下領域409Lとの少なくとも一方に重なる位置に配置される構成としてもよいし、いずれとも重ならない位置に配置される構成としてもよい。

10

【0865】

また、上記実施形態においては、遊技者側から見て、可動懸垂部材611によって装飾図柄表示装置479における画像が表示される表示領域479bと右流下領域409Rとが区画され、左後可動部材621によって表示領域479bと左流下領域409Lとが区画される構成であるが、この構成に限らず、例えば、可動懸垂部材611と左後可動部材621とを可動しない固定的な装飾部品として設けるようにしてもよく、この場合であっても、表示領域479bと、右流下領域409R及び左流下領域409Lを区画することができる。また、画像の表示制御により複数の図柄を変動表示可能な装飾図柄表示装置479に代えて、機械的な動作により複数の図柄を変動表示可能な回転式の表示装置を備える構成としてもよい。

20

【0866】

また、上記実施形態においては、可動懸垂部材611と左後可動部材621とは、遊技者側から見て、表示領域479bと右流下領域409Rや左流下領域409Lとを区画する構成であるが、例えば、装飾図柄表示装置479に代えて又は加えて装飾図柄表示装置479の表示領域479bの設置場所や、表示領域479bの前方に重なる箇所に、遊技球が流下可能であって右流下領域409Rや左流下領域409Lとは別の流下領域を設け、遊技者側から見て、当該別の流下領域と右流下領域409Rとが可動懸垂部材611によって区画され、当該別の流下領域と左流下領域409Lとが左後可動部材621によって区画される構成としてもよい。

30

【0867】

また、上記実施形態においては、規制部材666aによる通常配置における可動懸垂部材611の移動規制が、駆動スライダ664の移動によって解除される構成であるが、この構成に限らず、可動懸垂部材611の移動を規制する規制部材666aを移動規制配置から移動規制解除配置へ移動させる駆動源及び駆動機構を別途に設ける構成としてもよい。この構成の場合、駆動スライダ664を位置Xa2よりも位置Xa側に近い位置（例えば、出現配置をとる左後可動部材621の位置付近）まで移動させた状態で、規制部材666aによる移動規制を解除することで、可動懸垂部材611を通常配置から出現配置までの移動距離よりも短い距離だけ離れた中途配置をとるように移動させることが可能になる。このように、可動懸垂部材611を中途配置までしか移動しない動作による演出を変動表示が行われる遊技状態で実行することで、その中途配置までしか可動懸垂部材611が移動しないかのように遊技者に刷り込むことが可能になり、可動懸垂部材611がV入賞演出で出現配置に移動した場合に、「V」の文字の左側を構成していると遊技者に気付かれ難くすることができる。

40

【0868】

また、別途に規制部材666aを移動規制配置から移動規制解除配置へ移動させる駆動源と駆動機構を設けた場合、駆動スライダ664の右側への移動（通常配置から出現配置側への移動）に従って可動支持部材612を移動させることで、出現配置から通常配置へ移動させる場合と同じ速度、遅い速度又は少し速い速度（移動付勢部材662による付勢

50

があるため少しだけ速く移動させることができる）で可動懸垂部材 6 1 1 を移動させることが可能になる。このような動作による演出を変動表示が行われる遊技状態で実行することで、可動懸垂部材 6 1 1 が容易には視認できない高速で移動可能であることを遊技者に推測され難くすることが可能になる。

【0869】

また、上記実施形態においては、通常配置から出現配置への移動において、可動懸垂部材 6 1 1 が発光せずに移動する構成であるが、この構成に限らず、可動懸垂部材 6 1 1 を装飾図柄表示装置 4 7 9 の表示部 4 7 9 a における表示色と同色系の発光色で発光させたり、表示部 4 7 9 a における配色に類似させるように移動に伴い発光色を変化させたりする構成としてもよい。この構成であれば、通常配置から出現配置への移動において可動懸垂部材 6 1 1 を発光させたとしても、可動懸垂部材 6 1 1 の移動を認識し難くすることが可能になる。

10

【0870】

また、上記実施形態においては、通常配置から出現配置への移動において、可動懸垂部材 6 1 1 を発光させずに移動させる構成であるが、この構成に限らず、可動懸垂部材 6 1 1 を容易には視認できない速さで移動させつつ、例えば、可動懸垂部材 6 1 1 の発光箇所を上下に往復させることで残像によって「V」の文字を浮かび出させるなど、可動懸垂部材 6 1 1 の発光箇所を移動に伴い変化させながら発光させ、残像によって特定の文字や言葉や図形や紋章などを浮かび上がらせる構成としてもよい。

20

【0871】

また、上記実施形態においては、通常配置から出現配置への移動において、可動懸垂部材 6 1 1 を容易には視認できない速さで移動させる構成であるが、この構成に限らず、可動懸垂部材 6 1 1 を容易に視認できる速さで移動させる構成としてもよい。

【0872】

また、上記実施形態においては、通常配置から出現配置への移動において、V 出現演出で動作する各可動部材は、装飾図柄表示装置 4 7 9 と前後方向に重なる位置を移動する構成としているが、この構成に限らず、移動中の少なくとも一部の期間において、装飾図柄表示装置 4 7 9 と前後方向に重ならない位置をとる構成としてもよい。

【0873】

また、上記実施形態においては、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とは、前後方向にずれた位置に設けられ、それらの一部が正面視で前後方向に重なるようにすれ違った後に、可動懸垂部材 6 1 1 が左後可動部材 6 2 1 の移動軌跡内に移動する構成としているが、この構成に限らず、例えば、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とが左右方向からみて重なる位置に設けられ、左後可動部材 6 2 1 が一旦出現配置の場合よりも大きく傾斜し、可動懸垂部材 6 1 1 が左後可動部材 6 2 1 の上方を通過した後に、左後可動部材 6 2 1 が出現配置をとる構成など、正面視で前後方向には重ならずすれ違い、可動懸垂部材 6 1 1 が左後可動部材 6 2 1 の移動軌跡内に移動する構成としてもよいし、移動軌跡内には移動しないで移動軌跡外で移動するようにしてもよい。

30

【0874】

また、上記実施形態においては、通常配置から出現配置への移動において、可動懸垂部材 6 1 1 は、左後可動部材 6 2 1 よりも移動量が長い構成であるが、この構成に限らず、左後可動部材 6 2 1 と移動量が同一である構成や、左後可動部材 6 2 1 よりも移動量が短い構成としてもよい。例えば、出現配置における「V」の文字が形成される位置が、通常配置における可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 との中間となるようにしてもよく、また、可動懸垂部材 6 1 1 が、左後可動部材 6 2 1 よりも右側に位置し、可動懸垂部材 6 1 1 によって「V」の文字の右側部分を構成し、左後可動部材 6 2 1 によって「V」の文字の左側部分を構成するようにしてもよい。

40

【0875】

また、上記実施形態においては、通常配置から出現配置への移動において、可動懸垂部材 6 1 1 は左方向に移動し、左後可動部材 6 2 1 は右方向に移動する構成であるが、この構

50

成に限らず、例えば、可動懸垂部材 6 1 1 が左下方向に移動し、左後可動部材 6 2 1 が右下方向に移動するなど、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 との少なくとも一方が左右方向とは異なる方向に移動する構成としてもよい。

【0876】

また、上記実施形態においては、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とは、通常配置において左右方向に離間し、左右方向に近接するように移動して出現配置をとる構成としているが、この構成に限らず、例えば、通常配置において、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とが横長となる状態で上下方向に離間して配置され、可動懸垂部材 6 1 1 の少なくとも一部と左後可動部材 6 2 1 の少なくとも一部とが上下方向に近接又は当接するように移動して出現配置をとる構成としてもよい。

10

【0877】

また、上記実施形態においては、左後可動部材 6 2 1 と可動懸垂部材 6 1 1 とは、出現配置において全体形状で「V」の文字を形成する構成としているが、この構成に限らず、他の文字や記号や図形や紋章やキャラクタが所持する武器などを形成する構成としてもよい。

【0878】

また、上記実施形態においては、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とは、進入可能期間が開始された後であって、特典領域 4 0 9 V に遊技球が進入した場合に動作する構成であるが、この構成に限らず、進入可能期間前に動作させ、進入可能期間が発生することを知らせる演出において動作する構成や、時短予定の特別遊技状態であるか確変予定の特別遊技状態であるかが判別できていない状態で確変予定の特別遊技状態であることを知らせる昇格演出において動作する構成としてもよい。

20

【0879】

また、上記実施形態においては、可動支持部材 6 1 2 が、通常配置から出現配置への移動にあっては移動付勢部材 6 6 2 からの付勢によって、一方、出現配置から通常配置への移動にあっては駆動モータ 6 5 1 からの動力によって移動し、移動方向によって移動速度を異ならせる構成であるが、この構成に限らず、例えば、単一のモータを用いて、通常配置から出現配置の移動と逆の移動とでモータの制御によって移動速度を異ならせて、可動支持部材 6 1 2 を移動させる構成としてもよい。

【0880】

また、上記実施形態においては、可動懸垂部材 6 1 1 は、出現配置から通常配置への移動において、通常配置から出現配置への移動の場合よりも遅い速度で移動する構成であるが、この構成に限らず、通常配置から出現配置への移動の場合と同一の速度、または、通常配置から出現配置への移動の場合よりも速い速度で移動する構成としてもよい。例えば、規制部材 6 6 6 a、被押圧部材 6 6 7 a（図 4 5 参照）などの可動支持部材 6 1 2 の左側への移動の規制やその解除に関与する部材を設けず、また、移動付勢部材 6 6 2（図 4 5 参照）を設けない構造であって、駆動スライダ 6 6 4 と可動支持部材 6 1 2 とが連結され、駆動スライダ 6 6 4 の左右の移動に追従して可動支持部材 6 1 2 が左右に移動する構成とし、通常配置から出現配置への移動においてもその逆の移動においても、駆動モータ 6 5 1 の回転方向は異なるものの出力（電流値）は同一である動力によって可動支持部材 6 1 2 を移動させ、通常配置から出現配置への移動にあっては駆動モータ 6 5 1 を最大出力よりも低い出力の動力によって、出現配置から通常配置への移動にあっては駆動モータ 6 5 1 を最大出力の動力によって可動支持部材 6 1 2 を移動させる。

30

40

【0881】

また、上記実施形態においては、可動懸垂部材 6 1 1 は、通常配置から出現配置への移動にあってはほぼ一定の姿勢（一定の振れ角の状態）を保ちながら、出現配置から通常配置への移動にあっては時間と伴に変化する姿勢をとる構成であるが、この構成に限らず、通常配置から出現配置の移動とその逆の移動とで、振れ角の異なる一定の姿勢をとる構成や、時間と共に姿勢が変化するものの振れ幅を異ならせた変化や振れ幅は同じで振れ角の範囲を異ならせる構成としてもよい。

50

【0882】

また、上記実施形態においては、可動懸垂部材611は、出現配置から通常配置への移動中の全期間において、通常配置から出現配置への移動の際の姿勢と異なる姿勢をとる（通常配置から出現配置への移動の際の振れ角を含まない範囲の振れ角をとる）構成であるが、この構成に限らず、一部の期間においては同一の姿勢（同一の振れ角）をとる構成としてもよい。

【0883】

また、上記実施形態においては、可動懸垂部材611は、可動支持部材612に対する姿勢変化が可能（揺動可能）な形態で設けられ、出現配置から通常配置への移動中の全期間において通常配置から出現配置への移動の際の姿勢と異なる姿勢をとる構成であるが、この構成に限らず、例えば、可動懸垂部材611が可動支持部材612に対して姿勢変化できない形態で設けられる場合など、通常配置から出現配置への移動であってもその逆の移動であっても移動中の全期間で同一の姿勢をとる構成としてもよい。

10

【0884】

また、上記実施形態においては、可動懸垂部材611は、装飾図柄表示装置479に表示される打上花火603の上昇方向（下端側から上端側）と略同一の方向に、打上花火603の上昇速度と略同一の速度で上方側へ発光部分が上昇する発光パターンの態様で発光することで、装飾図柄表示装置479の表示の態様と可動懸垂部材611の発光の態様とを同種の態様で行う構成であるが、この構成に限らず、上昇方向は同一の態様であるが上昇速度を異ならせた態様としてもよい。

20

【0885】

また、上記実施形態においては、可動懸垂部材611は、装飾図柄表示装置479に表示される打上花火603の上昇方向と略同一方向に光が下側から上側へ流れるような態様で発光する構成であるが、この構成に限らず、例えば、装飾図柄表示装置479において上側から下側に多数の花びらが落ちる表示の態様とされ、可動懸垂部材611において光が上側から下側へ流れるような発光の態様としてもよく、または、装飾図柄表示装置479において斜め下側に流れ星が流れる表示が実行され、可動懸垂部材611において光が斜め下側へ流れるような発光の態様とするなど、下側から上側へ向かう方向とは別方向へ光が流れるような発光を実行することで、装飾図柄表示装置479の表示と可動懸垂部材611の発光とを同種の態様で行う構成としてもよい。

30

【0886】

また、上記実施形態においては、可動懸垂部材611は、装飾図柄表示装置479に表示される打上花火603の動きと同様の動きに見せる発光を行う構成であるが、この構成に限らず、例えば、装飾図柄表示装置479において多数の泡が下側から上側へ移動する表示が実行され、可動懸垂部材611において丸い形状の発光をさせる態様としたり、その丸い形状の発光箇所を下側から上側へ移動させる態様とするなど、装飾図柄表示装置479において表示される表示物の動きと同様の動きに見せる発光に代えて又は加えて、装飾図柄表示装置479において表示される表示物の形状と同一又は類似する形状に見せる発光形態での発光の態様とすることで、装飾図柄表示装置479の表示と可動懸垂部材611の発光とを同種の態様で行う構成としてもよい。

40

【0887】

また、上記実施形態においては、可動懸垂部材611は、装飾図柄表示装置479に表示される打上花火603の動きと同様の動きに見せる発光を行うことで、装飾図柄表示装置479の表示と可動懸垂部材611の発光とを同種の態様で行う構成であるが、この構成に限らず、装飾図柄表示装置479において紅白の垂れ幕が表示される態様とし、可動懸垂部材611は、紅色の部分の前を通過する場合には紅色に発光し、白色の部分の前を通過する場合には白色で発光する態様とするなど、装飾図柄表示装置479における表示に合わせた色で発光する態様とすることで、装飾図柄表示装置479の表示と同種の態様で行う構成としてもよい。

【0888】

50

また、上記実施形態においては、中間可動部材 6 3 2 と遠可動部材 6 3 3 とは、可動台座部材 6 3 9 の回転に連動して移動する構成であるが、この構成に限らず、個別に移動する構成としてもよい。また、中間可動部材 6 3 2 と遠可動部材 6 3 3 とは連動して回転する構成であるが、この構成に限らず、個別に回転する構成としてもよい。

【0889】

また、上記実施形態においては、近可動部材 6 3 1、中間可動部材 6 3 2 及び遠可動部材 6 3 3 は、円弧状に移動する構成であるが、この構成に限らず、少なくとも一部の部材が直線的に移動又は円弧とは異なる曲線や折れ線に沿って移動する構成としてもよい。

【0890】

また、上記実施形態においては、近可動部材 6 3 1 や中間可動部材 6 3 2 や遠可動部材 6 3 3 の各々について、通常配置から出現配置への移動中において、近可動部材 6 3 1 や中間可動部材 6 3 2 や遠可動部材 6 3 3 に施された各装飾が容易には視認できないように、それらの部材の移動距離や移動速度や回転量が設定されている構成であるが、この構成に限らず、それらの少なくとも 1 つの部材に施された装飾が、通常配置から出現配置への移動中において容易に視認できるように、移動距離や移動速度や回転量が設定される構成としてもよい。

【0891】

また、上記実施形態においては、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とは、確変予定の特別遊技状態において動作する構成であるが、この構成に限らず、確変予定の特別遊技状態に加えて時短予定の特別遊技状態において動作する構成としてもよい。例えば、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とは一気に「V」の文字を形成せず、可動懸垂部材 6 1 1 が出現配置をとる状態で左後可動部材 6 2 1 が通常配置と出現配置との間を往復移動し、最終的に、確変予定の特別遊技状態においては「V」の文字を形成するが時短予定の特別遊技状態においては「X」の文字を形成する配置をとることで、進入可能期間の発生を示唆する演出を実行する構成としてもよい。

【0892】

また、上記実施形態においては、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とは、特別遊技状態において動作する構成であるが、この構成に限らず、この構成に代えて又は加えて、例えば、第 1 図柄抽選や第 2 図柄抽選において大当りに当選したことを知らせる又は示唆する演出など、通常遊技状態や確変遊技状態や時短遊技状態で発生する演出において動作する構成としてもよい。

【0893】

上記パチンコ機 1 0 0 において、互いに離間する通常配置と通常配置と比べて近接する出現配置との間で移動可能に設けられた左後可動部材 6 2 1 と可動懸垂部材 6 1 1 とを備える構成としている。また、上記パチンコ機 1 0 0 において、通常配置から出現配置に移動する場合に、左後可動部材 6 2 1 が右方側へ移動すると共に、可動懸垂部材 6 1 1 が左後可動部材 6 2 1 より長い距離を左方側（別の方向）へ移動し、可動懸垂部材 6 1 1 の少なくとも一部が遊技者側から見て左後可動部材 6 2 1 の移動軌跡内に配置される構成としている。

【0894】

したがって、上記パチンコ機 1 0 0 であれば、可動懸垂部材 6 1 1 が左後可動部材 6 2 1 の移動軌跡内に可動懸垂部材 6 1 1 が配置されない場合（「V」の文字の左側が左後可動部材 6 2 1 で「V」の文字の右側が可動懸垂部材 6 1 1 となる配置）に比べて、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とを意外性のある配置で「V」の文字を形成し、特典領域 4 0 9 V に遊技球が進入したことを知らせることができる。

【0895】

また、出現配置において、左後可動部材 6 2 1 と可動懸垂部材 6 1 1 との全体によって、遊技者側から見て左後可動部材 6 2 1 や可動懸垂部材 6 1 1 の個別の形状とは異なる V 形状を形成することが可能になり、遊技者が通常配置での個別の形状を知り得たとしても、出現配置をとる左後可動部材 6 2 1 と可動懸垂部材 6 1 1 との全体形状で形成される「V

10

20

30

40

50

」の文字やその配置箇所を出現配置となるまで遊技者に悟られ難くすることが可能になる。したがって、左後可動部材 6 2 1 と可動懸垂部材 6 1 1 との移動によって、意外性のある演出を実行することが可能になる。

【0896】

また、可動懸垂部材 6 1 1 が視認し難い程度に速い速度で移動することで、左後可動部材 6 2 1 と可動懸垂部材 6 1 1 との配置が突然入れ替わったかのように遊技者に見せることや、注意して見てようやく入れ替わりを認識可能にすることもできる。この場合、左後可動部材 6 2 1 と可動懸垂部材 6 1 1 との移動によって、遊技者の意表を突く演出を実行することが可能になる。

【0897】

上記パチンコ機 1 0 0 において、通常配置と出現配置との間で移動可能に設けられ、発光可能な装飾が施された左後可動部材 6 2 1 と可動懸垂部材 6 1 1 とを備えている。通常配置において、遊技者側から見て、装飾図柄表示装置 4 7 9 に対して、左後可動部材 6 2 1 が左流下領域 4 0 9 L に近い側に、可動懸垂部材 6 1 1 が右流下領域 4 0 9 R に近い側に配置される。また、出現配置において、可動懸垂部材 6 1 1 が他方より左流下領域 4 0 9 L に近く、左後可動部材 6 2 1 が他方のより右流下領域 4 0 9 R に近い位置に配置される。また、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 との双方の装飾部が装飾図柄表示装置 4 7 9 における変動表示中に、通常配置において点灯したり点滅したりする。

【0898】

上記パチンコ機 1 0 0 であれば、左後可動部材 6 2 1 と可動懸垂部材 6 1 1 とが離間して配置された通常配置において、変動表示中に、装飾図柄表示装置 4 7 9 に対して左流下領域 4 0 9 L に近い側に配置された左後可動部材 6 2 1 の装飾と、装飾図柄表示装置 4 7 9 に対して右流下領域 4 0 9 R に近い側に配置された可動懸垂部材 6 1 1 の装飾とが発光する。このため、中央構造体 4 2 0 に別途の発光装置を設けなくても、可動懸垂部材 6 1 1 と左後可動部材 6 2 1 とによって、装飾図柄表示装置 4 7 9 によって演出が実行される領域と、遊技球が流下する左流下領域 4 0 9 L や右流下領域 4 0 9 R とを区画することが可能になる。

【0899】

また、左流下領域 4 0 9 L や右流下領域 4 0 9 R やその領域を流下する遊技球を照明したり、変動表示に合わせた発光演出を実行したりすることが可能になる。また、遊技者が意図するか意図しないかに依らず、遊技者に左後可動部材 6 2 1 を可動懸垂部材 6 1 1 の存在や形状を印象付ける（刷り込む）ことが可能になる。

【0900】

また、通常配置において右流下領域 4 0 9 R に近い側に配置されていた左後可動部材 6 2 1 を可動懸垂部材 6 1 1 よりも左流下領域 4 0 9 L に近い位置に移動させ、また、通常配置において右流下領域 4 0 9 R に近い側に配置されていた可動懸垂部材 6 1 1 を左後可動部材 6 2 1 よりも右流下領域 4 0 9 R に近い位置に移動させる。このため、左後可動部材 6 2 1 と可動懸垂部材 6 1 1 とを、各可動部材 6 1 1, 6 1 2 が移動前後で他方の可動部材より同じ領域に近い側に配置される一般的な場合とは異なり遊技者の意表を突く配置に移動させることが可能になる。したがって、出現配置において、左後可動部材 6 2 1 と可動懸垂部材 6 1 1 とで形成される「V」の文字が一般的な配置ない配置で形成されていることを、左後可動部材 6 2 1 と可動懸垂部材 6 1 1 との存在や形状を印象付けた上で通常配置から出現配置へ移動させることで、遊技者に気付かせ易くすることが可能になる。

【0901】

また、左後可動部材 6 2 1 及び可動懸垂部材 6 1 1 の少なくとも一方を視認し難い程度に速い速度で移動させることによって、当該移動では一般的な配置との相違には気付き難いものの、左後可動部材 6 2 1 を第 2 可動部材の存在や形状の印象付けで一般的な配置との相違に遊技者が気付き易くすることも可能になる。この場合、一般的な配置との相違に気が付いた遊技者には驚きを与えることになる。

【0902】

10

20

30

40

50

上記パチンコ機１００において、可動懸垂部材６１１は、発光可能な装飾が施され、出現配置から通常配置へ移動する場合に、通常配置から出現配置へ移動する場合より遅い速度で、前後方向において装飾図柄表示装置４７９に重なる位置を移動し、当該移動中に、光が下側から上側に流れる態様で可動懸垂部材６１１の前面装飾が発光し、花火が下側から上側に打ち上げられる表示が表示される構成としている。

【０９０３】

したがって、上記パチンコ機１００であれば、可動懸垂部材６１１が出現配置から通常配置へ移動する場合に、通常配置から出現配置への移動よりも遅く移動させることで、可動懸垂部材６１１を装飾図柄表示装置４７９に重なる位置に長く配置することが可能になる。また、可動懸垂部材６１１を装飾図柄表示装置４７９が重なる位置に配置される場合に、可動懸垂部材６１１が所定の光が下側から上側に流れる態様で発光し、装飾図柄表示装置４７９において花火が下側から上側に打ち上げられる表示が実行されることで、可動懸垂部材６１１と装飾図柄表示装置４７９とが連携して一体感のある演出を実行することが可能になる。したがって、可動懸垂部材６１１と装飾図柄表示装置４７９とが連携して一体感のある演出を遊技者に長く楽しませることができる。

10

【０９０４】

上記パチンコ機１００において、可動懸垂部材６１１が、出現配置から通常配置へ移動する場合に、通常配置から出現配置へ移動する場合より遅い速度で移動し、可動懸垂部材６１１の姿勢は、通常配置から出現配置へ移動する場合にほぼ一定の振れ角の姿勢を保つものに対して、出現配置から通常配置へ移動する場合に時間経過に伴って振れ角が変化することで姿勢が変化する。

20

【０９０５】

したがって、上記パチンコ機１００であれば、同一速度や同一姿勢で移行する場合に比べて、可動懸垂部材６１１の動作を多様化することが可能になる。また、速度変化可能部材の移動速度が遅い出現配置から通常配置へ移行において、可動懸垂部材６１１の姿勢を複雑に変化させることで、複雑な姿勢の変化を遊技者に長く楽しませることが可能になる。

【０９０６】

上記パチンコ機１００において、通常配置と出現配置との間で移動可能に設けられ、所定の文字を示す装飾が設けられた中間可動部材６３２と遠可動部材６３３とが設けられている。通常配置から出現配置へ移動する場合に、中間可動部材６３２は、可動台座部材６３９に対して所定の回転量で回転しながら、可動台座部材６３９と共に回転移動し、遠可動部材６３３は、可動台座部材６３９に対して中間可動部材６３２よりも少ない回転量で回転しながら、可動台座部材６３９と共に中間可動部材６３２よりも長距離を高速で移動する。

30

【０９０７】

したがって、上記パチンコ機１００であれば、中間可動部材６３２と同様に回転を伴って移動する遠可動部材６３３を中間可動部材６３２より移動距離が大きく高速で移動し、また、中間可動部材６３２より少ない回転量で回転させることで、遠可動部材６３３の装飾部における表示対象の視認性を、遠可動部材６３３の移動によっては中間可動部材６３２の装飾部における表示対象よりも低下させるものの、回転によっては中間可動部材６３２よりも向上させることができる。このため、通常配置から出現配置への変化過程での中間可動部材６３２や遠可動部材６３３の視認可能性は、回転による影響と移動による影響との双方で決まるため、通常配置から出現配置への移行において、中間可動部材６３２の装飾における「v」の文字を視認可能とすると共に遠可動部材６３３の装飾における「i」の文字も視認可能とすることが可能になる。なお、通常配置から出現配置への移行において、中間可動部材６３２の装飾における「v」の文字を視認不能とすると共に遠可動部材６３３の装飾における「i」の文字も視認不能とすることも可能になる。

40

【０９０８】

本発明を上記実施形態とは異なるタイプのパチンコ機等にも実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大

50

当り期待値が高められるようなパチンコ機として実施してもよい。また、大当り図柄が表示された後に、所定の領域に球が入賞することを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機として実施してもよい。また、球が循環する封入式のパチンコ機に実施してもよい。さらに、パチンコ機以外にも、アレンジボール型パチンコ、雀球等の各種遊技機として実施するようにしてもよい。また、パチンコ機に限定されることはなく、スロットマシンに適用しても良く、パチンコ機とスロットマシンとを融合した形式のパロット等の遊技機に適用してもよい。また、遊技において遊技者に付与される遊技価値としての特典は、遊技球やメダル等の遊技媒体が実体物として払い出されることによる特典であってもよいし、数値情報を記録媒体に記録することによって付与される実体のない情報の更新を伴う仮想的な特典であってもよい。

10

【0909】

<上記実施形態から抽出される発明>

以下、上記した実施形態から抽出される発明群の特徴について、必要に応じて課題及び効果等を示しつつ説明する。なお、以下においては、理解の容易のため、上記各実施形態において対応する構成を括弧書き等で適宜示すが、この括弧書き等で示した具体的構成に限定されるものではない。また、各特徴に記載した用語の意味や例示等は、同一の文言にて記載した他の特徴に記載した用語の意味や例示として適用してもよい。

【0910】

<特徴10>

識別情報の変動表示を行う表示手段（例えば、装飾図柄表示装置479）と、該表示手段によって表示される表示内容を制御する制御手段（例えば、副制御基板940）とを備え、遊技球が流下可能な遊技領域（遊技領域409）のうち通常遊技状態において所定の第1領域（例えば、左流下領域409L）に遊技球を流下させて遊技を行い、前記表示手段によって所定の表示結果（例えば、大当りに対応する装飾図柄の組み合わせ）が表示された場合には前記第1領域とは別に設けられる第2領域（例えば、右流下領域409R）に遊技球を流下させることによって所定の特典領域（例えば、特典領域409V）に遊技球を入球させることが可能であり、該特典領域に遊技球が入球した場合には当該特典領域に遊技球が入球しない場合（例えば、時短遊技状態）に比べて遊技者にとって有利な遊技状態（例えば、確変遊技状態）へ遷移可能に構成された遊技機において、前記通常遊技状態において複数箇所に離間して配置された離間姿勢をとる複数の可動部材を備え、前記所定の表示結果が表示された場合に前記複数の可動部材が動作し、当該複数の可動部材の一部が前記離間姿勢と比べて近接又は当接した状態をとり、前記遊技領域へ遊技球が流下する入口部分から前記特典領域へ向かう方向側へ前記複数の可動部材が連続する特典領域指示配置をとるように構成されていることを特徴とする遊技機。

20

30

【0911】

遊技機の代表例としてパチンコ機がある。従来の典型的なパチンコ機においては、例えば、通常の遊技状態においては遊技球の発射強度の小さい左打ちにより遊技球を所定の左側の流下領域に遊技球を流下させ、通常の遊技状態よりも遊技者にとって有利な遊技状態においては遊技球の発射強度が左打ちの場合より大きい右打ちにより遊技球を右側の流下領域を流下させて遊技を行う等、遊技の進行に伴って遊技球の打ち出しの仕方を変化させる構成とされる。このような遊技機において、通常の遊技状態から有利な遊技状態への遊技状態の切り替わりに際して、右側の流下領域を流下する遊技球が進入可能な特定の装置や領域（以下、これらを特典領域と称す）に遊技球を進入させることを条件とする構成が知られている（例えば、特開2011-45422号公報）。この構成において、特典領域へ遊技球を進入させることが可能となる機会を得た場合に、右打ちで遊技球を打ち出すように、液晶表示装置における文字や図形による表示等によって報知し、遊技者が不利益を被ることを抑制している。

40

【0912】

しかしながら、特典領域へ遊技球を進入させることが可能な場合に、好適な演出を実行す

50

る構成について、未だ改良の余地がある可能性がある。

【0913】

これに対し、特徴10に記載の遊技機であれば、特典領域へ遊技球を進入させることが可能な場合に、好適な演出を実行可能な遊技機を提供することができる。すなわち、表示手段によって所定の表示結果が表示され、特典領域へ遊技球を入球させることが可能な場合に、複数の可動部材を、それらが別箇所に配置された離間姿勢から、その姿勢と比べて近接又は当接した状態であって、遊技領域へ遊技球が流下する入口部分から特典領域へ向かう方向側へ複数の可動部材が連続する特典領域指示配置に移動させる構成とする。このため、複数の可動部材の動作によって、複数の可動部材が連続して配置される方向側に設けられる特典領域やその近傍に遊技者の注意を引くことや、複数の可動部材を別箇所に配置された状態から移動させることでその動作を遊技者に気づかせ易くすることが可能になる。したがって、この複数の可動部材を動作させる演出によって、遊技者に対して、特典領域に遊技球を入球させるべきことを示唆したり、特典領域の近傍を流下する遊技球の挙動に注目させたり、特典領域に遊技球を進入させるために遊技球を流下させる領域を第1領域から第2領域に変更すべきことを注意喚起したりすることが可能になり、遊技者にとって有利な遊技状態への遷移させる機会を逃してしまうことを抑制することが可能になる。

10

【0914】

<特徴11>

識別情報の変動表示を行う表示手段（例えば、装飾図柄表示装置479）と、該表示手段によって表示される表示内容を制御する制御手段（例えば、副制御基板940）とを備え、遊技球が流下可能な遊技領域（遊技領域409）のうち通常遊技状態において所定の第1領域（例えば、左流下領域409L）に遊技球を流下させて遊技を行い、前記表示手段によって所定の表示結果（例えば、大当りに対応する装飾図柄の組み合わせ）が表示された場合には前記第1領域とは別に設けられる第2領域（例えば、右流下領域409R）に遊技球を流下させることによって所定の特典領域（例えば、特典領域409V）に遊技球を入球させることが可能であり、該特典領域に遊技球が入球した場合には当該特典領域に遊技球が入球しない場合（例えば、時短遊技状態）に比べて遊技者にとって有利な遊技状態（例えば、確変遊技状態）へ遷移可能に構成された遊技機において、前記通常遊技状態において複数箇所に離間して配置された離間姿勢をとる複数の可動部材（左可動部材10及び右可動部材20）を備え、前記所定の表示結果が表示された場合に前記表示手段の前側に重なる位置に配置された可動部材に設けられる発光部分が発光し、前記遊技領域へ遊技球が流下する入口部分から前記特典領域へ向かう方向側へ前記発光部分が順に発光する発光演出が行われるように構成されていることを特徴とする遊技機。

20

30

【0915】

特徴11に記載の遊技機であれば、特典領域へ遊技球を進入させることが可能な場合に、好適な演出を実行可能な遊技機を提供することができる。すなわち、表示手段によって所定の表示結果が表示され、特典領域へ遊技球を入球させることが可能な場合に、表示手段の前側に重なる位置に配置された可動部材に設けられる発光部分が発光し、遊技領域へ遊技球が流下する入口部分から特典領域へ向かう方向側へ発光部分が順に発光する発光演出が行われる。このため、可動部材に設けられる発光部分の発光によって、発光部分が順に発光した方向側に設けられる特典領域やその近傍の遊技球の挙動に対して、遊技者の注意を引いたり遊技者に気づかせ易くすることが可能になる。したがって、この発光演出によって、遊技者に対して、特典領域に遊技球を入球させるべきことを示唆したり、特典領域の近傍を流下する遊技球の挙動に注目させたり、特典領域に遊技球を進入させるために遊技球を流下させる領域を第1領域から第2領域に変更すべきことを注意喚起したりすることが可能になり、遊技者にとって有利な遊技状態への遷移させる機会を逃してしまうことを抑制することが可能になる。

40

【0916】

<特徴20>

50

電子部品が搭載される発光基板（例えば、発光基板 31）と、
該発光基板の一面側に設けられ、所定の方向側に向けて光を出力する向きに配置された発光手段（例えば、LED 素子 32L, 32R）と、
該発光手段から出力された光を遊技者が位置する前方側へ通過可能であって、遊技者が位置する表面側から視認した場合に発光した状態をとることが可能な第 1 の装飾部（例えば、前方側装飾部 50）と、
該第 1 の装飾部の裏面側にて、前記前方側とは逆の後方側へ前記発光手段から発光された光を出力する後方側光出力手段（例えば、前方側装飾部 50 の裏面 50B）と、
該後方側光出力手段から出力された光の一部が照射される部位であって、前記第 1 の装飾部とは別に設けられる第 2 の装飾部（例えば、後方側装飾部 11）とを備え、
前記後方側光出力手段によって後方側へ出力された光によって前記第 2 の装飾部が発光可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

10

【0917】

<特徴 21>

電子部品が搭載される発光基板（例えば、発光基板 31）と、
該発光基板の一面側に設けられ、所定の方向側に向けて光を出力する向きに配置された発光手段（例えば、LED 素子 32L, 32R）と、
該発光手段から出力された光を遊技者が位置する前方側へ通過可能であって、遊技者が位置する表面側から視認した場合に発光した状態をとることが可能な第 1 の装飾部（例えば、前方側装飾部 50）と、
該第 1 の装飾部の裏面側にて、前記前方側とは逆の後方側へ前記発光手段から発光された光を出力する後方側光出力手段（例えば、前方側装飾部 50 の裏面 50B）と、
該後方側光出力手段から出力された光の一部が照射される部位であって、前記発光基板より後方側に設けられ、前記第 1 の装飾部とは別に設けられる第 2 の装飾部（例えば、後方側装飾部 11）と、
前記後方側光出力手段によって後方側へ出力された光を前記第 2 の装飾部とは別の方向側へ反射可能な別方向反射手段（例えば、後方窓 61）とを備えていることを特徴とする遊技機。

20

【0918】

遊技機の代表例としてパチンコ機がある。従来の典型的なパチンコ機においては、遊技性に係るモチーフ等を表示したり、遊技進行に伴う演出を実行したりする多数の装飾部を様々な箇所に設け、遊技演出の多様化を図る構成とされる（例えば、特許文献 1）。多数の装飾部には、常時又は遊技進行に応じて適宜に光が照射される装飾部を含み、この光の照射によって装飾部による演出の効果を向上させている。しかしながら、装飾部による好適な演出を実行可能な構成について、未だ改良の余地がある可能性がある。

30

【0919】

これに対し、特徴 20 又は特徴 21 に記載の遊技機において、所定の方向側に向けて光を出力する発光手段からの光を遊技者が位置する前方側へ通過可能な第 1 の装飾部と、第 1 の装飾部の裏面側にて、遊技者が位置する前方側とは逆の後方側へ発光手段から発光された光を出力する後方側光出力手段と、後方側光出力手段から出力された光の一部が照射される部位に第 1 の装飾部とは別に設けられる第 2 の装飾部とを備える構成としている。これにより、発光手段から出力された光によって第 1 の装飾部を発光させると共に、同一の発光手段から出力された光であって後方側光出力手段から出力された光によって第 2 の装飾部を発光させることができ、装飾部ごとに発光手段を設ける場合に比べて部品数を減らし製造コストを抑えることができる。

40

【0920】

また、特徴 21 に記載の遊技機において、第 2 の装飾部を発光基板より後方側に設ける構成としている。これにより、第 2 の装飾部を発光手段からの光が直接には照射されない場所に配置し、第 1 の装飾部をその裏面側に照射される光によって発光させるのとは異なり、第 2 の装飾部を表面側から照射される光によって発光させることができ、同一の発光手

50

段からの光によって発光させたとしても、第１の装飾部の発光と第２の装飾部の発光との見映えを異ならせ、それらの装飾部による演出の効果を高めることができる。

【０９２１】

また、特徴２１に記載の遊技機において、後方側光出力手段によって後方側へ出力された光を第１の装飾部とは別の方向側へ反射可能な別方向反射手段を備える構成としている。これにより、別方向反射手段で反射した後の光を、例えば、別方向反射手段での反射を介さずに第１の装飾部や第２の装飾部に照射される光とは異なる照射位置や照射角度で照射するなど、限られた個数の発光手段によって複雑な形態で第１の装飾部や第２の装飾部に照射することも可能にし、それらの装飾部による演出の効果を高めることができる。

【０９２２】

また、特徴２０又は特徴２１に記載の遊技機において、第２の装飾部は、後方側光出力手段から出力された光が照射される部位に設ける構成としている。これにより、一旦、発光手段から出力された光を、一旦第２の装飾部とは異なる方向に進行させた後に、後方側出力手段で光の進行方向を変化させて第２の装飾部に向かわせることができる。したがって、後方側光出力手段を介さず直接に第２の装飾部に光を照射する発光手段を用いる場合に比べ、発光手段と第２の装飾部との間隔を狭くして、発光手段及び第２の装飾部を構成する構造体の大型化を抑制しつつ、第２の装飾部に到達するまでに光が進行する経路を長くし、限られた個数の発光手段を用いて第２の装飾部における照射範囲を大きく確保することも可能になる。

【０９２３】

また、特徴２０又は特徴２１に記載の遊技機において、第１の装飾部は、発光手段から出力された光を遊技者が位置する前方側へ通過可能な構成としている。これにより、第２の装飾部を第１の装飾部に前後方向で重なるように配置し、第２の装飾部の発光を第１の装飾部を通して透かして見えるようにすることも可能になる。

【０９２４】

このように、限られた個数の発光手段を用いたとしても、第１の装飾部や第２の装飾部による演出の効果を高め、それらの装飾部による演出を好適なものとすることができる。

【０９２５】

なお、特徴２０又は特徴２１に記載の遊技機において、第１の装飾部には、別方向反射手段から出力された光を照射可能な構成としてもよい。これにより、一旦、発光手段から出力された光を、後方側出力手段と別方向反射手段との双方で光の進行方向を変化させて第１の装飾部に向かわせることができ、別方向反射手段を介さない光のみを第１の装飾部に照射する場合に比べ、限られた個数の発光手段によっても、第１の装飾部の全体に光を照射し易くすること可能になる。

【０９２６】

<特徴３０>

電子部品が搭載される発光基板（例えば、発光基板３１）と、
該発光基板の一面側に設けられ、所定の方向側に向けて光を出力する向きに配置された発光手段（例えば、ＬＥＤ素子３２Ｌ、３２Ｒ）と、

該発光手段から出力された光の一部を遊技者が位置する前方側へ通過可能であって、遊技者が位置する表面側から視認した場合に発光した状態をとることが可能な第１の装飾部と（例えば、前方側装飾部５０）、

該第１の装飾部の裏面側にて、前記前方側とは逆の後方側へ前記発光手段から発光された光を反射可能な第１反射手段（例えば、前方側装飾部５０の裏面５０Ｂ）と、

該第１反射手段から出力された光が照射される部位に設けられて、当該光の少なくとも一部を前記発光手段が設けられる側に反射可能な第２反射手段（例えば、後方窓６１の前面６１Ｆ）と、

その第２反射手段から出力された光が照射される部位であって前記第１の装飾部と前記発光手段との間に設けられ、当該光の少なくとも一部を前記第１の装飾部が設けられる側に反射可能な第３反射手段（例えば、光進入窓６２の前面６２Ｆ）とを備え、

10

20

30

40

50

前記第 1 反射手段と前記第 2 反射手段と前記第 3 反射手段とによって周辺部分が囲われる発光空間が形成され、

前記発光空間内において前記発光手段に向けて進行する光が前記第 3 反射手段によって前記発光空間内へ反射可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

【0927】

<特徴 31>

電子部品が搭載される発光基板（例えば、発光基板 31）と、

該発光基板の一面側に設けられ、所定の方向側に向けて光を出力する向きに配置された発光手段（例えば、LED 素子 32L, 32R）と、

該発光手段から出力された光の一部を遊技者が位置する前方側へ通過可能であって、遊技者が位置する表面側から視認した場合に発光した状態をとることが可能な第 1 の装飾部（例えば、前方側装飾部 50）と、

該第 1 の装飾部の裏面側にて、前記前方側とは逆の後方側へ前記発光手段から発光された光を反射可能な第 1 反射手段（例えば、前方側装飾部 50 の裏面 50B）と、

該第 1 反射手段から出力された光が照射される部位に設けられて、当該光の少なくとも一部を前記発光手段が設けられる側に反射可能な第 2 反射手段（例えば、後方窓 61 の前面 61F）と、

その第 2 反射手段から出力された光が照射される部位であって前記第 1 の装飾部と前記発光手段との間に設けられ、当該光の少なくとも一部を前記第 1 の装飾部が設けられる側に反射可能な第 3 反射手段（例えば、光進入窓 62 の前面 62F）とを備え、

前記第 1 反射手段と前記第 2 反射手段と前記第 3 反射手段とによって周辺部分が囲われる発光空間（例えば、発光空間 40）が形成され、

前記第 1 の装飾部とは別に設けられる第 2 の装飾部（例えば、後方側装飾部 11）が、前記第 1 反射手段によって反射した光により発光可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

【0928】

なお、特徴 30 及び 31 として記載の第 2 の装飾部は、第 2 反射手段を構成する透明な板状部分（後方窓 61）から通過した光が照射される装飾部（後方側装飾部 11）によって構成してもよいし、これに代えて、又はこれに加えて、第 2 反射手段を構成する透明な板状部分（後方窓 61）を遊技者が視認可能な向きに配置して当該板状部分に重なるようにキャラクタの画像等を印刷するなどした板状の装飾部品を設けて構成してもよい。

【0929】

遊技機の代表例としてパチンコ機がある。従来の典型的なパチンコ機においては、遊技機の代表例としてパチンコ機がある。従来の典型的なパチンコ機においては、遊技性に係るモチーフ等を表示したり、遊技進行に伴う演出を実行したりする装飾部を複数設け、それらの装飾部による演出に際して常時又は遊技進行に応じて光を照射し、その演出の効果を高めている（例えば、特開 2012-245273 号参照）。しかしながら、装飾部による好適な演出を実行可能な構成について、未だ改良の余地がある可能性がある。

【0930】

これに対し、特徴 30 又は特徴 31 に記載の遊技機であれば、特徴 30 又は特徴 31 に記載の遊技機であれば、第 2 の装飾部を、第 1 の装飾部を発光させる発光手段を用い、その発光手段から所定の方向側に向けて出力された光であって第 1 反射手段で反射した後の光によって発光させる構成としている。これにより、発光手段から出力された光によって第 1 の装飾部を発光させると共に、同一の発光手段から出力された光であって後方側光出力手段から出力された光によって第 2 の装飾部を発光させることができ、装飾部ごとに発光手段を設ける場合に比べて部品数を減らし製造コストを抑えることができる。

【0931】

また、特徴 30 又は特徴 31 に記載の遊技機であれば、第 1 反射手段、第 2 反射手段及び第 3 反射手段との間で周辺部分が囲われた発光空間を形成し、第 1 の装飾部を発光手段から所定の方向側に向けて光を出力された光であって第 2 反射手段及び第 3 反射手段による

反射を介さずに照射される光に加えて、第 1 反射手段と第 2 反射手段と第 3 反射手段とで順次に反射した後の光によって発光させることが可能な構成としている。これにより、第 1 反射手段で反射した後の光を、例えば、第 1 反射手段での反射を介さずに第 1 の装飾部に照射される光とは異なる照射位置や照射角度で照射するなど、限られた個数の発光手段によっても複雑な形態で第 1 の装飾部に照射することも可能になり、第 1 の装飾部による演出の効果を高めることができる。また、発光空間において第 1 反射手段と第 2 反射手段と第 3 反射手段とによる順次の反射を繰り返した後の光で、第 1 の装飾部や第 2 の装飾部を発光させることも可能になり、第 1 の装飾部や第 2 の装飾部による演出の効果を更に高めることもできる。更に、発光空間に進入した光を、第 1 反射手段と第 2 反射手段と第 3 反射手段とで繰り返しながら、第 1 反射手段に照射できるために、第 1 反射手段に向かう光で発光する第 1 の装飾部や、第 1 反射手段で反射した光で発光する第 2 装飾部を照射でき、効率よく第 1 の装飾部と第 2 の装飾部とを発光させることも可能になる。

10

【0932】

<特徴 40>

電子部品が搭載される発光基板（例えば、下左基板 721a や中央基板 731）と、該発光基板の一面側に設けられ、所定の方向側に向けて光を出力する向きに配置された発光手段（例えば、LED 素子 722a や LED 素子 732）と、該発光手段から出力された光を遊技者が位置する前方側へ反射可能な反射装飾部（例えば、反射装飾部 711）を有する反射手段（例えば、反射装飾体 710）とを備え、前記反射装飾部は、前記発光基板とは前後方向において重ならない位置に配置され、遊技者側から見て傾斜する向きに配置された装飾面（例えば、装飾面 712S）を有し、前記発光手段から出力された光が前記反射手段によって反射され、遊技者が位置する前方側へ前記装飾面を通過した光を出力可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

20

【0933】

<特徴 41>

電子部品が搭載される発光基板（例えば、下左基板 721a や中央基板 731）と、該発光基板の一面側に設けられ、所定の方向側に向けて光を出力する向きに配置された発光手段（例えば、LED 素子 722a や LED 素子 732）と、該発光手段から出力された光を遊技者が位置する前方側へ反射可能な反射装飾部（例えば、反射装飾部 711）を有する反射手段（例えば、反射装飾体 710）とを備え、前記反射装飾部は、前記発光基板とは前後方向において重ならない位置に配置され、遊技者側から見て傾斜する向きに配置された装飾面（例えば、装飾面 712S）を有し、前記発光手段から出力された光の一部が前記反射手段によって反射され、遊技者が位置する前方側へ前記装飾面を通過した光を出力可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

30

【0934】

遊技機の代表例としてパチンコ機がある。従来の典型的なパチンコ機においては、遊技性に係るモチーフ等を表示したり、遊技進行に伴う演出を実行したりする多数の装飾部を設ける構成とされる。多数の装飾部には、常時又は遊技進行に応じて適宜に光が照射される装飾部を含み、その装飾部による演出の効果を向上させている。この装飾部は、光を通過可能な材料で形成され、装飾部の背後に配置された光源から光を照射することで、遊技機の前側から見て発光した状態とされる（例えば、特開 2010-119669 号公報）。

40

【0935】

しかしながら、装飾部による好適な演出を実行可能な構成について、未だ改良の余地がある可能性がある。

【0936】

これに対し、特徴 40 及び特徴 41 に記載の遊技機であれば、反射装飾部（装飾部）による好適な演出を実行可能な遊技機を提供することができる。すなわち、反射装飾部に、発光基板とは前後方向において重ならない位置に配置され、遊技者側から見て傾斜する向きに配置される装飾面を設けることで、反射装飾部による演出において、遊技者によって視

50

認される装飾面の大きさを所定の大きさに確保しつつ、遊技者側から見て装飾面から明るく光が出力された状態とすることができる。

【0937】

<特徴42>

特徴40又は特徴41に記載の遊技機であって、
識別情報の変動表示を行う表示手段（例えば、装飾図柄表示装置479）と、該表示手段によって表示される表示内容を制御する制御手段（副制御基板940）とを備え、
前記装飾面は、前記表示手段において前記識別情報が表示される表示部（表示部479a）が設けられる側が内側となるように湾曲した形状に構成されていることを特徴とする遊技機。

10

【0938】

特徴42に記載の遊技機であれば、装飾面の形状を、表示部を内側として湾曲した形状とすることで、遊技進行に伴う主たる演出を行う表示手段に遊技者が注目している場合に、装飾面の全体が遊技者の視界に納まるようにし易くできる。

【0939】

<特徴43>

特徴40から特徴42のいずれかに記載の遊技機であって、
前記反射手段とは別に設けられ、該発光手段から出力された光が照射される別装飾手段（例えば、環状装飾体740や中央装飾体750）を備え、
前記発光基板は、前記別装飾手段の裏面側に設けられ、
前記別装飾手段は、前記発光手段から出力された光を遊技者が位置する前方側へ通過可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

20

【0940】

特徴43に記載の遊技機であれば、反射手段の反射装飾部と別装飾手段とを同一の発光基板に設けられた発光手段によって、遊技者が視認できるようにすることができる。これにより、反射手段と別装飾手段とによる演出を、限られた個数の発光手段を用いて実行できる。

【0941】

<特徴50>

遊技者側から見て所定の装飾を視認可能な反射装飾部（例えば、反射装飾部711）を有する反射手段（例えば、反射装飾体710）を備え、
前記反射手段は、透過性を有する板状に形成されて光が通過可能な通過部（例えば、通過部712）と、
該通過部に対して一方側に重なるようにして設けられ、光を反射可能な反射部（例えば、反射部713）とを備え、
前記通過部には、前記反射部とは反対側となる面側に、所定の装飾が施された装飾面（例えば、装飾面712S）が設けられ、
前記装飾面に施された所定の装飾と、当該所定の装飾が前記反射部で反射した所定の装飾とが、ずれた位置で重なった状態にして、遊技者から視認可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

30

【0942】

<特徴51>

電子部品が搭載される発光基板（例えば、下左基板721aや中央基板731）と、
該発光基板の一面側に設けられ、所定の方向側に向けて光を出力する向きに配置された発光手段（例えば、LED素子722aやLED素子732）と、
該発光手段から出力された光を遊技者が位置する前方側へ反射可能な反射装飾部（例えば、反射装飾部711）を有する反射手段（例えば、反射装飾体710）とを備え、
前記反射手段は、透過性を有する板状に形成されて前記発光手段から出力された光が通過する通過部（例えば、通過部712）と、
該通過部に対して前記発光手段から出力される光が通過した後に出力される側に重なるよ

40

50

うにして設けられ、光を反射可能な反射部（例えば、反射部 7 1 3）とを備え、前記通過部には、前記反射部とは反対側となる面側に、所定の装飾が施された装飾面（例えば、装飾面 7 1 2 S）が設けられ、前記発光手段から出力された光が前記反射手段によって反射され、遊技者が位置する前方側へ前記装飾面を通過した光を出力可能であって、前記装飾面に施された所定の装飾と、当該所定の装飾が前記反射部で反射した所定の装飾とが、ずれた位置で重なった状態にして、遊技者から視認可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

【0943】

遊技機の代表例としてパチンコ機がある。従来の典型的なパチンコ機においては、遊技性に係るモチーフ等を表示したり、遊技進行に伴う演出を実行したりする装飾部を設ける構成とされる（例えば、特開 2 0 1 0 - 1 1 9 6 6 9 号公報）（例えば、特許文献 1）。装飾部には、所定の部材の表面に複雑な凹凸を形成する等によって立体的な装飾が施されたり、図形や文字やキャラクタが描かれたシールを所定の部材に貼着したりする等によって平面的な装飾が施されたりする。このような装飾部に施された立体的や平面的な装飾を遊技者に視認させることで、当該装飾による演出の効果を高めている。

10

【0944】

しかしながら、遊技機に設けられる装飾部の構成について、未だ改良の余地がある可能性がある。

【0945】

20

これに対し、特徴 5 0 又は特徴 5 1 に記載の遊技機であれば、光の反射機能を用いた見栄えのよい装飾を実現可能な遊技機を提供することができる。すなわち、反射部を通過部に対して一方側（発光手段から出力される光が通過した後に出力される側）に重なるようにして設け、通過部における反射部とは反対側となる面側を装飾面とすることで、遊技者に、装飾面で反射した光に基づき視認される装飾と、一旦装飾面を通過して反射部で反射し、再度装飾面を通過した光に基づき視認される装飾とをずれた位置で視認させることで、平面的な装飾が施されている場合には立体的に、立体的な装飾が施されている場合には、その立体性を強調して視認させることができる。これにより、簡素な構成の装飾を施し製造コストを抑制しつつ、反射装飾部による演出の効果を高めることができる。

【0946】

30

また、特徴 5 1 に記載の遊技機であれば、発光手段から出力される光によって、装飾面を明るく視認させることができる。また、発光手段から光が出力されない場合には、装飾面の装飾を視認できず、その光が出力された場合に視認させることができるようにすることもできる。

【0947】

<特徴 5 2>

特徴 5 0 又は特徴 5 1 に記載の遊技機であって、前記装飾面は、前記反射部とは反対側となる面側に起伏した形状部分（例えば、突出装飾領域 7 1 2 b）を含むことを特徴とする遊技機。

【0948】

40

特徴 5 2 に記載の遊技機であれば、起伏の小さな装飾を設けたとしても、遊技者に実際の起伏よりも大きな起伏と視認させることができる。これにより、装飾面を簡単な加工で形成することで製造コストを抑制しつつ、反射装飾部による演出の効果を高めることができる。

【0949】

<特徴 6 0>

所定の当選条件が成立した場合に、通常遊技状態よりも遊技価値が付与される入賞条件が成立し易い特別遊技状態が発生する遊技機であって、当該特別遊技状態が複数回のラウンドを組み合わせて構成された遊技機において、

特典領域（例えば、特典領域 4 0 9 V）を含む複数の領域に遊技球を振り分け可能であっ

50

て、前記複数回のラウンドの少なくとも一部において前記特典領域に遊技球が進入可能な進入可能状態を発生可能な振分機構（例えば、振分機構４３７）と、前記振分機構より上流側に設けられ、遊技球を前記振分機構側へ進行させるか否かを切替可能な切替機構（例えば、上進入規制機構４５４）と、前記特別遊技状態を発生させる場合に、前記振分機構と前記切替機構とが動作し、前記特典領域に遊技球が進入した場合には、前記特典領域に遊技球が進入しない場合より有利な特定遊技状態が発生し、所定のラウンドが開始された場合に、前記切替機構が前記進行可能状態へ移行して前記振分機構側へ遊技球が進行し、前記振分機構が前記進入可能状態をとる進入可能期間において当該遊技球が前記特典領域へ進入可能に構成され、前記所定のラウンドが開始される場合に、前記振分機構が進入可能状態へ移行した後に前記切替機構によって前記振分機構側へ遊技球を進行させることが可能な進行可能状態とする制御を実行可能に構成され、前記所定のラウンドが開始された場合には、前記振分機構が前記進入可能状態に移行した後に、前記切替機構が前記進行可能状態となって、前記所定のラウンドにおいて前記特典領域へ遊技球が進入可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

10

【０９５０】

<特徴６１>

所定の当選条件が成立した場合に、通常遊技状態よりも遊技価値が付与される入賞条件が成立し易い特別遊技状態が発生する遊技機であって、当該特別遊技状態が複数回のラウンドを組み合わせて構成された遊技機において、特典領域（例えば、特典領域４０９Ⅴ）を含む複数の領域に遊技球を振り分け可能であって、前記複数回のラウンドの少なくとも一部において前記特典領域に遊技球が進入可能な進入可能状態を発生可能な振分機構（例えば、振分機構４３７）と、前記振分機構より上流側に設けられ、遊技球を前記振分機構側へ進行させるか否かを切替可能な切替機構（例えば、上進入規制機構４５４）と、前記振分機構と前記切替機構の動作制御を含む制御をして前記特別遊技状態を発生させる動作制御手段（例えば、主制御基板９２０）と、前記特典領域に遊技球が進入した場合には、前記特典領域に遊技球が進入しない場合より有利な特定遊技状態を発生させる遊技状態制御手段（例えば、主制御基板９２０）とを備え、

20

30

前記動作制御手段は、前記進入可能状態が発生する所定のラウンドが開始されてから所定の経過時間が経過した場合に当該所定のラウンドを終了させるラウンド時間終了手段と、前記所定のラウンドが開始される場合に前記振分機構の動作を制御し、前記振分機構を前記進入可能状態に移行させる振分移行手段と、前記所定のラウンドが開始される場合に前記切替機構の動作を制御し、前記振分移行手段によって前記振分機構が進入可能状態へ移行した後に前記切替機構によって前記振分機構側へ遊技球を進行させることが可能な進行可能状態とする切替制御手段とを有し、前記所定のラウンドが開始された場合には、前記振分機構が前記進入可能状態に移行した後に、前記切替機構が前記進行可能状態となって、前記所定のラウンドにおいて前記特典領域へ遊技球が進入可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

40

【０９５１】

遊技機の代表例としてパチンコ機がある。従来の典型的なパチンコ機は、所定の抽選に当選した場合に、遊技者にとって有利な特別遊技状態に移行させる構成とされる。この種のパチンコ機として、特別遊技状態において特典領域に遊技球を進入させることができたか否かによって、特別遊技状態後に移行する遊技状態を変化させることで、遊技を多様化したものが知られている（例えば、特開２０１５－１８８５２９号公報参照）。

【０９５２】

しかしながら、特典領域への遊技球の進入を好適に制御可能な構成について、未だ改良の余地がある可能性がある。

50

【0953】

これに対し、特徴60又は特徴61に記載の遊技機であれば、特典領域への遊技球の進入を好適に制御可能な遊技機を提供することができる。すなわち、特別遊技状態において切替機構と振分機構とが動作する所定のラウンドで、振分機構が特典領域に遊技球を進入させられる進入可能状態へ移行した後に、振分機構よりも上流側に配置された切替機構が振分機構に向けて遊技球を進行させられる進行可能状態となる。これにより、所定のラウンドの開始から所定の時間後に、切替機構を進行可能状態にすることが可能になり、特典領域に遊技球を進入させるべき特別遊技状態において特典領域に遊技球を進入させる確実性を向上させることができる。

【0954】

10

<特徴70>

所定の当選条件が成立した場合に、通常遊技状態よりも遊技価値が付与される入賞条件が成立し易い特別遊技状態が発生する遊技機であって、当該特別遊技状態が複数回のラウンドを組み合わせて構成された遊技機において、

特典領域を含む複数の領域に遊技球を振り分け可能であって、前記複数回のラウンドの少なくとも一部において前記特典領域に遊技球が進入可能な進入可能状態が発生可能な振分機構と、

前記振分機構より上流側に設けられ、遊技球を前記振分機構側へ進行させるか否かを切替可能な切替機構とを備え、

前記特別遊技状態が発生させる場合に、前記振分機構と前記切替機構とが動作し、前記特典領域に遊技球が進入した場合には、前記特典領域に遊技球が進入しない場合より有利な特定遊技状態が発生し、

20

所定のラウンドが開始された場合に、前記切替機構が前記進行可能状態へ移行して前記振分機構側へ遊技球が進行し、前記振分機構が前記進入可能状態をとる進入可能期間において当該遊技球が前記特典領域へ進入可能に構成され、

前記所定のラウンドが開始されて前記進入可能期間へ移行する場合に、所定の表示情報（宝483）が所定の表示手段によって表示され、

前記所定のラウンドが開始されて前記進入可能期間へ移行する場合に、前記所定の表示情報が表示された後に前記表示手段とは別の演出手段（V示唆可動部材、入力操作装置）が所定の演出動作（近接姿勢への変化）を行うように構成されていることを特徴とする遊技機。

30

【0955】

<特徴71>

所定の当選条件が成立した場合に、通常遊技状態よりも遊技価値が付与される入賞条件が成立し易い特別遊技状態が発生する遊技機であって、当該特別遊技状態が複数回のラウンドを組み合わせて構成された遊技機において、

特典領域を含む複数の領域に遊技球を振り分け可能であって、前記複数回のラウンドの少なくとも一部において前記特典領域に遊技球が進入可能な進入可能状態が発生可能な振分機構と、

前記振分機構より上流側に設けられ、遊技球を前記振分機構側へ進行させるか否かを切替可能な切替機構と、

40

前記振分機構と前記切替機構の動作制御を含む制御をして前記特別遊技状態が発生させる動作制御手段と、

前記特典領域に遊技球が進入した場合には、前記特典領域に遊技球が進入しない場合より有利な特定遊技状態が発生させる遊技状態制御手段とを備え、

前記動作制御手段は、前記進入可能状態が発生する所定のラウンドが開始されてから所定の経過時間が経過した場合に当該所定のラウンドを終了させるラウンド時間終了手段と、

前記所定のラウンドが開始される場合に前記振分機構の動作を制御し、前記振分機構を前記進入可能状態に移行させる振分移行手段と、

前記所定のラウンドが開始される場合に前記切替機構の動作を制御し、前記切替機構によ

50

って前記振分機構側へ遊技球を進行させることが可能な進行可能状態とする切替制御手段と、を有し、

前記所定のラウンドが開始された場合に、前記切替機構が前記進行可能状態へ移行して前記振分機構側へ遊技球が進行し、前記振分機構が前記進入可能状態をとる進入可能期間において当該遊技球が前記特典領域へ進入可能に構成され、

前記所定のラウンドが開始されて前記進入可能期間へ移行する場合に、所定の表示情報（宝４８３）を表示する表示手段と、

前記所定のラウンドが開始されて前記進入可能期間へ移行する場合に、前記所定の表示情報が表示された後に前記表示手段とは別の演出手段（Ｖ示唆可動部材、入力操作装置）を制御して、所定の演出動作（近接姿勢への変化）を行わせる演出制御手段とが設けられていることを特徴とする遊技機。

10

【０９５６】

遊技機の代表例としてパチンコ機がある。従来の典型的なパチンコ機は、所定の抽選に当選した場合に、遊技者にとって有利な特別遊技状態に移行させる構成とされる。この種のパチンコ機として、特別遊技状態において特典領域に遊技球を進入させることができたか否かによって、特別遊技状態後に移行する遊技状態を変化させることで、遊技を多様化したものが知られている（例えば、特開２０１１－４５４２２号公報参照）。

【０９５７】

しかしながら、特典領域へ遊技球を進入させることが可能な場合に、好適な演出を実行する構成について、未だ改良の余地がある可能性がある。

20

【０９５８】

これに対し、特徴７０又は特徴７１に記載の遊技機であれば、特典領域へ遊技球を進入させることが可能な場合に、好適な演出を実行可能な遊技機を提供することができる。すなわち、所定のラウンドが開始されて進入可能期間へ移行する場合に、所定の表示情報が表示され、所定の表示情報の表示後に演出手段による所定の演出動作が行われ、その後に、特典領域に遊技球が進入して、特定遊技状態へと移行する遊技性を遊技者に提供することができる。したがって、所定の当選条件が成立した場合において、表示手段による所定の表示情報の表示により、予告として演出手段の所定の演出動作が生じることを遊技者に知らせて、その後に、演出手段の所定の演出動作によって、特典領域へ遊技球が進入可能なことを遊技者に知らせることが可能になる。また、演出動作による演出手段の報知の方を、所定の表示情報の表示による表示手段の報知よりも目立つようにして、特典領域に遊技球が進入可能な時期の到来を遊技者が見逃してしまう事態の発生を抑制できる。

30

【０９５９】

<特徴８１>

所定の当選条件が成立した場合（例えば、第１の種類の大当りに当選した場合）に、通常遊技状態よりも遊技価値が付与される入賞条件が成立し易い特別遊技状態（例えば、確変予定の特別遊技状態）が発生する遊技機であって、当該特別遊技状態が複数回のラウンドを組み合わせて構成された遊技機において、

特定領域（例えば、特典領域４０９Ｖ）を含む複数の領域に遊技球を振り分け可能であって、前記複数回のラウンドの少なくとも一部において前記特定領域に遊技球が進入可能な進入可能状態を発生可能な振分機構（例えば、振分機構４３７）と、

40

前記振分機構より上流側に設けられ、遊技球を前記振分機構側へ進行させる進行可能状態を発生可能な切替機構（例えば、上進入規制機構４５４）と、

前記振分機構と前記切替機構の動作制御を含む制御をして前記特別遊技状態を発生させ、前記特別遊技状態における所定のラウンドが開始された場合に、前記切替機構が前記進行可能状態へ移行して前記振分機構側へ遊技球が進行し、前記振分機構が前記進入可能状態をとる進入可能期間において当該遊技球が前記特定領域へ進入可能にする制御を実行する動作制御手段（例えば、主制御基板９２０）と、

前記特定領域に遊技球が進入した場合には、前記特定領域に遊技球が進入しない場合より有利な特定遊技状態を発生させる遊技状態制御手段（例えば、主制御基板９２０）とを備

50

え、

遊技球の発射操作が可能な発射操作手段と、

前記所定のラウンドが開始されて前記進入可能期間へ移行する場合に、所定の入力操作が可能な所定の操作情報を表示する操作情報表示手段（例えば、装飾図柄表示装置４７９）と、

前記操作可能表示手段によって前記所定の操作情報が表示された場合に、前記所定の入力操作を実行可能な入力操作手段（例えば、右入力レバー８１０Ｒ）とが設けられ、

前記所定のラウンドが実行されている状況において前記所定の操作情報が表示され、前記発射操作手段（例えば、発射ハンドル２５２）による発射操作を操作している手を前記入力操作手段へ移動することによって前記所定のラウンド（例えば、第１ラウンド）の実行中に前記進入可能期間となる前に、規定数以上の遊技球が前記振分機構側へ進行することを抑制可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

10

【０９６０】

遊技機の代表例としてパチンコ機がある。従来の典型的なパチンコ機は、所定の抽選に当選した場合に、遊技者にとって有利な特別遊技状態に移行させる構成とされる。この種のパチンコ機として、特別遊技状態において特典領域に遊技球を進入させることができたか否かによって、特別遊技状態後に移行する遊技状態を変化させることで、遊技を多様化したものが知られている（例えば、特開２０１５－１８８５２９号公報参照）。

【０９６１】

しかしながら、特典領域へ遊技球を好適に進入させる構成について、未だ改良の余地がある可能性がある。

20

【０９６２】

これに対し、特徴８１に記載の遊技機であれば、特典領域へ遊技球を好適に進入させることが可能な遊技機を提供することができる。すなわち、操作情報表示手段による入力操作手段への所定の入力操作を促す所定の操作情報の表示を行うことで、発射操作手段による発射操作を操作している手を入力操作手段へ移動し遊技球の発射を停止するように遊技者を誘導することが可能になり、所定のラウンドの実行中であって進入可能期間となる前に、規定数以上の遊技球が振分機構側へ進行することを抑制可能となる。

【０９６３】

<特徴９１>

30

所定の当選条件が成立した場合（例えば、第１の種類の大当りに当選した場合）に、通常遊技状態よりも遊技価値が付与される入賞条件が成立し易い特別遊技状態（例えば、確変予定の特別遊技状態）が発生する遊技機であって、当該特別遊技状態が複数回のラウンドを組み合わせて構成された遊技機において、

特典領域（例えば、特典領域４０９Ｖ）を含む複数の領域に遊技球を振り分け可能であって、前記複数回のラウンドの少なくとも一部において前記特典領域に遊技球が進入可能な進入可能状態を発生可能な振分機構（例えば、振分機構４３７）と、

前記振分機構より上流側に設けられ、遊技球を前記振分機構側へ進行させる進行可能状態を発生可能な切替機構（例えば、上進入規制機構４５４）と、

前記振分機構と前記切替機構の動作制御を含む制御をして前記特別遊技状態を発生させ、前記特別遊技状態における所定のラウンド（例えば、第１ラウンド）が開始された場合に、前記切替機構が前記進行可能状態へ移行して前記振分機構側へ遊技球が進行し、前記振分機構が前記進入可能状態をとる進入可能期間において当該遊技球が前記特典領域へ進入可能にする制御を実行する動作制御手段（例えば、主制御基板９２０）と、

40

前記特典領域に遊技球が進入した場合には、前記特典領域に遊技球が進入しない場合より有利な特定遊技状態を発生させる遊技状態制御手段（例えば、主制御基板９２０）とを備え、

前記所定のラウンドが開始されて前記進入可能期間へ移行する場合に、所定の表示情報（例えば、宝４８３）を表示する表示手段（例えば、装飾図柄表示装置４７９）と、

前記所定のラウンドが開始されて前記進入可能期間へ移行する場合に、前記所定の表示情

50

報が表示された後に前記表示手段とは別の演出手段（例えば、左入力レバー 810L 及び右入力レバー 810R）を制御して、所定の演出動作を行わせる演出制御手段（例えば、副制御基板 940）とが設けられ、遊技球が流下する遊技領域（例えば、遊技領域 409）より前側に位置するように前記演出手段が設けられ、前記所定のラウンドにおいて前記所定の演出動作が実行されることを特徴とする遊技機。

【0964】

遊技機の代表例としてパチンコ機がある。従来の典型的なパチンコ機は、所定の抽選に当選した場合に、遊技者にとって有利な特別遊技状態に移行させる構成とされる。この種のパチンコ機として、特別遊技状態において特典領域に遊技球を進入させることができたか
10

【0965】

しかしながら、特典領域へ遊技球を進入させることが可能な場合に、好適な演出を実行する構成について、未だ改良の余地がある可能性がある。

【0966】

これに対し、特徴 91 に記載の遊技機であれば、特典領域へ遊技球を進入させることが可能な場合に、好適な演出を実行可能な遊技機を提供することができる。すなわち、所定の当選条件が成立し、特典領域へ遊技球を進入させることが可能となる場合において、所定の表示情報が表示された後に、演出手段によって所定の演出動作が行われる。このため、表示手段による所定の表示情報の表示により、予告として演出手段の所定の演出動作が生じることを遊技者に知らせて、その後、演出手段の所定の演出動作によって、特典領域へ遊技球が進入可能なことを遊技者に知らせることが可能になる。
20

【0967】

また、演出手段が遊技球の流下領域よりも前側に設けられるので、演出手段による所定の演出動作が遊技者の近くで行われ、遊技領域やその後側に設けられた部材による演出よりも目立たせることが可能になり、特典領域に遊技球が進入可能な状態の到来を遊技者が見逃してしまう事態の発生を抑制できる。

【0968】

<特徴 92>

所定の当選条件が成立した場合（例えば、第 1 の種類の大当りに当選した場合）に、通常遊技状態よりも遊技価値が付与される入賞条件が成立し易い特別遊技状態（例えば、確変予定の特別遊技状態）が発生する遊技機であって、当該特別遊技状態が複数回のラウンドを組み合わせて構成された遊技機において、
30

特典領域（例えば、特典領域 409V）を含む複数の領域に遊技球を振り分け可能であって、前記複数回のラウンドの少なくとも一部において前記特典領域に遊技球が進入可能な進入可能状態を発生可能な振分機構（例えば、振分機構 437）と、

前記振分機構より上流側に設けられ、遊技球を前記振分機構側へ進行させる進行可能状態を発生可能な切替機構（例えば、上進入規制機構 454）と、

前記振分機構と前記切替機構の動作制御を含む制御をして前記特別遊技状態を発生させ、前記特別遊技状態における所定のラウンドが開始された場合に、前記切替機構が前記進行可能状態へ移行して前記振分機構側へ遊技球が進行し、前記振分機構が前記進入可能状態をとる進入可能期間において当該遊技球が前記特定領域へ進入可能にする制御を実行する動作制御手段（例えば、主制御基板 920）と、
40

前記特典領域に遊技球が進入した場合には、前記特典領域に遊技球が進入しない場合より有利な特定遊技状態を発生させる遊技状態制御手段（例えば、主制御基板 920）とを備え、

前記所定のラウンドが開始されて前記進入可能期間へ移行する場合に、所定の表示情報（例えば、宝 483）を表示する表示手段（例えば、装飾図柄表示装置 479）と、

前記所定のラウンドが開始されて前記進入可能期間へ移行する場合に、前記所定の表示情
50

報が表示された後に前記表示手段とは別の演出手段を制御して、所定の演出動作を行わせる演出制御手段（例えば、副制御基板 940）とが設けられ、前記表示手段より前側に位置するように前記演出手段が設けられ、前記所定のラウンドにおいて前記所定の演出動作が実行されることを特徴とする遊技機。

【0969】

特徴 92 に記載の遊技機によれば、特典領域へ遊技球を進入させることが可能な場合に、好適な演出を実行可能な遊技機を提供することができる。すなわち、所定の当選条件が成立し、特典領域へ遊技球を進入させることが可能となる場合において、所定の表示情報が表示された後に、演出手段によって所定の演出動作が行われる。このため、表示手段による所定の表示情報の表示により、予告として演出手段の所定の演出動作が生じることを遊技者に知らせて、その後に、演出手段の所定の演出動作によって、特典領域へ遊技球が進入可能なことを遊技者に知らせることが可能になる。また、演出手段が表示手段よりも前側に位置するように設けられるので、演出手段による所定の演出動作が表示手段による表示よりも遊技者の近くで行われ、所定の演出動作を所定の表示情報の表示よりも目立たせることができ、特典領域に遊技球が進入可能な時期の到来を遊技者が見逃してしまう事態の発生を抑制できる。

10

【0970】

<特徴 93>

所定の当選条件が成立した場合（例えば、第 1 の種類の大当りに当選した場合）に、通常遊技状態よりも遊技価値が付与される入賞条件が成立し易い特別遊技状態（例えば、確変

20

予定の特別遊技状態）が発生する遊技機であって、当該特別遊技状態が複数回のラウンドを組み合わせて構成された遊技機において、特典領域（例えば、特典領域 409V）を含む複数の領域に遊技球を振り分け可能であって、前記複数回のラウンドの少なくとも一部において前記特典領域に遊技球が進入可能な進入可能状態を発生可能な振分機構（例えば、振分機構 437）と、

前記振分機構より上流側に設けられ、遊技球を前記振分機構側へ進行させる進行可能状態を発生可能な切替機構（例えば、上進入規制機構 454）と、

前記振分機構と前記切替機構の動作制御を含む制御をして前記特別遊技状態を発生させ、前記特別遊技状態における所定のラウンドが開始された場合に、前記切替機構が前記進行可能状態へ移行して前記振分機構側へ遊技球が進行し、前記振分機構が前記進入可能状態をとる進入可能期間において当該遊技球が前記特定領域へ進入可能にする制御を実行する動作制御手段（例えば、主制御基板 920）と、

30

前記特典領域に遊技球が進入した場合には、前記特典領域に遊技球が進入しない場合より有利な特定遊技状態を発生させる遊技状態制御手段（例えば、主制御基板 920）とを備え、

前記所定のラウンドが開始されて前記進入可能期間へ移行する場合に、所定の表示情報と、所定の入力操作が可能な所定の操作情報とを表示する表示手段（例えば、装飾図柄表示装置 479）と、

遊技球の発射操作が可能な発射操作手段（例えば、発射ハンドル 252）と、

前記表示手段によって前記所定の操作情報が表示された場合に、前記所定の入力操作を実行可能な入力操作手段（例えば、右入力レバー 810R）とが設けられ、

40

前記表示手段より前側に位置するように前記入力操作手段が設けられ、前記所定のラウンドにおいて前記所定の入力操作が実行可能となることを特徴とする遊技機。

【0971】

特徴 93 に記載の遊技機によれば、特典領域へ遊技球を進入させることが可能な場合に、好適な演出を実行可能な遊技機を提供することができる。すなわち、所定の当選条件が成立し、特典領域へ遊技球を進入させることが可能となる場合において、所定の操作情報が表示された後に、入力操作手段に対する所定の入力操作を実行可能とすることができる。このため、表示手段による所定の表示情報の表示により、予告として操作入力手段に対する所定の操作が可能であることを遊技者に知らせて、その後に、操作入力手段の所定の演

50

出動作によって、特典領域へ遊技球が進入可能なことを遊技者に知らせることが可能になる。また、操作入力手段が表示手段よりも前側に設けられることで、演出手段による所定の演出動作が表示手段による所定の表示よりも遊技者の近くで行われ、所定の演出動作を所定の表示情報の表示よりも目立たせることができ、特典領域に遊技球が進入可能な時期の到来を遊技者が見逃してしまう事態の発生を抑制できる。

【0972】

特徴93に記載の遊技機において、表示手段は、所定の表示情報と所定の操作情報とを、時間的に重複させずに表示してもよいし、一部又は全部が時間的に重複するように表示してもよい。

【0973】

10

<特徴A群>

遊技機の代表例としてパチンコ機がある。従来の典型的なパチンコ機において、遊技領域に設けられた始動口に入球し、その入球に応じて行われた抽選において大当りに当選した場合に、通常遊技状態より有利な特別遊技状態に移行する構成が知られている（例えば、特開2011-31031号公報）。

【0974】

しかしながら、従来の遊技機の構成に対しては、様々な工夫がなされているが、未だ改良の余地がある可能性があった。

【0975】

20

<特徴A1>

始動条件が成立した場合に所定の抽選を行い、当該抽選において所定の当選条件が成立した場合に、通常遊技状態よりも遊技価値が付与される入賞条件が成立し易い特別遊技状態が発生する遊技機であって、

識別情報の変動表示を行い、前記所定の抽選に対応した表示結果を表示する表示手段（装飾図柄表示装置479）と、

遊技球の発射操作が可能な発射操作手段（発射操作装置250）と、

該発射操作手段とは別に設けられて所定の入力操作を実行可能な操作部（右入力レバー810R、左入力レバー810L）とを備え、

所定の操作タイミングにおいて、前記操作部を前記表示手段に近い側へ移動する操作をした場合に、前記表示手段に所定の表示情報（宝483）が表示される表示制御が可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

30

【0976】

特徴A1に記載の遊技機であれば、遊技者が操作可能な操作部を用いた演出を好適に実行可能な遊技機を提供することができる。すなわち、操作部を表示手段に向けて移動する操作に基づいて表示手段の関心が高められた状態で操作部に対する操作と表示手段の表示演出とを組み合わせた演出を遊技者に楽しませることができる。

【0977】

<特徴A2>

所定の当選条件が成立した場合に、通常遊技状態よりも遊技価値が付与される入賞条件が成立し易い特別遊技状態が発生する遊技機であって、

40

遊技球の発射操作が可能な発射操作手段（発射操作装置250）と、

該発射操作手段とは別に設けられて所定の入力操作を実行可能な操作部と、

該操作部に対する駆動力を発生する駆動力発生手段（電磁石818R、819R、818L、819L）とを備え、

前記操作部として、遊技者の右手によって操作可能な右操作部（右入力レバー810R）と、

遊技者の左手によって操作可能な左操作部（左入力レバー810L）とが設けられ、

前記駆動力発生手段を制御して、前記右操作部と前記左操作部とが所定の動作タイミングにおいて所定の位置（右入力レバー810Rと左入力レバー810Lの連結した位置）に維持される制御が可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

50

【0978】

特徴A2に記載の遊技機であれば、遊技者が操作可能な操作部を用いた演出を好適に実行可能な遊技機を提供することができる。すなわち、駆動力発生手段によって右操作部と左操作部とが所定の動作タイミングにおいて所定の位置に維持されるので、2つの操作部の配置位置を用いた演出を遊技者に楽しませることができる。

【0979】

<特徴B群>

遊技機の代表例としてパチンコ機がある。従来の典型的なパチンコ機において、遊技領域に設けられた始動口に入球し、その入球に応じて行われた抽選において大当りに当選した場合に、通常遊技状態より有利な特別遊技状態に移行する構成が知られている（例えば、特開2011-31031号公報）。

10

【0980】

しかしながら、従来の遊技機の構成に対しては、様々な工夫がなされているが、未だ改良の余地がある可能性があった。

【0981】

<特徴B1>

所定の当選条件が成立した場合に、通常遊技状態よりも遊技価値が付与される入賞条件が成立し易い特別遊技状態が発生する遊技機であって、

遊技球の発射操作が可能な発射操作手段（発射操作装置250）と、

該発射操作手段とは別に設けられて所定の入力操作を実行可能な操作部とを備え、

20

前記操作部として、遊技者の右手によって操作可能な右操作部（右入力レバー810R）と、

遊技者の左手によって操作可能な左操作部（左入力レバー810L）とが設けられ、

所定の操作タイミングにおいて前記右操作部を右手で操作し、前記左操作部を左手で操作した場合に、所定の表示手段（装飾図柄表示装置479）によって所定の表示情報（宝483）が表示される表示制御が可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

【0982】

特徴B1に記載の遊技機であれば、遊技者が操作可能な操作部を用いた演出を好適に実行可能な遊技機を提供することができる。すなわち、遊技者の右手によって右操作部が操作され、遊技者の左手によって左操作部が操作された場合に表示手段に表示情報を表示することができる。このため、発射操作をしないことで遊技球の発射が停止された状態での両手による操作部の操作に基づいた演出を遊技者に楽しませることができる。

30

【0983】

<特徴B2>

所定の当選条件が成立した場合に、通常遊技状態よりも遊技価値が付与される入賞条件が成立し易い特別遊技状態が発生する遊技機であって、

遊技球の発射操作が可能な発射操作手段（発射操作装置250）と、

該発射操作手段とは別に設けられて所定の入力操作を実行可能な入力操作手段（右入力レバー810R、左入力レバー810L）と、

前記入力操作手段に対しての入力操作を実行可能な演出に対応した演出画像を表示する表示手段（装飾図柄表示装置479）と、

40

前記表示手段を制御し、前記入力操作手段に対して片手で操作を行う場合に対応する片手参加型の演出画像と、前記操作手段に対して両手で操作を行う場合に対応する両手参加型の演出画像とを表示する制御を少なくとも行う表示制御手段（副制御基板940）とを備えていることを特徴とする遊技機。

【0984】

特徴B2に記載の遊技機であれば、遊技者が操作可能な入力操作手段を用いた演出として、片手で操作を行う場合に対応する片手参加型の演出画像と、両手で操作を行う場合に対応する両手参加型の演出画像とを別々の画像によって表示することができる。このため、発射操作をしないことで遊技球の発射が停止された状態での両手による入力操作手段の操

50

作に基づいた演出を特別な演出として遊技者に楽しませることができる。

【0985】

<特徴B3>

所定の当選条件が成立した場合に、通常遊技状態よりも遊技価値が付与される入賞条件が成立し易い特別遊技状態が発生する遊技機であって、
遊技球の発射操作が可能な発射操作手段（発射操作装置250）と、
該発射操作手段とは別に設けられて所定の入力操作を実行可能な操作部（右入力レバー810R、左入力レバー810L）とを備え、
所定の操作タイミングにおいて、前記操作部を片手で操作した場合と、前記操作部を両手で操作した場合とで、所定の表示手段（装飾図柄表示装置479）によって所定の表示情報（宝483）が表示されるか否かを異ならせる表示制御が可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

10

【0986】

特徴B3に記載の遊技機であれば、遊技者が操作可能な操作部を用いた演出を好適に実行可能な遊技機を提供することができる。すなわち、所定の操作タイミングにおいて、操作部を片手で操作した場合と、操作部を両手で操作した場合とで、表示手段に表示情報が表示されるか否かが異なるため、両手による操作部の操作に基づいた演出の実行を稀少なものとすることができる。このため、発射操作をしないことで遊技球の発射が停止された状態での両手による操作部の操作に基づいた演出を特別な演出として遊技者に楽しませることができる。

20

【0987】

<特徴C～F群>

遊技機の代表例としてパチンコ機がある。従来の典型的なパチンコ機において、遊技領域に設けられた始動口に入球し、その入球に応じて行われた抽選において大当りに当選した場合に、通常遊技状態より有利な特別遊技状態に移行する構成が知られている（例えば、特開2011-31031号公報参照）。

【0988】

しかしながら、従来の遊技機において通常遊技状態や特別遊技状態において様々な演出がなされているものの、当該演出を実行する構成について未だ改良の余地がある可能性があった。

30

【0989】

<特徴C1>

所定の当選条件が成立した場合に、通常遊技状態よりも遊技価値が付与される入賞条件が成立し易い特別遊技状態が発生する遊技機であって、
所定の入力操作を実行可能であり、移動可能な操作部（例えば、左入力レバー810L及び右入力レバー810R）と、
前記操作部の移動を制御し、前記通常遊技状態又は前記特別遊技状態で所定の演出発生条件が成立した場合（例えば、両手参加型の殻割りミッション演出が選択された場合）に前記操作部を移動させる移動制御手段（例えば、副制御基板940）と、
前記操作部の移動に伴い前記操作部と共に移動可能であり、視覚とは異なる感覚により識別できる所定の出力を行う出力動作を実行可能な出力動作部（例えば、左入力レバー810L及び右入力レバー810R）と、
前記出力動作部を制御し、前記操作部の移動に伴い前記出力動作部が所定の位置から移動した位置に配置されている場合に前記出力動作を実行させる出力制御手段（例えば、副制御基板940）とを備えることを特徴とする遊技機。

40

【0990】

<特徴C2>

所定の当選条件が成立した場合に、通常遊技状態よりも遊技価値が付与される入賞条件が成立し易い特別遊技状態が発生する遊技機であって、
移動可能な可動部（例えば、左入力レバー810L及び右入力レバー810R）と、

50

前記可動部の移動を制御し、前記通常遊技状態又は前記特別遊技状態で所定の演出発生条件が成立した場合（例えば、両手参加型の殻割りミッション演出が選択された場合）に前記可動部を移動させる移動制御手段（例えば、副制御基板 940）と、
前記可動部の移動に伴い前記可動部と共に移動可能であり、視覚とは異なる感覚により識別できる所定の出力を行う所定の出力動作を実行可能な出力動作部と、
前記出力動作部を制御し、前記可動部の移動に伴い前記出力動作部が所定の位置から移動した位置に配置されている場合に前記出力動作を実行させる出力制御手段（例えば、副制御基板 940）とを備えることを特徴とする遊技機。

【0991】

特徴 C1 及び特徴 C2 に記載の遊技機であれば、演出を好適に実行可能な遊技機を提供することができる。すなわち、移動可能な操作部や可動部が移動した場合に、出力動作部が操作部や可動部と共に移動する。このため、操作部や可動部が移動可能となる所定の演出が発生した場合に、出力動作部の位置を変化させることができる。したがって、所定の出力動作を異なる位置から実行することが可能になり、遊技者に与える出力の印象を変化させることができる。

【0992】

また、操作部や可動部を移動させることで遊技者に操作部や可動部に注目させ、その注目させた場所の近傍で出力動作部による出力動作を実行することが可能となり、出力動作による演出効果を高めることも可能になる。

【0993】

また、特徴 C1 に記載の遊技機であれば、所定の入力操作を行っている又は行おうとしている手の近くで出力部からの出力を実行することが可能になり、入力操作を行う手の触覚で感じる異なる位置からの出力、例えば、手が移動される感触や、送風、発熱、打突などの出力などにおいて、微弱な出力によって演出を実行することも可能になる。したがって、出力動作部を小型の装置で構成でき、出力動作部を操作部と共に移動させたとしても、操作部の移動性を確保し易くなる。

【0994】

なお、特別遊技状態が発生することとなる所定の当選条件は、特別図柄抽選（第 1 特別図柄抽選、第 2 特別図柄抽選）において大当りに当選するなど、電子的な抽選に基づく条件であってもよいし、通常遊技状態において遊技領域内に予め定められた所定の領域に遊技球が進入するなど、遊技球の流下先の機構的な振り分けによる抽選に基づく条件であってもよいし、電子的な抽選と機構的な抽選との組合せに基づく条件であってもよい。

【0995】

例えば、機構的な抽選に基づき特別遊技状態が発生する構成としては、開閉可能な入口を有する役物装置の内部に非特定通路と特定通路とが設けられたパチンコ機において、所定の入賞口に遊技球が進入した場合に当該役物装置の入口を開放し、開放された入口から当該役物装置に進入した遊技球が非特定通路と特定通路とを振り分ける振分機構によって特定通路に誘導されて当該特定通路に進入した場合に特別遊技状態が発生する構成が挙げられる。また、電子的な抽選と機構的な抽選との組合せに基づき特別遊技状態が発生する構成としては、内部に非特定通路と特定通路とを備える可変入賞装置を備えるパチンコ機において、特別図柄抽選において非当選の一種である所定の小当りが選択された場合に通常遊技状態において当該可変入賞装置に遊技球が進入可能となり、当該可変入賞装置に進入した遊技球が非特定通路と特定通路とを振り分ける振分機構によって特定通路に誘導されて当該特定通路に進入した場合に特別遊技状態が発生する構成が挙げられる。

【0996】

<特徴 D1>

所定の当選条件が成立した場合に、通常遊技状態よりも遊技価値が付与される入賞条件が成立し易い特別遊技状態が発生する遊技機であって、
所定の入力操作を実行可能であり、形態変化が可能な操作部（例えば、左入力レバー 810L 及び右入力レバー 810R）と、

前記操作部の形態変化を制御し、前記通常遊技状態又は前記特別遊技状態で所定の演出発生条件が成立した場合（例えば、両手参加型の殻割りミッション演出が選択された場合）に前記操作部の形態を第１の形態から第１の形態とは異なる第２の形態に変化させる形態制御手段（例えば、副制御基板９４０）とを備え、

前記操作部の少なくとも一部は、前記第２の形態をとる場合に、前記第１の形態から前記第２の形態への変化過程の動作とは異なる動作が可能な可動部（例えば、左入力レバー８１０Ｌ及び右入力レバー８１０Ｒ）によって構成され、

前記操作部が前記第２の形態をとる場合の少なくとも一部において前記可動部が移動可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

【０９９７】

特徴Ｄ１又は特徴Ｄ２に記載の遊技機であれば、演出を好適に実行可能な遊技機を提供することができる。すなわち、操作部の少なくとも一部としての可動部が、第２の形態をとる場合に、第１の形態から第２の形態への変化過程の動作とは異なる動作で移動する。このため、可動部が移動する場合と移動しない場合とで、入力操作の操作感を変化させたり、可動部の移動によって入力操作とは異なる演出を実行したりすることが可能になる。ことが可能になる。また、操作部の全体を高速で移動させることによって、操作部の形状は変化してないが、残像現象によって、操作部の形状が変化したかのように見せることも可能になる。

【０９９８】

<特徴Ｅ１>

所定の当選条件が成立した場合に、通常遊技状態よりも遊技価値が付与される入賞条件が成立し易い特別遊技状態が発生する遊技機であって、

所定の入力操作を実行可能であり、形態変化が可能である操作部（例えば、左入力レバー８１０Ｌ及び右入力レバー８１０Ｒ）と、

前記操作部の形態変化を制御し、前記通常遊技状態又は前記特別遊技状態で所定の条件が成立した場合（例えば、両手参加型の殻割りミッション演出が選択された場合）に、前記操作部の形態を第１の形態から第１の形態とは異なる第２の形態に変化させる形態制御手段と、

前記所定の入力操作を阻止可能又は無効化可能な入力制限手段とを備え、

前記入力制限手段は、前記操作部が前記第１の形態及び前記第２の形態の少なくとも一方の形態をとる場合には、前記所定の入力操作を阻止又は無効化せず、前記形態制御手段による前記操作部の変化過程の少なくとも一部で、前記所定の入力操作を阻止可能又は無効化可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

【０９９９】

特徴Ｅ１に記載の遊技機であれば、演出を好適に実行可能な遊技機を提供することができる。すなわち、操作部がとりえる状態（第１の形態における形態制御手段による変化前の状態から第２の形態における形態制御手段による最終変化後の状態）において、操作部に対して所定の入力操作が阻止又は無効化されない状態と、阻止又は無効化される状態とを発現できる。このため、操作部の状態の変化に応じて、操作部の役割を変化させることができる。したがって、操作部の状態を変化させず、操作部を所定の入力操作による入力に特化したものとしたり、操作部の状態を変化させて、入力に特化した場合と異なる操作感や操作方向で所定の入力操作を入力するものとしたり、所定の入力操作が阻止又は無効化され、操作部の状態変化による演出に特化したりして、操作部を複数の異なる役割を発現する多目的の機能部とすることができる。

【１０００】

<特徴Ｆ１>

所定の当選条件が成立した場合に、通常遊技状態よりも遊技価値が付与される入賞条件が成立し易い特別遊技状態が発生する遊技機であって、

所定の入力操作を実行可能であり、形態変化が可能な操作部（例えば、左入力レバー８１０Ｌ及び右入力レバー８１０Ｒ）と、

10

20

30

40

50

前記操作部の形態変化を制御し、前記通常遊技状態又は前記特別遊技状態で所定の演出発生条件が成立した場合（例えば、両手参加型の殻割りミッション演出が選択された場合）に前記操作部の形態を第１の形態から第１の形態とは異なる第２の形態に変化させる形態制御手段（例えば、副制御基板９４０）とを備え、

前記操作部の少なくとも一部は、前記第１の形態から前記第２の形態への変化過程において動作が可能な可動部（例えば、左入力レバー８１０Ｌ及び右入力レバー８１０Ｒ）によって構成され、

前記形態制御手段は、前記操作部に対して所定の入力操作が継続されている状況において、前記第１の形態から前記第２の形態へと形態変化が進行し、前記第２の形態へ形態変化した後に、当該第２の形態から前記第１の形態へと形態変化が更に進行するように前記可動部の動作を制御可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

10

【１００１】

<特徴Ｆ２>

所定の当選条件が成立した場合に、通常遊技状態よりも遊技価値が付与される入賞条件が成立し易い特別遊技状態が発生する遊技機であって、

所定の入力操作を実行可能であり、形態変化が可能な操作部（例えば、左入力レバー８１０Ｌ及び右入力レバー８１０Ｒ）と、

前記操作部の形態変化を制御し、前記通常遊技状態又は前記特別遊技状態で所定の演出発生条件が成立した場合（例えば、両手参加型の殻割りミッション演出が選択された場合）に前記操作部の形態を第１の形態から第１の形態とは異なる第２の形態に変化させる形態制御手段（例えば、副制御基板９４０）とを備え、

20

前記操作部の少なくとも一部は、前記第１の形態から前記第２の形態への変化過程において動作が可能な可動部（例えば、左入力レバー８１０Ｌ及び右入力レバー８１０Ｒ）によって構成され、

前記形態制御手段は、前記操作部に対しての前記所定の入力操作を検出して前記第１の形態から前記第２の形態へと形態変化が進行するように前記可動部の動作を制御する第１の制御と、前記操作部に対しての前記所定の入力操作を検出して前記第２の形態から前記第１の形態へと形態変化が進行するように前記可動部の動作を制御する第２の制御とを少なくとも実行可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

【１００２】

30

特徴Ｆ１及びＦ２に記載の遊技機によれば、操作部を用いた演出を好適に実行可能な遊技機を提供することができる。すなわち、操作部に対しての所定の入力操作を条件として操作部の形態変化が進行するため、操作部の形態変化を進行させるか進行させないかを遊技者の操作によって決定させることができ、その形態変化の進行状況は外観だけでなく、遊技者の操作部に対する触感を含めて識別可能とすることができる。よって、変動表示は視認せずに操作部の形態変化を触感で感じながら遊技を進めるか、それとも注視している対象を変動表示から操作部に切り替えてから形態変化の状況を視認しつつ遊技を行うかなど、遊技者の意図する状況に対応して簡易な操作で形態変化を伴う演出の興趣を提供することができる。

【１００３】

40

<特徴Ｇ～Ｋ群>

遊技機の代表例としてパチンコ機がある。従来の典型的なパチンコ機において、遊技領域に設けられた始動口に入球し、その入球に応じて行われた抽選において大当りに当選した場合に、通常遊技状態より有利な特別遊技状態に移行する構成が知られている（例えば、特開２０１１－３１０３１号公報参照）。

【１００４】

しかしながら、従来の遊技機において通常遊技状態や特別遊技状態において様々な演出がなされているものの、当該演出を実行する構成について未だ改良の余地がある可能性があった。

【１００５】

50

<特徴 G 1>

識別情報の変動表示を行う表示手段（例えば、装飾図柄表示装置 479）と、該表示手段によって表示される表示内容を制御する制御手段（例えば、副制御基板 940）とを備え、前記表示手段によって所定の表示結果（例えば、大当りに対応する装飾図柄の組み合わせ）が表示された場合に遊技者にとって有利な遊技状態（例えば、特別遊技状態）へ遷移可能に構成された遊技機において、

複数箇所に離間して配置された第 1 状態（例えば、通常配置）と、前記第 1 状態と比べて近接又は当接して配置された第 2 状態（例えば、出現配置）とをとることが可能な複数の可動部材を備え、

前記複数の可動部材として、前記第 1 状態から前記第 2 状態へ移行する場合に、所定の方向側へ移動する第 1 可動部材（例えば、左後可動部材 621）と、該第 1 可動部材より移動量が長く前記所定の方向とは別の方向側（例えば、所定の方向と反対方向側）へ移動する第 2 可動部材（例えば、可動懸垂部材 611）とが設けられ、

前記第 2 状態において遊技者側から見て前記第 1 可動部材の移動軌跡内に前記第 2 可動部材の少なくとも一部が配置されるように構成されていることを特徴とする遊技機。

【1006】

特徴 G 1 に記載の遊技機であれば、演出を好適に実行可能な遊技機を提供することができ、すなわち、第 2 状態において、第 1 可動部材よりも大きな移動量で移動してきた第 2 可動部材の少なくとも一部が、第 1 可動部材の移動軌跡内に配置される。このため、第 2 可動部材が第 1 可動部材の移動軌跡内に配置されない場合に比べて意外性のある配置に第 1 可動部材と第 2 可動部材とを移動させ、近接した又は当接した第 1 可動部材と第 2 可動部材とで示される情報を意外性のある配置で遊技者に知らせることが可能になる。

【1007】

<特徴 H 0>

識別情報の変動表示を行う表示手段（例えば、装飾図柄表示装置 479）と、該表示手段によって表示される表示内容を制御する制御手段（例えば、副制御基板 940）とを備え、前記表示手段によって所定の表示結果（例えば、大当りに対応する装飾図柄の組み合わせ）が表示された場合に通常遊技状態より遊技者にとって有利な特別遊技状態（例えば、特別遊技状態）へ遷移可能であって、通常遊技状態において所定の第 1 領域（例えば、左流下領域 409L）に遊技球を流下させて遊技を行い、前記特別遊技状態において前記第 1 領域とは別に設けられる第 2 領域（例えば、右流下領域 409R）に遊技球を流下させて遊技を行うように構成された遊技機において、

複数箇所に離間して配置された第 1 状態（例えば、通常配置）と、前記第 1 状態と比べて近接又は当接して配置された第 2 状態（例えば、出現配置）とをとることが可能であって、所定の態様で発光可能な装飾部を有する複数の可動部材を備え、

該複数の可動部材として、前記第 1 状態において、遊技者側から見て前記表示手段に対して前記第 1 領域に近い側に配置される第 1 可動部材（例えば、左後可動部材 621）と、遊技者側から見て前記表示手段に対して前記第 2 領域に近い側に配置される第 2 可動部材（例えば、可動懸垂部材 611）とが設けられ、

前記第 1 状態において、前記変動表示中に前記第 1 可動部材及び前記第 2 可動部材の装飾部が所定の態様で発光するように構成されていることを特徴とする遊技機。

【1008】

<特徴 H 1>

識別情報の変動表示を行う表示手段（例えば、装飾図柄表示装置 479）と、該表示手段によって表示される表示内容を制御する制御手段（例えば、副制御基板 940）とを備え、前記表示手段によって所定の表示結果（例えば、大当りに対応する装飾図柄の組み合わせ）が表示された場合に通常遊技状態より遊技者にとって有利な特別遊技状態（例えば、特別遊技状態）へ遷移可能であって、通常遊技状態において所定の第 1 領域（例えば、左流下領域 409L）に遊技球を流下させて遊技を行い、前記特別遊技状態において前記第 1 領域とは別に設けられる第 2 領域（例えば、右流下領域 409R）に遊技球を流下させ

て遊技を行うように構成された遊技機において、
複数箇所に離間して配置された第１状態（例えば、通常配置）と、前記第１状態と比べて近接又は当接して配置された第２状態（例えば、出現配置）をとることが可能であって、所定の態様で発光可能な装飾部を有する複数の可動部材を備え、
該複数の可動部材として、前記第１状態において、遊技者側から見て前記表示手段に対して前記第１領域に近い側に配置される第１可動部材（例えば、左後可動部材６２１）と、遊技者側から見て前記表示手段に対して前記第２領域に近い側に配置される第２可動部材（例えば、可動懸垂部材６１１）とが設けられ、
前記第１状態において、前記変動表示中に前記第１可動部材及び前記第２可動部材の装飾部が所定の態様で発光し、
前記第２状態において、前記第２可動部材が前記第１可動部材より前記第１領域に近く、前記第１可動部材が前記第２可動部材より前記第２領域に近い位置に配置されるように構成されていることを特徴とする遊技機。

10

【１００９】

特徴Ｈ０及びＨ１に記載の遊技機であれば、演出を好適に実行可能な遊技機を提供することができる。すなわち、表示手段に対して第１領域に近い側に配置された第１可動部材と、表示手段に対して第２領域に近い側に配置された第２可動部材の装飾部とを、変動表示に伴い頻繁に発光させることで、変動表示が実行される通常遊技状態などの遊技状態において、第１状態をとる第１可動部材や第２可動部材によって、表示手段と第１領域や第２領域とを区画化することが可能になる。また、変動表示が実行される遊技状態において、第１状態をとる第１可動部材と第２可動部材とによって、第１領域や第２領域やその領域を流下する遊技球を照明したり、変動表示に合わせた発光演出を実行したりすることが可能となり、表示手段の周縁に配置される中央構造体に一般的に設けられる発光装置を設けない構成とすることも可能になる。

20

【１０１０】

また、第１可動部材や第２可動部材を近接又は当接させるものの、近接又は当接させる移動の前後で第１可動部材が第２可動部材よりも第１領域に近い位置に配置され、かつ、第２可動部材が第１可動部材よりも第２領域に近い位置に配置される一般的な配置の場合に比べて、第２状態における第１可動部材と第２可動部材との配置を意外性のある配置とし、近接した又は当接した第１可動部材と第２可動部材とで示される情報を意外性のある配置で遊技者に知らせることが可能になる。

30

【１０１１】

また、第１状態における第１可動部材や第２可動部材が発光することで遊技者がそれらの存在を知り得たとしても、第２状態における第１可動部材と第２可動部材と配置を一般的な配置とは異なる意外性のある配置に移動することで、第１可動部材と第２可動部材とで示される情報を、第１可動部材と第２可動部材の意表を突く動作で遊技者に知らせることが可能になる。

【１０１２】

<特徴Ｊ１>

識別情報の変動表示を行う表示手段（例えば、装飾図柄表示装置４７９）と、該表示手段によって表示される表示内容を制御する制御手段（例えば、副制御基板９４０）とを備え、前記表示手段によって所定の表示結果（例えば、大当りに対応する装飾図柄の組み合わせ）が表示された場合に遊技者にとって有利な遊技状態（例えば、特別遊技状態）へ遷移可能に構成された遊技機において、
複数箇所に離間して配置された第１状態（例えば、通常配置）と、前記第１状態と比べて近接又は当接して配置された第２状態（例えば、出現配置）をとることが可能であって、所定の態様で発光可能な装飾部を有する複数の可動部材を備え、
前記複数の可動部材として、前記第１状態から前記第２状態へ移行する場合より、前記第２状態から前記第１状態へ移行する場合に移動速度が遅い演出を実行可能な速度変化可動部材（例えば、可動懸垂部材６１１）が設けられ、

40

50

前記速度変化可動部材の装飾部は、前後方向において前記表示手段に重なる位置に配置され、前記第２状態から前記第１状態へ移行する場合に所定の移行態様（例えば、上昇示唆発光パターン）で発光し、
前記表示手段は、前記速度変化可動部材が前記第２状態から前記第１状態へ移行する場合に前記所定の移行態様と同種の態様に構成される所定の移行中表示（例えば、打上花火６０３）を表示することを特徴とする遊技機。

【１０１３】

特徴Ｊ１に記載の遊技機であれば、演出を好適に実行可能な遊技機を提供することができる。すなわち、速度変化可動部材が第２状態から第１状態へ移動する場合に、第１状態から第２状態への移動よりも遅く移動することで、速度変化可動部材を表示手段に重なる位置に長く配置することが可能になる。また、速度変化可動部材を表示手段と重なる位置に配置される場合に、速度変化可動部材の装飾部が所定の移行態様で発光し、表示手段が所定の移行態様と同種の態様に構成される所定の移行中表示を表示することで、速度変化可動部材と表示手段とが連携して一体感のある演出を実行することが可能になる。したがって、速度変化可動部材と表示手段とによる一体感のある演出を遊技者に長く楽しませることが可能になる。

【１０１４】

<特徴Ｋ１>

識別情報の変動表示を行う表示手段（例えば、装飾図柄表示装置４７９）と、該表示手段によって表示される表示内容を制御する制御手段（例えば、副制御基板９４０）とを備え、前記表示手段によって所定の表示結果（例えば、大当りに対応する装飾図柄の組み合わせ）が表示された場合に遊技者にとって有利な遊技状態（例えば、特別遊技状態）へ遷移可能に構成された遊技機において、

複数箇所に離間して配置された第１状態（例えば、通常配置）と、前記第１状態と比べて近接又は当接して配置された第２状態（例えば、出現配置）とをとることが可能であって、所定の態様で発光可能な装飾部を有する複数の可動部材を備え、

前記複数の可動部材として、前記第１状態から前記第２状態へ移行する場合より、前記第２状態から前記第１状態へ移行する場合に移動速度が遅い演出を実行可能な速度変化可動部材（例えば、可動懸垂部材６１１）が設けられ、

前記速度変化可動部材は、前記第１状態から前記第２状態へ移行する場合の姿勢に対して、前記第２状態から前記第１状態へ移行する場合の少なくとも一部の期間における姿勢が異なるように構成されていることを特徴とする遊技機。

【１０１５】

特徴Ｋ１に記載の遊技機であれば、演出を好適に実行可能な遊技機を提供することができる。すなわち、第２状態から第１状態へ移行する場合に、速度変化可動部材の移動速度が第１状態から第２状態へ移行する場合より遅く、また、速度変化可動部材の姿勢が少なくとも一部の期間において第１状態から第２状態へ移行する場合と異なることによって、同一速度や同一姿勢で移行する場合に比べて、速度変化可動部材の動作を多様化することが可能になる。また、速度変化可動部材の移動速度が遅い第２状態から第１状態へ移行において、速度変化可動部材の姿勢を複雑に変化させ、当該複雑な姿勢の変化を遊技者に長く楽しませることが可能になる。

【１０１６】

<特徴Ｌ１>

識別情報の変動表示を行う表示手段（例えば、装飾図柄表示装置４７９）と、該表示手段によって表示される表示内容を制御する制御手段（例えば、副制御基板９４０）とを備え、前記表示手段によって所定の表示結果（例えば、大当りに対応する装飾図柄の組み合わせ）が表示された場合に遊技者にとって有利な遊技状態（例えば、特別遊技状態）へ遷移可能に構成された遊技機において、

第１状態（例えば、通常配置）と、前記第１状態とは異なる位置に配置された第２状態（例えば、出現配置）とをとることが可能であって、所定の表示対象（例えば、文字）が表

10

20

30

40

50

示された装飾部を有する複数の可動部材を備え、
前記複数の可動部材として、前記第1状態から前記第2状態へ移行する場合に所定の回転量での回転を伴って移動する第1可動部材（例えば、中間可動部材632）と、該第1可動部材より少ない回転量で移動距離が大きく高速で移動する第2可動部材（例えば、遠可動部材633）とが設けられていることを特徴とする遊技機。

【1017】

特徴L1に記載の遊技機であれば、演出を好適に実行可能な遊技機を提供することができる。すなわち、第1可動部材と同様に回転を伴って移動する第2可動部材が、第1可動部材より移動距離が大きく高速で移動し、かつ、第1可動部材より少ない回転量で回転することで、第2可動部材の装飾部における表示対象の視認性を、第1可動部材の装飾部における表示対象に比べて、第2可動部材の回転によって高まるものの第2可動部材の移動によって低下させることができる。第1可動部材や第2可動部材の視認性は、回転による要因と移動による要因との複合要因で決まるため、第1状態から第2状態への移行において、第1可動部材と第2可動部材との装飾部における表示対象の双方を容易に視認できるようにしたり、又は、容易には視認できないようにしたりすることが可能になる。

【1018】

なお、特徴10～L1に記載の少なくとも1つの特徴を他のいずれか又は複数の特徴に組み合わせ適用しても良い。以下には、上記した各特徴を適用し得る遊技機の基本構成を示す。

【1019】

パチンコ機：遊技者が操作する発射操作手段と、その発射操作手段の操作に基づいて遊技球を発射する遊技球発射手段と、その発射された遊技球を所定の遊技領域に導く通路部と、遊技領域内に配置された各遊技部品とを備え、それら各遊技部品のうち所定の通過部を遊技球が通過した場合に遊技者に特典を付与する遊技機。

【1020】

スロットマシン等の回胴式遊技機：始動操作手段の操作に基づき周回体の回転を開始させ、停止操作手段の操作に基づき周回体の回転を停止させ、その停止後の絵柄に応じて遊技者に特典を付与する遊技機。

【産業上の利用可能性】

【1021】

以上のように、この発明は、弾球遊技機等の遊技機に適している。

【符号の説明】

【1022】

10…左可動部材、11…後方側装飾部、20…右可動部材、30…光源、31…発光基板、32L, 32R…LED素子（発光手段）、40…発光空間、41…前方部材、42…後方部材、50…前方側装飾部、50B…裏面（後方側光出力手段）、51…前方窓、52…装飾板、61…後方窓、61B…前面（別方向反射手段）、62…光進入窓、63…左接続部、64…右接続部、100…パチンコ機、102…前ブロック、250…発射操作装置、252…発射ハンドル（発射操作手段）、400…遊技盤、401…基体、409…遊技領域、409L…左流下領域（第1領域）、409R…右流下領域（第2領域）、409V…特典領域（特定領域）、409E…入口部分、409N…非特典領域、420…中央構造体、420a…開口、434…上大入賞装置、437…振分機構、437A…振分シャッタ、434…上大入賞装置、444…上大入賞スイッチ、448…特定通路スイッチ、454…上進入規制機構、454A…進入規制シャッタ、464…上進入規制モータ、465…振分ソレノイド、479…装飾図柄表示装置（表示手段、操作情報表示手段）、481…前壁、484S…右握り操作指示情報（所定の操作情報）、484D…連結操作指示情報（所定の操作情報）、494…案内通路、600…遊技盤、603…打上花火、610…右前可動部、611…可動懸垂部材（第2可動部材、速度変化可動部材）、612…可動支持部材、618L…左ローラ、618R…右ローラ、619…可動懸垂基体、620…左後可動部、621…左後可動部材（第2可動部材）、629…左後

可動基体、630…右後可動部、631…近可動部材、632…中間可動部材（第1可動部材）、633…遠可動部材（第2可動部材）、639…可動台座部材、640…左前可動部、649…可動円盤部材、641…中央可動部材、659a…上規制壁、661…誘導レール、662…移動付勢部材、663…回転ローラ、664…駆動スライダ、664a…連結部分、664b…突出部分、665…駆動軸部材、665a…螺旋溝、666a…規制部材、666b…回転軸、666c…回転部材、666d…規制付勢部材、667a…被押圧部材、667b…回転部材、667c…回転軸、667d…スライド部材、667e…連結軸、668…ギア、700…遊技盤、710…反射装飾体（反射手段）、711…反射装飾部、712…通過部、712a…平坦領域、712b…突出装飾領域、712S…装飾面、713…反射部、719…反射装飾支持部、720…環状配置光源、720a…下左光源、720b…下右光源、721…環状配置基板、721a…下左基板、722a…LED素子、730…中央光源、731…中央基板、732…LED素子、740…環状装飾体、741…可動装飾部、741a…下左可動装飾部、742…回動装飾部、749…環状装飾支持部、750…中央装飾体、751…中央装飾部、752…枠部、753…装飾部材、754…散乱部材、920…主制御基板、940…副制御基板（制御手段，移動制御手段，出力動作制御手段，形態制御手段，入力制限手段）、801L…左入力操作装置、801R…右入力操作装置、802L…左支持機構、802R…右支持機構、804L…左レバー移動規制装置、804R…右レバー移動規制装置、810L…左入力レバー（入力操作手段，演出手段，操作部）、810R…右入力レバー（入力操作手段，演出手段，操作部）、811L…左握り壁、811R…右握り壁、812L…左操作部材、812R…右操作部材、813L…左被覆壁、813R…右被覆壁、818L…上側電磁石、818R…上側電磁石、819L…下側電磁石、819R…下側電磁石、820L…左支持台、820R…右支持台、823L…左外側支持腕、823R…右外側支持腕、826L…左内側支持腕、826R…右内側支持腕、831L…左レバー回転駆動モータ、831R…右レバー回転駆動モータ、838L…左連結操作検出スイッチ、838R…右連結操作検出スイッチ、839L…左連結状態検出スイッチ、839R…右連結状態検出スイッチ、841L…左レバー規制部材、841R…右レバー規制部材、851L…左レバー前後移動機構、851R…右レバー前後移動機構、852L…左レバー前後移動駆動モータ、852R…右レバー前後移動駆動モータ

10

20

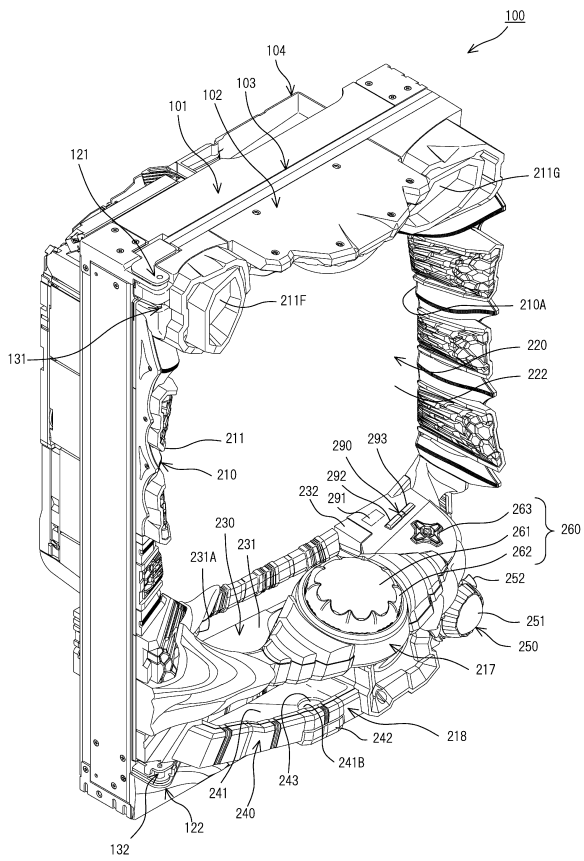
30

40

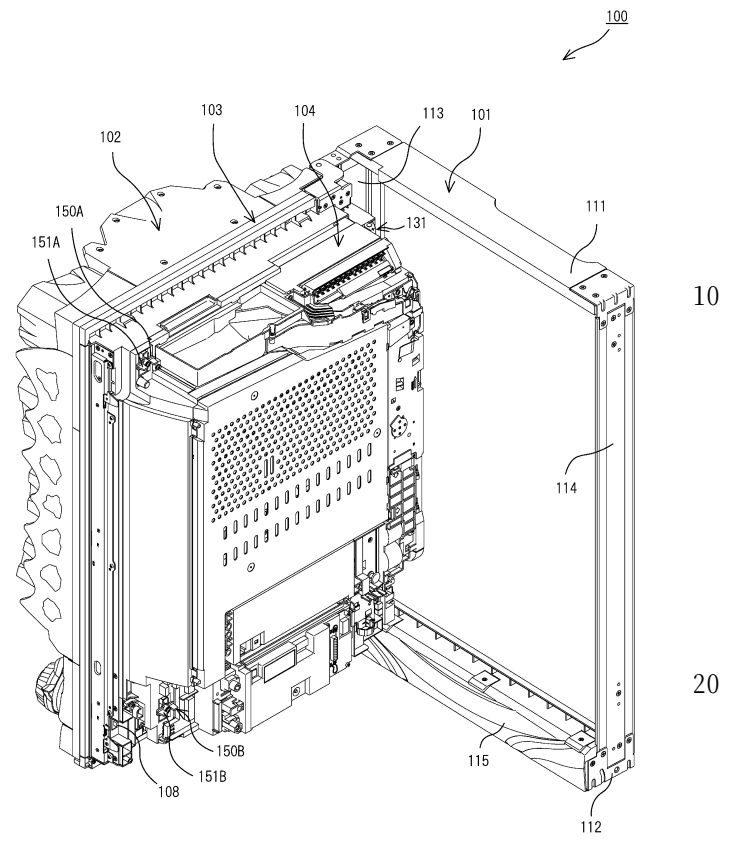
50

【図面】

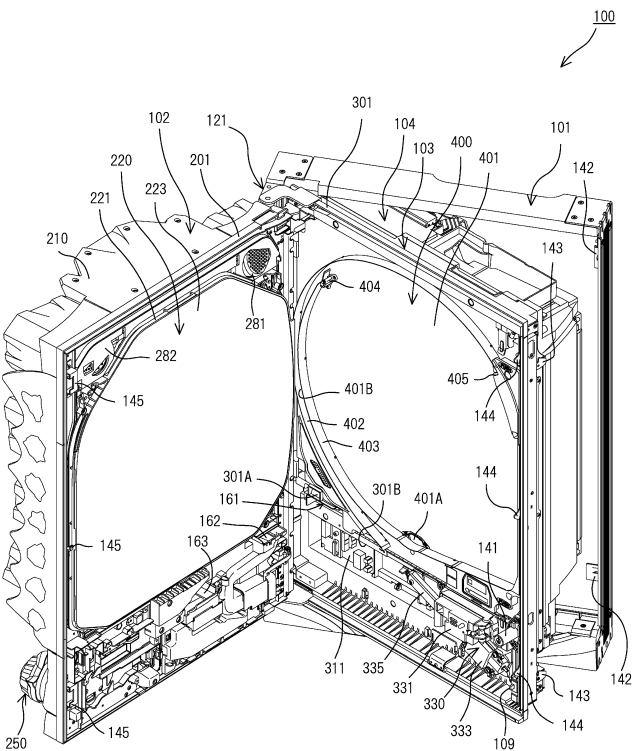
【図 1】



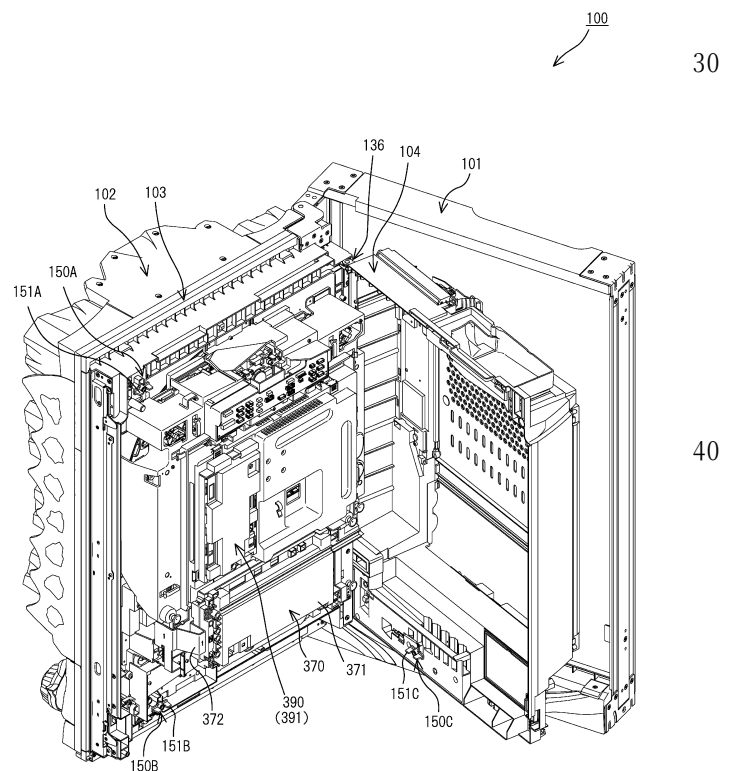
【図 2】



【図 3】



【図 4】



10

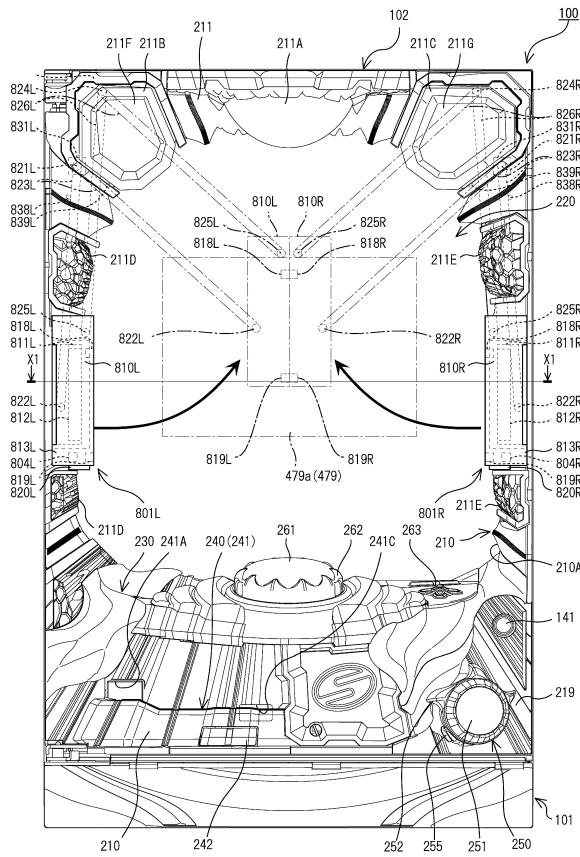
20

30

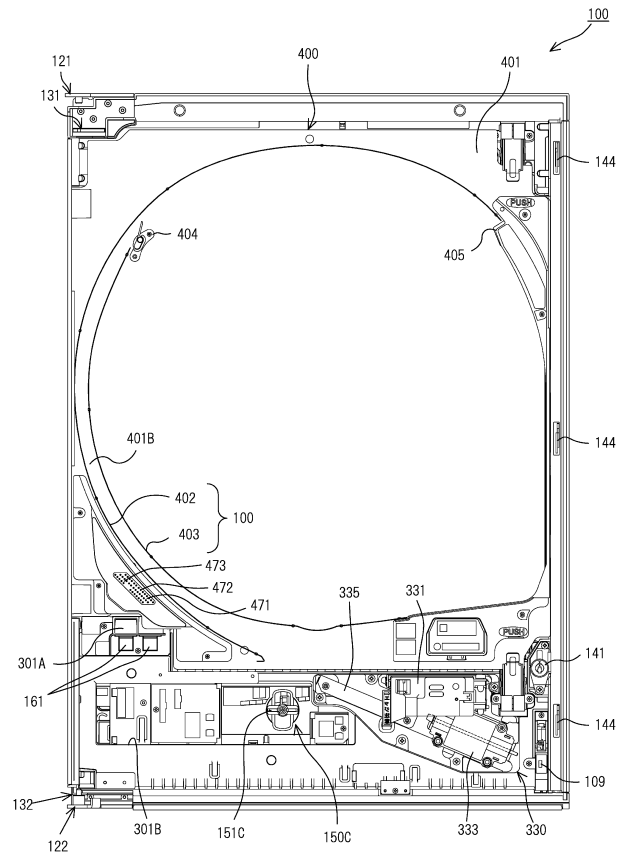
40

50

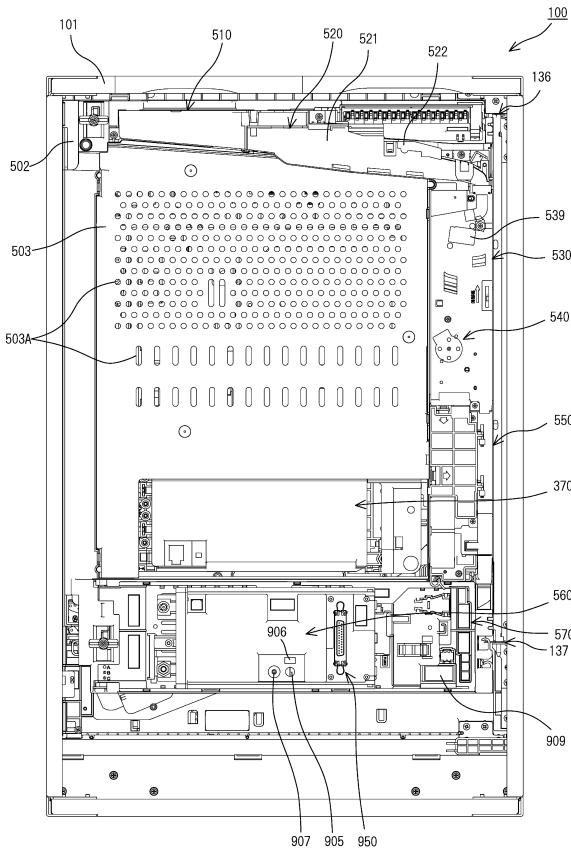
【図 5】



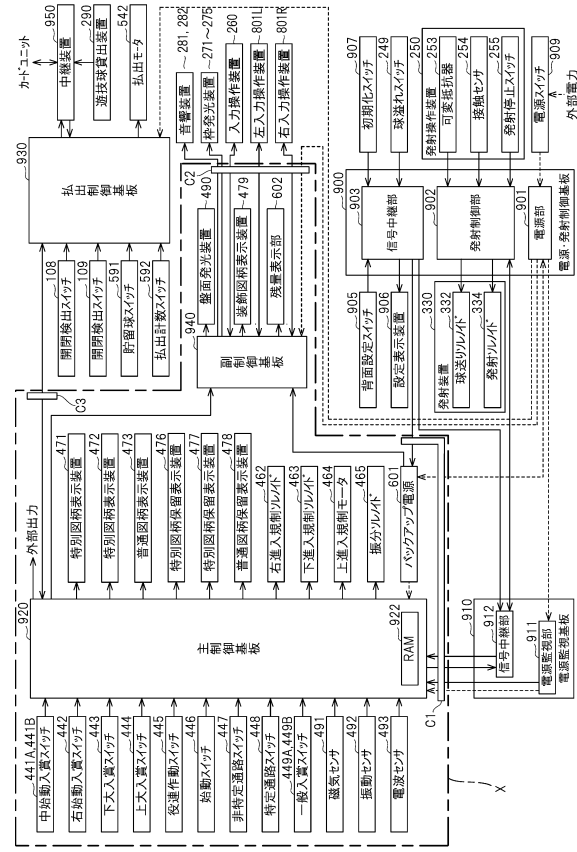
【図 6】



【図 9】



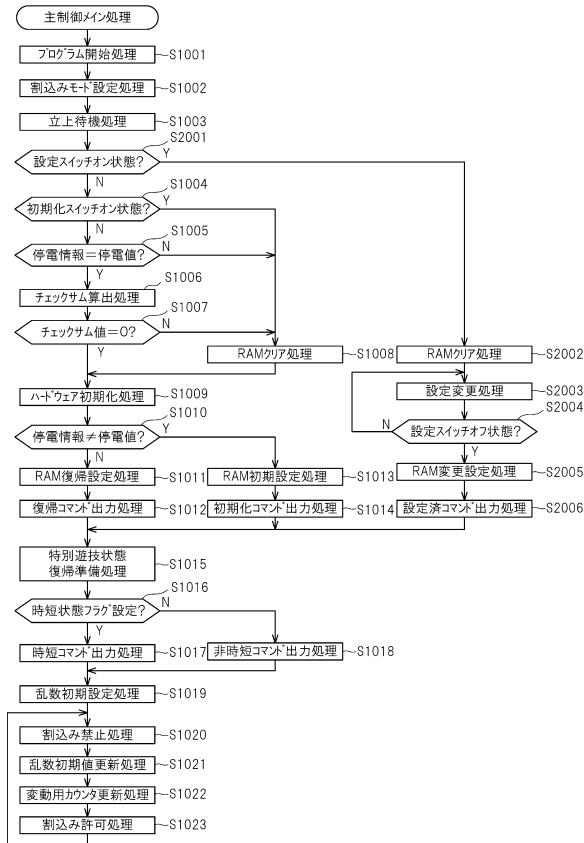
【図 10】



10

20

【図 11】



【図 12】

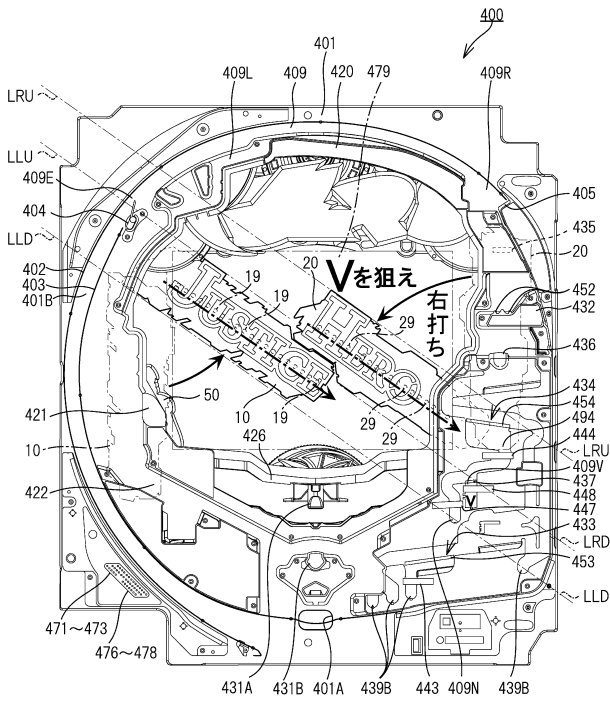


30

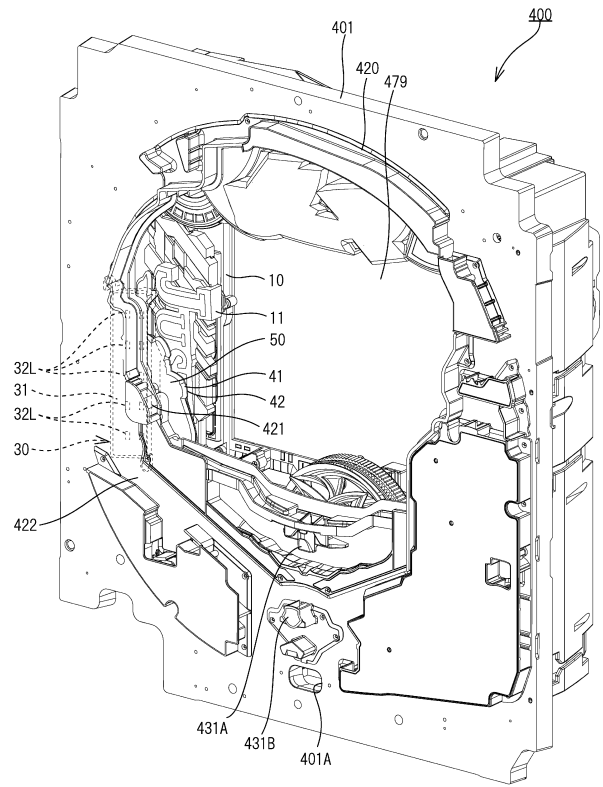
40

50

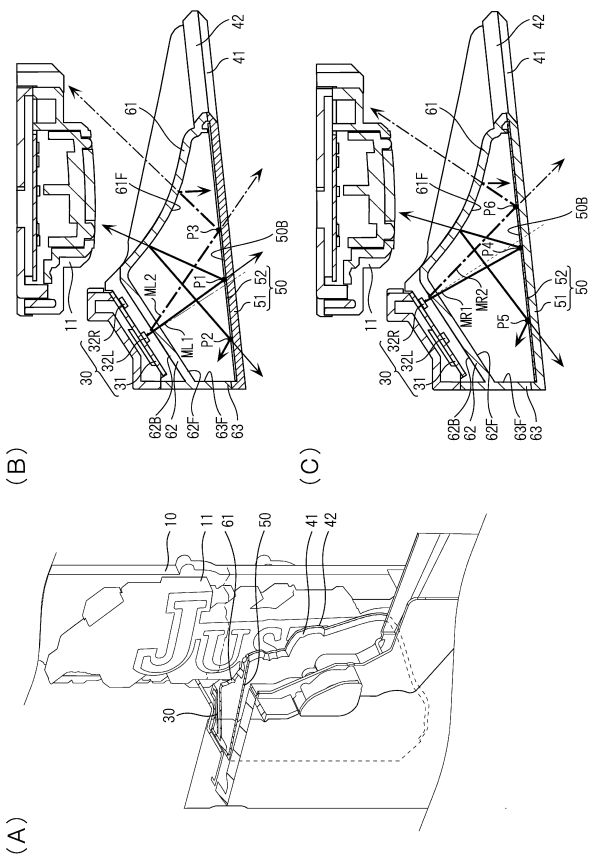
【図 13】



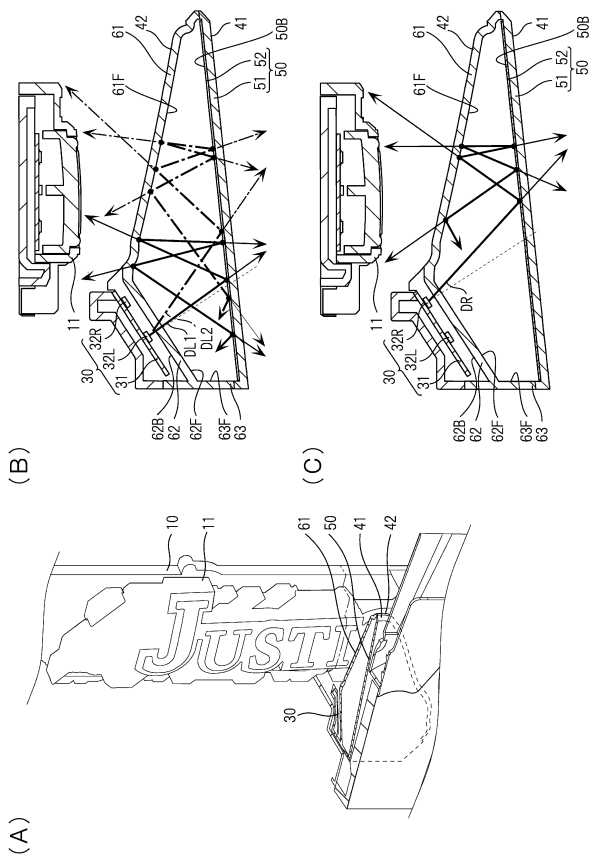
【図 14】



【図 15】



【図 16】



10

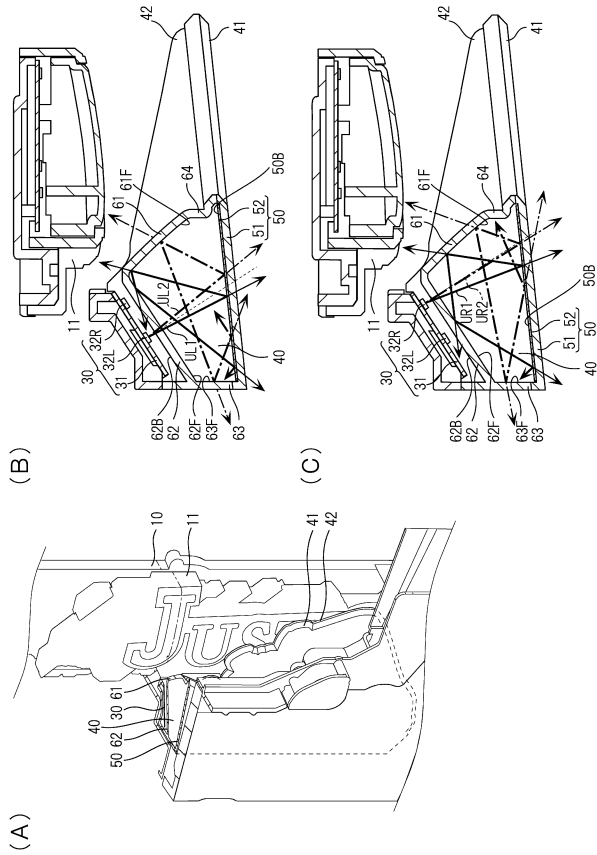
20

30

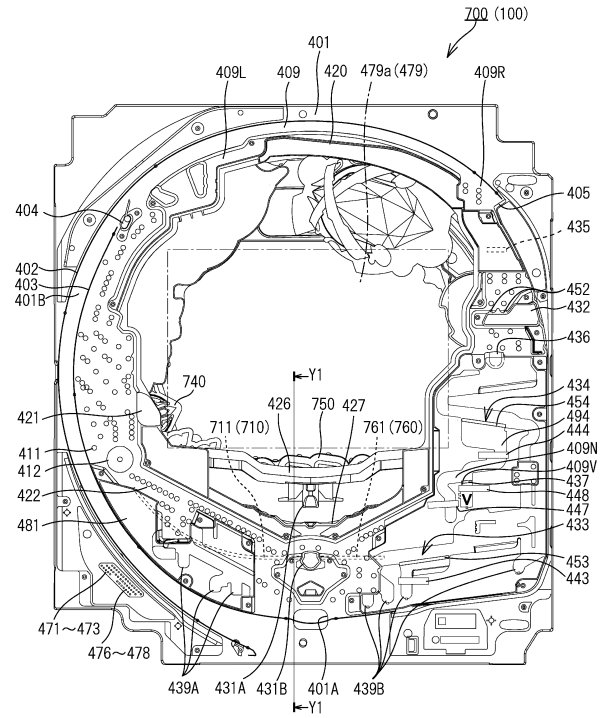
40

50

【図 17】



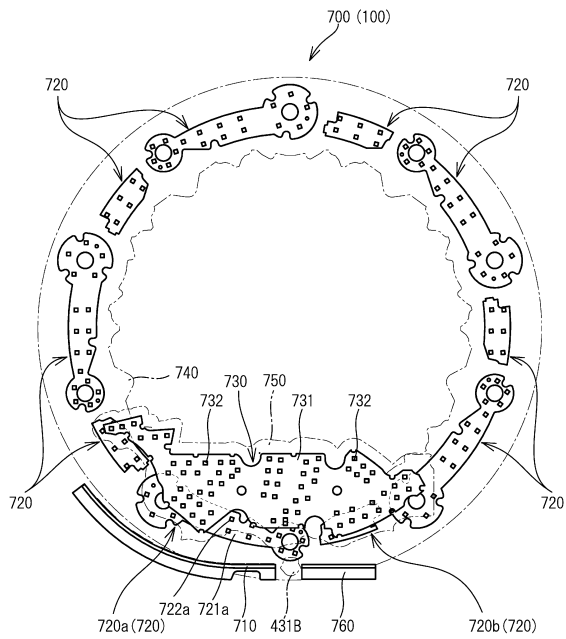
【図 18】



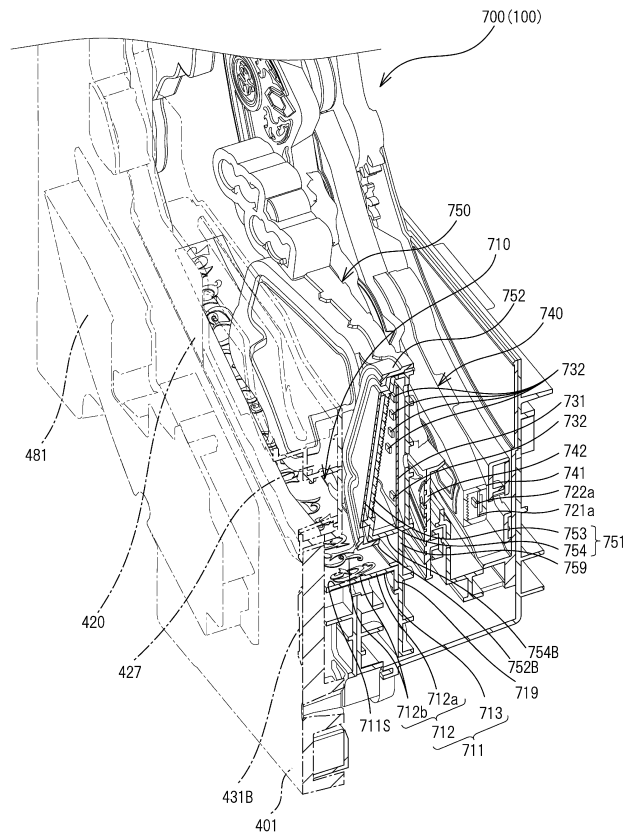
10

20

【図 19】



【図 20】

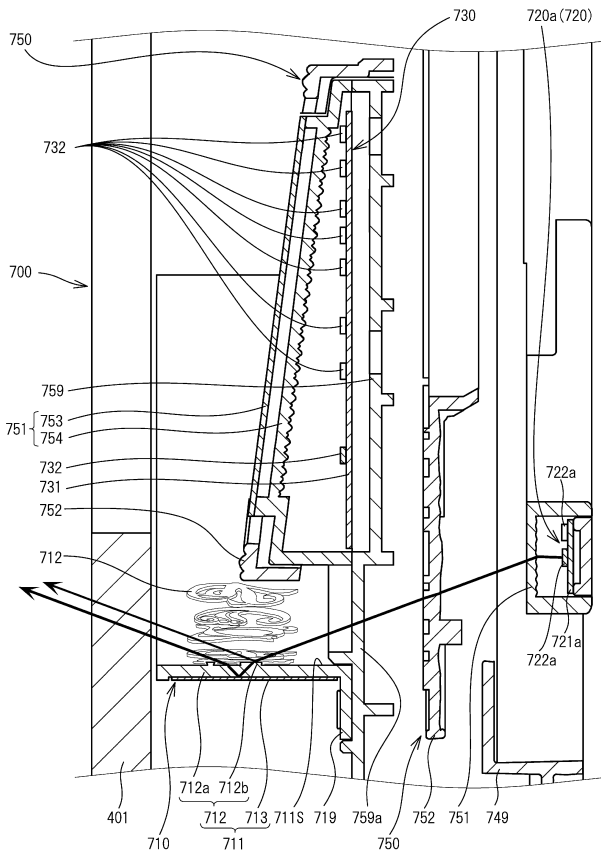


30

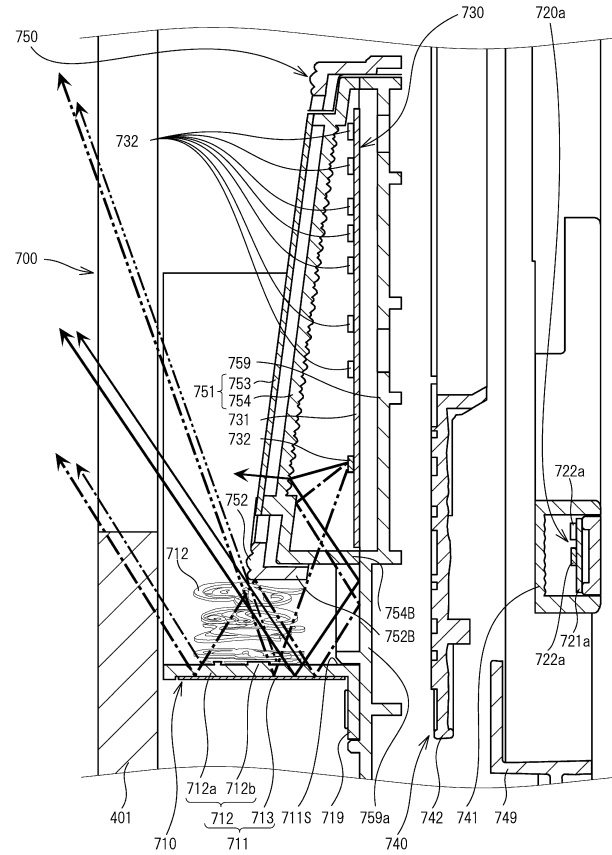
40

50

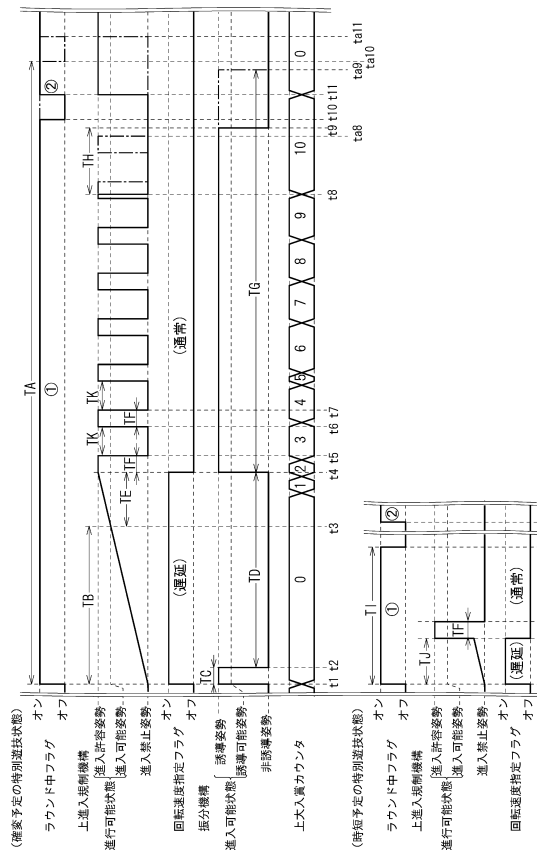
【図 2 1】



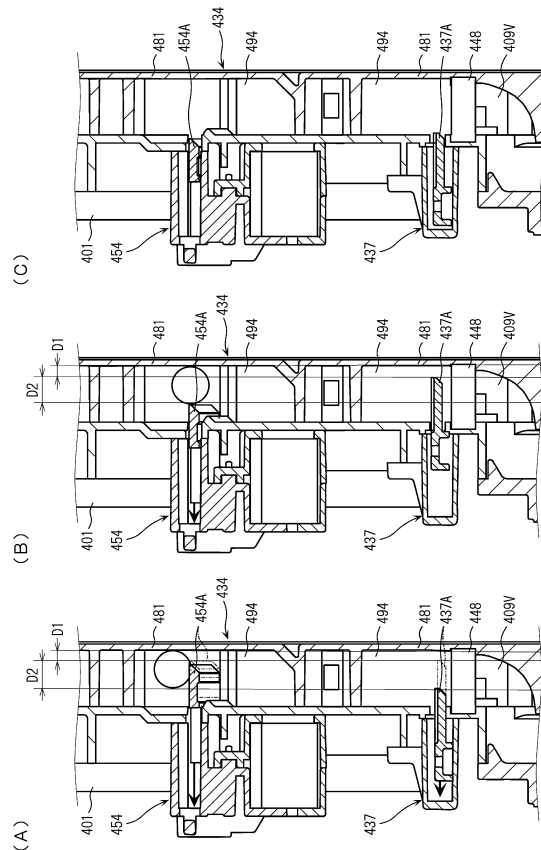
【図 2 2】



【図 2 3】



【図 2 4】



10

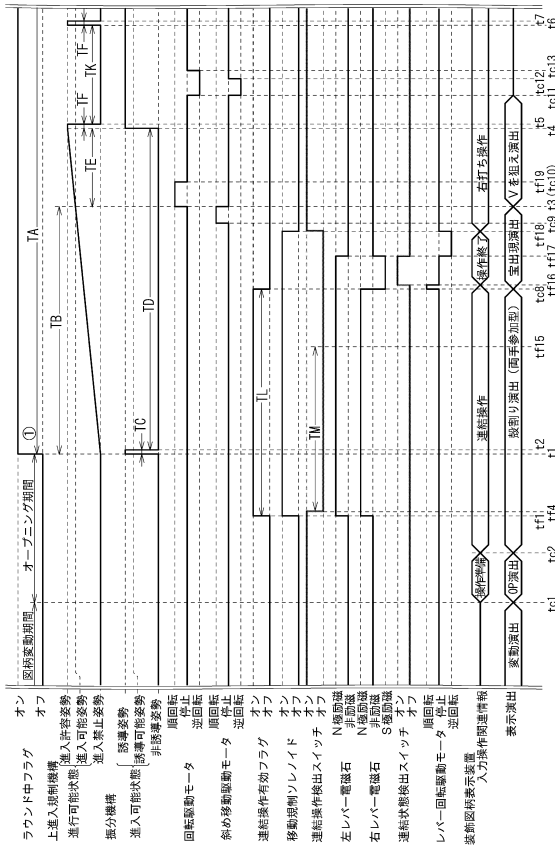
20

30

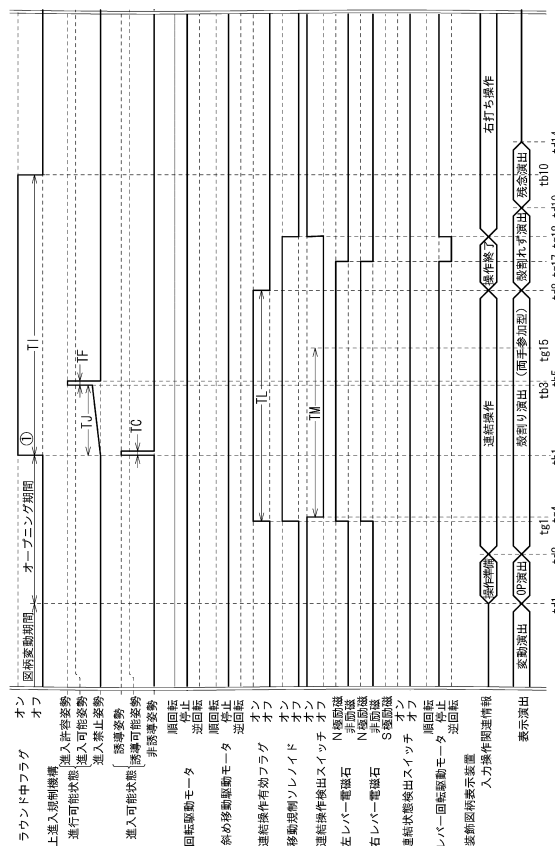
40

50

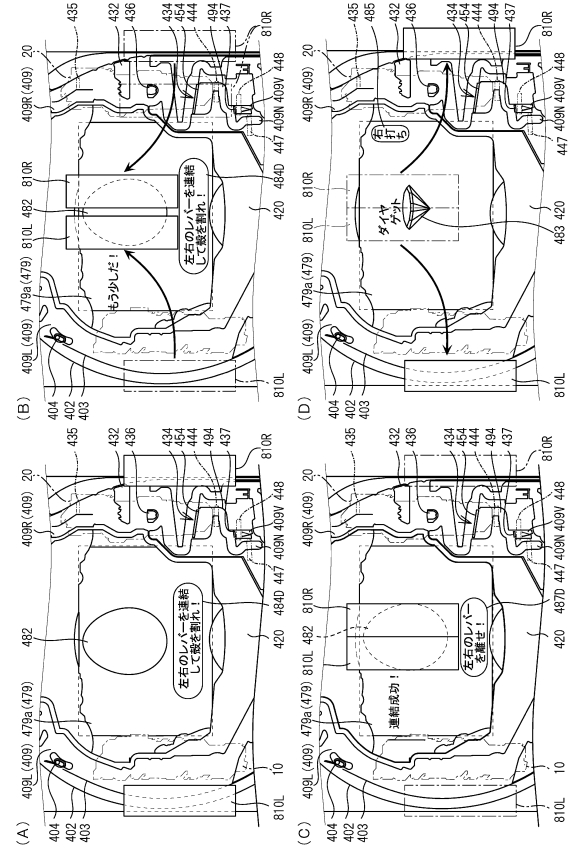
【図 3 3】



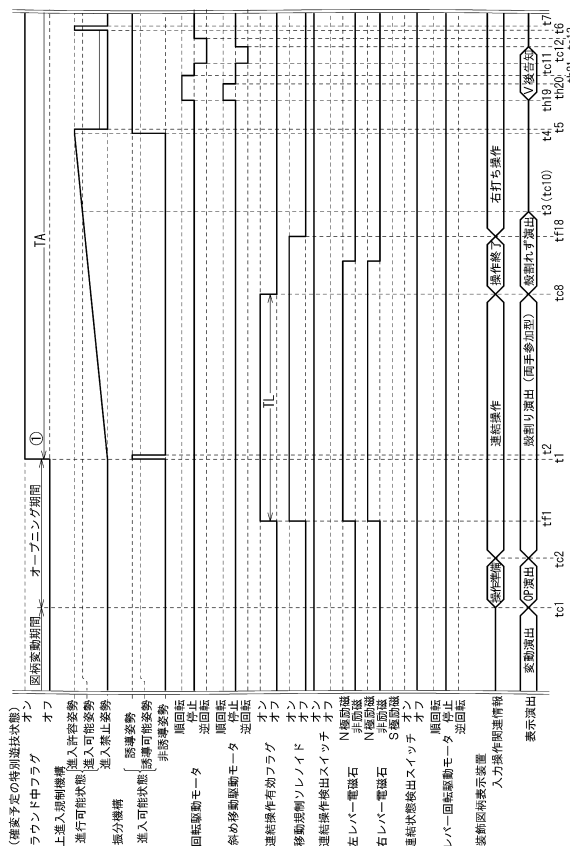
【図 3 5】



【図 3 4】



【図 3 6】



10

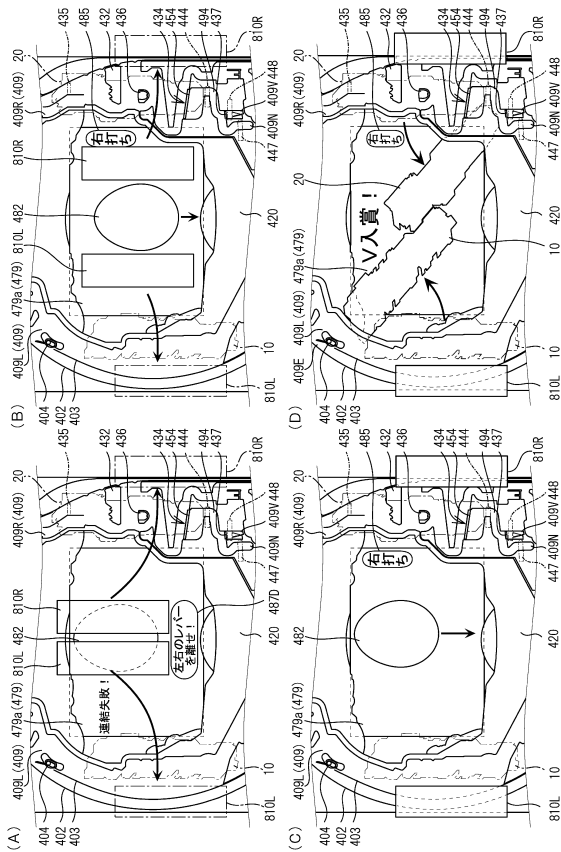
20

30

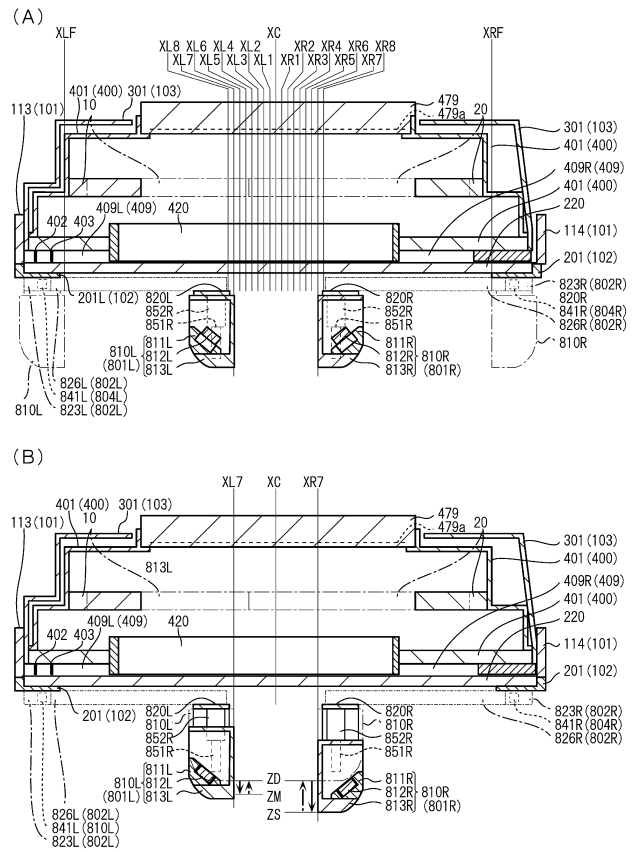
40

50

【図 37】



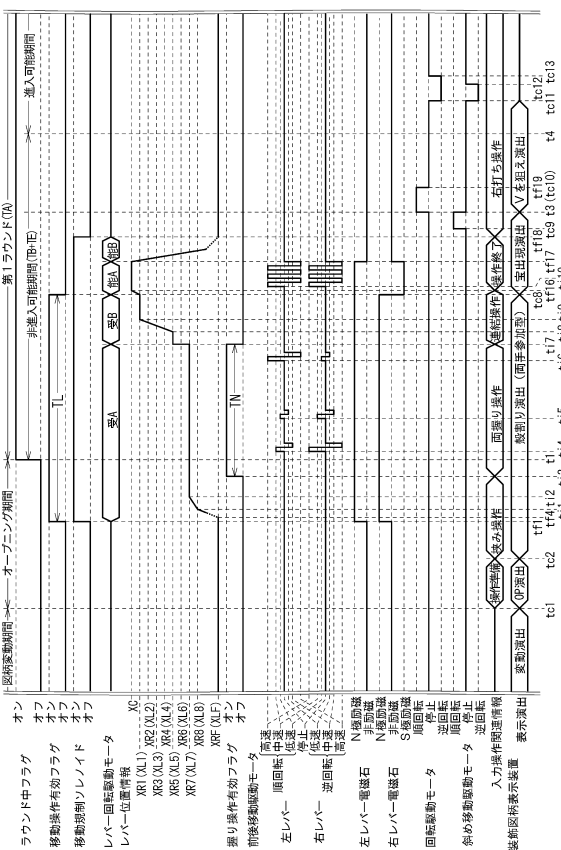
【図 38】



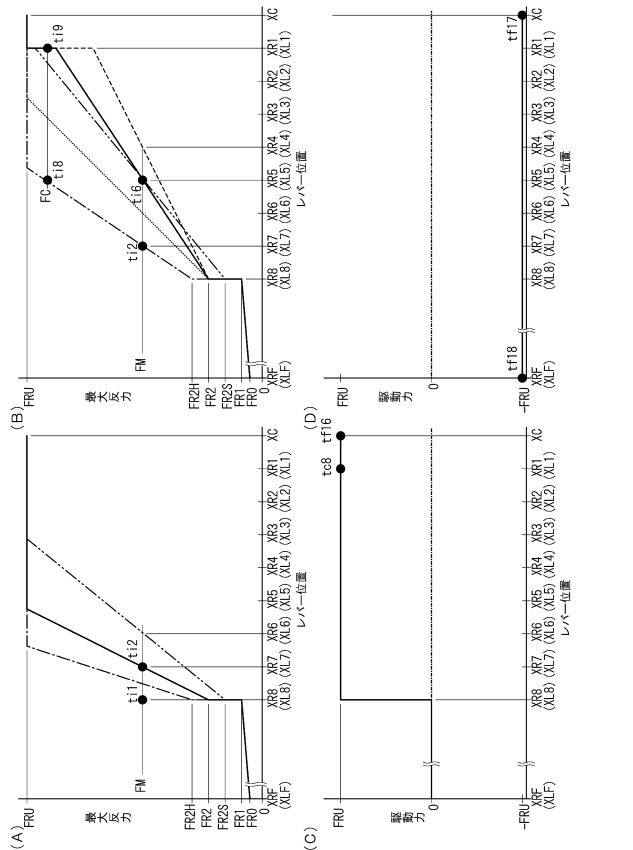
10

20

【図 39】



【図 40】

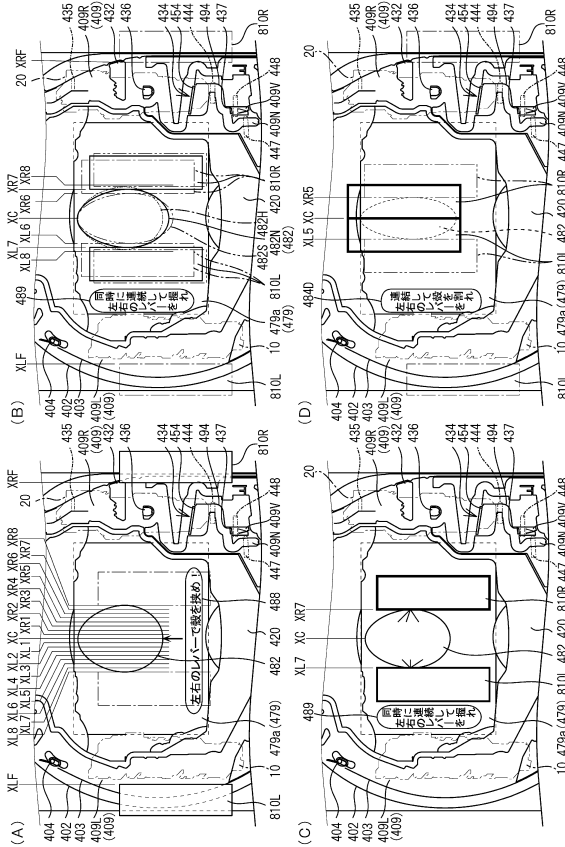


30

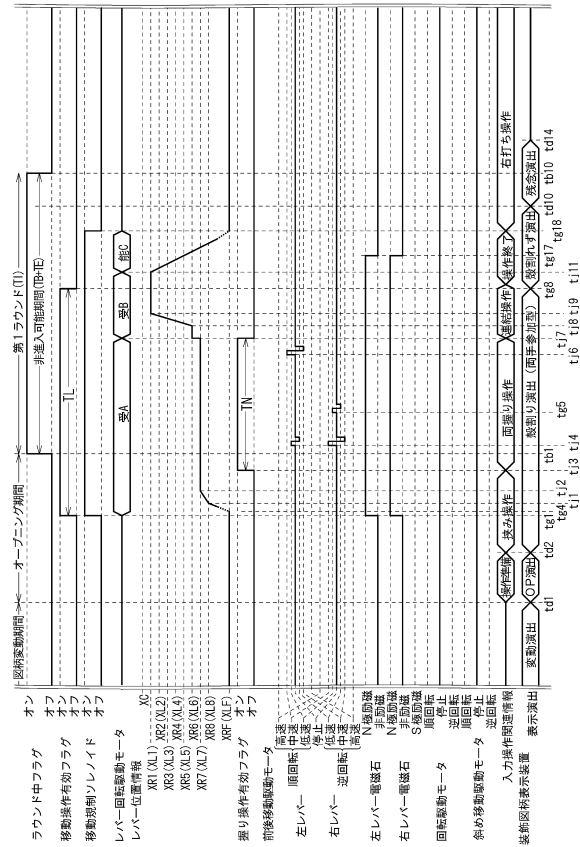
40

50

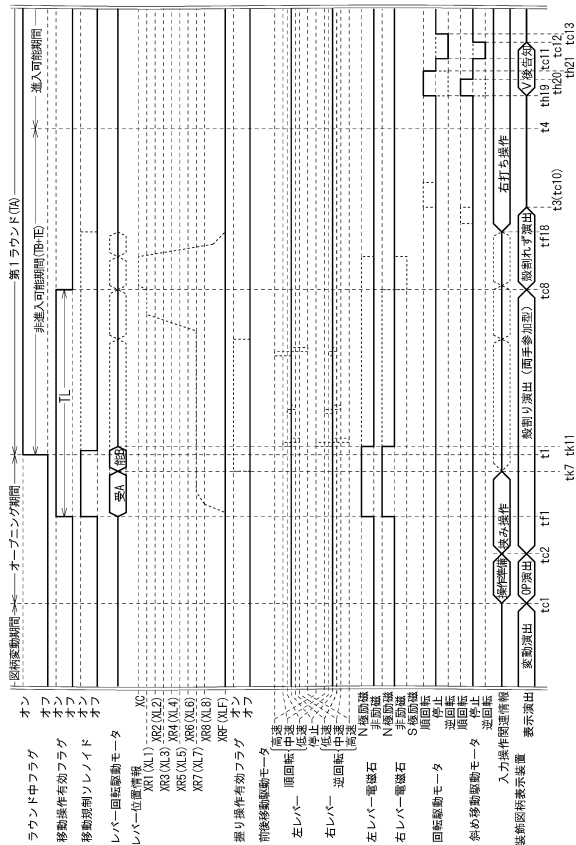
【図 4 1】



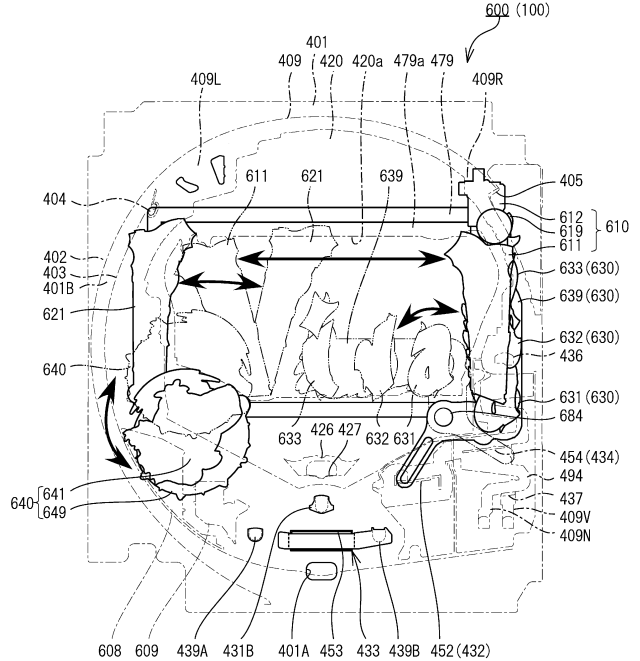
【図 4 2】



【図 4 3】



【図 4 4】



10

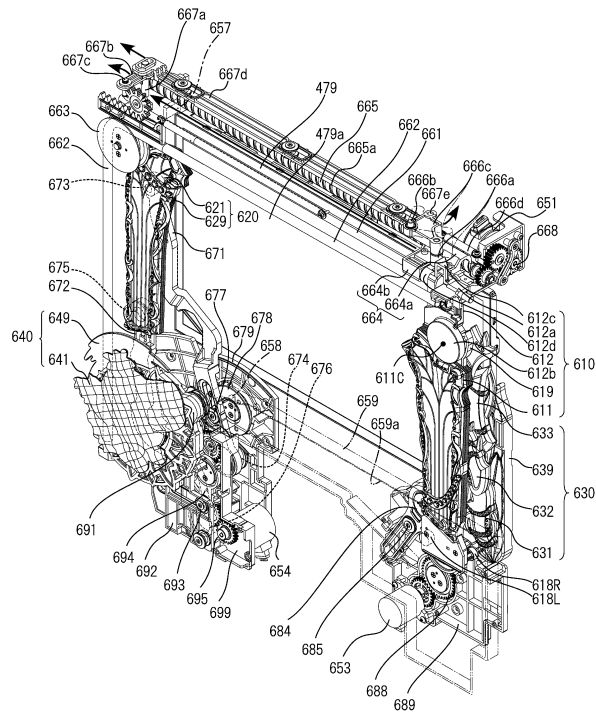
20

30

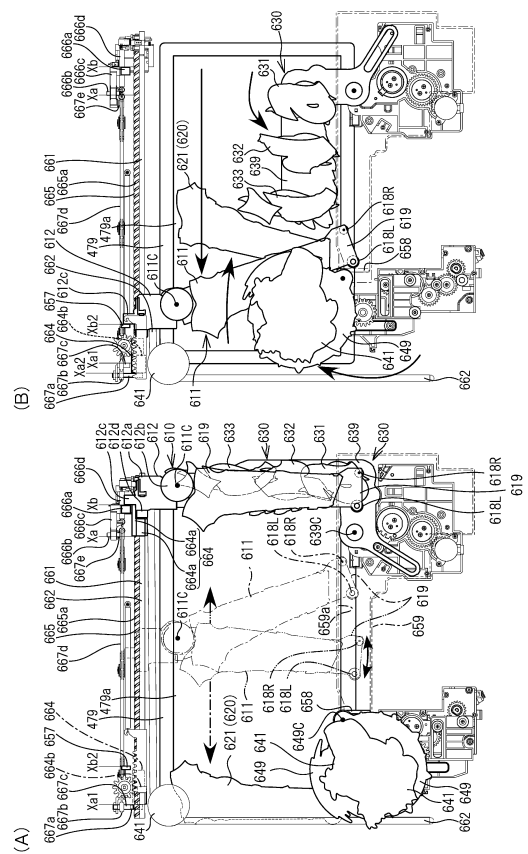
40

50

【図 45】



【図 46】



10

20

【図 47】

